

茨城県土浦市

東出・神出・中居遺跡

宅地造成事業に伴う
埋蔵文化財発掘調査報告書

平成11年（1999年）

土浦市教育委員会
土浦市遺跡調査会

茨城県土浦市

ひがし で じん で なか い
東出・神出・中居遺跡

宅地造成事業に伴う
埋蔵文化財発掘調査報告書

平成11年（1999年）

土浦市教育委員会
土浦市遺跡調査会

序

土浦市は霞ヶ浦や桜川などの水資源に恵まれ、太古から人々が生活するのに適したところがありました。そのため市内には貝塚、古墳、集落跡など数多くの遺跡が存在しております。これらの遺跡は当時の様子を知る手掛かりとなることはもちろんのこと、現代に生きる私たちが豊かな生活を送ることができる先人の業績でもあります。

このような貴重な文化遺産を保護し、後世に伝えることは私達の大切な使命であり郷土の発展のためにも重要なことと思われます。

今回の調査は、株式会社熊谷組と茨城セキスイハイム株式会社の宅地造成事業に伴い東出遺跡、神出遺跡、中居遺跡の発掘調査による記録保存を目的として行われたものであります。

調査の結果、古墳時代から平安時代にかけての集落跡の他に、市内でも数少ない中世の遺跡が発見されました。

この調査によって得られた情報が、土浦周辺の古代文化の解明に役立てて頂ければ幸いです。

最後になりましたが、調査から報告書の刊行にあたり、株式会社熊谷組と茨城セキスイハイム株式会社をはじめ、関係者の皆様方のご協力とご支援に対して心から厚く御礼を申し上げます。

平成11年10月

土浦市教育委員会

教育長 尾 見 彰 一

調査組織

土浦市遺跡調査会組織（9年度）	土浦市遺跡調査会組織（10年度）
会長 須田 直之 土浦市文化財保護審議会長	会長 須田 直之 土浦市文化財保護審議会長
副会長 尾見 彰一 土浦市教育委員会教育長	副会長 尾見 彰一 土浦市教育委員会教育長
理事 大塚 博 土浦市文化財保護審議会委員 五頭 英明 土浦市企画調整課長	理事 大塚 博 土浦市文化財保護審議会委員 五頭 英明 土浦市企画調整課長
出地 隆治 土浦市区画整理課長	古渡 善平 土浦市区画整理課長
坂入 勇 土浦市建築指導課長	萩野 房男 土浦市建築指導課長
石神 進一 土浦市都市計画課課長	石神 進一 土浦市都市計画課長
細田 俊雄 土浦市耕地課長	岡田 和則 土浦市耕地課長
内海崎保生 土浦市土木課長	内海崎保生 土浦市土木課長
平岡 和夫 山武考古学研究所	岩沢 茂 土浦市教育委員会文化課長
監事 中川 茂男 土浦市教育委員会教育次長	監事 中川 茂男 土浦市教育委員会教育次長
小野 政夫 土浦市監査事務局長	小野 政夫 土浦市監査事務局長
幹事 宮本 昭 土浦市教育委員会文化課長 矢口 俊則 上高津貝塚ふるさと歴史の広場副館長	幹事 来栖 稔 上高津貝塚ふるさと歴史の広場考古資料館長 萩島 優 土浦市教育委員会文化課長補佐
萩島 優 土浦市教育委員会文化課長補佐	小貫 俊男 土浦市教育委員会文化課長補佐
小貫 俊男 土浦市教育委員会文化財係長	塩谷 修 土浦市立博物館係長
塩谷 修 土浦市立博物館係長	石川 功 上高津貝塚ふるさと歴史の広場考古資料館主幹
榎 陽介 上高津貝塚ふるさと歴史の広場主幹	黒澤 春彦 上高津貝塚ふるさと歴史の広場考古資料館主幹
石川 功 上高津貝塚ふるさと歴史の広場主幹	中澤 達也 土浦市立博物館主幹
黒澤 春彦 上高津貝塚ふるさと歴史の広場主幹	関口 満 上高津貝塚ふるさと歴史の広場考古資料館主事
中澤 達也 土浦市立博物館主幹	比毛 君男 上高津貝塚ふるさと歴史の広場考古資料館主事
関口 満 上高津貝塚ふるさと歴史の広場主事	宮本 礼子 土浦市教育委員会文化課文化財係主事
橋場 君男 上高津貝塚ふるさと歴史の広場主事	
宮本 礼子 土浦市教育委員会文化課文化財係主事	

調査担当者

平岡 和夫 山武考古学研究所長
桐谷 優 山武考古学研究所員
高野 浩之 山武考古学研究所員
土生 朗治 山武考古学研究所員
長谷川秀久 山武考古学研究所員
近藤晋一郎 山武考古学研究所員

調査参加者

望月 典明、秋山 和、塙原なお子、中島 実、佐々木倭枝、中村 勝也、矢口 弘子、石黒よし子、中島とみ子、中島よしい、桜井 隆夫、石神 洋、安達 浩二、小柳 道雄、加藤 博司、木村 時政、飯田志満子、松井 久子、川村 俊夫、島田 初男、小野 豊、幸丸 松雄、吉田 京子、土肥あや子、宮崎 京子、矢口 ミチ、矢口 照江、矢口多美子、矢口 雄工、神林 昌子、河原井秋彦、川中 四郎、細田 正吾、宮本 義雄、寺田 好雄、小角みや子、河合 淳子、市村 晴代、桜井 圭子、市原 静代、鈴木 規弘、長谷川 誠、六川 貴洋、千葉 考之、金井 克子、伊藤 知子、松戸 芳子、平岡亜矢子、藤崎 徳江、中野富美子、大久保敦子、高野 敏江、鏡原美和子、富田 玲子、石黒 勇、木村 穀、中村 仁、榎戸 洋子、榎戸 美香、中島 一輝、堤 大輔、山中美千子、目黒 貞志、寺島 邦助、伊藤 順子、河村 公子、藤井 陽子、今泉 郁美、大野 知子

例　　言

- 本書は茨城県土浦市小岩田東一丁目1634番地に所在する東出遺跡と1582-1番地に所在する神出遺跡、1587番地に所在する中居遺跡の発掘調査報告書である。
- 調査は、株式会社熊谷組北関東支店と茨城セキスイハイム株式会社の行う宅地造成に伴う事前調査として土浦市遺跡調査会が山武考古学研究所の協力を得て実施したものである。
- 発掘調査は平成9年12月24日～平成10年6月30日まで実施した。出土品の整理作業及び報告書作成は平成10年7月1日～平成11年3月31日まで行った。
- 東出・神出・中居遺跡の試掘調査は、土浦市教育委員会黒沢春彦が行った。本調査は東出遺跡を平岡和夫、桐谷優が行い、神出遺跡・中居遺跡を平岡和夫、高野浩之、近藤晋一郎、土生朗治、長谷川秀久が行った。整理作業は、桐谷、高野、土生が行い、執筆は、黒澤、桐谷、高野、長谷川、土生が執筆し、全体の総括を平岡和夫が行った。
- 発掘調査及び整理に関わり、次の諸氏又は諸機関のご指導・ご協力を賜った。記して謝意を表したい。
(50音順 敬称略)

茨城県教育委員会、(株)熊谷組北関東支店、茨城セキスイハイム(株)、開成測量(株)、(株)常陸測建、赤井博之、大関武、小野正敏、瓦吹堅、川又清明、斎木秀夫、佐々木義則、塙谷修、白石真理、中野晴久、白田正子、平川南、吹野富美男、桃崎祐輔、吉岡康暢、吉澤悟

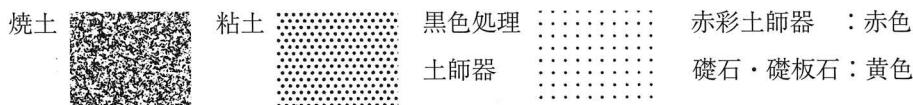
- 本報告書に関わる出土品及び記録図面・写真などは一括して上高津貝塚ふるさと歴史の広場に保管している。

凡　　例

- 遺構に使用した記号は次のとおりである。

竪穴住居跡……SI　　土坑……SK　　溝……SD　　掘立柱建物跡……SB　　柱穴……P

- 遺構・遺物の実測図中の表示は以下のとおりである。



- 火葬墓の還元箇所：青色
----- 竪穴住居跡床面の硬化した範囲
- 火葬墓の酸化箇所：赤色
- 遺構・遺物の表示は次のとおりである。
 - 水糸レベルは海拔高度を示す。
 - 遺物番号は、本文、挿図、写真図版とも一致する。
 - 遺構の縮尺は基本的に1/60であるが、図の大きさによって適宜変更しそれぞれ表示した。
 - 遺物の縮尺は原則として土器が1/4、石器・金属製品は1/2で表示した。器種や大きさにより異なる場合にはそれぞれにスケールで表示した。
 - 遺構の計測値で（ ）で表されたものは推定値である。遺物観察表中の器高欄の（ ）は現存高を表し、口径・底径欄の（ ）は復元径を表す。

抄 錄

ふりがな	ひがしで・じんで・なかいいせき											
書名	東出・神出・中居遺跡											
副書名												
卷次												
シリーズ名												
シリーズ番号												
編者名	平岡 和夫	著者名	黒澤春彦 桐谷優 高野浩之 土生朗治 長谷川秀久									
編集機関	土浦市教育委員会・土浦市遺跡調査会・山武考古学研究所											
所在地	〒300-0812 茨城県土浦市下高津2-7-36 土浦市教育委員会内 TEL: 0298-(26)-3484											
発行年月日	1999年10月29日											
ふりがな 所収遺跡名	ふりがな 所在地	コード		北緯	東経	調査期間	調査面積	調査原因				
		市町村	遺跡番号									
ひがしで 東出遺跡	つちうらしこいわたひがし 土浦市小岩田東 一丁目1634外	08-208		36度 3分 23秒	140度 11分 71秒	19971224 ~ 19980228	1,084m ²	民間宅地 造成事業				
じんで 神出遺跡	つちうらしこいわたひがし 土浦市小岩田東 一丁目1582-1外	08-208	5274	36度 3分 29秒	140度 11分 68秒	19980101 ~ 19980630	7,600m ²	民間宅地 造成事業				
なかい 中居遺跡	つちうらしこいわたひがし 土浦市小岩田東 一丁目1587外	08-208		36度 3分 31秒	140度 11分 71秒	19980101 ~ 19980331	600m ²	民間宅地 造成事業				
所収遺跡名	種別	主な時代	主な遺構			主な遺物	特記事項					
東出遺跡	集落跡	古墳時代 奈良時代 平安時代 中世	竪穴式住居跡1軒 竪穴式住居跡1軒 竪穴式住居跡1軒 火葬墓1基、土坑15基、溝1条			土師器 土師器、須恵器 土師器、須恵器						
神出遺跡	集落跡	古墳時代 平安時代 中世	竪穴式住居跡20軒 竪穴式住居跡22軒 掘立柱建物跡8棟、地下式壙29基、火葬墓5基、竪穴遺溝12基、道・溝13条、テラス条 遺溝2カ所、礎石建物跡1棟 土坑約460基、柱穴状ピット約980本			土師器、須恵器 土師器、須恵器、灰釉 古瀬戸、志戸呂、常滑、 青磁、白磁、土師質土器 硯石、砥石、銅錢	15世紀代を中心 した中世の館? 墓城。時期不明の 礎石建物、滑石製 印版が出土してい る。					
中居遺跡	集落跡	平安時代	竪穴式住居跡1軒 土坑29基			土師器、須恵器						

目 次

序

例言

凡例

目次

第1章 序章

第1節 調査に至る経緯	1
第2節 試掘調査の成果	1
第3節 位置と考古学的環境	4
第4節 調査方法と調査経過	9

第2章 東出遺跡

第1節 遺跡の概要	11
第2節 遺構と遺物	12
第3節 調査のまとめ	18

第3章 神出遺跡

第1節 遺跡の概要	19
第2節 遺構と遺物	20

1 古墳時代	20
2 平安時代	44
3 中世以降	59
(1) 掘立柱建物跡	59
(2) 磁石建物跡	66
(3) 柱穴群	69
(4) テラス状遺構	80
(5) 堅穴遺構	81
(6) 地下式壙	85
(7) 火葬墓	94
(8) 道・溝状遺構	98
(9) 土坑	105
(10) 出土遺物	124

4 遺構外出土遺物	132
-----------	-----

第3節 調査のまとめ	135
------------	-----

第4章 中居遺跡

第1節 遺跡の概要	137
第2節 遺構と遺物	137
第3節 調査のまとめ	144

第5章 考察

第1節 神出遺跡古墳時代集落跡について	145
第2節 神出遺跡中世の遺構と遺物について	151

写真図版

挿図目次

第1図	宅地造成工事地区と発掘調査地区	序
第2図	試掘調査トレンチ設定図	2
第3図	第4トレンチ土層模式図	3
第4図	トレンチ出土遺物	3
第5図	周辺遺跡分布図(1)	6
第6図	周辺遺跡分布図(2)	7
第7図	東出・神出・中居遺跡調査区設定図	10
第8図	東出遺跡全体図	11
第9図	東出遺跡1号住居跡・出土遺物	12
第10図	東出遺跡2号住居跡・出土遺物	13
第11図	東出遺跡3号住居跡・出土遺物	14
第12図	東出遺跡火葬墓	15
第13図	東出遺跡1~10号土坑	16
第14図	東出遺跡1~15、17号土坑	17
第15図	東出遺跡遺構外出土遺物	17
第16図	神出遺跡遺構配置図	19
第17図	神出遺跡4号住居跡・出土遺物	20
第18図	神出遺跡5号住居跡	21
第19図	神出遺跡9号住居跡	22
第20図	神出遺跡9号住居跡出土遺物	23
第21図	神出遺跡14号住居跡	26
第22図	神出遺跡14号住居跡出土遺物	27
第23図	神出遺跡15・25号住居跡・出土遺物	28
第24図	神出遺跡18号住居跡・出土遺物	29
第25図	神出遺跡19号住居跡・出土遺物	30
第26図	神出遺跡20号住居跡・出土遺物	30
第27図	神出遺跡28号住居跡・26・28号住居跡出土遺物	32
第28図	神出遺跡29・30号住居跡・出土遺物	34
第29図	神出遺跡32号住居跡・出土遺物	35
第30図	神出遺跡32号住居跡出土遺物	36
第31図	神出遺跡34号住居跡・出土遺物	36
第32図	神出遺跡38号住居跡・出土遺物	38
第33図	神出遺跡39号住居跡・出土遺物	39
第34図	神出遺跡41号住居跡・出土遺物	39
第35図	神出遺跡42号住居跡・出土遺物	40
第36図	神出遺跡85,87,88,92,110,163,171号土坑出土遺物	41
第37図	神出遺跡149,172,191,197,365,441号土坑出土遺物	42
第38図	神出遺跡518,555,596,639号土坑・その他出土遺物	43
第39図	神出遺跡1号住居跡・出土遺物	44
第40図	神出遺跡2号住居跡・出土遺物	45
第41図	神出遺跡3号住居跡・出土遺物	46
第42図	神出遺跡6号住居跡・出土遺物	47
第43図	神出遺跡7号住居跡・出土遺物	47
第44図	神出遺跡10号住居跡・出土遺物	48
第45図	神出遺跡11号住居跡・出土遺物	48
第46図	神出遺跡12号住居跡・出土遺物	49
第47図	神出遺跡13号住居跡・出土遺物	50
第48図	神出遺跡16号住居跡・出土遺物	51
第49図	神出遺跡17号住居跡・出土遺物	51
第50図	神出遺跡21号住居跡・出土遺物	52
第51図	神出遺跡22号住居跡・出土遺物	53
第52図	神出遺跡24号住居跡・出土遺物	53
第53図	神出遺跡27号住居跡・出土遺物	54
第54図	神出遺跡31号住居跡・出土遺物	55
第55図	神出遺跡35号住居跡・出土遺物	55
第56図	神出遺跡36号住居跡・出土遺物	55
第57図	神出遺跡40号住居跡・出土遺物	56
第58図	神出遺跡9,164,371,614号土坑・その他出土遺物	58
第59図	神出遺跡灰釉陶器	59
第60図	神出遺跡1号掘立柱建物跡	60
第61図	神出遺跡2号掘立柱建物跡	61
第62図	神出遺跡3号掘立柱建物跡	62
第63図	神出遺跡7号掘立柱建物跡	63
第64図	神出遺跡9号掘立柱建物跡	64
第65図	神出遺跡9号掘立柱建物跡	65
第66図	神出遺跡10~12号掘立柱物跡	67
第67図	神出遺跡礎石建物跡	68
第68図	神出遺跡柱穴群(1)	77
第69図	神出遺跡柱穴群(2)	79
第70図	神出遺跡1号テラス状遺構・出土遺物	80
第71図	神出遺跡2号テラス状遺構・出土遺物	81
第72図	神出遺跡2~4, 6~8号堅穴遺構出土遺物	82
第73図	神出遺跡9~14号堅穴出土遺物	84
第74図	神出遺跡1~5号地下式壙	86
第75図	神出遺跡6~9号地下式壙	88
第76図	神出遺跡10~13、15、16号地下式壙	89
第77図	神出遺跡17~21号地下式壙	91
第78図	神出遺跡22~26号地下式壙	92
第79図	神出遺跡27~29号地下式壙	93
第80図	神出遺跡1号火葬墓	94
第81図	神出遺跡2号火葬墓	95
第82図	神出遺跡3号火葬墓	95
第83図	神出遺跡4, 5号火葬墓	96
第84図	神出遺跡6, 7号火葬墓	97
第85図	神出遺跡8号火葬墓	97
第86図	神出遺跡1, 2号道	98
第87図	神出遺跡3号道・出土遺物	99
第88図	神出遺跡4号道・出土遺物	100
第89図	神出遺跡5, 6号道	101
第90図	神出遺跡1~4, 9号溝	103
第91図	神出遺跡5, 10~13号溝	104
第92図	神出遺跡541~543,549,637号土坑・出土遺物	105
第93図	神出遺跡土坑A1類	106
第94図	神出遺跡土坑A2類	107
第95図	神出遺跡土坑A3,A4,A5類	108
第96図	神出遺跡土坑A5,A6,B1,B2類、15号土坑	109
第97図	神出遺跡近・現代の果樹園跡	110
第98図	神出遺跡出土輸入陶磁器	123
第99図	神出遺跡出土瀬戸系施釉陶器(1)	124
第100図	神出遺跡出土瀬戸系施釉陶器(2)	126
第101図	神出遺跡出土常滑	126
第102図	神出遺跡出土製品土師質土器小皿	127
第103図	神出遺跡出土在地系土器、瓦質土器	128
第104図	神出遺跡出土錢貨	129
第105図	神出遺跡出土石製品	131
第106図	神出遺跡出土繩文土器	132
第107図	神出遺跡出土繩文土器・石器	133
第108図	中居遺跡全体図	137
第109図	中居遺跡1号住居跡・出土遺物	138
第110図	中居遺跡テラス状遺構・出土遺物	139
第111図	中居遺跡1~11号土坑	141
第112図	中居遺跡12~20号土坑	142
第113図	中居遺跡遺構外出土遺物	143
第114図	神出遺跡出土古墳時代須恵器	146
第115図	堅穴住居跡の構造変化	148
第116図	堅穴住居跡断面図	149
第117図	神出遺跡貯蔵穴状土坑	150
第118図	神出遺跡古墳時代の堅穴住居の分布	150
第119図	神出遺跡中世の遺構群の変遷	153

付図1 神出遺跡遺構配置図

表 目 次

表1 東出・神出・中居遺跡周辺遺跡一覧表	8	表4 神出遺跡土坑一覧表	111
表2 東出遺跡土坑一覧表	15	表5 中居遺跡テラス内土坑一覧表	138
表3 神出遺跡柱穴一覧表	69	表6 中居遺跡土坑一覧表	143

写真目次

〈東出遺跡〉

- 図版1 1. 遺跡全景, 2. 1号住居跡, 3. 1号住居跡カマト近景, 4. 2号住居跡、5. 3号住居跡
図版2 1. 1号火葬墓, 2. 10号土坑, 3. 11号土坑, 4. 13号土坑, 5. 1号溝, 6. 基本堆積土層, 東出遺跡出土遺物
〈神出遺跡〉
図版3 1. 北区全景, 2. 西区全景
図版4 1. 中央区・南区全景, 2. 南区全景, 3. 南区全景, 4. 中央区全景, 5. 中央区全景
図版5 1. 4号住居跡遺物出土状況, 2. 同完掘状況, 3. 同貯蔵穴土層断面, 4. 同貯蔵穴遺物出土状況, 5. 5号住居跡完掘状況, 6. 9号住居跡完掘状況, 7. 同貯蔵穴遺物出土状況, 8. 14号住居跡遺物出土状況
図版6 1. 14号住居跡完掘状況, 2. 同貯蔵穴遺物出土状況, 3. 15・25号住居跡完掘状況, 4. 18号住居跡完掘状況, 5. 19号住居跡遺物出土状況, 6. 20号住居跡完掘状況, 7. 23号住居跡完掘状況, 8. 28, 29号住居跡完掘状況
図版7 1. 31・32・34号住居跡遺物出土状況, 2. 32号住居跡遺物出土状況, 3. 同遺物出土状況, 4. 34号住居跡遺物出土状況, 5. 同遺物出土状況近景, 6. 38号住居跡遺物出土状況, 7. 同P2遺物出土状況近景, 8. 39号住居跡遺物出土状況
図版8 1. 1号住居跡遺物出土状況, 2. 2号住居跡完掘状況, 3. 3号住居跡完掘状況, 4. 10号住居跡カマド完掘状況, 5. 11号住居跡完掘状況, 6. 12号住居跡遺物出土状況, 7. 13号住居跡遺物出土状況, 8. 16号住居跡遺物出土状況
図版9 1. 17号住居跡遺物出土状況, 2. 21号住居跡遺物出土状況, 3. 27号住居跡完掘状況, 4. 31号住居跡完掘状況, 5. 35号住居跡遺物出土状況, 6. 36号住居跡完掘状況, 7. 37号住居跡カマド完掘状況, 8. 40号住居跡完掘状況
図版10 1. 1号掘立柱建物跡完掘状況, 2. 2号掘立柱建物跡完掘状況, 3. 同P2土層断面, 4. 9号掘立柱建物跡P26確認状況, 5. 9~12号掘立柱建物跡
図版11 1. 磁石建物跡, 2. 同確認状況, 3. 同調査状況, 4. 磁石No4近景, 5. 磁石No6近景
図版12 1. 1号テラス完掘状況, 2. 2号テラス完掘状況
図版13 1. 1号火葬墓完掘状況, 2. 1号火葬墓土層断面, 3. 2号火葬墓完掘状況, 4. 3号火葬墓完掘状況, 5. 4号火葬墓完掘状況, 6. 5号火葬墓完掘状況, 7. 7号火葬墓完掘状況, 8. 8号火葬墓完掘状況
図版14 1. 85号土坑遺物出土状況, 2. 110号土坑遺物出土状況, 3. 163号土坑遺物出土状況, 4. 165号土坑遺物出土状況, 5. 191号土坑遺物出土状況, 6. 197号土坑遺物出土状況, 7. 596号土坑遺物出土状況, 8. 639号土坑遺物出土状況
図版15 1. 354~359号土坑完掘状況, 2. 371号土坑遺物出土状況, 3. 614号土坑完掘状況, 4. 615号土坑完掘状況, 5. 159号土坑遺物出土状況, 6. 164号土坑遺物出土状況, 7. 549号土坑完掘状況, 8. 637号土坑遺物出土状況
図版16 1. 215~218号土坑完掘状況, 2. 235~255~263号土坑完掘状況, 3. 255~260号土坑土層断面図, 4. 298~301号土坑完掘状況, 5. 365号土坑完掘状況, 6. 410号土坑完掘状況, 7. 509・622号土坑完掘状況, 8. 541~543号土坑完掘状況
図版17 1. 1・2号地下式擴完掘状況, 2. 3号地下式擴完掘状況, 3. 4号地下式擴完掘状況, 4. 4号地下式擴土層断面, 5. 5~9号地下式擴完掘状況, 6. 12号地下式擴完掘状況, 7. 13号地下式擴完掘状況, 8. 18号地下式擴完掘状況
図版18 1. 19号地下式擴完掘状況, 2. 20号地下式擴完掘状況, 3. 21号地下式擴完掘状況, 4. 23号地下式擴状況, 5. 25号地下式擴完掘状況, 6. 26号地下式擴完掘状況, 7. 27号地下式擴完掘状況, 8. 28号地下式擴完掘状況
図版19 1. 2号竪穴遺構完掘状況, 2. 3号竪穴遺構完掘状況, 3. 7号竪穴遺構完掘状況, 4. 8号竪穴遺構完掘状況, 5. 9号竪穴遺構完掘状況, 6. 10号竪穴遺構遺物出土状況, 7. 12号竪穴遺構完掘状況, 8. 14号竪穴遺構完掘状況
図版20 1. 2号道跡完掘状況, 2. 3・4号道跡完掘状況, 3. 3号道跡遺物出土状況, 4. 4号道跡遺物出土状況, 5. 1号溝完掘状況, 6. 3・4・5号溝完掘状況, 7. 10号溝土層断面, 8. 12号溝完掘状況
図版21 1. H6グリッド内ピット群完掘状況, 2. H7グリッド内ピット群完掘状況, 3. 16グリッド内ピット群完掘状況, 4. 17グリッド内ピット群完掘状況, 5. 365号土坑完掘状況, 6. H9グリッド内ピット群完掘状況, 7. I7グリッド内ピット群完掘状況, 8. I8グリッド内ピット群完掘状況
図版22 9号住居跡出土遺物, 14号住居跡出土遺物, 32号住居跡出土遺物
図版23 4・9号住居跡出土遺物
図版24 9・14号住居跡出土遺物
図版25 15・18・19・28・29・32号住居跡出土遺物
図版26 32・38号住居跡出土遺物
図版27 1・2・12・16・17・21・22・35・36・38・40・41号住居跡出土遺物
図版28 古墳時代土坑出土遺物
図版29 平安時代土坑出土遺物その他、灰釉陶器、瀬戸系陶器
図版30 常滑、土師質土器小皿、在地系土器・瓦質土器
図版31 古瀬戸片、輸入陶磁器、石製品、出土錢貨
図版32 17号地下式擴出土ヤマトシジミ・オオタニシ、遺構外出土遺物
〈中居遺跡〉
図版33 1. 遺跡全景, 2. 1号住居跡遺物出土状況、3. 1号土坑遺物出土状況、4. 7号土坑遺物出土状況、5. 14号土坑完掘状況
図版34 1. テラス状遺構遺物出土状況, 2. テラス状遺構完掘状況、3. テラス状遺構遺物出土状況、4. テラス状遺構遺物出土状況, 中居遺跡出土遺物



第1図 宅地造成工事地区と発掘調査地区

第1章 序 章

第1節 調査に至る経緯

平成7年8月、株式会社熊谷組北関東支店と茨城セキスイハイム株式会社から70,000m²に及ぶ開発の事前協議申請が土浦市に提出された。（その後事業範囲が52,447m²に縮小したため平成9年10月1日に事前協議申請が再提出された）それを受けた同市教育委員会文化課は現地踏査を行った。開発エリア内は、周知の遺跡である神出遺跡があり、それ以外の地点で遺物の散布が見られることから、他にも遺跡の存在が考えられた。そのため市教育委員会では、遺跡の分布や遺構の密度を知るために試掘調査が必要との回答を行なった。

試掘調査は平成9年10月1日から10月4日にかけて行なわれた。結果、神出遺跡を含む3か所で埋蔵文化財が確認された。新しく発見された遺跡は、字名から「東出遺跡」「中居遺跡」と命名し、10月13日付で文化庁宛に57条の6を提出した。市教育委員会は試掘調査の結果をもとに遺跡の範囲や、埋蔵文化財の密度を割り出し、現状保存が困難な場合は発掘調査が必要であるとの旨を10月28日付で事業主に提出した。

その後事業主と市教育委員会との間で埋蔵文化財の取扱いについての協議を重ねた。その結果、現状の工事計画では埋蔵文化財の現状保存が困難であることから、発掘調査により埋蔵文化財の記録保存を行うことで合意した。市教育委員会は事業主から提出された57条の2を11月10日付で文化庁に進達した。

発掘調査にあたっては、土浦市教育委員会が土浦市遺跡調査会に依頼し、緊急な開発事業のため山武考古学研究所の協力のもと実施する運びとなった。平成9年12月17日、事業主と土浦市遺跡調査会、土浦市教育委員会の三者で契約を締結した。発掘調査は平成10年1月12日、東出遺跡から行なわれ、1月28日付で、98条の2を文化庁宛に提出した。

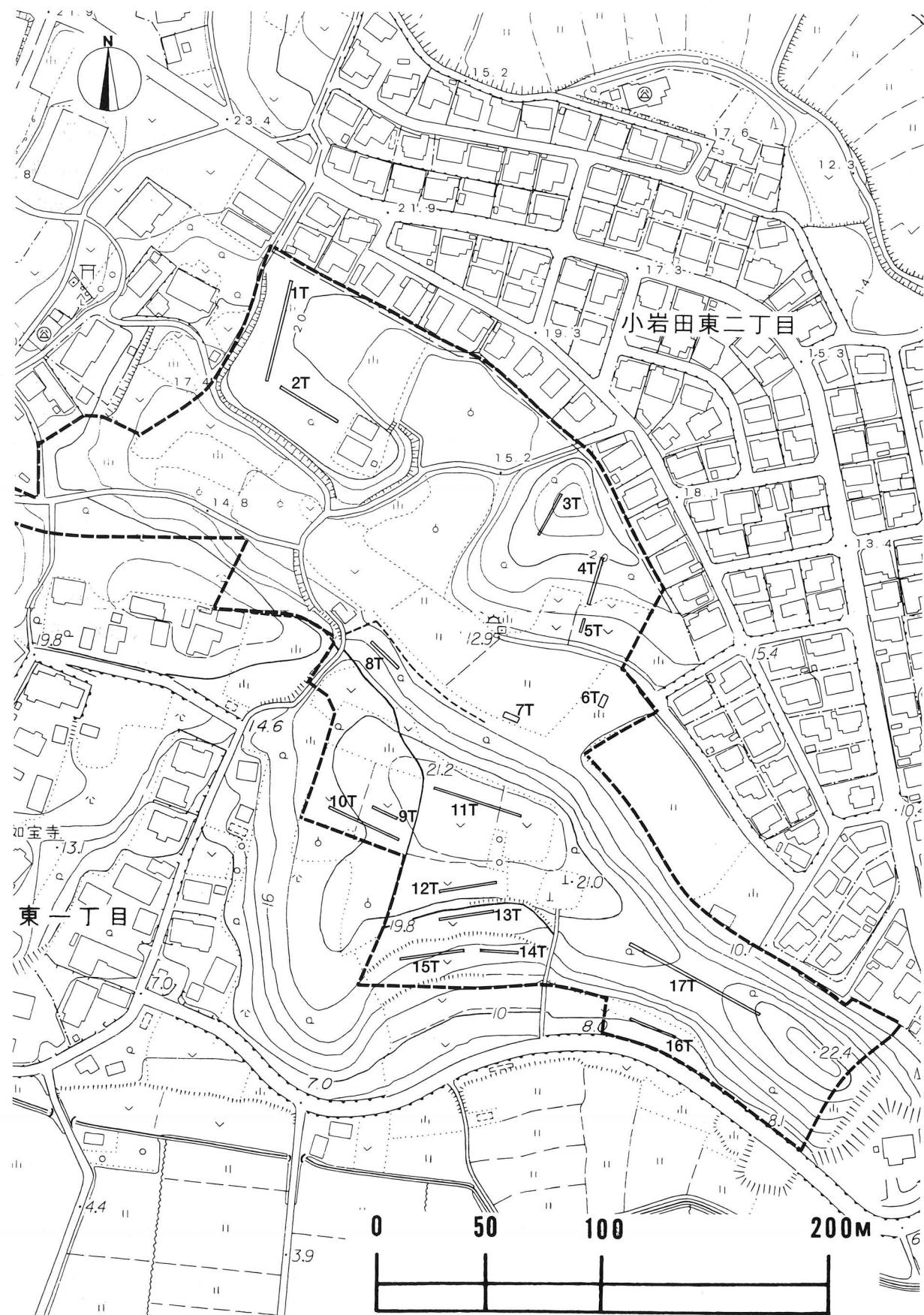
第2節 試掘調査の成果

開発事業地内において数回にわたり現地踏査を行ったところ、周知の遺跡である神出遺跡の範囲以外にも、遺物の散布が見られた。また、谷や山林等で地下の状況が不明な場所もあることから、遺跡の有無の確認と遺構の密度を知ることを目的としてトレーンチ法による試掘調査を行った。トレーンチは未買収地区を除いて17本設定し、平成9年10月1日から10月4日にかけて実施した。トレーンチの総延長は414m、総面積は850m²を測る。（第2図）以下各トレーンチの概要について述べる。

第1・2トレーンチは事業地内北東部、標高22mを測る細長い尾根状の台地に設定したが、遺構・遺物は発見されなかった。表土は約30cmでその下は白色の粘土層である。

第3トレーンチは事業地内北部、標高21～22mを測る南に張り出す細い尾根状の台地上に設定した。現状は山林である。斜面に遺物が散布していることから遺構の存在が考えられたが、試掘の結果、遺構・遺物は発見されなかった。表土は約50cmでその下は白色の粘土層である。

第4・5トレーンチは事業地内北部、標高14～19m、南に傾斜する斜面上に設定した。低地との比高差は約3mを測る。表面で遺物が散布していることから遺跡の存在が考えられる地点である。試掘の結果、堅穴住居跡と平安時代以降の遺物包含層が確認された。遺物は平安時代から中世にかけての土師器や須恵器、陶器などが出土した。表土は斜面のため50～90cmと厚く、その下に遺物包含層が堆積している。遺構を掘りこんでいる層は粘性締まりの強い褐色土層である。（第3図）新発見の遺跡であるため、字名から「東出遺跡」と命名した。



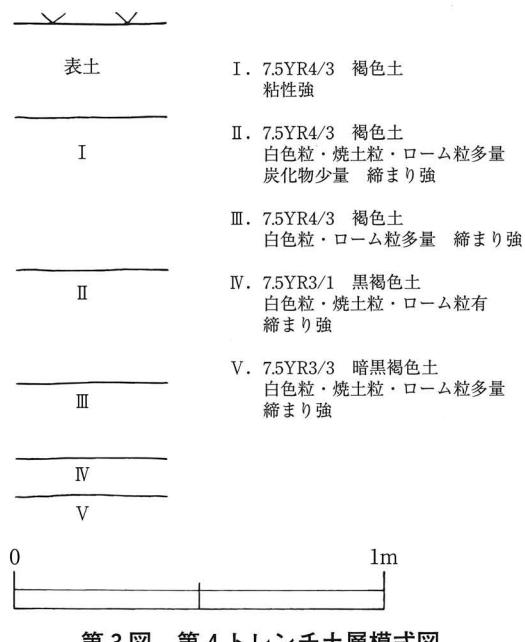
第2図 試掘調査トレーンチ設定図

第6・7トレンチは事業地内の中央部、東西に入り込む谷に設定した。現在の標高は13mであるが、2m前後砂による盛土をしている。以前は水田として利用していたが現在はセイタカアワダチソウが生い茂る荒れ地となっている。盛土が砂で厚いことや、低地のため水が湧くことなど試掘調査の条件は悪いが、近年、低地での遺跡の発見が見られることから2か所トレンチを設定した。調査の結果、水田跡などの遺構を確認することはできなかったが、古墳時代の土師器が数点出土した。遺物は台地上からの流れ込みと考えられる。土層は盛り土の下に青色の砂質の層が約20cm、青褐色土が約30cm、灰褐色土が約40cm、その下に明るい灰褐色土が堆積している。土師器は明るい灰褐色土から出土した。

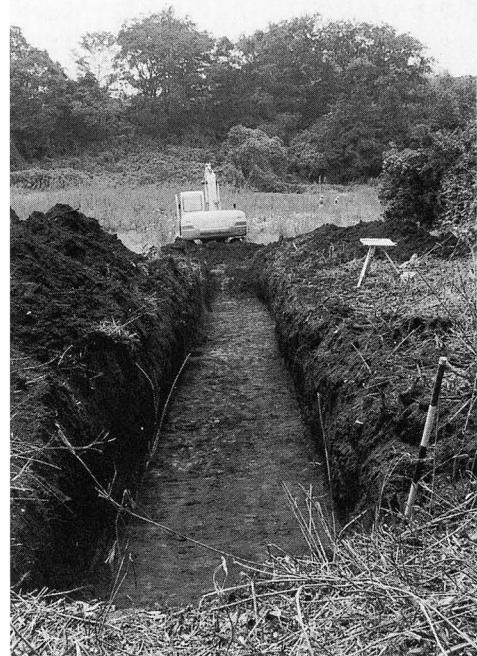
第8トレンチは事業地内中央、北側に臨む谷より一段高い場所に設定した。標高は14mを測る。土器片が数点発見されたが台地上からの流れ込みと考えられる。

第9・10・11・12トレンチは事業地内南部、標高約20~21mの東西に延びる台地上に設定した。この周辺は神出遺跡に含まれるため表面上に土器の散布がみられる。発見された遺構は、土坑や古墳時代の堅穴住居跡である。遺物は古墳時代から平安時代の土師器や須恵器、中世の陶器などで、第10トレンチからは古墳時代後期の壺や高壺が出土した。(第4図2・3) 試掘から遺構はこの一帯に濃密に分布していることが判明した。表土は20~30cmでその下に遺構確認面であるローム層が堆積しているが、西に向かうほど粘土質になり、事業地内の西部では白色の粘土層となる。

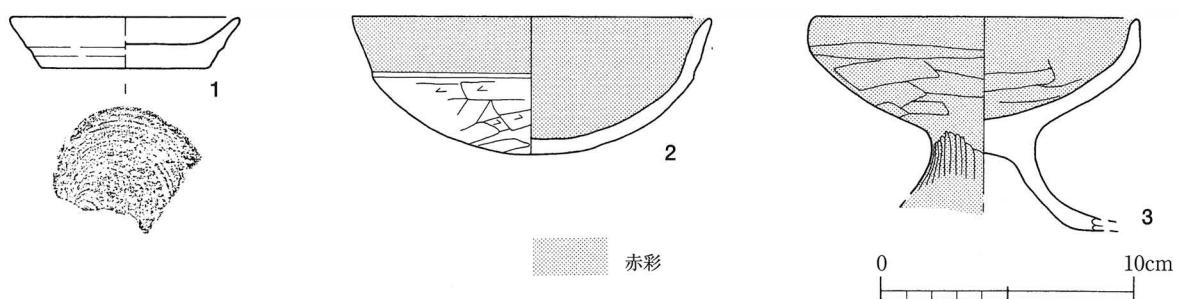
第13トレンチは事業地内の南部、台地上の南端に設定した。標高は19mを測る。表土の下は白色の粘土層



第3図 第4トレンチ土層模式図



調査状況



第4図 トレンチ出土遺物

で、この層が遺構確認面である。発見された遺構は竪穴住居、土坑、溝などで、土師器や中世の陶器が数点出土した。

第14・15トレンチは神出遺跡が台地より一段下がった地点に設定した。この場所は花室川に面した斜面上で、幅15m前後のテラス状を呈する地形である。標高は15mを測る。調査の結果、14トレンチの西側で黒色の落ち込みが確認できた。この黒色土から土師器や須恵器が出土した。表土は20cm程度で、その下に粘性のあるローム層や砂層が堆積している。

第13～15トレンチ周辺は神出遺跡の範囲に含まれていないが、試掘の結果、遺構の存在が確認できた。立地や性格から同一の遺跡として捉えることにした。

第16トレンチは事業地内の南部、花室川流域の低地より一段高い斜面上に設定した。標高は10mで、低地との比高差は4mを測る。北側は急斜面となり台地へ続いている。表面に遺物が散布していることから、埋蔵文化財の存在する可能性が考えられる場所である。調査の結果、土坑などの遺構と、土師器が数点出土した。字名から「中居遺跡」と命名した。

第17トレンチは事業地内の東部、東西に延びる細長い尾根状の台地に設定した。現状は篠の生い茂る山林である。表土の下は砂層や白色の粘土層である。土師器が2点出土したが遺構は確認されなかった。

以上が試掘の概要である。この結果をもとに遺跡の範囲を決定した。事業地内における遺跡の面積は、東出遺跡が1,600m²、神出遺跡7,600m²、中居遺跡600m²、合計9,800m²である。また、遺跡の性格は、古墳時代から平安時代にかけての集落跡や包含層と中世の遺跡であることが判明した。

第3節 位置と考古学的環境

1. 地理的環境

今回調査した東出遺跡・神出遺跡・中居遺跡は茨城県土浦市小岩田東1丁目に所在する。土浦市は茨城県の南部に位置し、東は霞ヶ浦町、北は千代田町、新治村、西はつくば市、南は牛久市、阿見町に隣接している。また東は霞ヶ浦に面し、市の中央を流れる桜川や、南部を流れる花室川が注いでいる。市の面積は約92km²、人口は約134,000人を数える。南北にJR常磐線、国道6号線、常磐自動車道が通り、この他に国道125号線や354号線が通っている。

土浦周辺の地形を概観すると、北部に新治台地、中央に桜川低地、南部に筑波・稻敷台地が広がっている。両台地の標高は20～40mを測り、河川によって開析された谷が複雑に入り込んでいる。また筑波、稻敷台地にはつくば市東部に水源を持つ花室川が流れている。台地の地層をみると、基本的に砂層(木下層)の上に、常総粘土層、関東ローム層、表土が堆積している。

調査した3遺跡は花室川左岸の台地に所在する。この台地は花室川とその小支谷に挟まれた細長い尾根状を呈し、標高は17～21mを測る。神出遺跡はこの台地上から花室川を南に臨むテラス状の斜面上に立地する。台地の標高は21m前後でテラスは16mである。中居遺跡は神出遺跡のある台地の下、標高9mを測るテラス状の斜面に立地している。東出遺跡は神出遺跡の北にある小支谷に面した南向きの標高14～19mを測る斜面上に立地している。

2. 歴史的環境

神出遺跡が存在する花室川流域は環境に恵まれ数多くの遺跡が存在する。ここでは土浦市を中心とした周辺の遺跡の概要について述べる。

旧石器時代の遺跡としては池の台遺跡(9)、和台遺跡(15)、永国遺跡(17)などがある。これらの遺跡

からナイフ形石器が出土した。永国遺跡例は杉久保系である。また、花室川はナウマンゾウの化石が発見されたことでも知られている。

縄文時代になると遺跡の数は増加する。早期の遺跡としては永国遺跡、ビヤ首遺跡（14）、茅山期の炉穴が8基発見された内路地台遺跡（50）などがある。前期の遺跡としては、烏山遺跡（60）、右糀貝塚東遺跡（54）、宮塚遺跡（55）などがあり、烏山遺跡から関山期、右糀貝塚東遺跡からは黒浜期の竪穴住居跡が発見された。中期の遺跡としては和台遺跡、六十原遺跡（12）、六十原A遺跡（13）で集落跡が調査された。和台遺跡や六十原遺跡からは二段に掘り込まれた住居跡が発見されている。後晩期の遺跡では池の台遺跡、小松貝塚（10）がある。小松貝塚は主に加曽利B期から安行期かけて形成された貝塚で、ハマグリやヤマトシジミが多い。注口土器やヘアピンなどの骨角器などが出土した。

弥生時代になると遺跡の数は減少する。この周辺では和台遺跡、烏山遺跡、永国遺跡で後期の集落跡が発見されている。

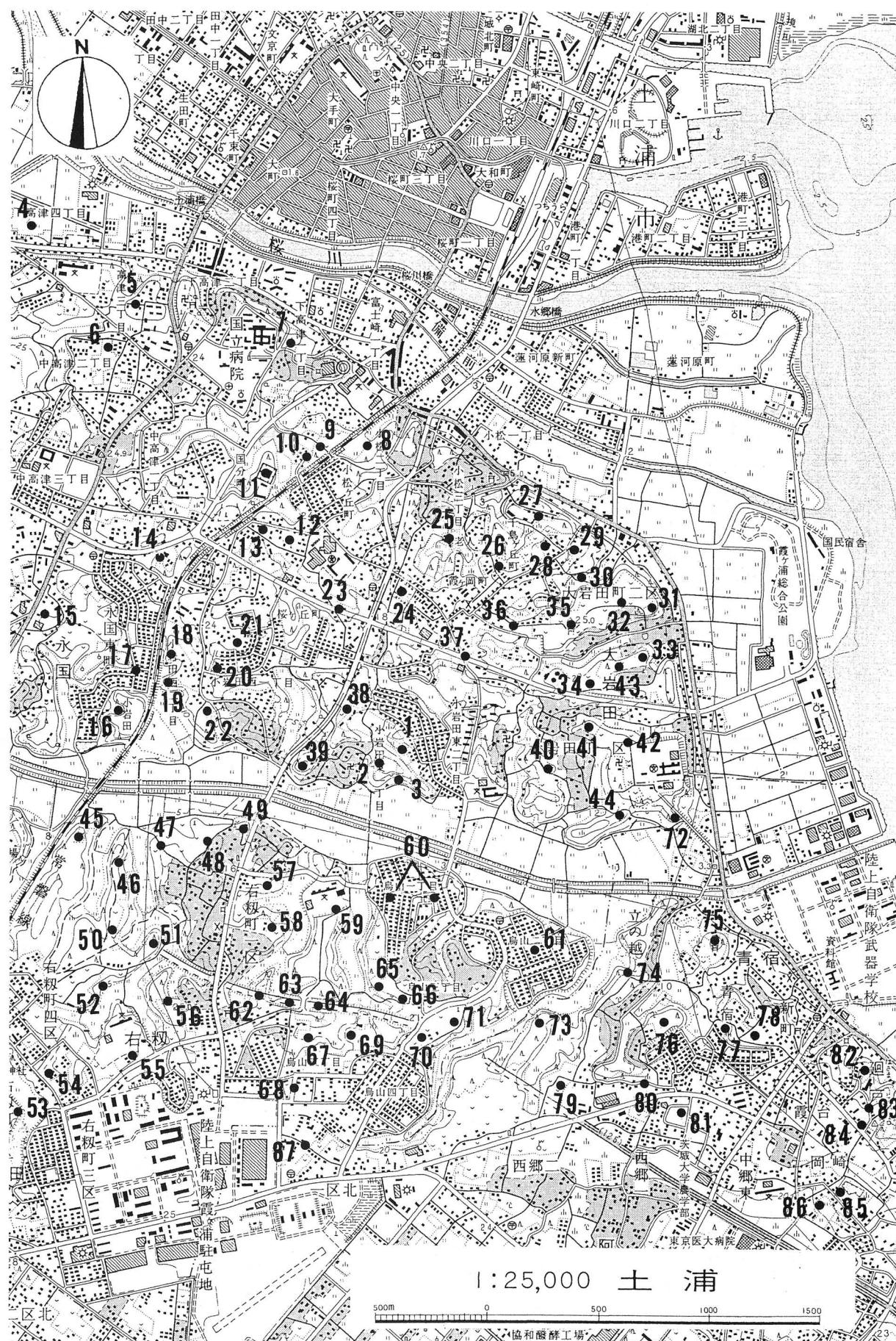
古墳時代以降再び遺跡は増加する。古墳時代前期では中根遺跡（52）、烏山遺跡、和台遺跡、永峯遺跡（59）、永国遺跡、東谷遺跡（28）、南丘遺跡（70）で確認されている。烏山遺跡からはメノウの玉作工房が発見され、東谷遺跡からは北陸系の甕が出土した。中期の遺跡は今回調査した神出遺跡（2）で住居跡が発見されている。古墳では周溝内より高坏が出土した三芳古墳（27）がある。後期の遺跡は池の台遺跡、内出後遺跡（38）、神出遺跡、房谷遺跡（25）、西郷遺跡（79）、南丘遺跡があり、池の台遺跡や神出遺跡からは集落跡が発見されている。後期の古墳では須恵器の聰や提瓶、坏、蓋などが出土したと伝えられている五藏古墳（42）、道路工事中に石棺が出土した桜ヶ丘古墳（23）、烏山遺跡の中には石倉山古墳群（61）、人物埴輪が出土した高津天神古墳群（7）などが存在する。

奈良・平安時代、神出遺跡周辺は茨城郡と信太郡の境であった。この時期の遺跡としては念代遺跡（47）平坪遺跡（48）、烏山遺跡、長峰遺跡（64）、西郷遺跡、南丘遺跡、内路地台遺跡などがある。烏山遺跡からは刻書のある紡錘車や「大家」と書かれた墨書き土器、神出遺跡と花室川を挟んで対岸に位置する念代遺跡からは「大部」や「中家」の墨書き土器が出土している。また長峰遺跡からは灰釉陶器の椀が出土した。土浦周辺の奈良・平安時代の遺跡の特徴として灰釉陶器が出土すること、掘立柱建物を伴う集落が多いことなどがあげられる。

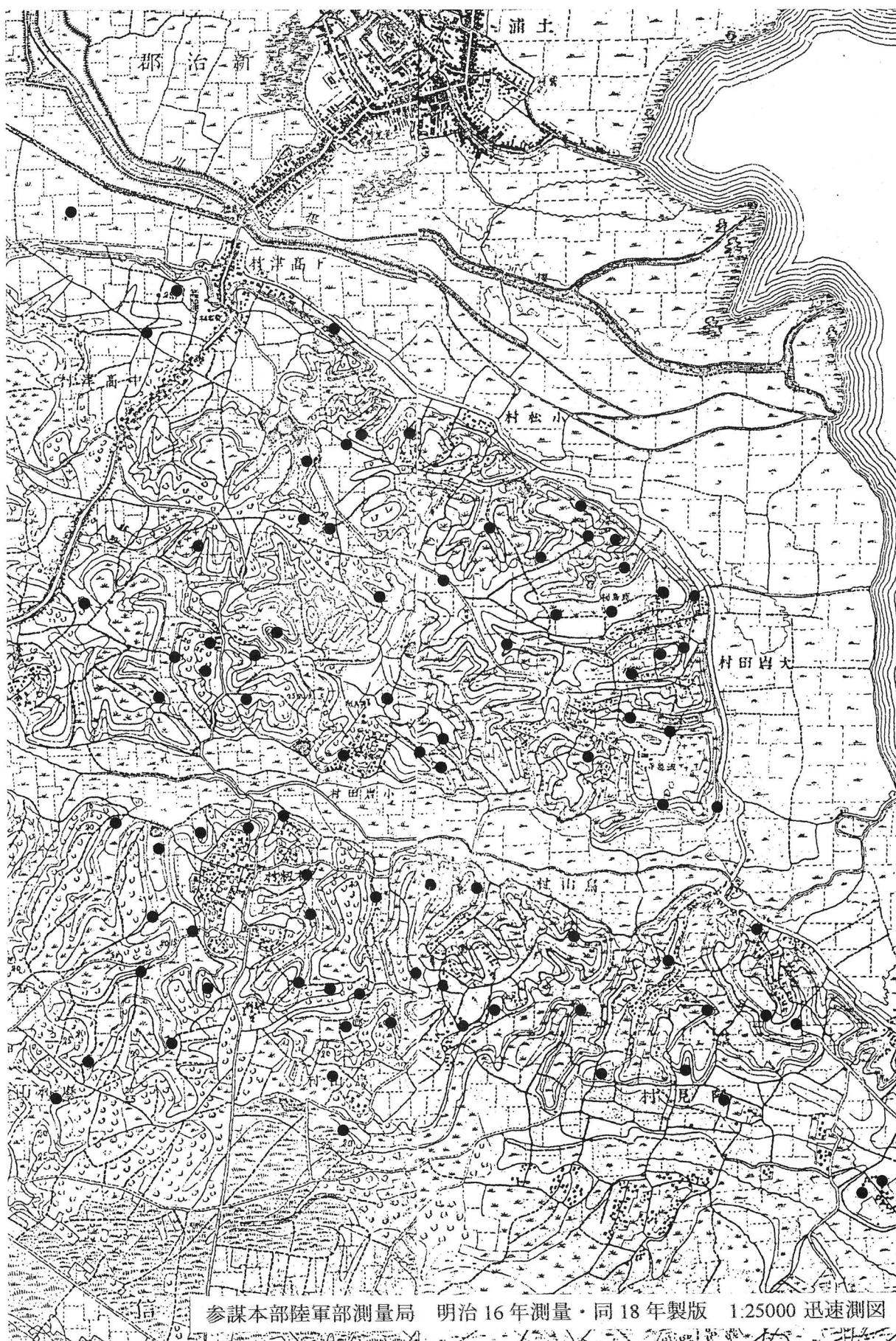
中世以降の遺跡としては土墨や堀跡が確認された右糀館跡（51）や南古屋敷遺跡（39）、岩田館址（40）などの城館址、大岩田貝塚（43）、右糀十三塚（45）、地下式壙から内耳土器や陶磁器が出土した宮塚遺跡（55）、土坑や溝が発見された霞ヶ岡遺跡（37）、近世の墓が発見された内出後遺跡、今回調査した東出遺跡（1）、神出遺跡などがある。大岩田貝塚は内耳土器などの破片が散布していることから中世の貝塚と思われる。

註

- 1 土浦市教育委員会『池の台遺跡調査報告』1981.1
- 2 日本窯業史研究所『茨城県土浦市 永国遺跡』1983.9
- 3 茨城県教育財団『茨城県教育財団文化財調査報告第111集 主要地方道土浦竜ヶ崎線道路改良工事地内埋蔵文化財調査報告書』1997.3
- 4 茨城県教育財団『茨城県教育財団文化財調査報告第64集 一般国道125号線道路改良工事地内埋蔵文化財調査報告書』1991.3
- 5 土浦市教育委員会『六十原A遺跡』1996.6
- 6 上高津貝塚ふるさと歴史の広場「中根遺跡」『年報3』1998.3
- 7 土浦市教育委員会『三芳古墳東谷遺跡B地点』1998.12



第5図 周辺遺跡分布図(1) (国土地理院発行 1/25,000に加筆)



第6図 周辺遺跡分布図(2)

表1 東出・神出・中居遺跡周辺遺跡一覧表

図中番号	遺跡名	県遺跡番号	時代						図中番号	遺跡名	県遺跡番号	時代						
			旧石器	縄文	弥生	古墳	奈良・平安	中世				旧石器	縄文	弥生	古墳	奈良・平安	中世	近世以降
1	東出遺跡				○	○	○	○	45	右糀十三塚	5245					○	○	
2	神出遺跡	5274	○	○	○	○	○	○	46	牧の内遺跡	5213			○	○			
3	中居遺跡					○			47	念代遺跡	5214			○	○			
4	下高津小学校遺跡	5265			○				48	平坪遺跡	5215	○	○	○	○			
5	弁天社遺跡	5264			○				49	沖ノ台遺跡	5219			○				
6	西原遺跡	5263			○				50	内路地台遺跡	5212	○		○				
7	高津天神古墳群	1812			○				51	右糀館跡					○			
8	小松遺跡	5256			○				52	中根遺跡				○				
9	池の台遺跡	5257	○	○	○				53	宮前遺跡	5208	○						
10	小松貝塚	1789	○						54	右糀貝塚東遺跡	5209	○						
11	国分遺跡	5258	○						55	宮塚遺跡	5210	○						
12	六十原遺跡		○						56	小谷遺跡	5211			○				
13	六十原A遺跡		○						57	堂地塚遺跡	5218	○						
14	ビア首遺跡	5259	○						58	松原遺跡	5217	○	○					
15	和台遺跡		○	○	○	○			59	永峰遺跡	5216			○				
16	宮久保遺跡	5261			○				60	鳥山遺跡	3451	○	○	○	○			
17	永国遺跡	5260	○						61	石倉山古墳群	1819			○				
18	阿拉地遺跡	5252			○				62	宮塚遺跡		○						
19	才ノ内遺跡		○	○					63	数光遺跡		○		○				
20	油麦田遺跡	5251			○				64	長峰遺跡				○	○			
21	桜ヶ丘遺跡	5254			○				65	北平南遺跡	5223	○	○					
22	いさろ遺跡	5253			○				66	堂後遺跡	5225	○	○					
23	桜ヶ丘古墳	5255			○				67	鳥山A遺跡	5220			○				
24	池ノ端遺跡	1791			○				68	鳥山B遺跡	5221			○				
25	房谷遺跡				○				69	小西遺跡	5222	○	○					
26	小松古墳	1813			○				70	南丘遺跡		○	○					
27	三芳古墳	1814			○				71	北平北遺跡	5224			○				
28	東谷遺跡	5248			○				72	丸山古墳群	3981			○				
29	霞ヶ岡北遺跡	5247			○				73	立の越館跡	5660			○	○			
30	霞ヶ岡古墳	5249			○				74	立の越古墳群	3979			○				
31	ひさご塚古墳	1815			○				75	青宿古墳群	1682			○				
32	内根A遺跡	5269			○				76	熊野脇遺跡	5659	○	○		○			
33	木曾北遺跡	5273			○				77	青宿貝塚	1685	○						
34	木曾遺跡	5272			○				78	ビラタ塚古墳群	5657			○				
35	内根B遺跡	5270	○						79	西郷遺跡	5661	○	○					
36	内根C遺跡	5271			○				80	宮脇遺跡	5658		○	○	○	○		
37	霞ヶ岡遺跡	5246			○				81	阿見貝塚	1687	○						
38	内出後遺跡	5250	○	○					82	廻戸城跡	5720				○			
39	南古屋敷遺跡					○			83	廻戸貝塚	1686	○	○					
40	岩田館址					○			84	廻戸遺跡	5664	○	○	○	○			
41	中内山古墳群	1816			○				85	岡崎古墳	5665			○				
42	五蔵遺跡	5275			○				86	岡崎館跡	5666				○			
43	大岩田貝塚	3999				○			87	一区北遺跡	3981	○						
44	法泉寺古墳群	5276			○													

参考文献

- 土浦市教育委員会 『図説 土浦の歴史』1991.3
- 土浦市教育委員会 『土浦の遺跡』1984.3
- 土浦市教育委員会 『土浦市埋蔵文化財地図』1992.3
- 上高津貝塚ふるさと歴史の広場 『花室川の歴史と文化』1997.4
- 上高津貝塚ふるさと歴史の広場 『年報4』1998.7

第4節 調査方法と調査経過

1. 調査方法

調査は試掘結果にもとづいて、表層を覆う耕作土の除去を重機により行った。耕作土直下から確認された各遺構の掘り下げは人力によって行い、遺構内各施設の正確な検出、遺構の切り合い関係の把握、遺物の出土状況、土層の堆積状況の把握に努めた。土層断面は実測を行い、土色帖を用いて記録・写真撮影を行った。

調査区内には公共座標に沿って10m四方のグリッドを設定した。南から北へアルファベット（A～X）を、西から東へ算用数字（1～18）を付して実測や遺物取り上げの基準とした。遺構・遺物の出土状況の記録は原則として1/20縮尺を基準とし、遺構全体図は1/200縮尺とした。写真撮影は、白黒35mm、カラースライド35mm、白黒6×7判を用いて調査の過程で隨時行った。空撮による遺構全景撮影はラジコンヘリコプターにより行った。

2. 調査経過

本調査は平成9年12月24日より平成10年6月30日まで実施した。以下は東出、神出、中居3遺跡における調査経過である。

《東出遺跡》

平成9年
12月 下旬：調査準備を行い、表土除去を開始する。
平成10年
1月 上旬：事務器、発掘器材の搬入。表土除去終了。調査区は谷地形になっており、黒褐色土がほぼ全体に堆積している。その中に焼土の堆積地点を数か所確認した。
中旬：降雪による悪天候が続き作業に入ることができなかった。
下旬：遺構確認及び精査作業を行う。確認された遺構は竪穴住居跡3軒、土坑16基、溝1条であった。谷地形を埋没させた黒褐色土は遺物包含層の可能性もあるためサブトレレンチによる試堀を行った。
2月 上旬：遺構精査作業を行う。確認されている土坑のなかに火葬墓1基があることがわかる。
中旬：各遺構の記録保存を終了させ、教育委員会の終了確認を受け終了する。

《神出遺跡》

平成10年
1月 中旬：調査準備を行う。土浦市教育委員会黒沢氏との調査区域の確認及び調査方法の打ち合わせを行った。
下旬：北区を除く3地区の表土除去、及び南区の遺構確認作業を行う。南区は土坑10数基・溝1条が、中央区は白色粘土質の基盤層に溝1条、ピット5基、土坑4基を確認した。
2月 上旬：西区の表土除去を開始する。南区、中央区の掘り込み作業を行う。北区は礎石建物跡を始め住居跡8件、溝1条、土坑10数基を確認した。中央区は地下式壙5基が東西方向に並んで検出された。
中旬：表土除去は西区、北区の一部を除いて終了し、遺構確認及び精査作業を行う。西区では中央を分断する溝状遺構の南側で遺構が集中し、住居跡6件、地下式壙8基が確認されたほか多数の土坑・ピットを検出した。北区では南側で土坑・ピットが集中し、東側で住居跡6件を確認した。
下旬：南区の住居跡調査を行う。竪の遺存状態は良好である。
並行して地下式壙の掘り下げを行う。6号地下式壙主室の深さは約3メートルを測る。
3月 上旬：南区では遺構実測を行い、中央区西側では遺構の掘り下げを行う。
中旬：残りの表土除去を行い、北区の北側では住居跡が重複して検出された。南区では住居跡竪の調査、地下式壙の実測を行う。西区の遺構掘り下げを開始する。
下旬：西区の遺構調査を継続する。調査区内北側及び東側で6世紀代の遺物を伴った貯蔵穴状の土坑が点在して検出された。住居跡に伴う可能性が

あるため周辺を丹念に調査するが、柱穴等の痕跡は確認出来なかった。

4月 上旬：西区の遺構掘り下げを継続する。ピットが集中する南側に新たに掘立柱建物跡2棟を確認する。遺構実測と並行して北区の掘り込みを開始する。
中旬：西区、中央区、南区の空撮を行う。天候不順の影響を受ける。
下旬：西区の住居・掘立柱建物の精査及び実測作業を行なう。北区では北西に集中する住居群の精査を開始する。調査した古墳時代の竪穴住居跡貯蔵穴は1メートル前後の深さをもっている。
5月 上旬：前半は連休の狹間になるため、作業効率を考慮して西区及び北区の遺構実測を中心に行なう。後半は西区の住居跡の調査と並行して遺構全体測量を行う。
中旬：西区の遺構全体測量を終了する。北区は南側の遺構精査を開始する。竪穴遺構8基に加えピットが集中して確認された。地下式壙・住居跡の精査を行なう。
下旬：天候が不順なため調査がはかどらない。北区の住居跡の精査を終了する。調査区南西寄りで掘立柱建物跡を確認する。礎石建物跡の精査を開始する。
6月 上旬：北区において2回目の空撮を実施した。遺構精査を終了し発掘器材、遺物を搬出する。
中旬：遺構全体測量を行う。遺構実測を終了し、教育委員会の終了確認を受ける。
下旬：現地プレハブ内にて遺構図面の整理作業を行う。末日をもって終了する。

《中居遺跡》

平成10年
1月 上旬：表土除去を開始する。
中旬：継続して表土除去を行う。調査区南側で東西に伸びる落ち込みを広範囲に確認した。
下旬：東西に伸びる落ち込み部にトレレンチを設定する。その結果約1メートルの急激な高低差を確認。並行して遺構確認及び精査作業を開始し、土坑10数基、ピット10数基を確認した。遺構実測作業を開始した。
2月 上旬：引き続き落ち込み部のトレレンチ調査、遺構精査作業を行う。
中旬：落ち込み全体の掘り下げを開始した。その結果東側で平坦なテラス状遺構を、西側で竪穴住居跡1軒を確認した。
下旬：テラス状遺構、住居跡の精査作業を行う。遺構実測作業を継続して行なう。
3月 上旬：1号住居跡ほか遺構精査作業を行う。
中旬：各遺構の実測作業を終了し、安全対策を施し終了する。



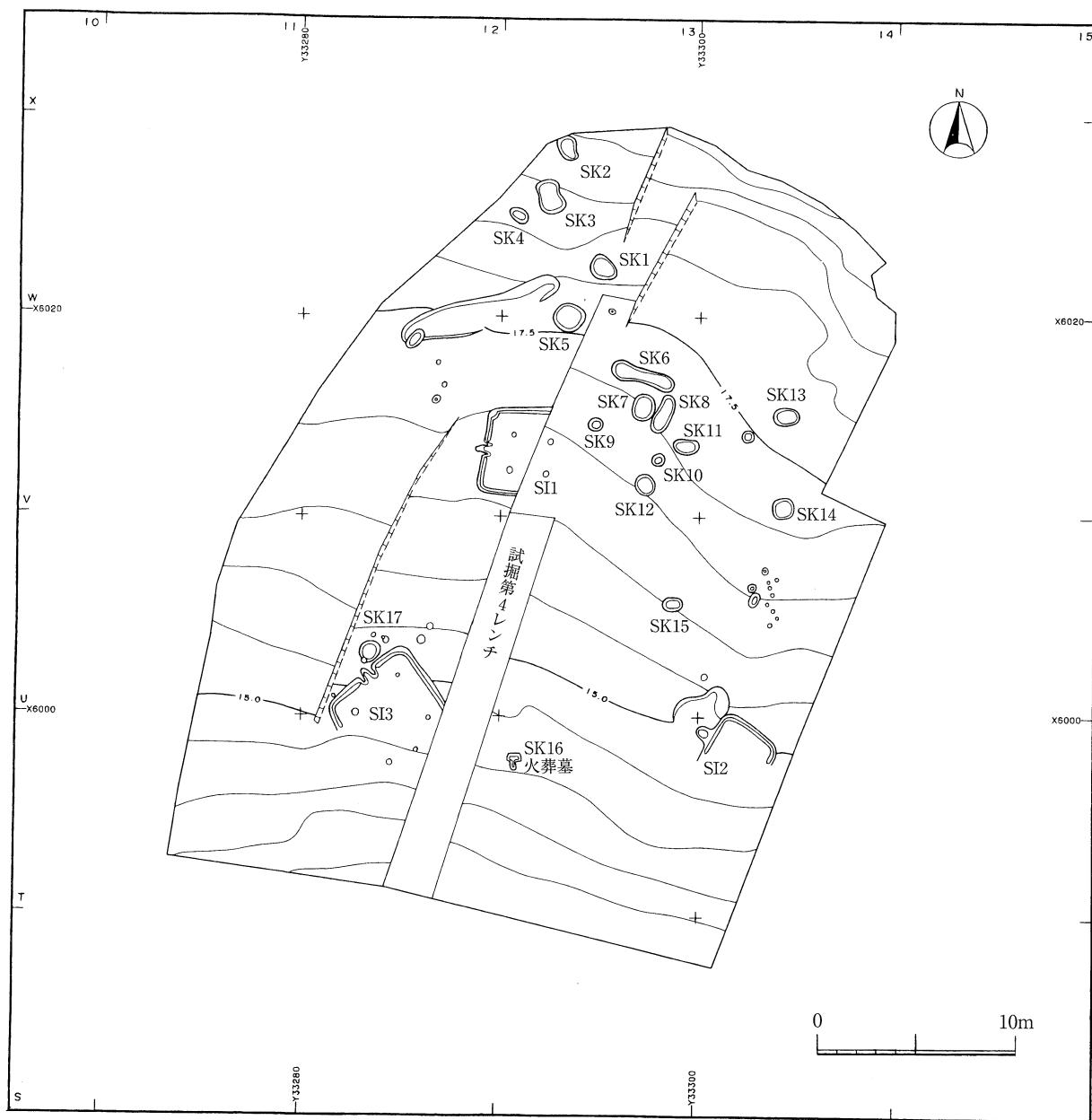
第7図 東出・神出・中居遺跡調査区設定図

第2章 東出遺跡

第1節 遺跡の概要

本遺跡は、標高12~20mの台地縁辺の傾斜地形にある。遺構の確認面は黒褐色堆積土で、確認面から竪穴住居跡3軒のほか土坑や溝が検出された。住居跡は古墳時代後期1軒、奈良時代1軒、平安時代1軒である。その他に中世に属すると考えられる火葬墓1基、粘土張り土坑2基、時期不明の溝1条と土坑13基が検出された。

出土遺物は古墳時代後期から平安時代の土師器、須恵器、灰釉陶器等で、火葬墓からは骨片が出土している。その他に遺構外から縄文土器片、古瀬戸片が少量出土している。



第8図 東出遺跡全体図

第2節 遺構と遺物

竪穴住居跡3軒、土坑17基、溝1条の調査が行われた。土坑のうち11号と13号土坑は粘土張り土坑、16号土坑は火葬墓である。その他の時期不明土坑と溝は第13・14図・第1表と全体図面で参照願いたい。

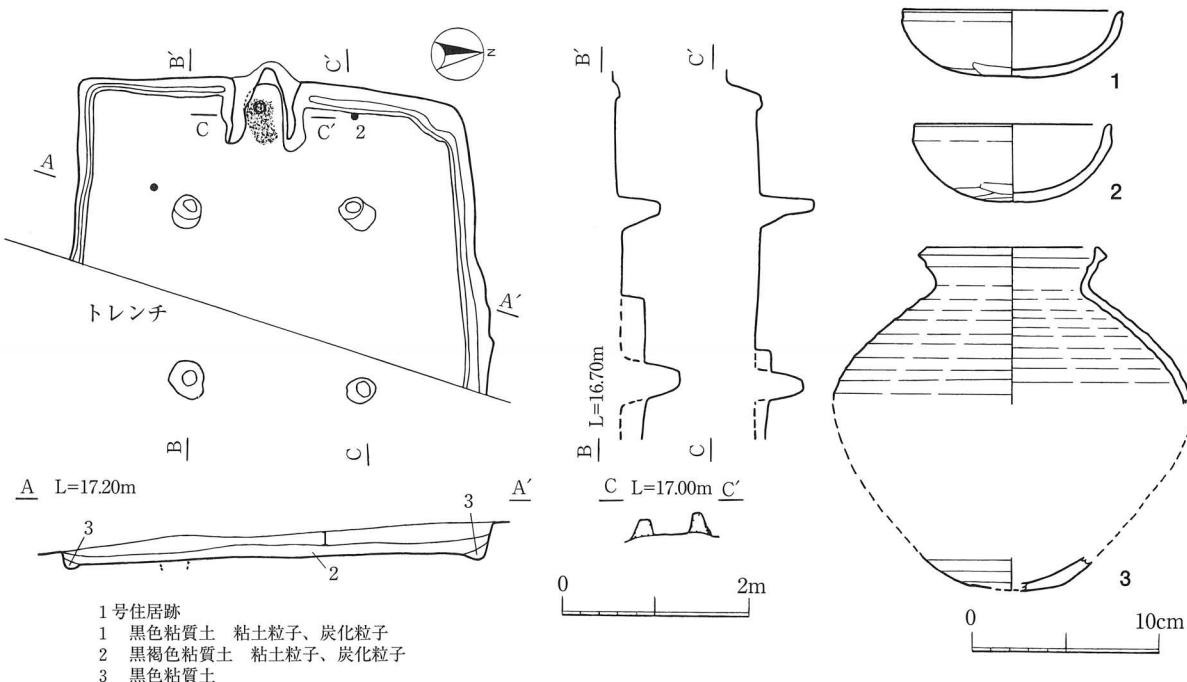
1 竪穴住居跡

1号住居跡（第9図・写真図版1）

本住居跡はM1グリッドに位置している。規模は南北方向4.1m、東西方向推定4.2mである。残存する壁高は30cmを測る。主軸はN-52°-Wを示す。壁溝は掘り方上幅15~22cmで深さ5~6cmである。主柱穴は、4本で壁から1.1m離れた床上にあり、上端径24~42cm、深さ45~62cmである。カマドは確認面上場で20cm程竪穴外に突出する。袖部は壁から70cm程屋内に延び、基底部幅20~25cm、高さ20cm残存している。火床部底面は焼土化しており、中央部奥壁より向かってやや左寄りに支脚が残存していた。住居覆土は黒色もしくは黒褐色粘質土が堆積している。出土遺物は、竈右脇の壁直下床面から土師器壊（No2）が出土している。その他覆土中から出土したNo1の土師器壊も口径11cm程度と小形であり7世紀後半頃のものと考えられる。覆土中からは湖西産と見られる須恵器壺、横方向平行叩きの須恵器甕等8世紀代の遺物が出土している。

東出遺跡1号住居跡遺物観察表

番号	種類	器種	口径	器高	底径	残存率	胎土	色調	器形・技法の特徴、その他	台帳番号	出土地点	備考
1	土師器	壊	(11.6)	3.6		40	半透明・白色粒多量	褐~暗褐色		2	SI 1	
2	土師器	壊	(10.4)	4.1		45	半透明・白色粒多量	褐色	外面成形・乾燥時のヒビ多く器面調整	3	SI 1	
3	須恵器	壺	(10.4)		7.6	12	鉄分微粒極少量	灰白色	器形・技法の特徴、その他	1	SI 1	湖西産



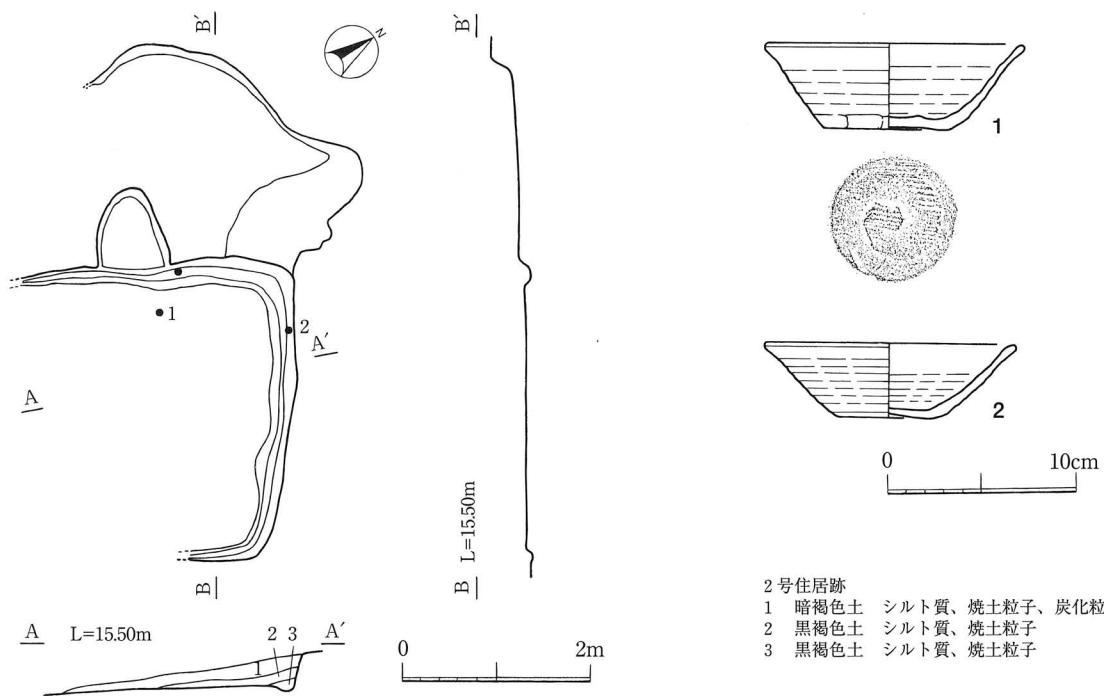
第9図 東出遺跡1号住居跡・出土遺物

2号住居跡（第10図・写真図版1）

本住居跡はT13グリッドにかかる位置にある。規模は主軸方向3.08m、残存する壁高は30cmを測り、主軸はN-52°-Wを示す。カマドは、北西壁を幅75cm、奥行き1m程掘り込んでおり、掘り方だけ確認できた。壁溝は幅9~15cm、深さ3~5cmで竈部分も含めて床の残存部はすべて巡っている。住居覆土は2層からなり、黒褐色粘質土を主体とする。遺物は、覆土中から須恵器壺（No1・2）が出土している。

東出遺跡2号住居跡遺物観察表

番号	種類	器種	口径	器高	底径	残存率	胎土	色調	器形・技法の特徴、その他	台帳番号	出土地点	備考
1	須恵器	壺	13.7	6.6	4.5	100	半透明・白色粒子少量、雲母微粒子少量	灰白色	底部回転ヘラ切り離し無調整	4	SI2	
2	須恵器	壺	(13.2)	5	3.9	30	半透明・白色粒子少量、雲母微粒子少量	灰褐色	体部下端手持ちヘラ削り	5	SI2	内外面黒化



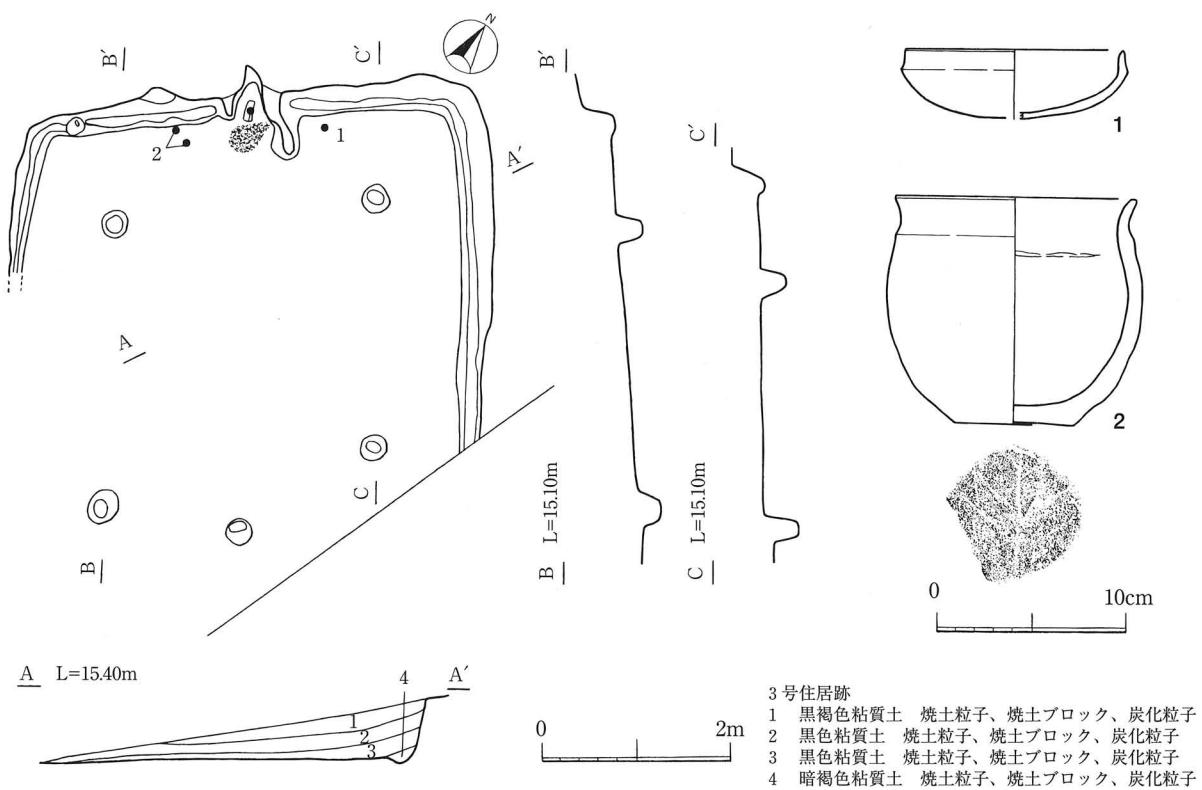
第10図 東出遺跡2号住居跡・出土遺物

3号住居跡（第11図・写真図版1）

本住居跡はT11~U11グリッドに位置する。規模は北西壁側の長さ4.6mを測り、北東壁は南側で削平されるが、柱穴との関係から約4.7mの長さが推定される。残存する壁高は40cmを測り、主軸はN-48°-Wを示す。主柱穴はP1~P4で上端径30~40cm、深さ20~37cmである。P5は出入り口施設に関する穴で深さ17cmである。竈は向かって右側の袖部の遺存がよく、壁から長さ80cm、基底部幅15cm、高さ10cmで、暗褐色粘質土を主体として構築していた。火床部が焼土化しており、火床奥に土製支脚が転倒して出土している。出土遺物は竈脇の床上から、土師器の壺・小形甕が出土している。

東出遺跡3号住居跡遺物観察表

番号	種類	器種	口径	器高	底径	残存率	胎土	色調	器形・技法の特徴、その他	台帳番号	出土地点	備考
1	土師器	壺	(11.5)	3.6		40	黄白・暗赤褐色粒子少量	褐色		6	SI3	摩耗
2	土師器	甕	(12.8)		8.9	50	透明・半透明・白色微粒多量	暗赤褐色	火熱による器壁の荒れ著しい	7	SI3	底部木葉痕



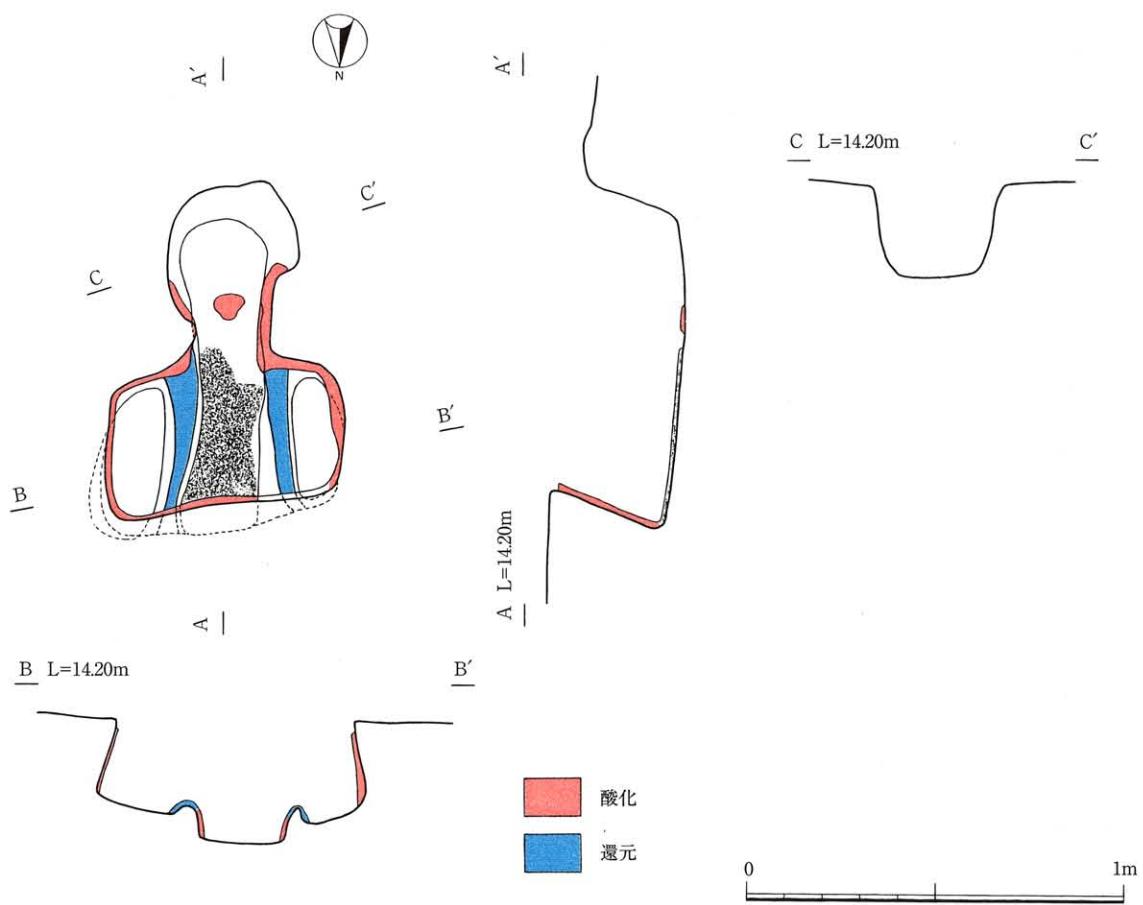
第11図 東出遺跡 3号住居跡・出土遺物

2 火葬墓（第12図・写真図版2）

火葬墓は遺跡の南部の最も低い標高14.8mの地点で単独一基のみが発見された。調査時土坑番号（16号土坑）を付して調査を行った。この旧16号土坑は、独特の形態から火葬構造と考えられる。規模は主土坑長軸1.3m、短軸0.8m、深さ0.5mを測る。主土坑と直交方向に主土坑の底面よりも10cm掘り下げて幅0.4m、長さ1.97mの溝を切っている。溝は土坑の壁をくり抜いて外に突出し不整円形の土坑と接続している。不整円形土坑の規模は上端で径0.7mの不整円形である。南北方向に長い溝を主軸と考えて、主軸方位はN13°Eである。底面や側表面は強い火熱を受けて焼土化や還元化が見られる。覆土は、底面に薄い黒色の炭化層、その上に厚さ3cm程度の骨片・骨粉混じりの黒褐色粘質土層、さらにその上を黒褐色土層が覆っている。遺物は火葬骨片のみで総重量は20gを計る。

3 粘土張り土坑（第14図・写真図版2）

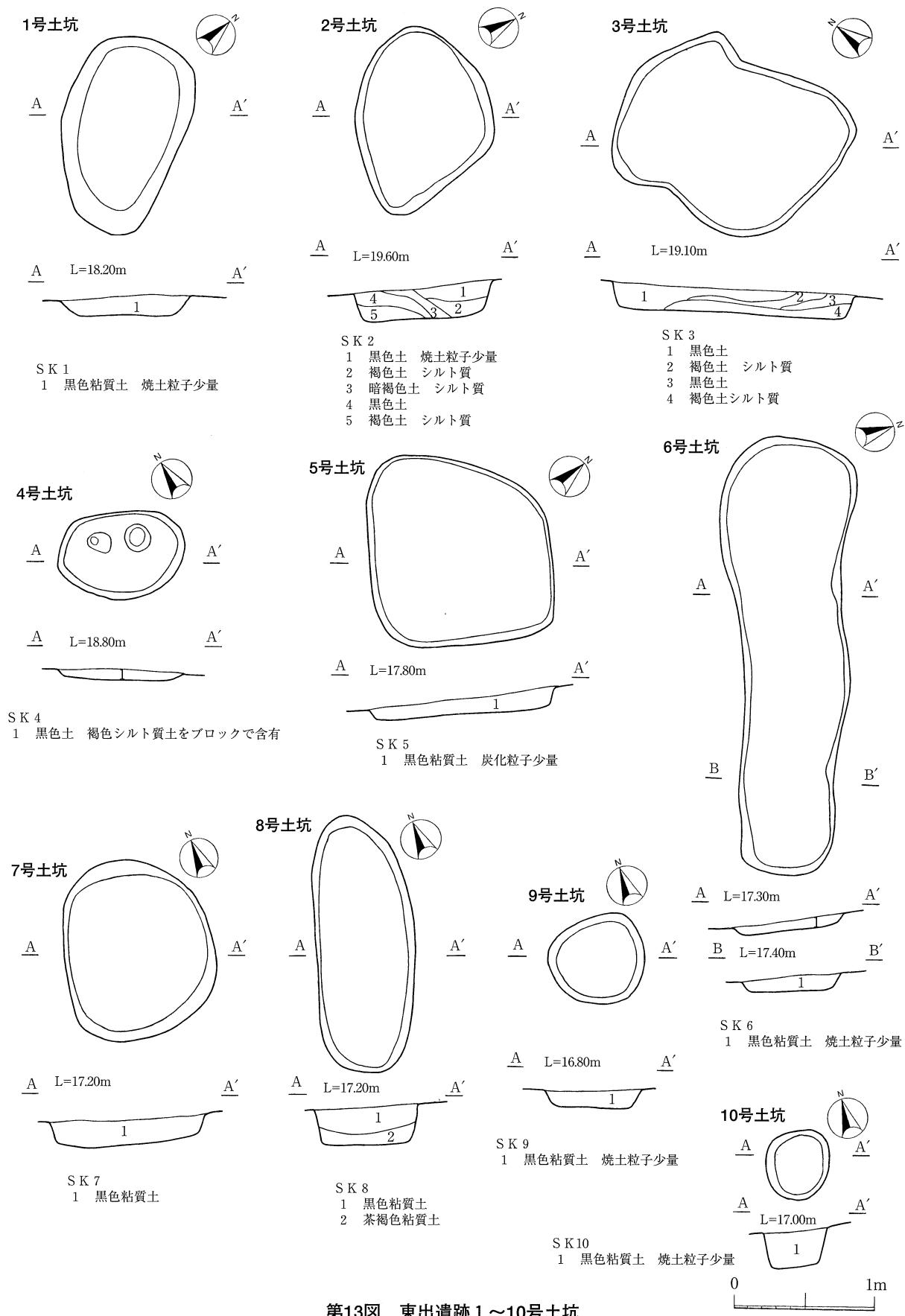
粘土張り土坑は遺跡の比較的高所、標高17.5m付近に2基が近接してつくられている。11・13号土坑とともに方形基調の土坑で、粘土を土坑内に張り付け構築されており、2基とも土坑底面が焼土化し類似構造と考えられる。11号土坑は壁の周囲に厚さ10cmの褐色粘土が見られ、13号土坑は底面に厚さ4cmの褐色粘土が残っていた。覆土は11号土坑が底面に赤褐色土、その上にシルト質暗褐色土が堆積している。13号土坑は焼土・炭化粒子を含む黒色粘質土が堆積している。



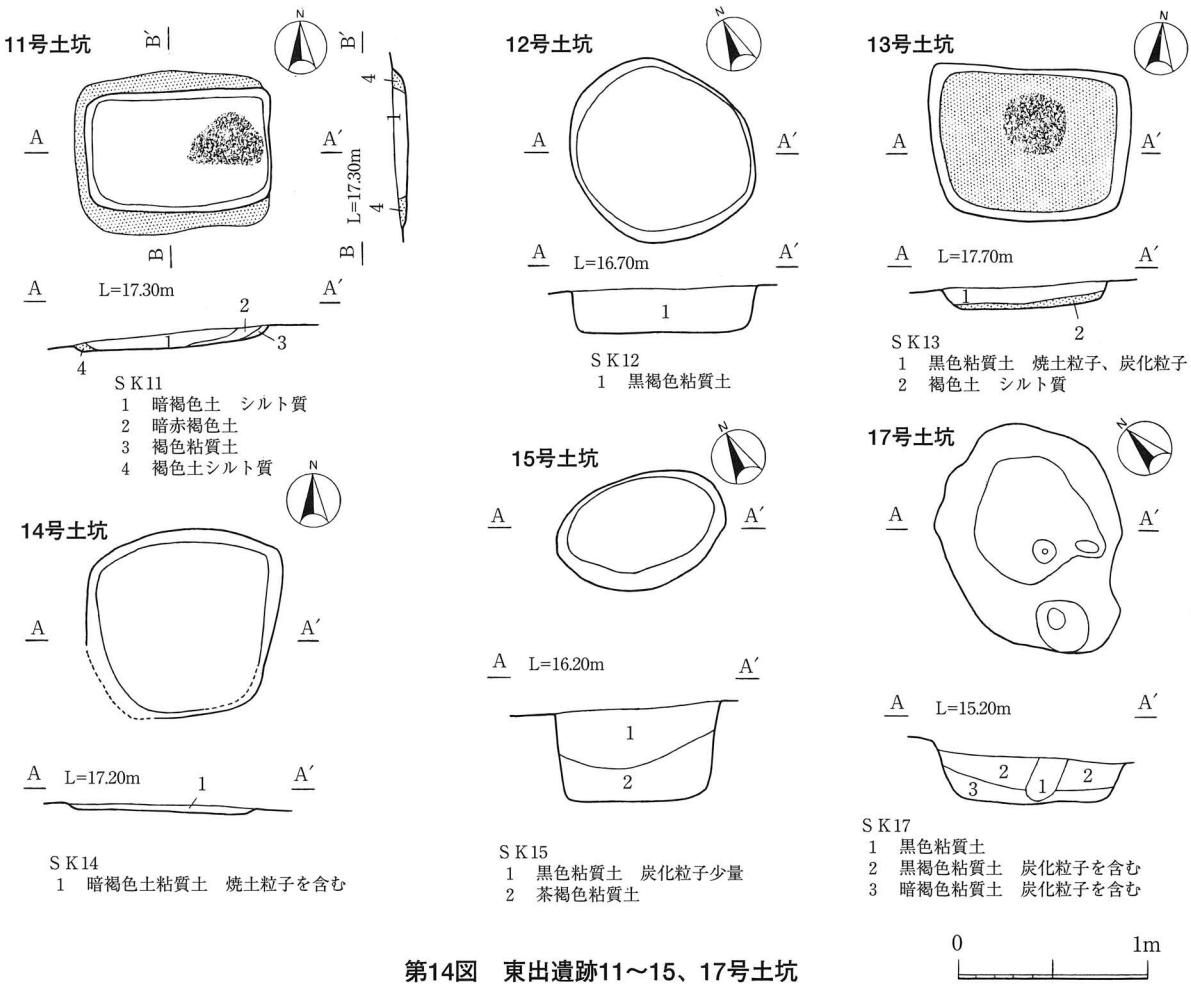
第12図 火葬墓

表2 東出遺跡土坑一覧

番号	位置	平面形	長軸×短軸×深さ (m)	出土遺物	備考
1	W-13	楕円形	1.41×0.85×0.12		
2	W-13	不整形	1.35×0.98×0.22		
3	W-13	不整形	1.72×1.39×0.17	縄文小片、平安土師器・須恵器小片	
4	W-13	楕円形	1.65×0.62×0.06		
5	V,W-13	不整方形	1.65×1.04×0.10	土師器・須恵器小片	
6	L-13	不整長方形	0.67×0.61×0.18	縄文小片、平安須恵器甌（5孔式）	
7	L-13	円形	1.29×1.06×0.17	縄文小片	
8	L-13	楕円形	1.08×0.71×0.26	縄文小片、平安土師器・須恵器小片	
9	L-13	円形	3.02×0.76×0.13		
10	L-13	円形	0.52×0.46×0.25		
11	L-13	方形	1.03×0.83×0.06		粘土張り土坑
12	L-13	円形	1.03×0.9×0.22		
13	V-14	方形	1.07×0.81×0.11	縄文小片、平安土師器・須恵器小片	粘土張り土坑
14	V-14	不整方形	1.02×0.98×0.03		
15	U-13	楕円形	0.94×0.59×0.5	7～9世紀土師器・須恵器	
16	T-13	不整形	1.65×0.41×0.25		火葬墓
17	U-12	不整形	1.3×0.95×0.23	7世紀土師器壺小片	



第13図 東出遺跡1~10号土坑



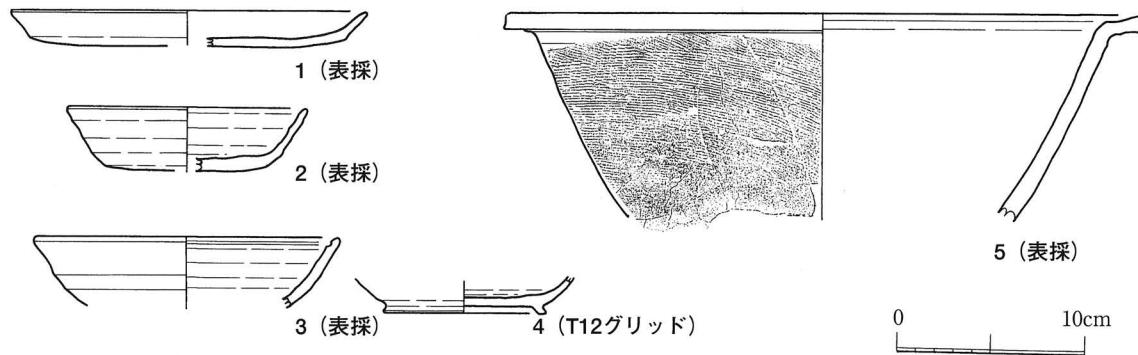
第14図 東出遺跡11~15、17号土坑

4 遺構外出土遺物（第15図・写真図版2）

東出遺跡の表採遺物として、奈良時代前半頃の土師器・須恵器が出土している。須恵器壺はバケツ形甕と呼ばれる平底の甕で、器高が低く体部の叩きは横方向でやや目が細かい。須恵器壺も口径、底径が大きく端部に沈線を持ち、7世紀末～8世紀前葉頃の特徴を持っている。

東出遺跡表採遺物観察表

番号	種類	器種	口径	器高	底径	残存率	胎 土	色 調	器形・技法の特徴、その他	台帳番号	出土地点	備 考
1	土師器	壺	(18.8)	1.9		40	赤褐色、白色・雲母微粒少量	褐 色		8	表採	内外摩擦
2	須恵器	壺	(12.6)	3.4		40	半透明・白色粒多量	青灰色	底部一方向、周縁手持ち丁寧ヘラ削り	9	表採	
3	須恵器	壺	(16.1)			20	半透明・白色粒～礫	暗青灰色	口縁端部内面沈線	10	表採	
4	須恵器	高台付壺			8.6	40	雲母粒・半透明礫	暗灰色	底部高台内側弱い爪形圧痕を回転で消している	11	表採	内面二次被熱
5	須恵器	甕	34			20	雲母微粒多量、白色・半透明微粒少量	灰 色	外面横方向格子叩き	12	表採	



第15図 東出遺跡遺構外出土遺物

第3節 調査のまとめ

本遺跡は台地縁辺の傾斜地形という立地環境であるにもかかわらず古代と中世の遺構が検出され、当時の人々の生活の跡が確認された。古代の遺構は古墳時代後期から平安時代の竪穴住居跡で、古墳時代後期1軒、奈良時代1軒、平安時代1軒である。出土遺跡は7世紀後半の土師器・須恵器、9世紀代の土師器、須恵器、灰釉陶器である。須恵器の中では8世紀前半の湖西産と考えられる壺形土器が出土している。東出遺跡の古代の竪穴住居跡は台地上の好立地環境からあえて傾斜地形を利用する選地に特色が見られる。偶然の一致かもしれないが南側の谷を狭んで隣接する神出遺跡の南側傾斜面で8世紀前半の湖西産須恵器の甕を出土した竪穴住居跡があり、神出遺跡では台地上に同時期の遺構が見られず共通した理由があるのかもしれない。

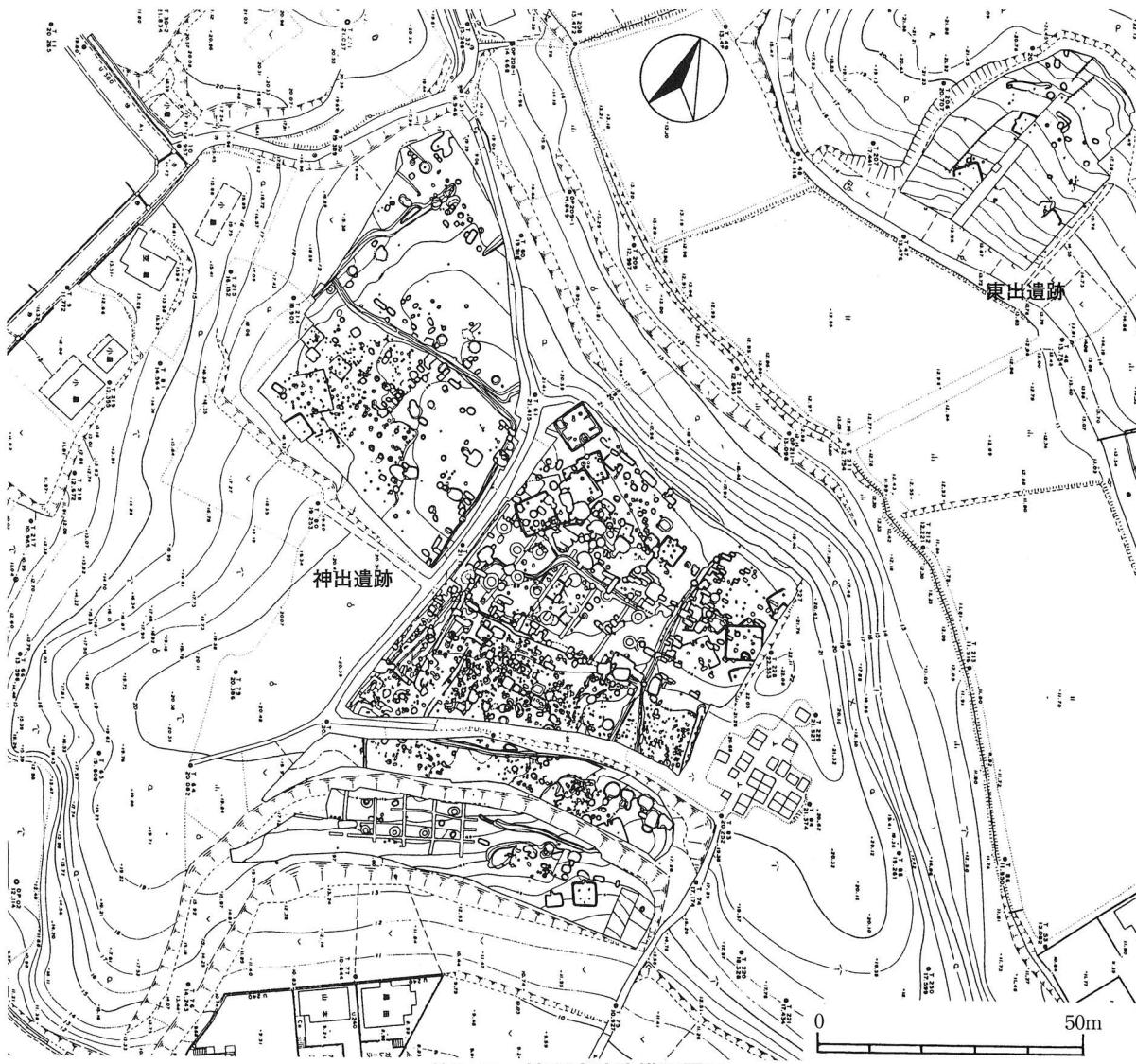
中世に属すると考えられる遺構は火葬墓1基、粘土張り土坑2基である。火葬墓は、神出遺跡から7基確認されており、16世紀前後の時期のものと推測され、本跡のものも形態的類似から同時期頃の可能性が考えられる。粘土張り土坑は、方形プランで内壁が火熱を受けており、六文銭を伴うような近世の円形プランではないものの墓壙の可能性もある。中世の出土遺物は火葬墓から火葬骨片、遺構外から古瀬戸平椀小片が出土している。中世においては墓域としての利用が認められるものの不明な点が多い。時期不明であるがその他に溝1条と土坑13基が検出されている。

第3章 神出遺跡

第1節 遺跡の概要(第16図)

神出遺跡は、花室川を南に見下ろす標高20~22mの台地上から標高13~19mの台地斜面上にかけて立地する。この台地は北西方向から南東方向へ向かって延びる舌状台地で、北西部に一部くびれがあり、現況はここに台地を横切る切り通しが通っている。このくびれ部から見て南方向から東南方向に向かって緩やかな起伏を持った台地面が広がっており、台地南西端までは約170m、台地東南方向へは約150mで、その先は尾根状に幅を狭めてさらに細長い舌状地形が延びて台地端部に至っている。台地南辺は河川にえぐられるようなカーブを描く傾斜地形で、畠地として利用するため段状の地形削平が行われている。

神出遺跡は古墳時代から中・近世の時期に渡る遺跡である。古墳時代前期・後期・平安時代の集落跡と、掘立柱建物跡や溝、方形竪穴遺構等中世の館跡にかかる遺構、さらに地下式壙や火葬墓といった墓に関連する遺構、その他に近世の土坑墓や土坑、時期不明の礎石建物跡等からなっている。検出された遺構数は、古墳時代の竪穴住居跡20軒、平安時代の竪穴住居跡22軒、中世の掘立柱建物跡8棟、地下式壙29基、火葬遺構（火葬墓）5基、竪穴遺構12基、溝13条、テラス状遺構2箇所、時期不明の礎石建物跡1棟、その他土坑



第16図 神出遺跡遺構配置図

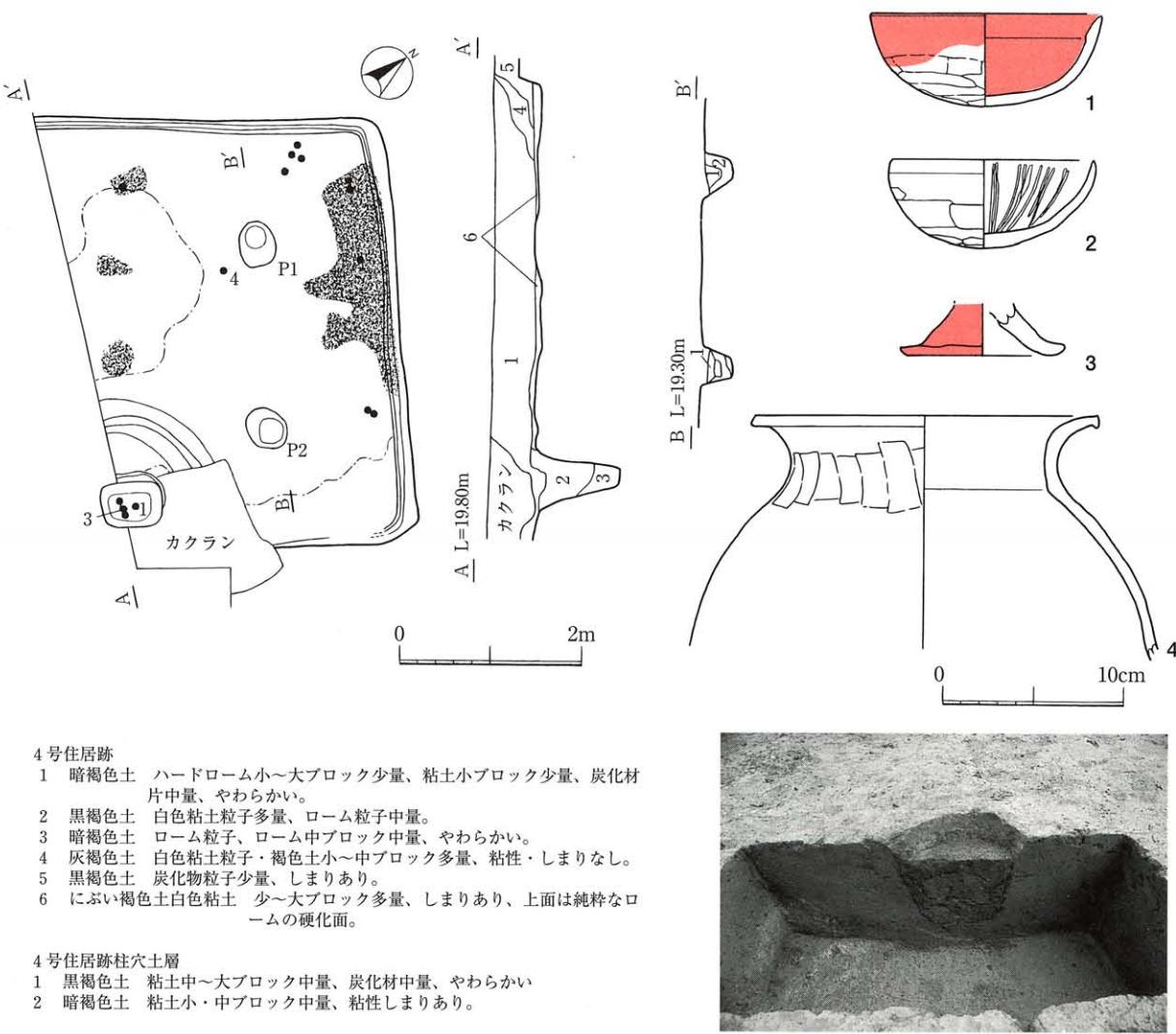
約460基、柱穴約980本である。古墳時代の竪穴住居跡は、古墳時代前期の1軒を除いてほとんどが5世紀後半から6世紀前半の大型の住居跡で、尾根状に延びる台地の最高地点を中心に分布している。平安時代の集落は9世紀後半から10世紀代が中心であるが遺存状態は悪く出土遺物も少ない。中世の掘立柱建物跡は、柱穴状のピットが数多く確認されたものの明瞭に建物の配列として捉えられたものが少なく、柱間や柱列の不規則な掘立柱建物跡は相当存在していたものと推測される。方形竪穴遺構や地下式壙、柱穴、土坑は出土遺物が乏しく時期の決定の困難なものが多い。

出土遺物は古墳時代の土師器、須恵器、土製品、平安時代の土師器、須恵器、灰釉陶器、中世の輸入陶磁器、古瀬戸、常滑、土師質土器、土製品、石製品、金属製品、遺構外から縄文土器片・石器等が出土している。

第2節 遺構と遺物

1 古墳時代

(1) 竪穴住居跡



第17図 神出遺跡 4号住居跡・出土遺物

4号住居跡（第17図・写真図版5）

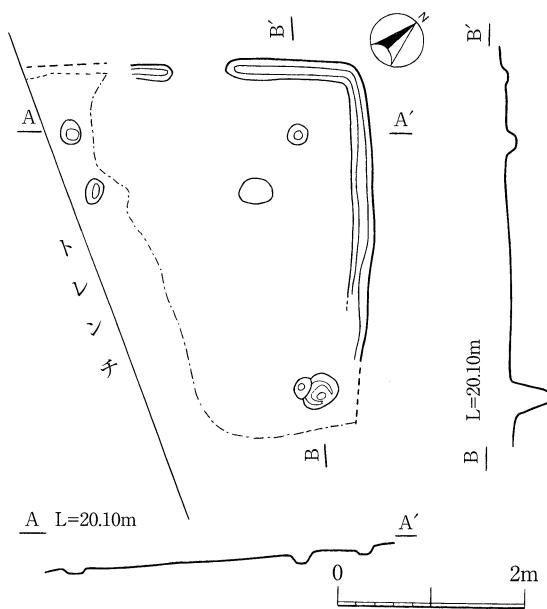
本住居跡はM1グリッドに位置する。規模は長軸方向4.45mを測り、平面形は方形になると考えられる。残存する壁高は45cmを測る。主軸はN-57°-Wを示す。出入り口周辺に特に硬化した馬蹄形の高まりを持っている。馬蹄形の中央部やや壁寄りに長軸67cm 短軸50cm 深さ90cmの穴が開いている。穴の下層にロームブロックを含んだ自然堆積層があり土師器の壊が落下した状態で出土していた。中層は厚く堆積し、上層は住居跡覆土3層が穴に流れ込むように堆積している。この穴の周囲の、床の硬化した馬蹄形の高まり部分が出入り口に掛けられた梯子を降りた時の最初の床面への着地点と考えられる。主柱穴は2本確認でき、調査エリア外に残り2本が存在しているものと思われる。P1は、深さ30cm 上端径49cmで、深くなるほど狭くなり底径22cmを測る。覆土上層は上屋の焼失の影響を受けた土層で主柱が炭化し、一部残存し周囲が焼土化していた。P2は、深さ34cm 上端径50cmで、底径21cmを測る。P2は、上屋焼失前に主柱の抜き取りが行われたのか、P1と対照的にローム大ブロック主体の、上屋焼失にかかわらない土層の堆積が見られた。住居覆土は3層から成っている。住居跡の埋没が始まった直後は壁際に初層の自然堆積がみられる。続いて上屋の焼失に伴う炭化材片や焼土の堆積が北壁・西壁際から住居中央部床面に向かって傾斜して堆積している。出土遺物はP1付近覆土から甕（No4）、貯蔵穴覆土下層から壊（No1）と短脚高壊（No3）、土玉が出土している。土玉は覆土中から合計4点出土している。

神出遺跡4号住居跡遺物観察表

番号	種類	器種	口径	器高	底径	残存率	胎 土	色 調	器形・技法の特徴、その他	台帳番号	出土地点
1	土師器	壊	12.6	5.1		100	半透明粒多量	明褐	内面から外面体部上半部赤彩	1	SI4
2	土師器	壊	11.2	4.8		90	白色微粒少量	褐～暗褐		2	SI4
3	土師器	高壊			9	40	白色微粒、透明・半透粒	明褐	外面赤彩	3	SI4
4	土師器	甕	(18.9)			10	透明細粒多量	褐	体部外面中央部スス付着	4	SI4

5号住居跡（第18図・写真図版5）

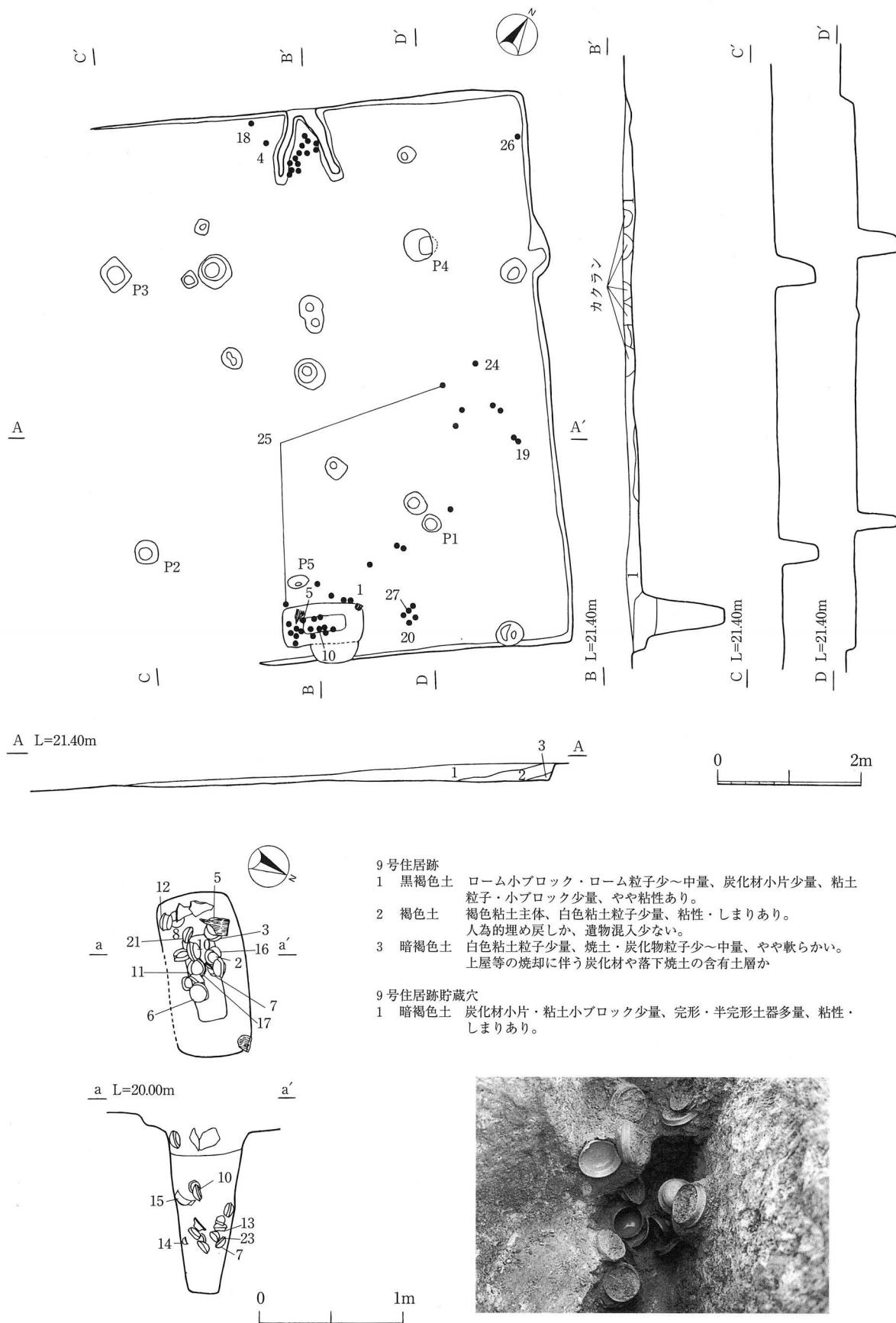
本住居跡はM2グリッドに位置する。規模は耕作等による流失によって不明。壁はほとんど残存していない。残存している壁溝から方形を呈すると思われ、主軸はN-48°-Wを示す。竈も残存していない。遺物は古墳時代の土師器甕片と壊片が数片出土している。



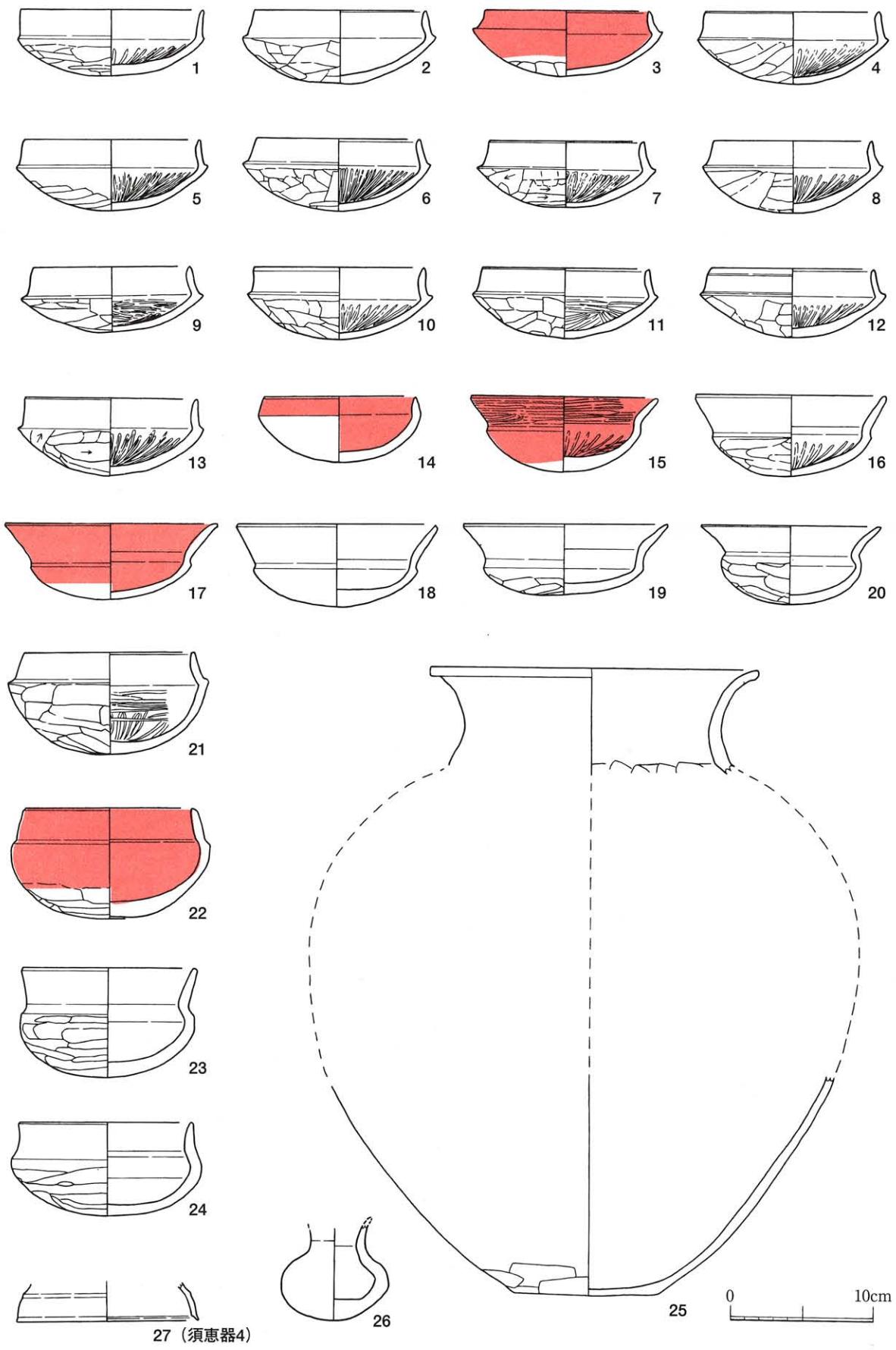
第18図 神出遺跡5号住居跡

9号住居跡（第19・20図・写真図版5・6）

本住居跡はM1からN1グリッドにかかる位置にあり中世の2号掘立柱建物跡と重複している。規模は長軸方向5.55mを測り西南側の壁は地形の削平のため残存していない。床面が常緑粘土層を掘り込んで構築されており硬化面の範囲は記録できなかった。残存する壁高は21cmを測る。主軸はN-35°-Wを示す。北西



第19図 神出遺跡 9号住居跡



第20図 神出遺跡 9号住居跡出土遺物

壁中央部に竈が付設されており、壁の掘り込みはほとんど確認されなかった。袖部は住居内に約1m程突出して延びており最大幅は約1.4mある。袖部は相対的に白色に見えるにぶい褐色粘土の大ブロックを芯にしてにぶい褐色粘土ブロック混じりの褐色粘土で覆うようにして構築している。火床面は2面あり焼土化が著しく、火床中央部に土製支脚の基部が残っていた。燃焼室の規模は奥行き80cm、巾37cmを測る。柱穴は5か所で、P1～P4は主柱穴である。南東壁中央部直下に平面長方形で長辺2.3m、短辺1.1m、深さ2.26mの深い穴が開く。いわゆる貯蔵穴という名称で一般化して呼称されている穴で、これ以降「貯蔵穴」という名称で記述していくが、あくまでも一般呼称として使用するのであってこの穴の性格を意味していない。貯蔵穴の埋没過程は、自然堆積土の流入に混じって多量の土師器壊が中層に見られるので、住居廃絶後、貯蔵穴のある出入り口側では貯蔵穴内に暗褐色土の流入があり、途中から土器の廃棄が行われている。貯蔵穴が完全に埋没する前に炭化材の堆積が覆土上層に見られる。上屋焼却に伴うと予想される炭化材や落下焼土の堆積が東壁際の土層に見られる。それを覆って壁際から褐色粘土主体の人為的埋め戻し層になる遺物の混入の少ない土層が堆積する。出土遺物は、竈の左袖脇の床面上に完形の壊が2個体（No4・18）、竈内に甕の口縁部や体部片が残されていた。住居跡北コーナー壁直下の床上からはミニチュアサイズの壺形土器（No26）が出土している。注目されるのは、貯蔵穴中層から出土した20個体程の壊（No1～3、5～17、21、23）である。完形品以外に半完形品を含んでいるため廃棄遺物と考えられる。貯蔵穴上層からは甕（No25）と幅12cm、厚さ2cmほどの板状の炭化材が2片貯蔵穴に落ち込むようにして穴の縁から出土している。No27の須恵器蓋小片はNo20の土師器の壊とともにこの遺構から出土している土師器群の時期を考える上で参考資料となるものである。古く見てMT15、おそらくTK10段階頃のものであろうか。その他覆土中と床面から計測可能な個体で、長径1.75cm、短径1.3cm、厚さ1.1cm程の桃の種の核が2点、計測不可能な個体もあわせて4個体分が出土している。

神出遺跡9号住居跡出土遺物観察表

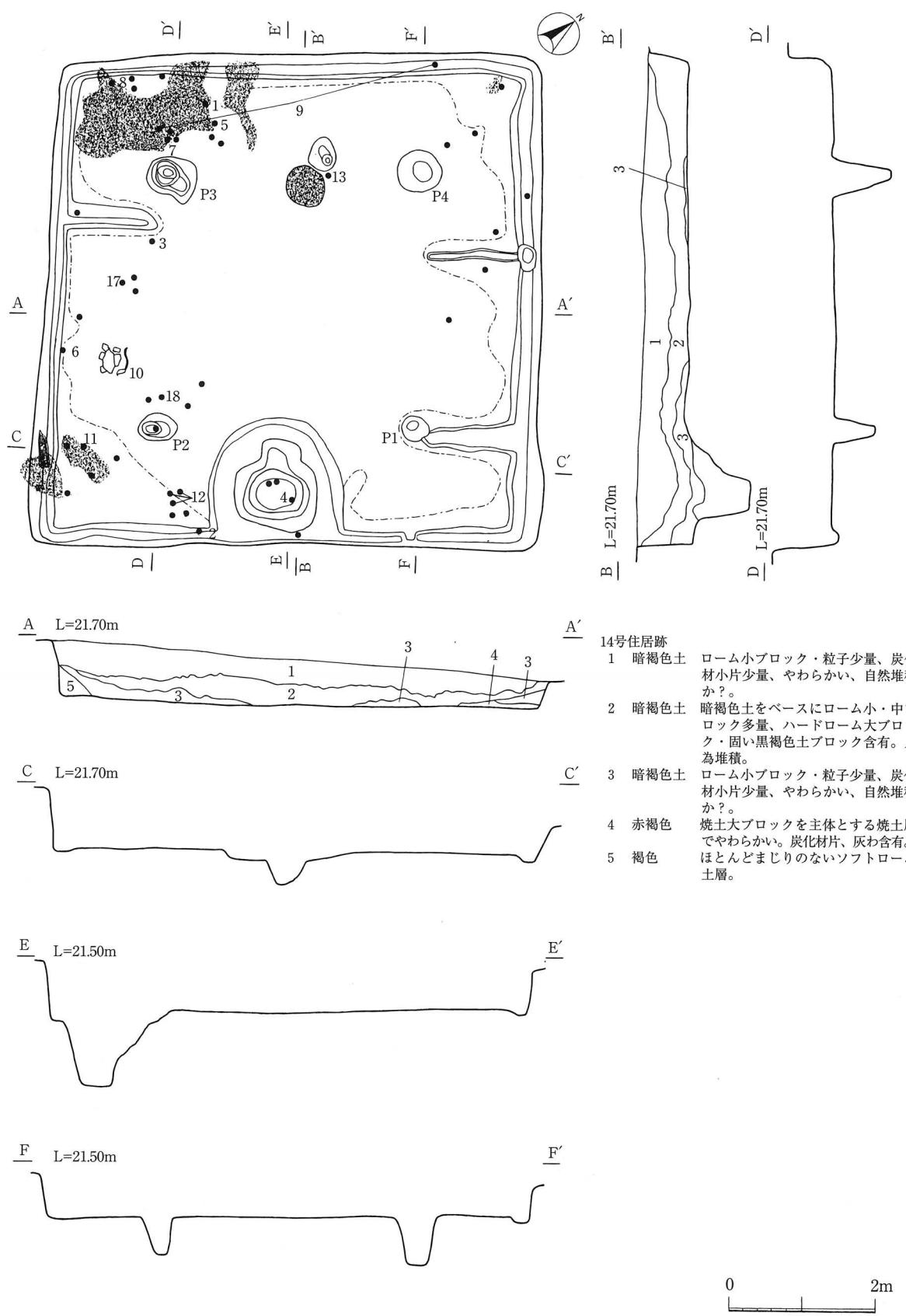
番号	種類	器種	口径	器高	底径	残存率	胎 土	色 調	器形・技法の特徴、その他	台帳番号	出土地点	備 考
1	土師器	壊	12.5	4.6		100	透明・半透明白色細粒	橙	内面丁寧な放射状ヘラ磨き	5	SI9	
2	土師器	壊	12	5.2		100	細砂粒多量	紫褐～黒色	外外面に黒斑あり、底部多方向ヘラ削り	6	SI9	
3	土師器	壊	11.3	4.6		100	白色微粒子、透明・半透明	褐	内外面赤彩	7	SI9	
4	土師器	壊	12.1	5.1		100	透明・半透・白色微粒子	暗褐	内面丁寧な放射状ヘラ磨き	8	SI9	
5	土師器	壊	12.2	5		100	透明・白色細粒	黒褐	内面やや雜な放射状ヘラ磨き	9	SI9	
6	土師器	壊	11.5	5.1		100	透明・半透・白色細粒	茶～黒褐		10	SI9	
7	土師器	壊	11	5.1		100	透明・半透・白色細粒	褐		12	SI9	
8	土師器	甕	11.8	4.7		100	透明粒子多量	褐～暗褐	内面やや雜な放射状ヘラ磨き	11	SI9	
9	土師器	壊	11	4.6		100	透明・半透明粒子	暗褐		13	SI9	
10	土師器	壊	12	5.1		100	透明・半透・白色細粒	橙～暗褐		14	SI9	
11	土師器	壊	11.7	5		100	透明・半透・白色微粒	暗褐		15	SI9	
12	土師器	壊	11.4	4.9		100	透明粒・半透明・白色微粒	橙～黒色		16	SI9	
13	土師器	壊	12	5.4		100	半透明粒多量、透明粒	暗褐		17	SI9	
14	土師器	壊	10.7	4.6		100	透明・半透・白色微粒	褐	内外面赤彩	18	SI9	底部摩耗
15	土師器	壊	13	5.2		100	半透明・白色粒少量	明褐	内外面赤彩	19	SI9	
16	土師器	壊	13.2	5.7		100	透明・半透明粒・白色微粒子	橙		20	SI9	
17	土師器	壊	14.7	5.3		100	透明・半透・白・黒色微粒	明褐	内外面赤彩	21	SI9	
18	土師器	壊	14	5.8		100	透明・半透明粒多量	茶褐		22	SI9	内面摩耗
19	土師器	壊	14.3	5		100	透明・半透・白色粒子	橙		23	SI9	
20	土師器	壊	12.5	5.5		100	透明・半透・白色粒子	橙	赤く焼ける胎土を使用	24	SI9	
21	土師器	壊	11.8	7.1		100	透明・半透・白色微粒子	褐～黒色	内面雜なヘラ磨き	25	SI9	
22	土師器	壊	11.7	7.7		100	半透明・白・黒色粒子	明褐	底部は小さく窪みリング状に接地する	26	SI9	内面赤彩
23	土師器	壊	12	7.7		100	透明礫・透・灰粒多量	橙		27	SI9	
24	土師器	壊	12	6.5		100	透明・半透明粒多量	明褐		28	SI9	
25	土師器	甕	(22.9)		11	30	半透明粒多量、雲母微粒少量	褐	底部片側被熱痕、他の側スス付着	31	SI9	
26	土師器	小形壺		7.3		90	半透明・白色粒多量	明褐	粗雑な作りでミニチュア土製品に近い	30	SI9	焼成や不良
27	須恵器	蓋	(12.8)			5	白色微粒子	青灰	3	29	SI9	TK10

14号住居跡（第21・22図・写真図版6）

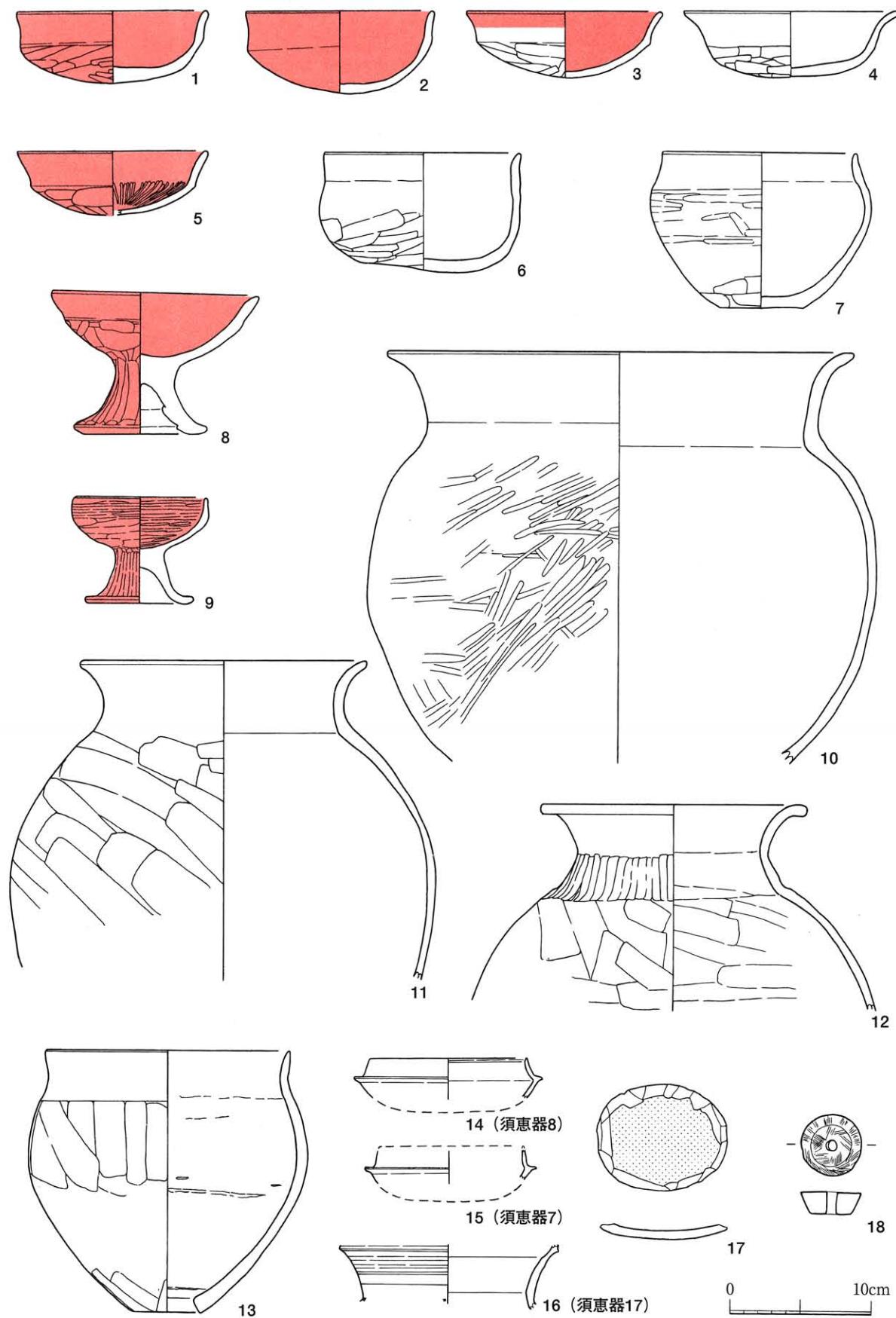
本住居跡は N 6、M 6 グリッドに位置する。規模は長軸方向6.5m、短軸方向6.5m を測り、主軸は N-54°-W を示す。残存する壁高は75cm を測る。床面積は42.3m² を測り、平面形は方形を呈する。南東壁中央部直下に平面形長方形で長辺1.13m、短辺0.8m、深さ1.02m の貯蔵穴が開く。柱穴は、4 か所で上端径30~60cm で底の方はやや狭くなっている。住居廃絶後の柱の抜き取り、あるいは上屋倒壊のためか、大きな穴として確認された。貯蔵穴の落ち込みの縁の部分に上端径30cm、深さ45cm 程の穴が開く。貯蔵穴の縁のくずれと重なって明瞭でないが、出入り口に斜めに埋め込まれる一本柱状の梯子穴と考えられる。貯蔵穴をまたぐような位置にある点は貯蔵穴の用途を限定してくると思われる。間仕切り溝は、3 本確認できた。1 本は壁から P 1 に向かって延びており、他 2 本は壁から柱筋を結ぶ線上ぐらいまでの長さで独立して終わっている。P 3 と P 4 を結ぶ線のやや内側寄りに、長径53cm、短径60cm の地床炉が確認された。住居の土層断面で南東壁に接した付近から、住居跡の覆土とは明らかに違う、厚さ10cm、高さ60cm のソフトロームが地山壁に縦方向に長くはりついて残っていた。一部には厚さ 4 cm 弱の炭化層も表面に見られた。炭化層が壁体の痕跡、ソフトロームは壁体の裏込めに由来するのではないかと現場で判断した。覆土は、壁際の床上に炭化材片を含んだ焼土ブロック層が最初に堆積しており、上屋の焼失か焼却にかかるものと見られる。焼土層の上は、人為的な堆積土層で中央部で厚さ約25cm 程である。その上の層は自然堆積土層である。出土した遺物はほとんど上屋滅失後の人為堆積土層中前後に投棄されており、時期的には同時期の廃棄遺物である。器種は底部の残存していない大型の甕（No10）、普通サイズの甕片（No12）、壺は赤彩のものが多く、黒色処理のものは破片で1点と不明土製品（No17）のもので1点出土している。不明土製品は長径9cm、短径7.5cm、黒色処理の壺底部を欠いて橢円形に整形したものである。壺碗類よりも一回り大きいサイズの鉢、甕を小形にしたような单孔の甕（No13）もある。高壺は大型のもの（No8）と小形短脚のもの（No9）がありいずれも赤彩されている。覆土中出土の須恵器細片（No14・15・16）は MT15~TK10段階頃のものであろうか。その他に滑石製紡錘車（No18）、球形の土玉と円孔方向の両端を削り両端に平坦面を持つ土玉が出土している。

神出遺跡14号住居跡出土遺物観察表

番号	種類	器種	口径	器高	底径	残存率	胎 土	色 調	器形・技法の特徴、その他	台帳番号	出土地点	備 考
1	土師器	壺	13.4	5.1		100	白色微粒、黄白色微粒	褐	内外面赤彩	33	SI14	
2	土師器	壺	13.3	5.8		90	半透明・白色微粒少量	褐	内外面赤彩	34	SI14	
3	土師器	壺	13.8	4.7		100	透明・半透明・白色微粒	褐	内外面赤彩	35	SI14	
4	土師器	壺	15	4.6		70	白色微粒・黑色微粒	褐		36	SI14	
5	土師器	壺	13.3	4.6		35	白色微粒子・精製土か	赤褐	内外面赤彩	37	SI14	
6	土師器	鉢	13.8	8.5		100	透明・白・灰色微粒少量	褐	使用痕有り内面コゲ、外面スス付着	38	SI14	鍋として使用か
7	土師器	壺	13.7	11	5.7		白色礫、雲母微粒	茶褐		39	SI14	
8	土師器	高壺	14.7	10	9.4	90	半透明・白色微粒少量	明褐	内外面赤彩	40	SI14	
9	土師器	高壺	9.2	7.5	7.6	80	透明・半透明粒子	明褐	内外面赤彩	41	SI14	
10	土師器	甕	32.9			60	半透明・透明・白色粒子	褐	体部外面ヘラ磨き	42	SI14	
11	土師器	甕	20.3			10	半透明粒多量	茶褐		43	SI14	
12	土師器	甕	(18.8)			20	半透・透明微粒・白色粒	褐		44	SI14	
13	土師器	甕	17.3	19	4.7	50	透明・半透・白色粒子	明褐	体部外面粗圧痕	45	SI14	
14	須恵器	壺	(11.1)			5	白色微粒	灰		289	SI14	MT15~TK10
15	須恵器	壺	(10.3)			5	白色微粒	灰		292	SI14	MT15か
16	須恵器	壺	(15)			10	白色微粒	灰	頸部外面カキ目、体部平行叩き	46	SI14	TK47~MT15
番号	種類	名称	高さ	幅	孔径	残存率	胎 土	色 調	器形・技法の特徴、その他	台帳番号	出土地点	備 考
17	土製品	円盤状	9.2	7.6		100	目立つ含有物なし	明褐	壺底部利用の不明土製品	47	SI14	
番号	種類	名称	径	厚さ	孔径	残存率	石 質			台帳番号	出土地点	備 考
18	石製品	紡錘車	4.3	1.6	0.9	100	滑石			268	SI14	



第21図 神出遺跡14号住居跡



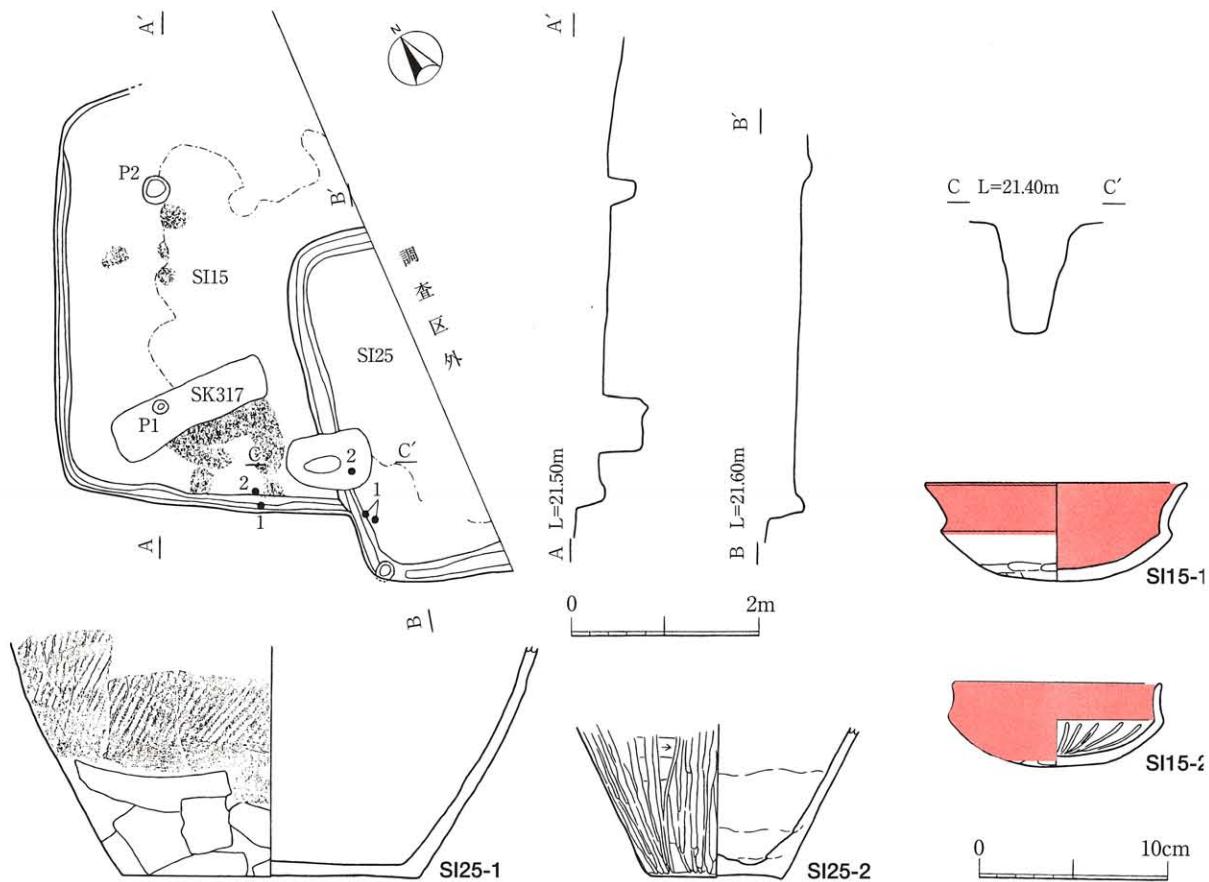
第22図 神出遺跡14号住居跡出土遺物

15号住居跡（第23図・写真図版6）

本住居跡はN10、N11グリッドに位置する。規模は北側が傾斜地のため削平されているが、柱穴の位置から推定して約4mである。南東部を25号住居跡に壊されている。床は主柱よりも内側が硬化している。残存する壁高は24cmを測り、主軸はN-36°-Eを示す。南西壁直下に平面形長方形で長辺0.9m、短辺0.56m、深さ1.12mの貯蔵穴が開く。主柱は2本確認した。P2は上端径30cm深さ30cm。P1は317号土坑の底面にわずかに確認し、床面からの深さは48cmである。覆土は床上に焼土・炭化材片を残し、最下層に炭化物を含有する。下層（2～4層）は自然堆積で上層（1層）は人為堆積である。出土遺物は覆土中から赤彩土器器坏（SI 15-1・2）と土玉、甕体部片が少量出土している。外面黒色の無赤彩器坏片も見られた。

神出遺跡15号住居跡出土遺物観察表

番号	種類	器種	口径	器高	底径	残存率	胎 土	色 調	器形・技法の特徴、その他	台帳番号	出土地点	備 考
1	土師器	坏	14	5.2		100	半透明・白色・黒色微粒多量	褐	外底面中央指頭痕	49	SI15	内面摩耗
2	土師器	坏	(11)	4.5		100	半透明粒・白色微粒	褐	底部ヘラ削り後全体に磨きが入る	50	SI15	



第23図 神出遺跡15・25号住居跡・出土遺物

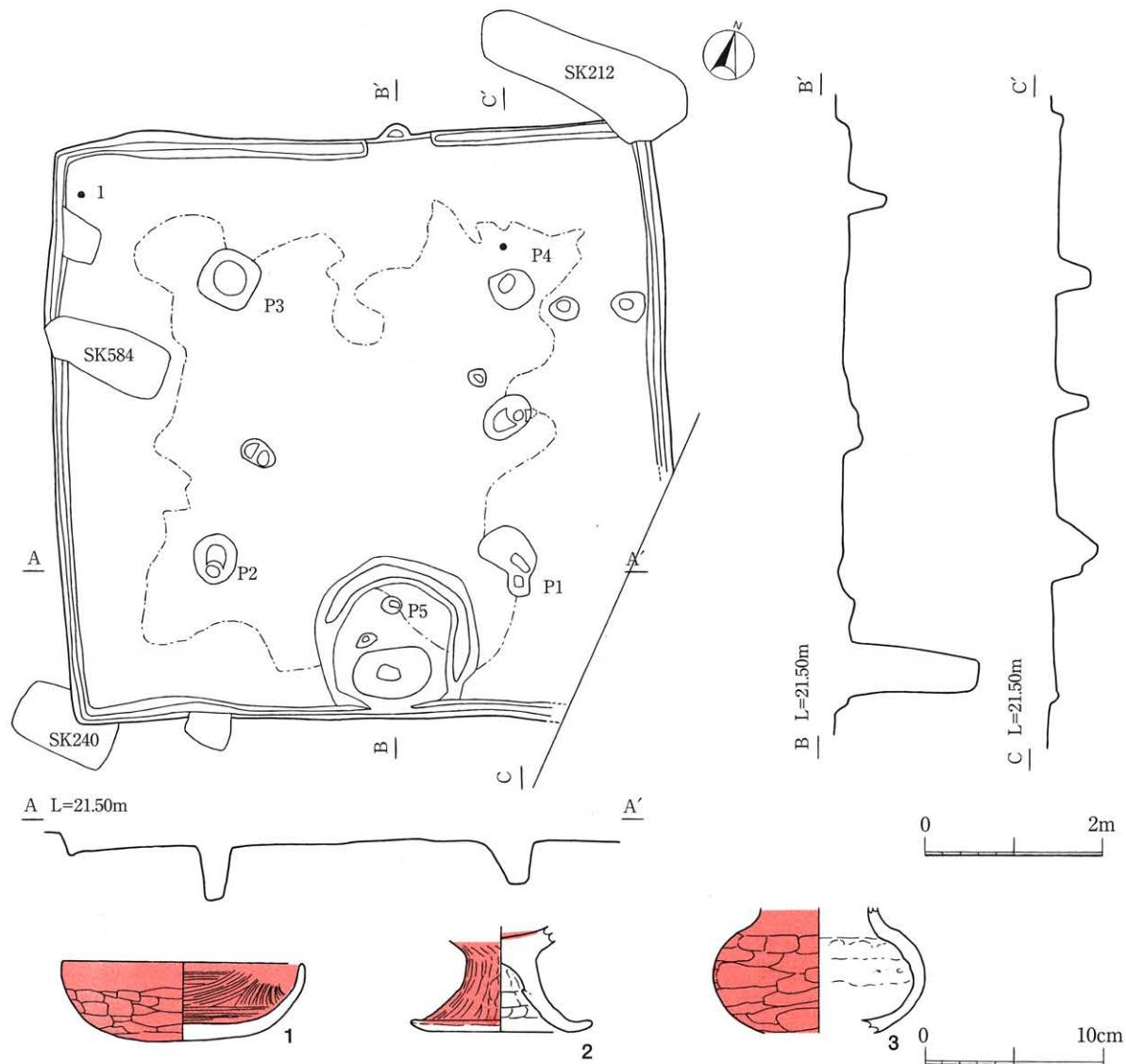
18号住居跡（第24図・写真図版6）

本住居跡はL10グリッドに位置する。規模は長軸方向6.8m、短軸方向6.4m、残存する壁高は15cmを測る。床面積は43.5m²を測り、平面形は方形、主軸はN-18°-Wを示す。ピットは、P1～P12まで穴があくが住居の主柱はP1～P4で上端径45～55cm、深さ38～60cmで上端径が大きく深くなるにしたがって狭くなるので柱の抜き取りないし上屋の倒壊の可能性がある。P5・P6は出入り口施設に関係する穴か。P7～P10は主柱にならない性格不明である。南東壁中央部直下に平面長方形で長辺0.87m、短辺0.64m、深さ1.42mの貯蔵穴が開く。貯蔵穴の周囲は馬蹄形状に高さ7cm程度の高まりを持っている。竈、炉等の火処の痕跡が確

認できなかった。覆土は残存している所でも厚さ10cm程度である。出土遺物は6世紀前半代の土師器片が多く、壺（No1）、高壺（No2）、土玉、小形短頸壺（No3）が出土している。

神出遺跡18号住居跡出土遺物観察表

番号	種類	器種	口径	器高	底径	残存率	胎 土	色 調	器形・技法の特徴、その他	台帳番号	出土地点	備 考
1	土師器	壺	13.6	4.5		100	半透明・白色粒少量、灰色礫	明褐色	内外面赤彩	52	SI18	
2	土師器	高壺				35	透明・粒子	明褐色	内外面赤彩	53	SI18	
3	土師器	短頸壺				30	透明粒少量・白色微粒多量	灰～暗褐色	外面赤彩	54	SI18	



第24図 神出遺跡18号住居跡・出土遺物

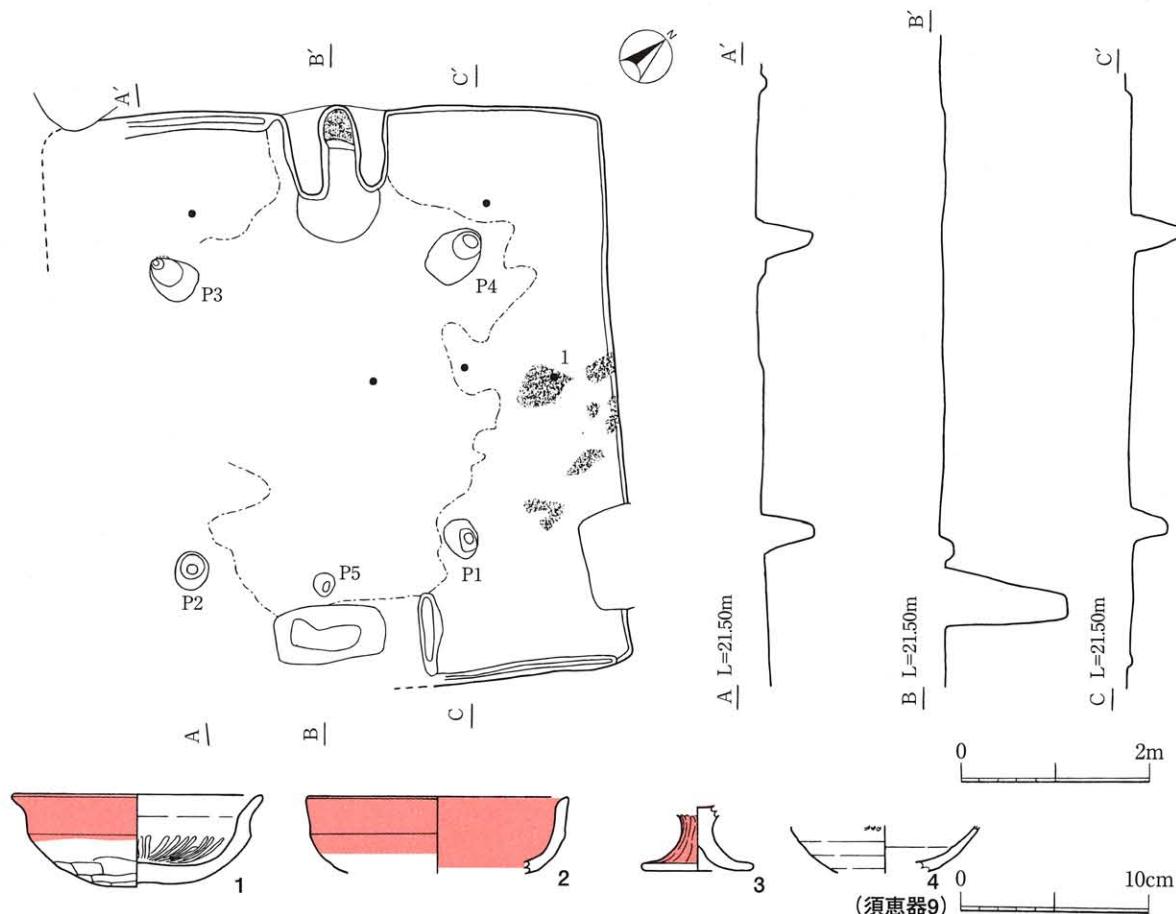
19号住居跡（第25図・写真図版6）

本住居跡はK9, K10グリッドに位置する。規模は北東壁の長さ5.9mを測り、北西壁は南側で削平されるが、掘り方の確認範囲から5.8mまで伸びていると推定される。残存する壁高は6cmを測る。主軸はN-48°-Wを示す。主柱穴はP1～P4で上端径30～40cm深さ38～55cmである。P5は出入り口施設に関する穴で深さ10cmである。南東壁中央部直下に平面形長方形で長辺1.16m、短辺0.59m、深さ1.27mの貯蔵穴が開く。竈は北西壁中央部に構築され、壁外への掘り込みをほとんどもない。全幅1.12m、全長0.9mを測り、燃焼室は幅の狭い縦長の形態で内法で奥行き95cm、幅38cmを測り、比較的古いタイプの形態を持

っている。貯蔵穴の北東側には南東壁から主軸方向に向かって、長さ88cm、掘り方幅下端で約10cmの間仕切り溝が確認された。覆土は、ロームブロックを等質に混ぜたような人為的な堆積と観察された。北東壁際には焼土の堆積が見られた。出土遺物は、土師器が赤彩土師器壺（No 1・2）と小形短脚高壺（No 3）、須恵器が波状文の入った無蓋高壺の壺部細片（No 4）である。

神出遺跡19号住居跡出土遺物観察表

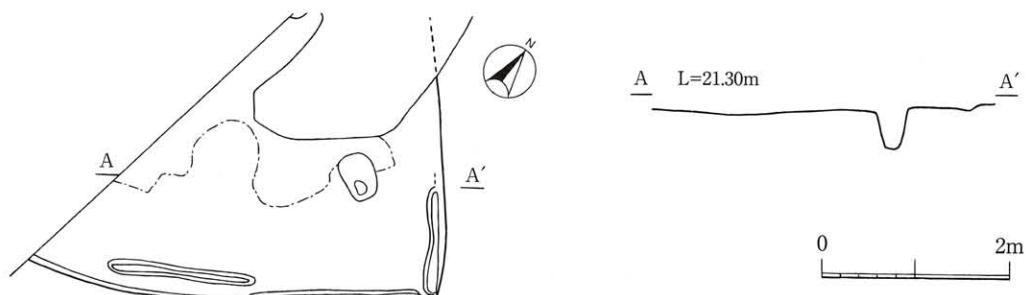
番号	種類	器種	口径	器高	底径	残存率	胎 土	色 調	器形・技法の特徴、その他	台帳番号	出土地点	備 考
1	土師器	壺	13.5	4.7		70	透明・白色粒	褐	外面底部小さく窪む、底部厚く重量感	48	SI19	
2	土師器	壺	(14.5)			20	半透明粒多量・白色粒子	明褐	内外面赤彩	56	SI19	
3	土師器	高壺			6	40	半透明、透・雲母微粒子	明褐	外面赤彩	57	SI19	
4	須恵器	無蓋高壺				5	白色微粒多量、白色粒	暗灰		300	SI19貯	MT15~TK10



第25図 神出遺跡19号住居跡・出土遺物

20号住居跡（第26図・写真図版6）

本住居跡はK10グリッドに位置する。規模はエリア外に延びているため不明だが、一辺4.2m以上はある。



第26図 神出遺跡20号住居跡

主柱穴は1か所で径34cm、深さ40cmが確認できた。壁・覆土は残存しておらず、床は攪乱が広く入っているが一部硬化面が確認された。主軸はN-43°-WないしN-47°-Eである。出土遺物は、極少量6世紀前半代の土師器片が床面付近から出土している。

23号住居跡

本住居跡はM5グリッドに位置する。28号住居跡及び26号住居跡の覆土を掘り込んで住居を構築しているが304号・316号・337号・349号・27号住居跡に掘り込まれており調査は床面の一部を確認するにとどまった。壁は28号住居跡とほぼ同じ方向を向いて南西壁の壁溝のみ一部確認されている。床上からは炭化材片が出土し、床も一部被熱を受けて赤変している所もあり、住居廃絶後上屋は焼失しているようである。

他の住居跡のように深い貯蔵穴が確認できないので、39号住居のように比較的新しい時期で、深い貯蔵穴があかないタイプの住居かもしれない。

26号住居跡

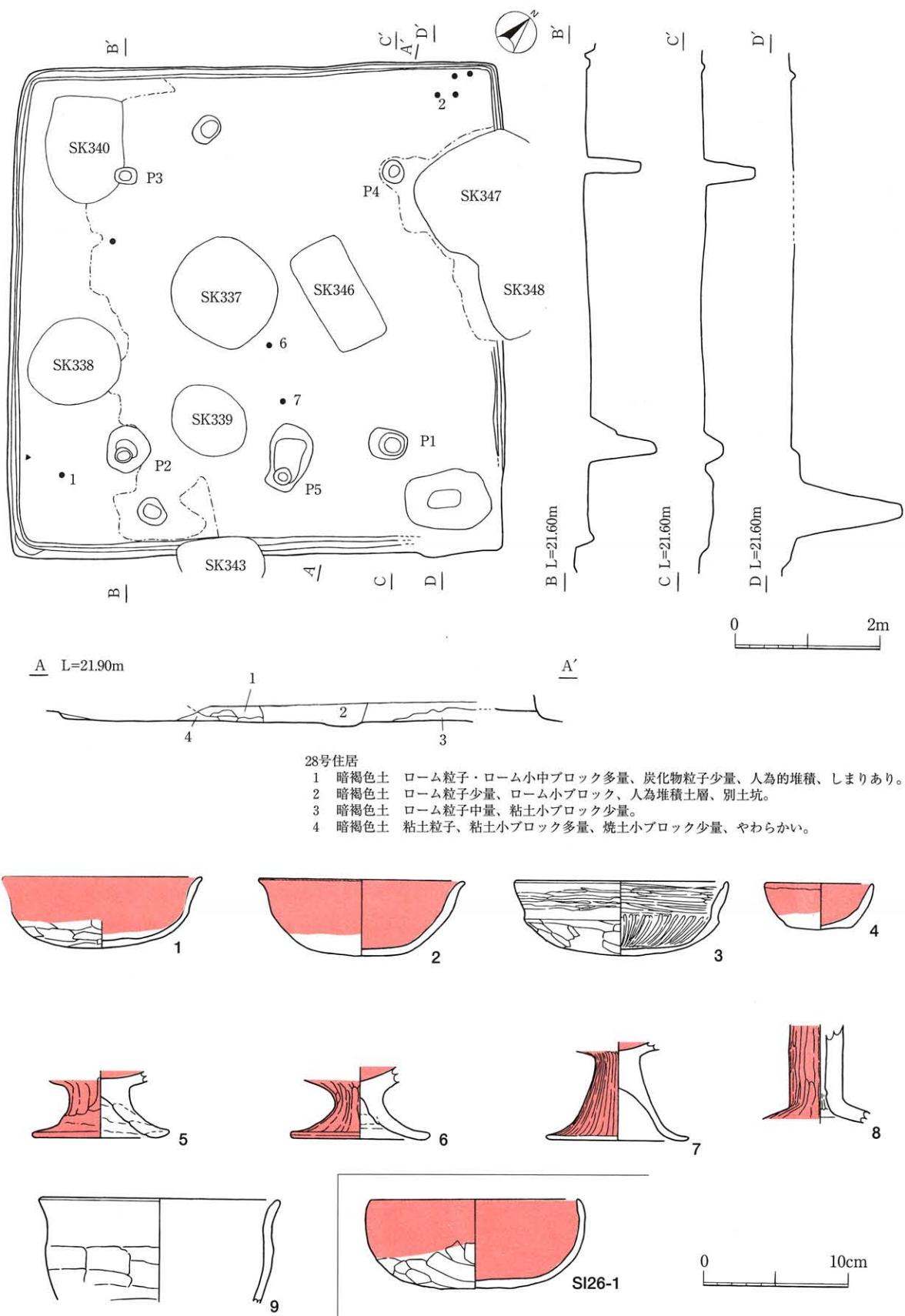
本住居跡はM5グリッドに位置する。23・27号住居に掘り込まれ、他にも新しい時期の土坑に掘り込まれ壁の立ち上がりは確認できなかった。薄い覆土に覆われ、床が一部残存していた箇所から6世紀前半代の土師器坏（NoSI26-1）が出土している。

28号住居跡（第27図・写真図版6）

本住居跡はM5, M6, L6グリッドに位置する。26・23号住居に覆土を掘り込まれ、337・338・342・343・346号土坑には床面も掘り込まれている。規模は長軸方向6.75m、短軸方向6.55mを測る。残存する壁高は29cmを測る。床面積は44.2m²を測り、平面形は方形を呈する。主軸はN-45°-Eを示す。ピットは、5か所確認された。P1～P4は主柱穴で径20～30cm、深さはP1が25cmで他の3本は70～90cmである。P5は出入り口の梯子穴である。P6・P7は床面を壊すように開けられている。南西コーナー部に平面形長方形で長辺1.15m、短辺0.80m、深さ1.54mの貯蔵穴が開く。その他に竈や炉は確認できなかった。覆土はより新しい住居跡に掘り込まれており不明瞭だが、貯蔵穴の覆土で見ると、下層に暗褐色自然堆積土層があり、その上に焼土層が薄く乗り、その上にブロックを含んだ人為堆積土層が貯蔵穴を埋没させている。出土遺物は、床上から小形の高坏脚部が2点（No6・7）、その他覆土中から赤彩坏（No1・2・4）、赤彩高坏片、土玉が出土している。No2の坏は、内面に横方向の細かなヘラ磨きが施され全体に丁寧な調整である。No3の坏は他の坏の胎土が半透明粒子を多く含んでいるのに対して、白色微粒を少量・スコリア粒・同微粒状のものをやや含む鉄分の多い胎土である点や、他の坏類が赤彩を施しているのに対してもともと赤褐色に焼き上がる鉄分の多い土を使っている点、ていねいな磨きの優品である点等特に異質である。

神出遺跡28号住居跡出土遺物観察表

番号	種類	器種	口径	器高	底径	残存率	胎土	色調	器形・技法の特徴、その他	台帳番号	出土地点	備考
1	土師器	坏	13.8	5		95	透明・半透明粒多量	明褐	内外面赤彩	59	SI28	
2	土師器	坏	14.4	5.3		80	半透明粒、赤褐色粒	明褐	体部内面細かく丁寧な多方向のヘラ磨き	60	SI28	明褐色
3	土師器	坏	14.8	5.2		70	白色微粒、暗赤褐色粒	赤褐	丁寧なヘラ磨き、端部内面弱い沈線	61	SI28	赤褐色
4	土師器	小形坏	7.6	5.2	4.5	60	透明・白色微粒子	明褐	内外面赤彩	62	SI28	
5	土師器	高坏		3.2	9.4	40	半透明粒子多量	明褐	内外面赤彩	63	SI28	
6	土師器	高坏			9.8	50	半透明・白色微粒子	灰褐		64	SI28	
7	土師器	高坏			9.8	50	半透明・雲母粒子	褐	赤彩	65	SI28	
8	土師器	高坏				60	半透明・雲母粒子	褐	外面赤彩	66	SI28	
9	土師器	鉢	(6.7)			30	透明粒子・白色微粒子	茶褐	外面コゲ付着	67	SI28	鉢として使用
SI26-1	土師器	坏	14.4	6	8	30	半透明粒多量	明褐	外面ヘラ削りは小さい単位で丁寧	58	SI26	



第27図 神出遺跡28号住居跡・26・28号住居跡出土遺物

29号住居跡（第28図・写真図版6）

本住居跡はM 6 グリッドに位置する。30号住居に覆土を、27号住居には北西部の床面を、28号住居には中央部から南部にかけての広い範囲の床面を掘り込まれている。床が残存していたのは、北東部の全体の1/4である。規模は長軸方向9.3m、短軸方向9.0mを測る。残存する壁高は41cmを測る。主軸はN-18°-Eを示す。柱穴は4か所、P 1は径32cm深さ84cmで他の柱は住居跡を壊している土坑の底や住居の床下から見つかったが、70cmを越える深い掘り込みになっている。南西コーナー部に平面長方形で長辺1.13m、短辺0.82m、深さ0.87mの貯蔵穴が開く。出土遺物は、貯蔵穴覆土中から、小形の土師器の甕（No 6）、貯蔵穴底面から木製盤類似の坏部を持った高坏（No 5）が、床面からは須恵器磈の口縁部片（No 4）が出土している。

神出遺跡29号住居跡出土遺物観察表

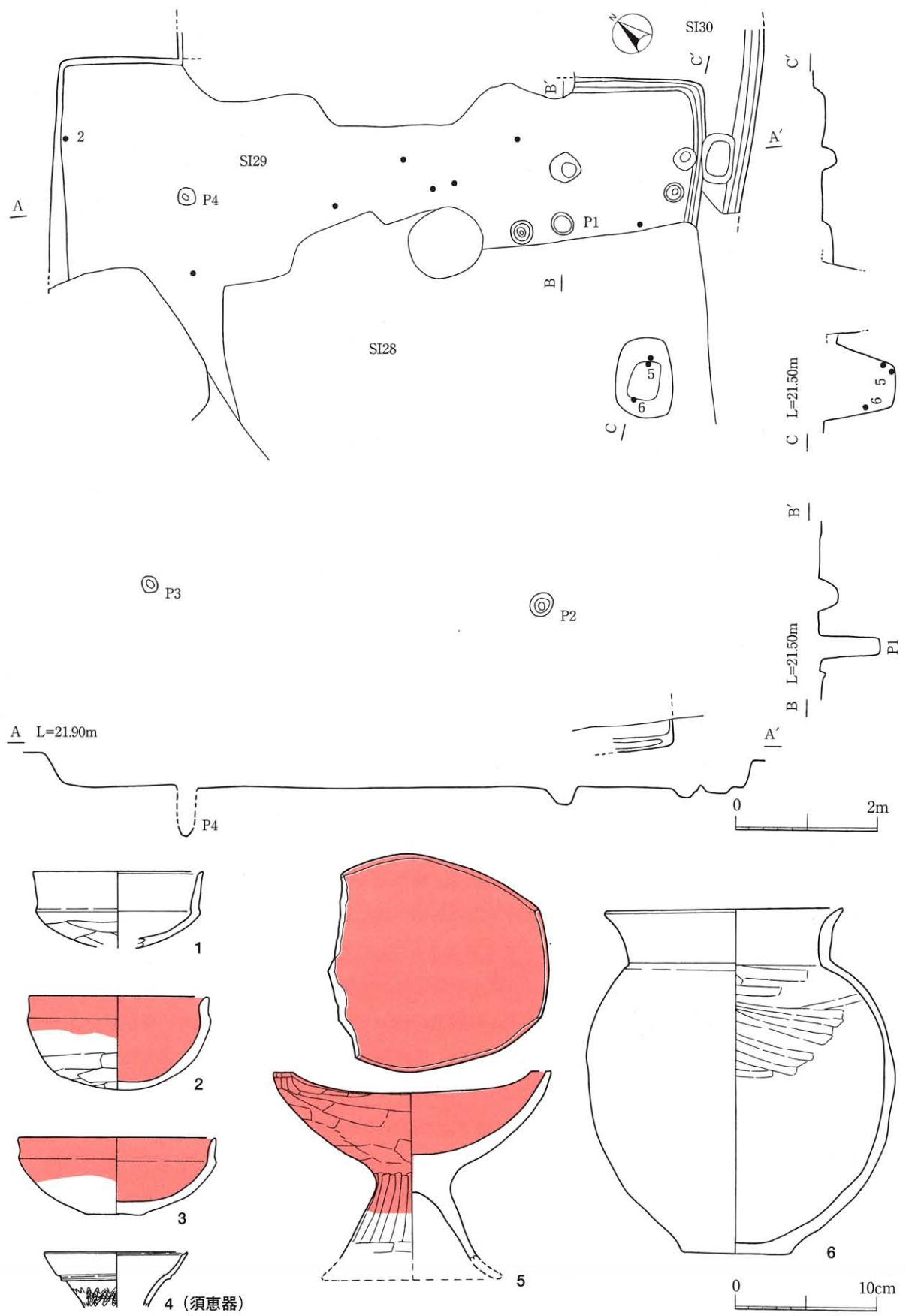
番号	種類	名称	高さ	幅	孔径	残存率	胎 土	色 調	器形・技法の特徴、その他	台帳番号	出土地点	備 考
1	土師器	坏	12	5.5		30	赤褐色粒や目立つ	暗赤褐	口縁部外面クロナデ状の丁寧な横ナデ	256	SI29	鐵分の多い胎土
2	土師器	坏	(10.8)	6.6		60	半透明・白色微粒子	褐	内面～外面口縁部赤採	257	SI29	
3	土師器	坏	14	5.4		70	半透明粒・雲母微粒	明褐	小さな平底の底部、赤採磨きなし	258	SI29	
4	須恵器	はそう	(10.3)			5	白色粒中量、黒色微粒	暗灰		257	SI29	TK23か
5	土師器	舟形高坏	(19.7)			70	透・半透明・白色微粒	明褐	赤採	259	SI29	
6	土師器	甕	15	24	7.5	80	半透明・白色粒子	暗褐	底部一方向ヘラ削り、外面全体スス付着	260	SI29	炉甕か

30号住居跡（第28図）

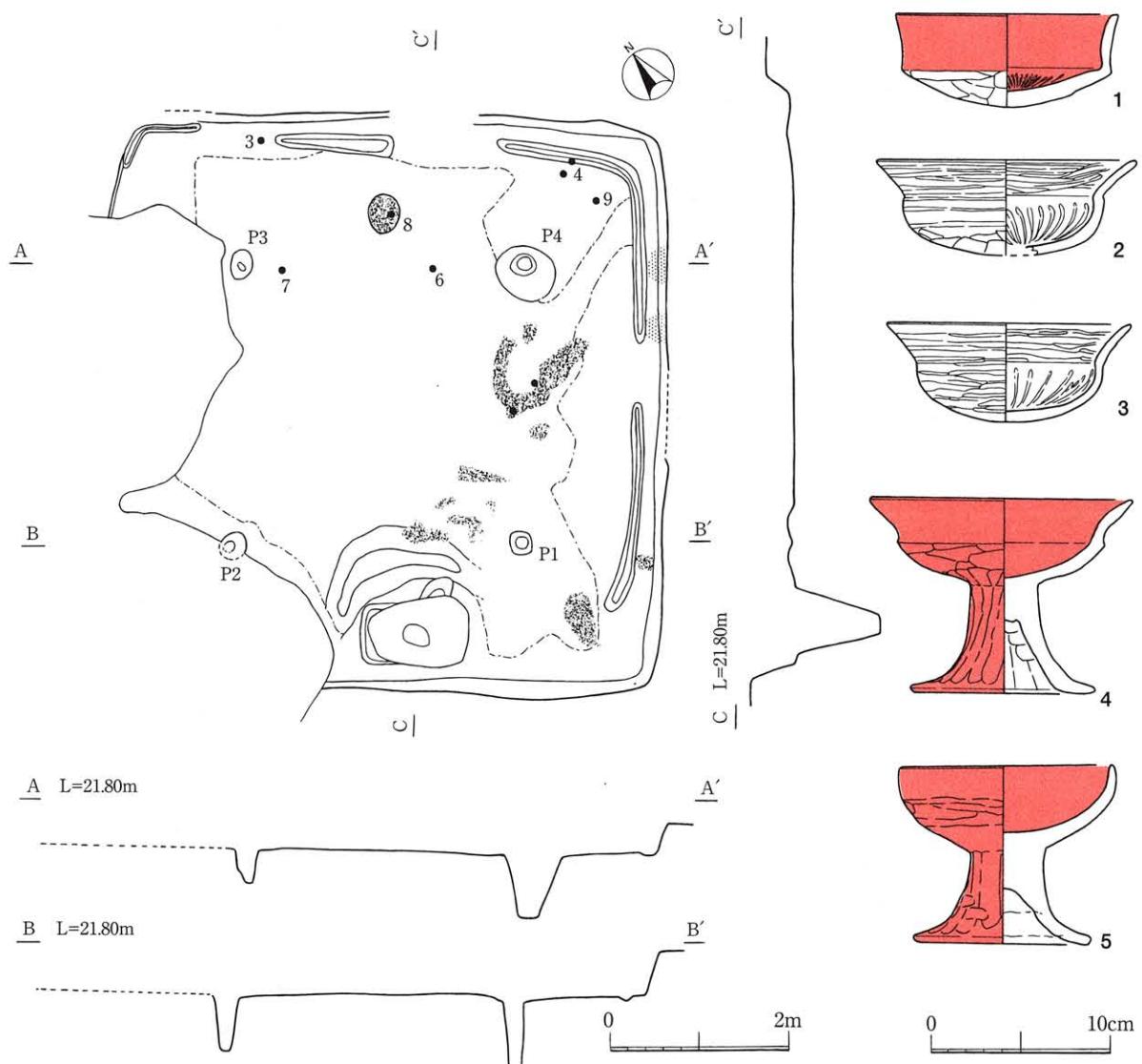
本住居跡はM 6 グリッドに位置する。規模は南東壁が2.6m、南東壁と直交して床が6.5m残存していた。壁高は10cm程残っていた。主軸はN-31°-Wである。主柱となる穴は確認できなかった。出土遺物は、5世紀後半代の赤彩坏片が少量出土している。

32号住居跡（第29・30図・写真図版7）

本住居跡はN 6, N 7, M 6, M 7 グリッドにまたがって位置する。20・21号地下式壙に南部を壊されている。規模は長軸方向6.2m、短軸方向6mを測る。残存する壁高は45cm、床面積は37.2m²を測り平面形は方形を呈する。主軸はN-32°-Eを示す。柱穴は4か所確認された。柱穴径はいずれも20～24cmで、深さはP 1が40cm、P 2が61cm、P 3が69cm、P 4が80cmである。南東壁中央部直下に平面長方形で長辺1.1m、短辺0.76m、深さ0.93mの貯蔵穴が開く。貯蔵穴の周囲は馬蹄形状に高さ約7cmの高まりを持っている。炉の痕跡らしきものが北東壁側の2本の主柱穴を結ぶ線よりも外に径約40cmの楕円形の範囲に見られたが被熱痕が弱く炉かどうかは断定できない。床上には焼土や炭化物が残存しており、住居廃絶後上屋は燃えて失われているようである。覆土の断面観察から、P 4の西側60cmぐらいの位置に粘土の大・中ブロックを大量に含んだ竈袖部の残骸のような堆積が見られた。また、平面図中の壁から離れて内側にめぐるように示してある壁溝は、古い壁溝であり最終床面が溝の上につくられていた。覆土の主体は、上層から床近くまで40cm程の厚さで堆積している人為堆積土である。最下層の壁際の堆積層中の焼土大ブロック、炭化物の含有は上層の人為堆積土層と合わせて考えると上屋の焼却にかかるものとの推測も可能である。出土遺物は土師器の坏・甕・鍛冶滓などで、甕の破片の中には底部に屋内炉での使用を窺わせる3点支持痕跡のあるものも含まれていた。その他に158gの鍛冶滓が出土している。磁性のほとんどない椀状で長さ6.5cm、幅5.2cm、厚さ3cmを測る。炉底あるいは炉壁の椀状のカーブに沿ってはりついた溶融滓の厚さは、0.7cmで内側は不整形の滓が付着している。



第28図 神出遺跡29・30号住居跡・出土遺物



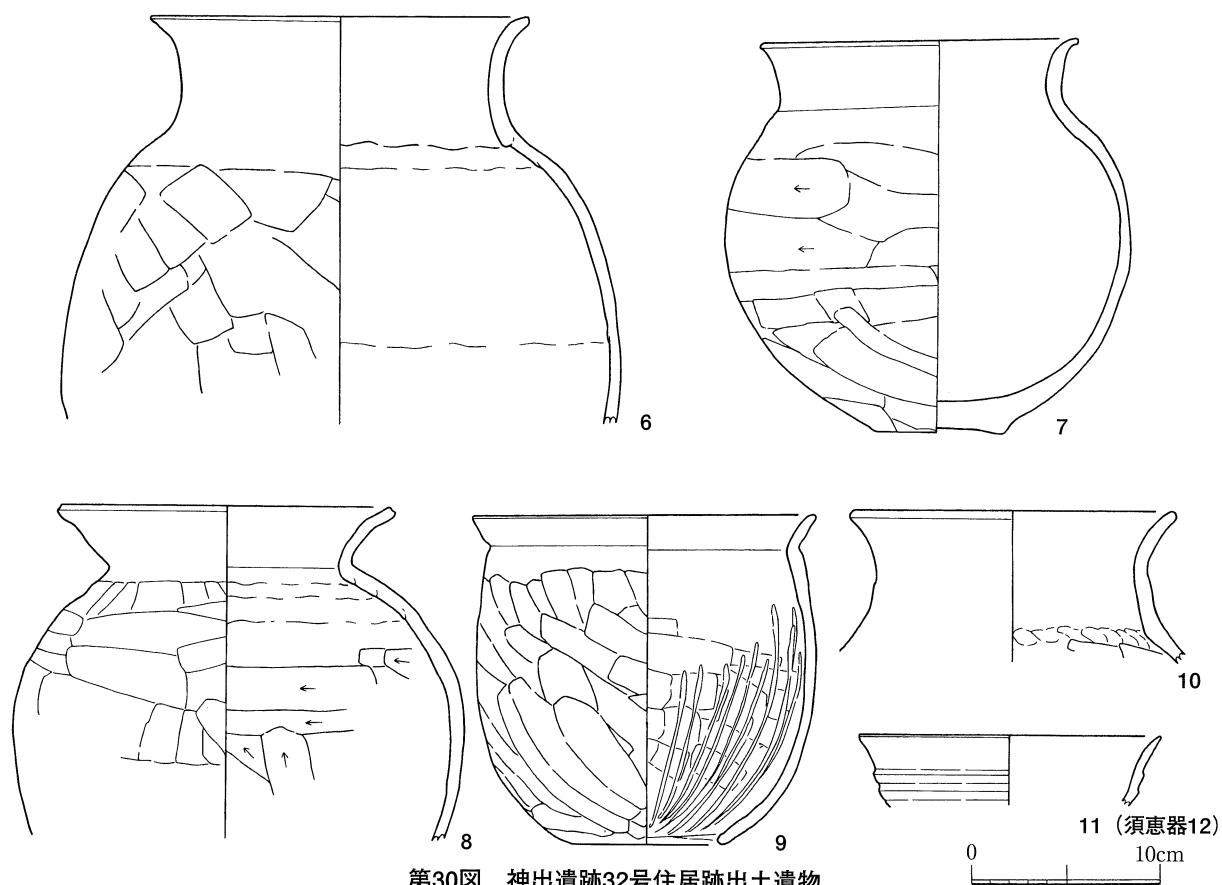
第29図 神出遺跡32号住居跡・出土遺物

神出遺跡32号住居跡出土遺物観察表

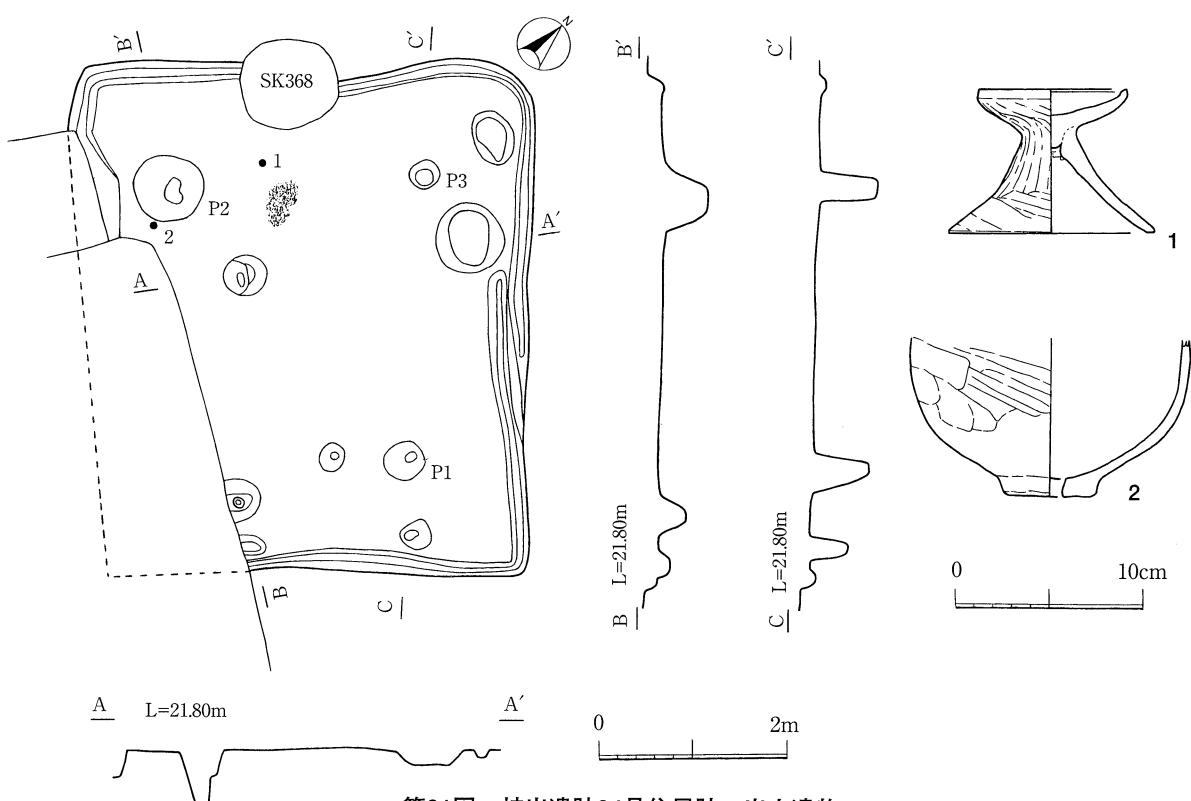
番号	種類	器種	口径	器高	底径	残存率	胎 土	色 調	器形・技法の特徴、その他	台帳番号	出土地点	備 考
1	土師器	壺	12.4	5.4		100	半透明微粒多量・白色粒少量	褐	底部外面ナデ状の丁寧なヘラ削り	71	SI32	
2	土師器	壺	14.5	(5.2)		90	透明・雲母粒子	橙～褐	ヘラ磨き主体、無赤彩壺	72	SI32	
3	土師器	壺	13.6	5.5		70	半透明・白色微粒子	橙	ヘラ磨き主体、無赤彩壺	73	SI32	
4	土師器	高壺	14.7	11	10	70	半透明・白色粒子	明褐	内外面赤彩	74	SI32	
5	土師器	高壺	12	10	10	60	半透明粒子、暗褐色微粒	明褐	内外面赤彩	75	SI32	
6	土師器	甕	21			50	白色粒、雲母微粒	明褐	体部外面ヘラ削り後ヘラナデ	76	SI32	
7	土師器	甕	17	21	7	90	半透明・白色粒子多量	褐	体部外面スス付着、内外面に2点支持痕跡	77	SI32	
8	土師器	甕	(18)			40	半透明礫多量・雲母微粒	褐	体部外面スス付着、口縁端部に平坦面	78	SI32	
9	土師器	甕	(18.3)	17.5	8	60	白色微粒、透明粒少量	明褐	内面ヘラナデ後ヘラ磨き、内面調整が丁寧	79	SI32	
10	土師器	甕	(17.4)			20	半透明粒、白色微粒	褐	内面頸部と体部の境に指頭圧痕あり	80	SI32	
11	須恵器	無蓋高壺	(16)			5	白色微粒、白色礫	青灰		296	SI32	TK47～MT15

34号住居跡（第31図・写真図版7）

本住居跡は N 6, N 7 グリッドに位置する。31・32号住居に南西部を掘り込まれている。規模は長軸方向 5.25m、短軸方向 4.77m を測る。残存する壁高は 12cm を測り、主軸は N-43°-W を示す。床は硬化面が残存していないので、覆土を除去しやや軟質の掘り方の上層面を検出した。この面で長径 50cm、短径 30cm の焼土化した範囲が確認されたので炉跡と認識した。主柱穴は、3 か所確認。その他ピットを 6 か所確認したが



第30図 神出遺跡32号住居跡出土遺物



第31図 神出遺跡34号住居跡・出土遺物

性格は不明である。出土遺物は床面から器台（No 1）、甌片（No 2）が出土している。本跡唯一の古墳時代前期の住居跡である。

神出遺跡34号住居跡出土遺物観察表

番号	種類	器種	口径	器高	底径	残存率	胎 土	色 調	器形・技法の特徴、その他	台帳番号	出土地点	備 考
1	土師器	器台	-	-	-	80	透明・白色粒子	褐	赤く発色する鉄分の多い胎土	83	SI34	
2	土師器	甌	-	-	5	40	透明・白色微粒子	褐	底部糊圧痕、体下半部煤付着	84	SI34	

38号住居跡（第32図・写真図版7）

本住居跡は L 6 グリッドに位置する。規模は南北方向7.25m である。壁、覆土は確認できなかった。床は中央部から北部にかけて硬化面が残存しているが西から南の壁はすでに流失し掘り方の範囲で確認した。主軸は N-50°-W を示す。竈と北コーナー部の間の P 4 寄りの位置に平面長方形で長辺0.78m、短辺0.64m、深さ0.58m の貯蔵穴が開く。主柱穴は 4 か所、いずれも上端は 1 m を越える径の大きなすり鉢状の穴となっており、P 2 の抜き取り穴の中には10点以上の壊、甌が投げ捨てられていた。P 5 は、竈の対面の南西壁中央付近にある。竈は床面の高さで粘土の貼り付き痕跡として袖の一部が残っていた。P 2 から出土した遺物は、土師器の壊がすべて黒色処理を施したもので、甌は体部下半にヘラ磨きが見られるが、口縁端部のつまみ上げを行っていないので、定型化した常総甌の出現の前段階頃に位置づけられるかもしれない。

神出遺跡38号住居跡出土遺物観察表

番号	種類	器種	口径	器高	底径	残存率	胎 土	色 調	器形・技法の特徴、その他	台帳番号	出土地点	備 考
1	土師器	壊	14.2	4		100	透明・白色微粒	橙	内外面黒色処理	87	SI38	
2	土師器	壊	13.6	4.5		100	透明微粒少量	橙	内外面黒色処理	88	SI38	
3	土師器	壊	12.6	4.7		100	透明・半透明粒少量	橙	黒色処理痕跡あり、外底面丁寧なヘラナデ	89	SI38	糊痕跡有り
4	土師器	壊	12.6	5		100	半透明粒子	褐	内外面黒色処理、処理の際のハケ塗り痕有り	90	SI38	
5	土師器	壊	13	4.5		100	黄白色微粒、赤褐色粒	褐	内外面黒色処理	91	SI38	
6	土師器	甌	15.2			60	透・半透疊多量、雲母微粒	褐	底部の一カ所にスス付着	94	SI38	
7	土師器	甌	(19.3)			70	透明・半透・白色粒多量	褐	内面コゲ、外面全体ススとふきこぼれ付着	93	SI38	
8	土師器	甌	22.1	34.5	8	80	半透明疊多、雲母粒子少	橙	体部外面中央部器壁の荒れ、竈甌か	92	SI38	

39号住居跡（第33図・写真図版7）

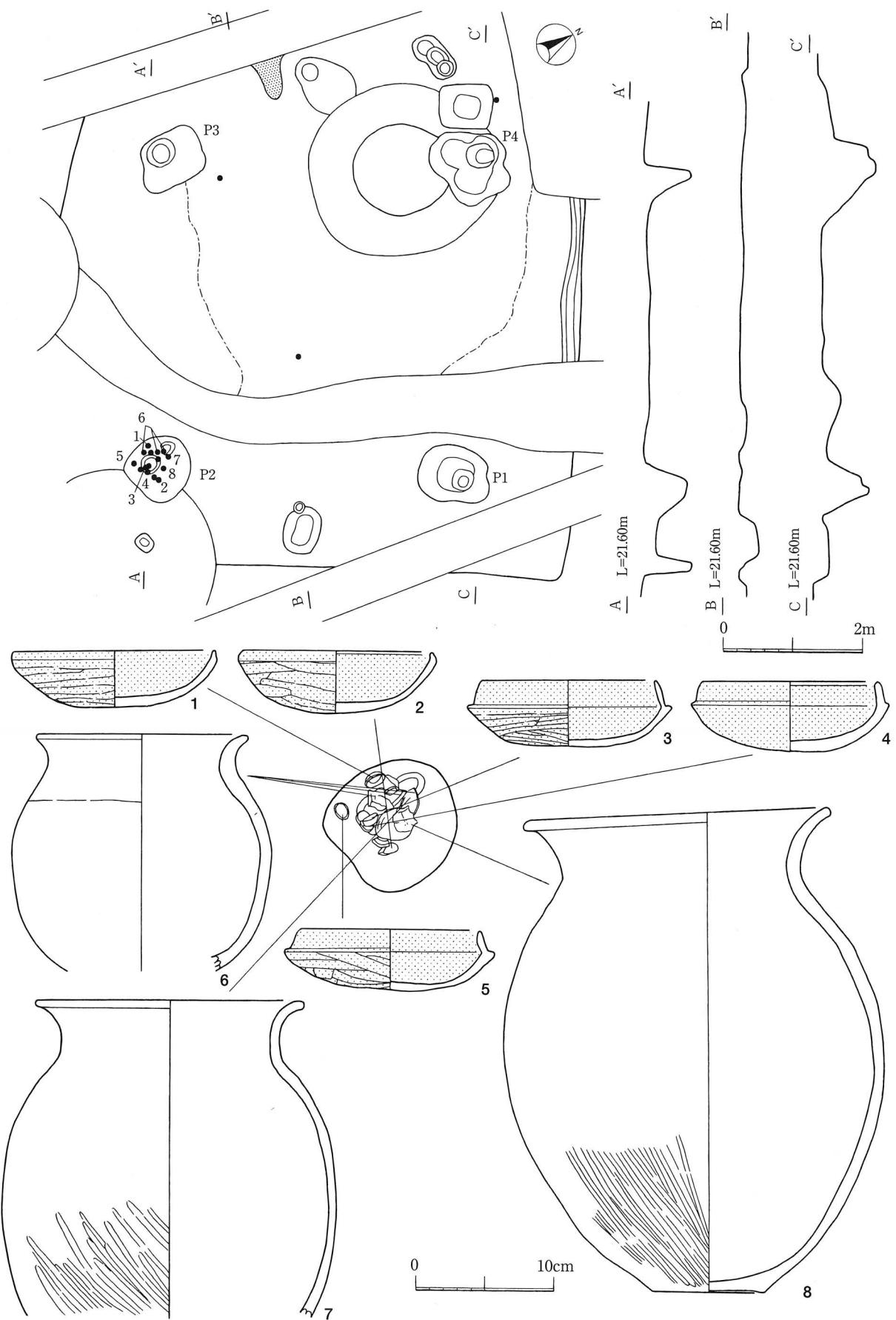
本住居跡は K 6 グリッドに位置する。規模は長軸方向6.75m、短軸方向6.5m を測る。床面積は43.9m² を測り、平面形は方形を呈する。主軸は N-33°-W を示す。床は北半分に残存し、地形的に南下がりの南部はすでに流失して確認できなかった。主柱は 4 か所で、上端径50cm 前後で深さは55~78cm である。竈は北壁中央部に床面と同じレベルでにぶい褐色粘土の薄い堆積として確認された。出土遺物は北コーナー部の住居掘り方内から甌の体部・底部片が出土しており、6世紀代の竈を持った住居跡となると思われる。図化した小形の鉢形土器（No 1）は P 6 覆土中から出土したので、古墳時代前期の遺物である。

神出遺跡39号住居跡出土遺物観察表

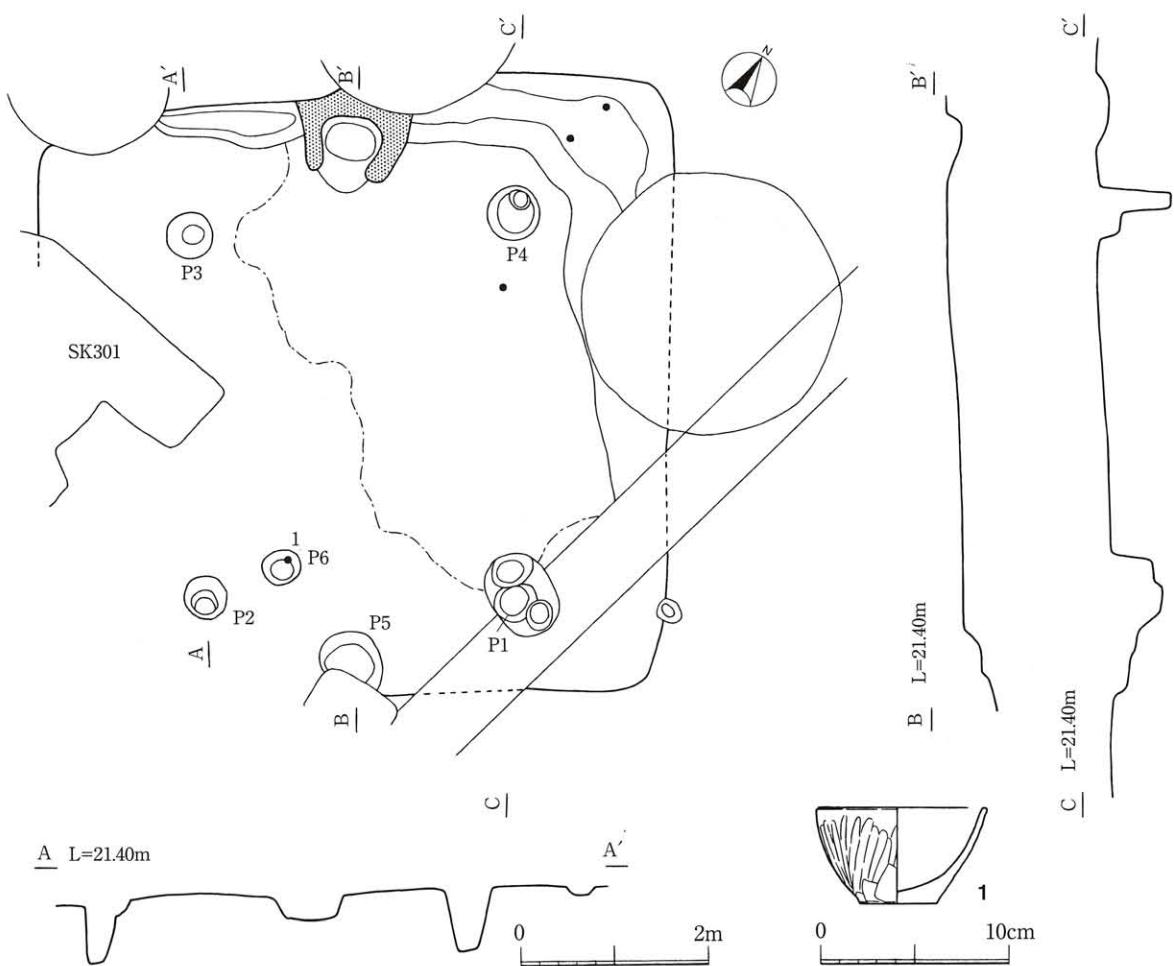
番号	種類	器種	口径	器高	底径	残存率	胎 土	色 調	器形・技法の特徴、その他	台帳番号	出土地点	備 考
1	土師器	小形鉢	9	4	5.1	90	透明・白色軟質粒	褐	外面細かいヘラナデ	96	P6	

41号住居跡（第34図）

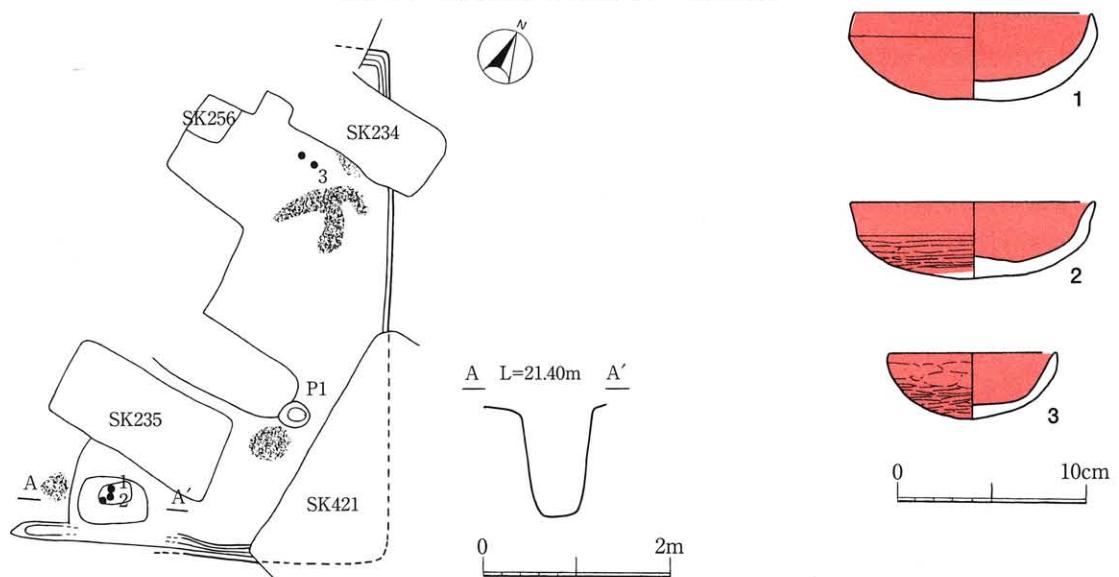
本住居跡は L 9 グリッドに位置する。234・235・256・421号土坑によって床面を広く掘り込まれている。規模は南北方向5.2m で、西側2/3は流出して残っていない。主軸は N-19°-W を示す。南壁直下に平面長方形で長辺0.73m、短辺0.50m、深さ1.16m の貯蔵穴が開く。床面上には焼土が堆積している。出土遺物は、貯蔵穴中から赤彩された土師器壊（No 1・2）、床面から No 3 の土師器の小形赤彩壊が出土している。



第32図 神出遺跡38号住居跡・出土遺跡



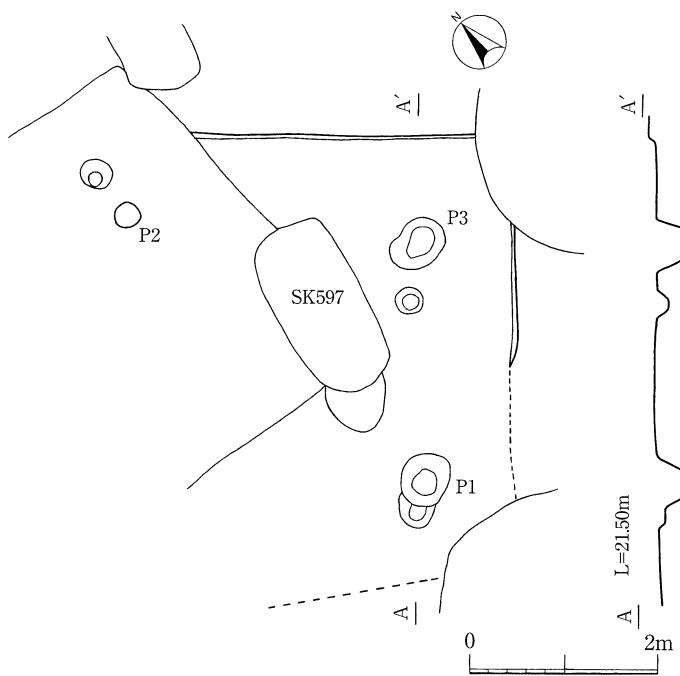
第33図 神出遺跡39号住居跡・出土遺物



第34図 神出遺跡41号住居跡・出土遺物

神出遺跡41号住居跡出土遺物観察表

番号	種類	器種	口径	器高	底径	残存率	胎 土	色 調	器形・技法の特徴、その他	台帳番号	出土地点	備 考
1	土師器	壺	12.6	4.5	-	60	透明・灰・白色粒	明褐		97	SI41	
2	土師器	壺	13	4	-	50	半透明・スコリア粒	褐	内面赤彩ハケ塗りのまま	98	SI41	
3	土師器	壺	8.8	3.5	-	60	半透明粒子中量	褐～橙	外面赤彩ヘラ磨き、内面赤彩ハケ痕明瞭	99	SI41	



第35図 神出遺跡42号住居跡

42号住居跡（第35図）

本住居跡は K 7 グリッドに位置する。12号住居・316号土坑・597号土坑によって掘り込まれている。北東壁は長さ3.35m 残存し、南東壁は3 m 程残存しているが、主柱の位置等から考えていればも4.5m 以上はあったと推測される。主軸は N-47°-W を示す。床は硬化面としてとらえられなかった。壁は13cm の高さまで残存する。主柱は3本確認し、南東壁際の2本は上端径50cm 以上あり柱掘り方の径を反映しているものと考えられる。深さは、25~40cm である。出土遺物は、土師器細片が少量出土している。

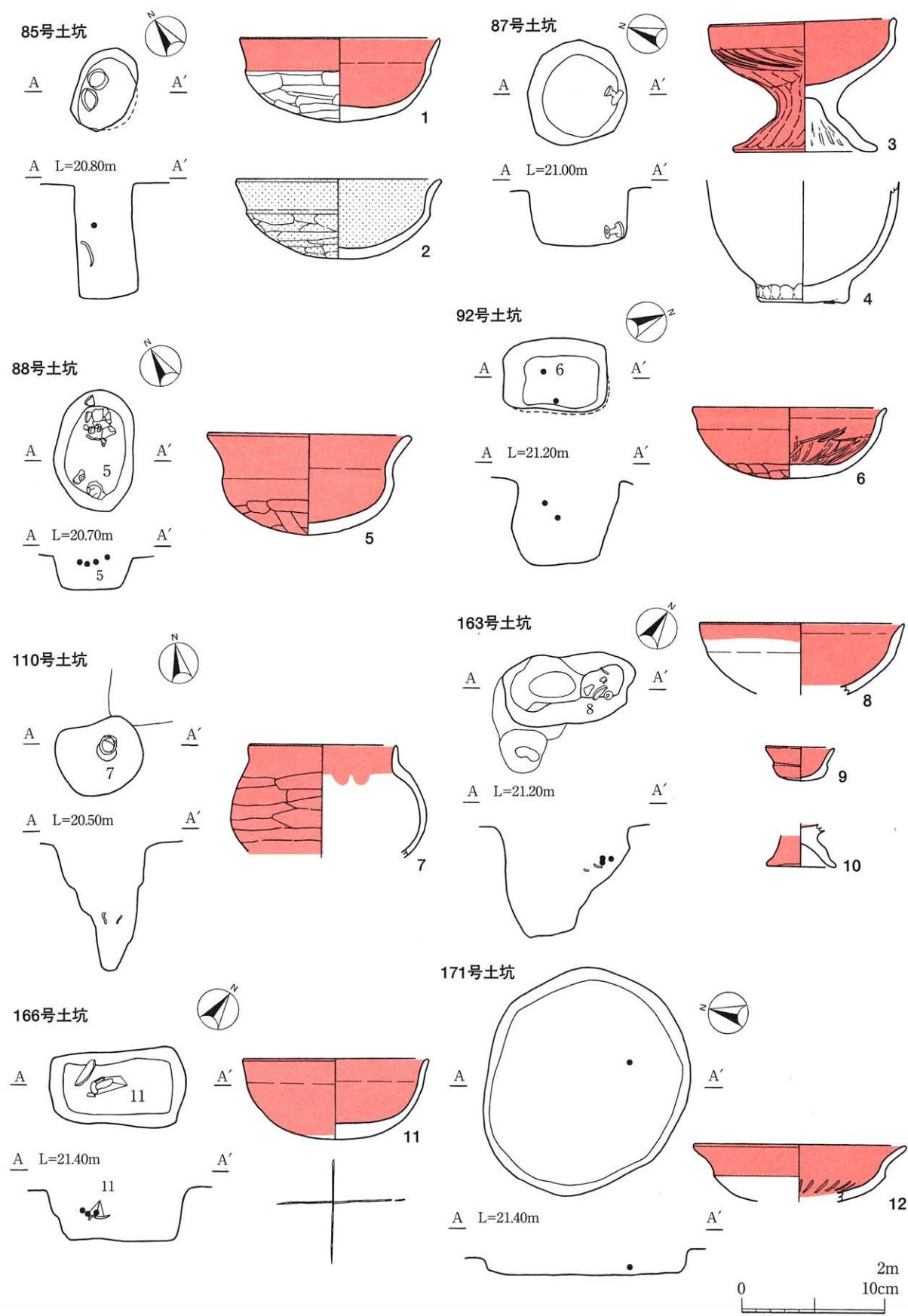
(2) 古墳時代の土坑（第36・37・38図・第4表）

本遺跡からは、総数670基余りの土坑が確認・調査されている。その中で古墳時代の土坑は16基である。内訳は古墳時代前期の遺物を出土した土坑が1基、古墳時代後期前半代の土坑が15基である。この中で長方形気味の平面形の一群（85・87・88・92・110・163・166・172・197）は、竪穴住居跡に付随する貯蔵穴とよく似た形態と覆土の堆積、遺物の出土状況である。しかし、調査中に行った数度の精査に関わらず、近辺に竪穴住居の柱穴が確認できなかった。そのためこれらの土坑が単独土坑の可能性があるものの、第5章考察の中で触れているが住居に付随する穴の可能性がより高いと判断し、竪穴住居跡の貯蔵穴と考えることとした。詳しくは第5章考察を、これらの土坑の規模その他については第4表土坑一覧表を参照願いたい。

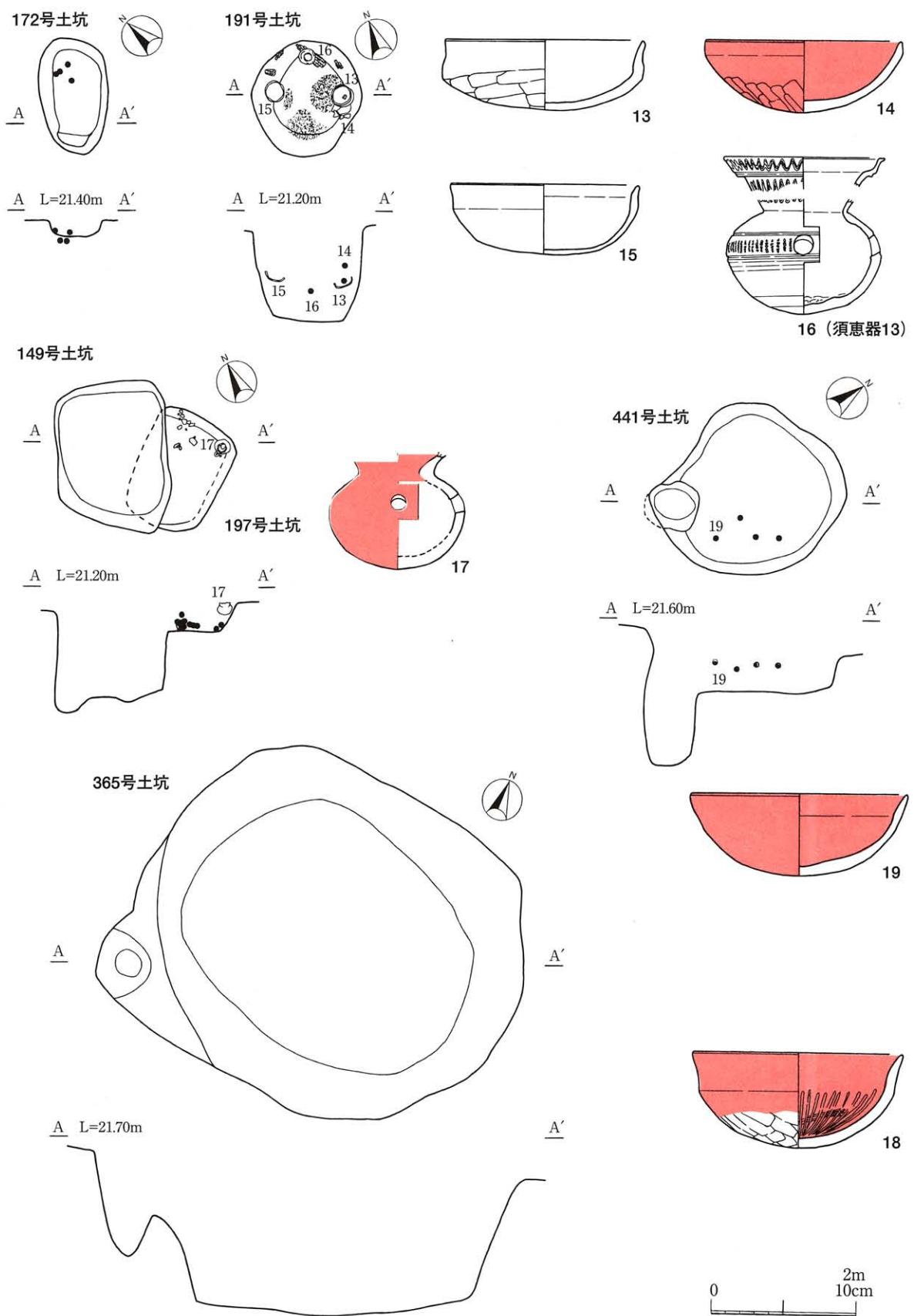
単独立坑として考えられるものの中で、191号土坑は小形円筒形の土坑で壁面には被熱痕がなく覆土下層に焼土と炭化物が入っており、その上から須恵器の小形甕と底面に被熱痕のある完形壺、摩耗の激しい壺、赤彩壺破片が出土している。出土状況から祭祀坑（祭祀後のかたづけ埋納坑）と考えたい。須恵器は TK23 段階頃の搬入品と思われる。

また、639号土坑は調査エリア南部の台地縁辺にあり、底面平坦で壁が一部オーバーハングしたフラスコ形の土坑である。常総粘土層を掘り込み、良質粘土の採取可能な層を底面付近に持ち、掘り広げている点などから粘土採掘坑と考えられる。出土遺物は、底面の壁際から No24・25の古墳時代前期の土師器鉢、壺が出土している。

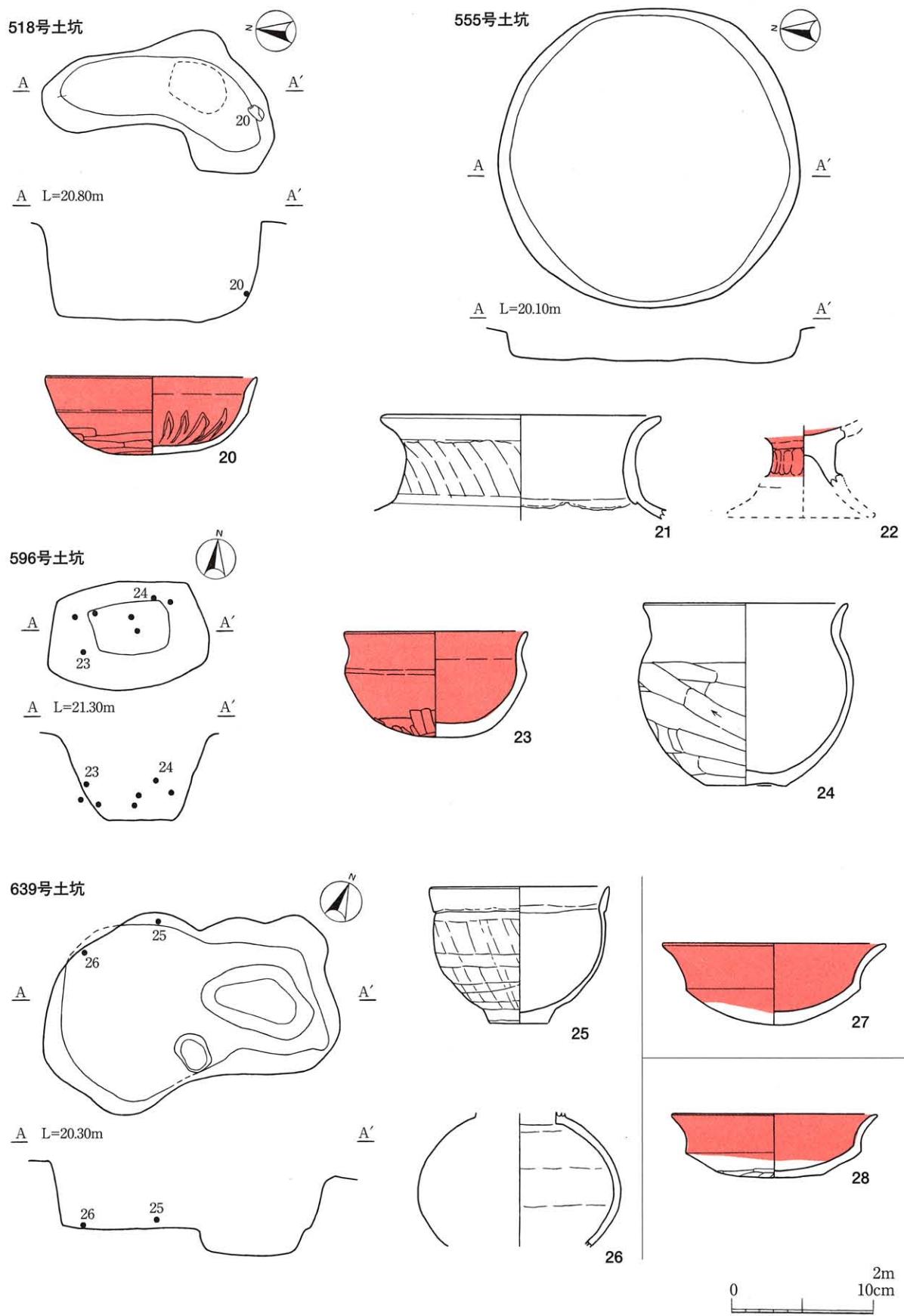
555号土坑は直径2 m 程の円筒形で底面平坦な土坑である。5世紀後半から6世紀前半の竪穴住居跡出土遺物と共に通した時期のものである。性格ははっきりしないが、おそらく竪穴住居跡に従属する屋外貯蔵施設やゴミ穴的なものかと推測される。時期不明の土坑の分類（第2節（9）土坑）のB 2類としたものに所属する可能性が考えられる。



第36図 神出遺跡85.87.88.92.110.163.166.171号土坑出土遺物



第37図 神出遺跡149.172.191.197.365.441号土坑出土遺物



第38図 神出遺跡518.555.596.639号土坑・その他出土遺物

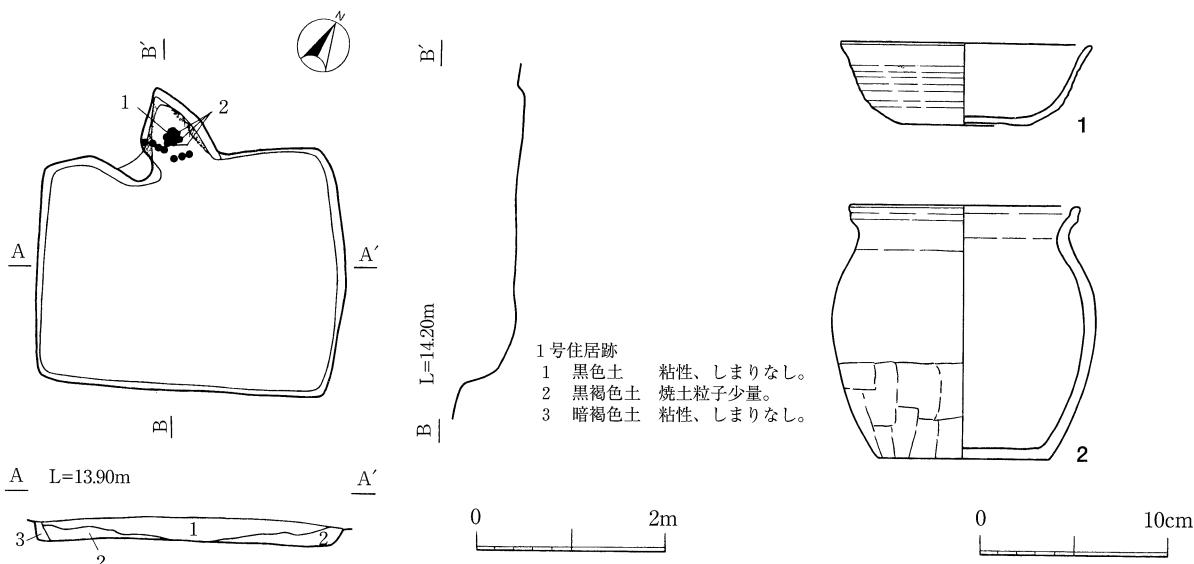
神出遺跡土坑出土遺物観察表

番号	種類	器種	口径	器高	底径	残存率	胎 土	色 調	器形・技法の特徴、その他	台帳番号	出土地点	備 考
1	土師器	壺	14.1		5.9	100	半透・灰・黄白色粒子	褐	内定面藁、糊圧痕。外面底部丁寧なヘラ削り	100	SK85	
2	土師器	壺	14.4		5.7	100	透明・半透明粒子	暗褐	内外面黒色処理(漆か?)	101	SK85	
3	土師器	高壺	13.2	9.2	10.2	90	半透明・白色粒・ス、灰角礫	明褐	壺部外砥石的に利用された摺痕	102	SK87	
4	土師器	鉢		6.5		60	透明・半透明粒子	褐		103	SK87	
5	土師器	壺	14.4	-	7.2	60	透・半透・白色微多	褐	内外面赤色塗彩	104	SK88	
6	土師器	壺	(13.7)	4.9		50	透明・白色粒子	茶褐	赤彩、内面雜なヘラ磨き	105	SK92	
7	土師器	壺	10.5			40	透明・半透明粒・白色微粒	明褐	外面から口縁内面にかけて赤彩、内面に指紋あり	106	SK110	
8	土師器	高壺	(14.4)			40	透明・半透明粒・白色微粒	褐	内面～外面口縁部赤彩	109	SK163	
9	土師器	ミニユア壺	4.8	2.3		100	半透明・白色微粒子	灰褐	赤彩	110	SK163	
10	土師器	ミニユア壺			4.9	50	透・半透・白色微粒	灰褐	赤彩	111	SK163	
11	土師器	壺	13.2	5.7		90	透明・半透明粒多量	明褐	底部線状圧痕	112	SK166	
12	土師器	高壺	(15)	4		40	透明粒多量・半透明粒子少量	褐	外底面ヘラ削り後丁寧なヘラナデ	113	SK171	
13	土師器	壺	13.8	4.8		100	透明粒・灰礫・黄白微粒	橙	外底面に煤、内底面黒色に変色	114	SK191	焙燒の利用か
14	土師器	壺	13.6	4.8		60	雲母・黄白色粒	赤褐	赤採壺、底面に煤付着	115	SK191	
15	土師器	高壺	13.2	4.9		100	半透明粒子多量	褐～灰褐	内面に赤採痕跡わずかに残る	116	SK191	全体に摩耗
16	須恵器	はそう	11.1	11		80	白色礫少量	青灰		117	SK191	
17	土師器	はそう				70	透明・白色・黑色微粒	明褐		108	SK149	
18	土師器	壺	14.6	6.6		90	透明・半透明・白色微粒	明褐	内面やや荒い放射状ヘラ磨き	118	SK365	
19	土師器	壺	15.1	5.6		70	透明・半透明・白色粒多量	橙	内外面赤彩	119	SK441	
20	土師器	壺	14.8	5.5		80	半透明・白色微粒子	褐	内外面赤彩	120	SK518	
21	土師器	甕	19.8			10	半透明粒・礫多量	褐	頸部外面縦方向ヘラ削り後ナデ	121	SK555	
22	土師器	高壺				20	透明・半透明粒・赤褐色粒	明褐	赤採	122	SK555	
23	土師器	壺	12.9	7.3		90	半透明粒・黄白色粒多量	褐	赤採・外面スス、内面コゲ付着	126	SK596	鍋として使用
24	土師器	高壺	(14.4)	12.8	5.8	70	透明・半透明・白色粒	褐	体部外面スス付着、下半部二次披熱	127	SK596	
25	土師器	鉢	12.6	9.6	4	70	半透明・白色粒	褐～橙	外面底部強い二次披熱体下半部スス付着	129	SK639	
26	土師器	壺				40	半透明・白色微粒多量	橙		130	SK639	外面摩耗
27	土師器	壺	13.7	5.7		80	半透明・白色粒・白黃微粒	明褐	内外面赤色塗彩ハケ目	132	P622	
28	土師器	壺	14.5	4.5		80	白色微粒多量	褐	外面底部幅の狭いヘラ削り	131	5号竪穴	赤彩、磨きなし

2. 平安時代

1号住居跡 (第39図・写真図版8)

本住居跡はF10グリッドに位置する。規模は長軸方向3.08m、短軸方向2.37mを測り残存する壁高は58cmを測る。床面積は7.3m²を測り、平面形は長方形を呈する。竈の対面側の壁から竈に向く方向を主軸として、主軸方位はN-28°-Wを示す。竈は、住居跡北壁を掘り込んで構築されている。竈は奥行き80cm、幅50cmである。覆土は自然堆積で、基本的に2層からなる。初層は壁際が厚く、床中央部に向かって薄くなりながら床上を覆う焼土混じりの黒褐色土である。2層はしまりのない黒色土である。出土遺物は土師器主体で竈の覆土中から二次被熱を強く受け橙色に発色した壺(No 1)と甕(No 2)が出土している。その他須恵器



第39図 神出遺跡 1号住居跡・出土遺物

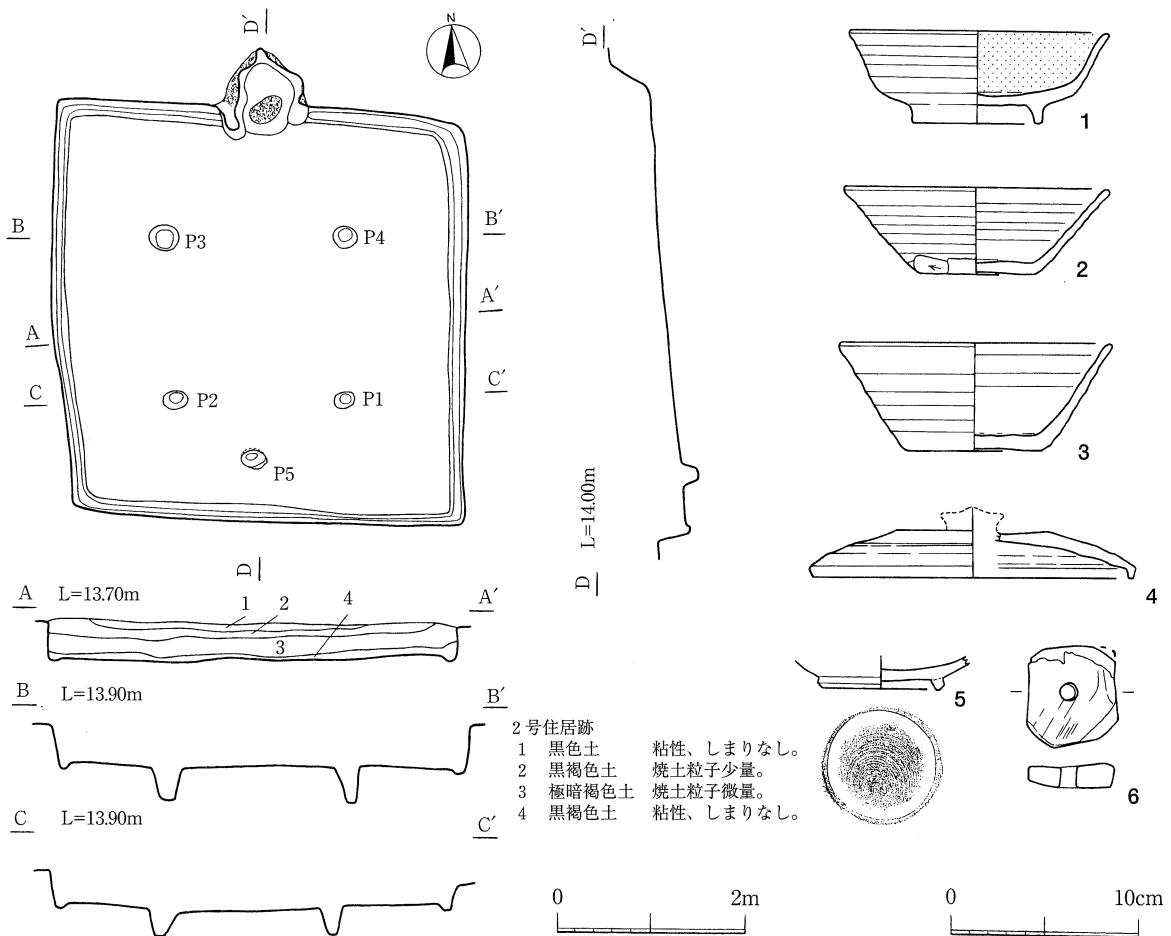
はバケツ形甕、長頸瓶片等が出土している。須恵器細片は30点の内雲母を含むものが25片（83%）、雲母を含まない硬質の焼成品が3片（10%）ある。

神出遺跡 1号住居跡出土遺物観察表

番号	種類	器種	口径	器高	底径	残存率	胎 土	色 調	器形・技法の特徴、その他	台帳番号	出土地点	備 考
1	土師器	壺	(13.4)	4.4	6.5	60	半透明粒、雲母微粒多量	橙～褐	細かいロクロ目、底部ヘラ切り無調整	133	SI1	
2	土師器	甕	(12.3)	13.5	9.1	80	透・半透明・白色粒子多量	橙	体下半部横位ヘラ削り	134	SI1	

2号住居跡（第40図・写真図版8）

本住居跡はG9、G10グリッドに位置する。規模は長軸方向4.31m、短軸方向4.29mを測る。残存する壁高は43cmを測る。床面積は18.5m²を測り、平面形は方形を呈する。主軸はN-23°-Wを示す。壁溝掘り方上幅0.08~0.13mで竈部分を除いて全周する。壁は、ほぼ垂直に立ち上がっている。主柱穴は、4本で壁から1.2~1.3m離れた床上にあり、深さ0.26~0.4mである。出入り口ピットは、南壁中央部から0.6m離れた床上に深さ0.38mで、竪穴外に向かってやや外傾している。竈は確認面上場で0.64m竪穴外に突出し、竈内の規模は奥行き90cm、幅60cmを測る。袖部の残存状況は悪いが、底面と内壁は焼土化して残存しており、中央部奥壁から、約0.1m離れた向かって右側中央部に支脚が残存していた。竈覆土は上層から、ほぼ水平に4層で堆積している。出土遺物は、ロクロ成形の土師器壺（No1）・須恵器壺・蓋、灰釉陶器（No5）である。No2の須恵器壺は新治産、No3は木葉下産である。他に細片で出土している須恵器片総数101点の内雲母を含む個体が73片（72%）、雲母を含まない硬質の焼成品が22点（22%）、海面骨針を含むもの6片（6%）である。器種は壺、甕、甌、壺、灰釉陶器は椀が出土している。他に砥石の中央に穿孔した紡錘車



第40図 神出遺跡 2号住居跡・出土遺物

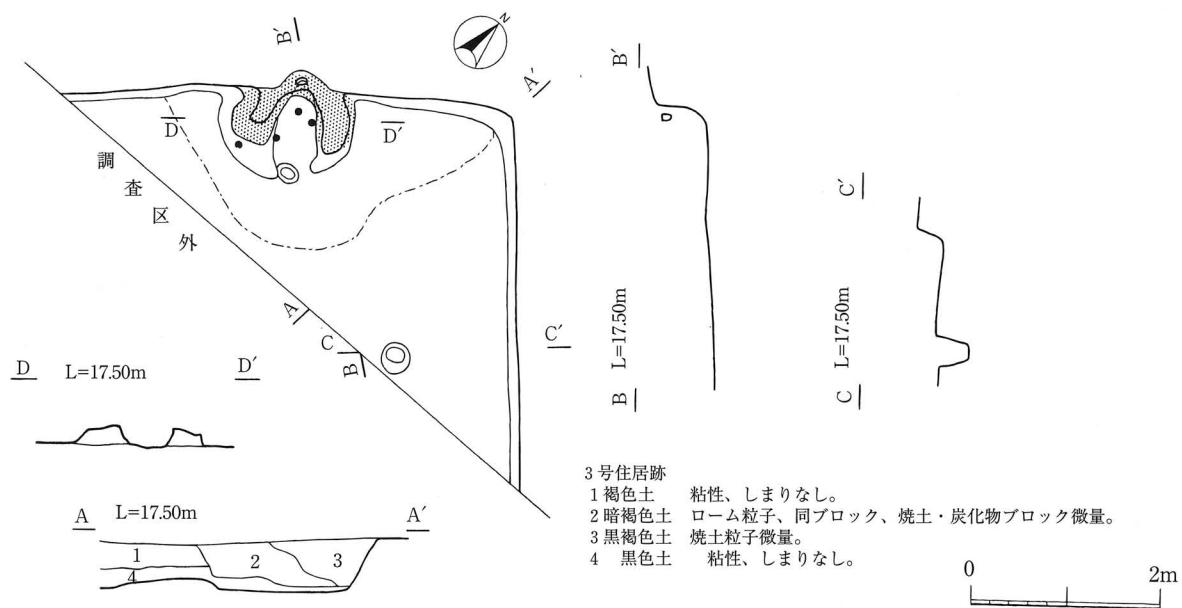
状の石製品が出土している。

神出遺跡 2号住居跡出土遺物観察表

番号	種類	器種	口径	器高	底径	残存率	胎 土	色 調	器形・技法の特徴、その他	台帳番号	出土地点	備 考
1	土師器	壺	(13.9)	4.9	7.1	60	白色礫、雲母微粒子	褐	ロクロ成形、内面黒色処理	135	SI2	
2	須恵器	壺	(14.2)	4.6	6.1	60	透・半透粒・雲母微粒	灰	底部一方向、体部下端手持ちヘラ削り	136	SI2	
3	須恵器	壺	(14.6)	5.7	7	60	白・灰礫、半・透粒、骨針灰白	灰白	体下端ヘラ削り、底面周辺丁寧なナテ調整	137	SI2	木葉下産
4	須恵器	蓋	(17)		(8)	40	透明・白色粒、雲母微粒	灰		138	SI2	
5	灰釉陶器	椀			6.2	40	白色・黒色微量少量	灰白	灰釉ハケ塗り、底部糸切り、高台接合調整	139	SI2	
番号	種類	名称	径	厚さ	孔径	残存率	石 質	色 調	器形・技法の特徴、その他	台帳番号	出土地点	備 考
6	石製品	紡錘車	5.3	3.8	1.3	40	砂岩質	灰白	小形の砥石の中央部に穿孔	142	SI2	砥石から転用

3号住居跡（第41図・写真図版8）

本住居跡はH9グリッドに位置し、規模は長軸方向4.6m、短軸方向4mを測る。残存する壁高は53cmを測る。床面積は18.4m²を測り、平面形は方形と考えられる。主軸はN-45°-Wを示す。竈は上端で40cm程堅穴外に突出する。袖部は、黒褐色土を芯材にして、暗褐色粘質土や暗褐色砂質土で構築されており、堅穴内に80cm延びている。内壁は焼土化しており、中央奥壁から確認面に向かって径15~20cmの煙道が残存していた。底面奥壁から約10cm離れた向かって右側中央部に支脚が残存していた。出土遺物は竈から細片が、覆土中から湖西産の須恵器甕体部片や雲母を含んだ回転ヘラ削り調整の須恵器壺底部小片が出土しており、わずかに時期をうかがうことができる。



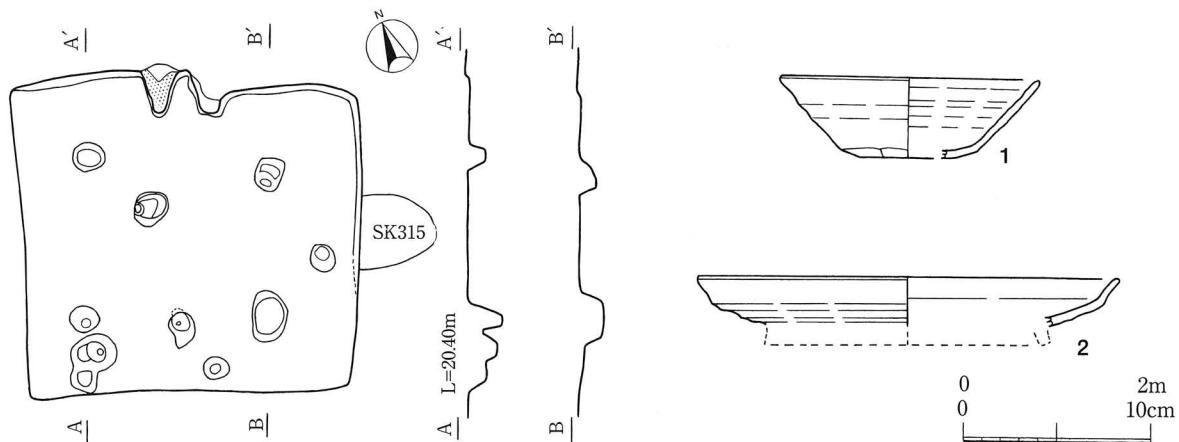
第41図 神出遺跡 3号住居跡

6号住居跡（第42図）

本住居跡はN1グリッドに位置する。規模は長軸方向3.6m、短軸方向3.35mを測る。主軸はN-22°-Wを示す。床面積は12.1m²を測り、平面形は基本的に方形を呈するが北壁は竈をはさんで西側は東側よりも30cmほど奥に掘り込まれている。いくつかある柱穴には主柱になるものがみられない。竈内法は奥行き80cm、巾60cmで、袖部は褐色粘土で構築されている。出土遺物は、須恵器の壺（No1）、盤（No2）、三方透かしの高壺脚部片で胎土に雲母粒を含んでいる。

神出遺跡 6号住居跡出土遺物観察表

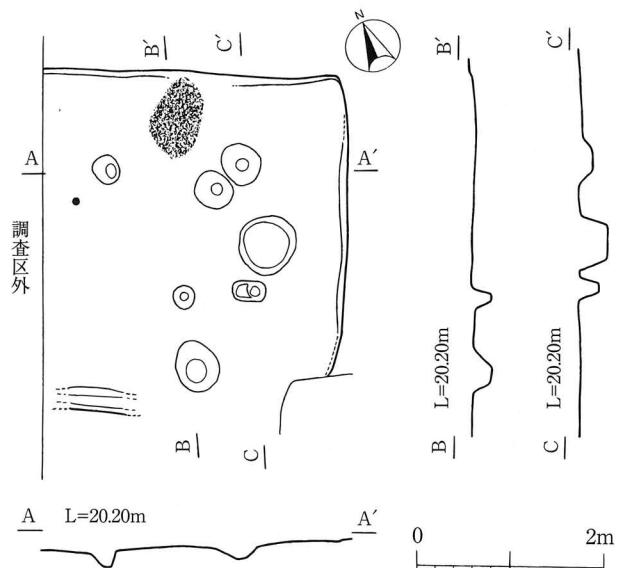
番号	種類	器種	口径	器高	底径	残存率	胎 土	色 調	器形・技法の特徴、その他	台帳番号	出土地点	備 考
1	須恵器	壺	(13.9)	4.2	(4.8)	40	半透・透明・雲母粒子	灰白	回転ヘラ切り。体部下端手持ちヘラ削り	143	SI6	
2	須恵器	盤	(22.5)			20	半透・透明・雲母粒子	灰~暗灰		144	SI6	



第42図 神出遺跡 6号住居跡・出土遺物

7号住居跡（第43図）

本住居跡は N1 グリッドに位置する。規模は長軸方向3.3m を測る。壁はほとんど残存せず、かろうじて床は残存していた。主軸は N-23°-W を示し、北壁側床面に竈の痕跡が、焼土・炭化物を伴なったくぼみとして確認できた。出土遺物は少なく細片であるが、内面黒色処理した器壁の薄い摩耗したロクロ土師器片、5孔式の瓶底部片が出土している。いずれも胎土中に雲母微粒を含み二次被熱を受けている。



第43図 神出遺跡 7号住居跡

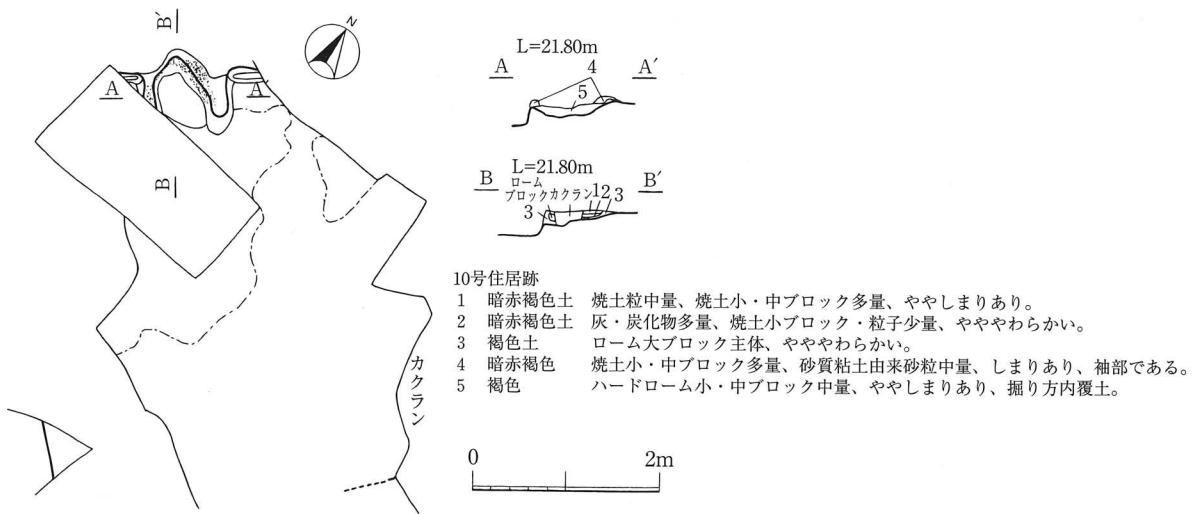
8号住居跡焼土構造

本跡は O3 グリッドに位置する。焼土の広がりとして確認された。当初竪穴住居跡の焼失による床面の焼土化したものとして調査を進めたが、壁溝、柱穴、竈や炉の痕跡、掘り方をもたないことがはっきりした。

10号住居跡（第44図・写真図版8）

本住居跡は L7, M7 グリッドに位置する。確認面で竈と硬化した床面の一部が確認できたが、数多くの土坑に壊されており、平面形を追うのは困難であった。主軸は N-32°-W を示す。竈は上端で24cm 程度穴外に突出する。竈内法は奥行き80cm、幅60cm で袖部には褐色粘土や暗褐色砂質土ブロックが見られ、内壁が赤変していた。袖部は砂質粘土に由来する砂粒を含んだ暗褐色土で構築されていたようである。竈覆土 2 層は

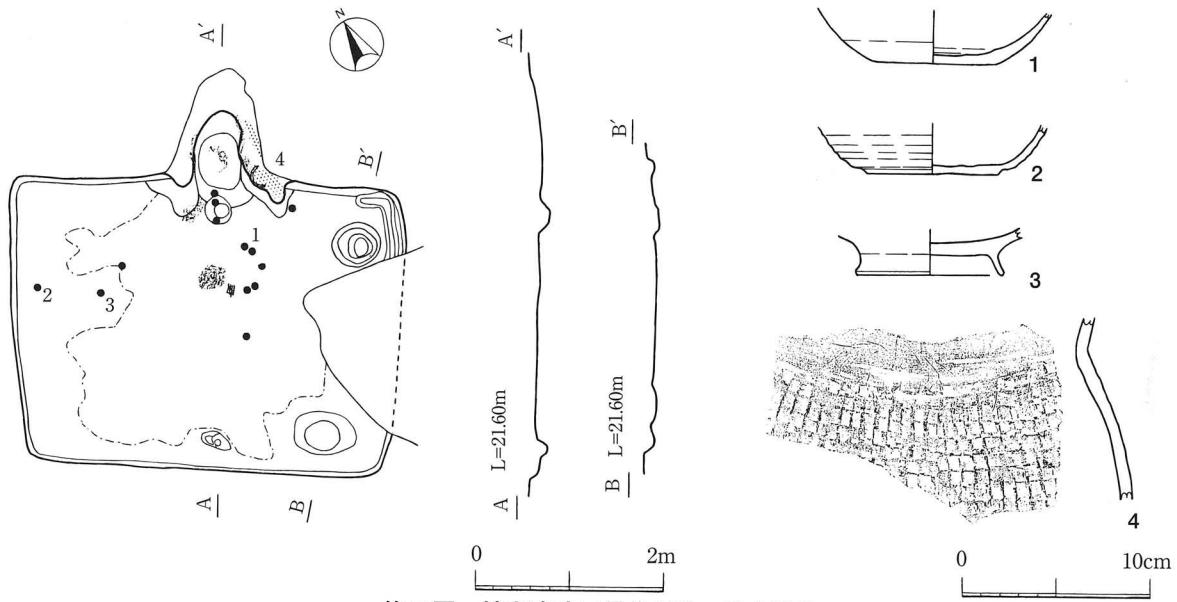
やわらかな炭化物混じりの灰層であった。出土遺物は土師器細片が数片、歴史時代の須恵器甕体部片が1点出土している。



第44図 神出遺跡10号住居跡

11号住居跡（第45図・写真図版8）

本住居跡はL8, M8グリッドにかかる位置にある。規模は長軸方向3.8m 短軸方向2.9m、残存する壁高は12cmを測る。平面形は長方形で、床面積は11.0m²を測る。床の硬化面は竈前面とP2周辺からP1前面まで広がっており西壁際は硬化が弱い。竈前面の床はややくぼみ非常に硬化している。主軸はN-27°-Eを示す。ピットは、P1が竈対面の南壁際であり床の硬化面がP1際まで及んでいる点から出入り口の梯子穴、P2、P3は深さから見て主柱になりにくい。P1は竈の脇に位置し浅く窪んだ穴で、上端径は47cmあったが底面を精査すると下端は径19cm程の平らな面になり、覆土のようすから見て、底径20cm程の平底容器の抜き取り穴の可能性がある。P3は、やや深めで性格不明のピットである。竈は、北東壁を壁外に1.1m程掘り込み構築しており、規模は内法奥行き98cm、幅44cmである。竈袖部には土師器の甕を逆位に埋め込ん



第45図 神出遺跡11号住居跡・出土遺物

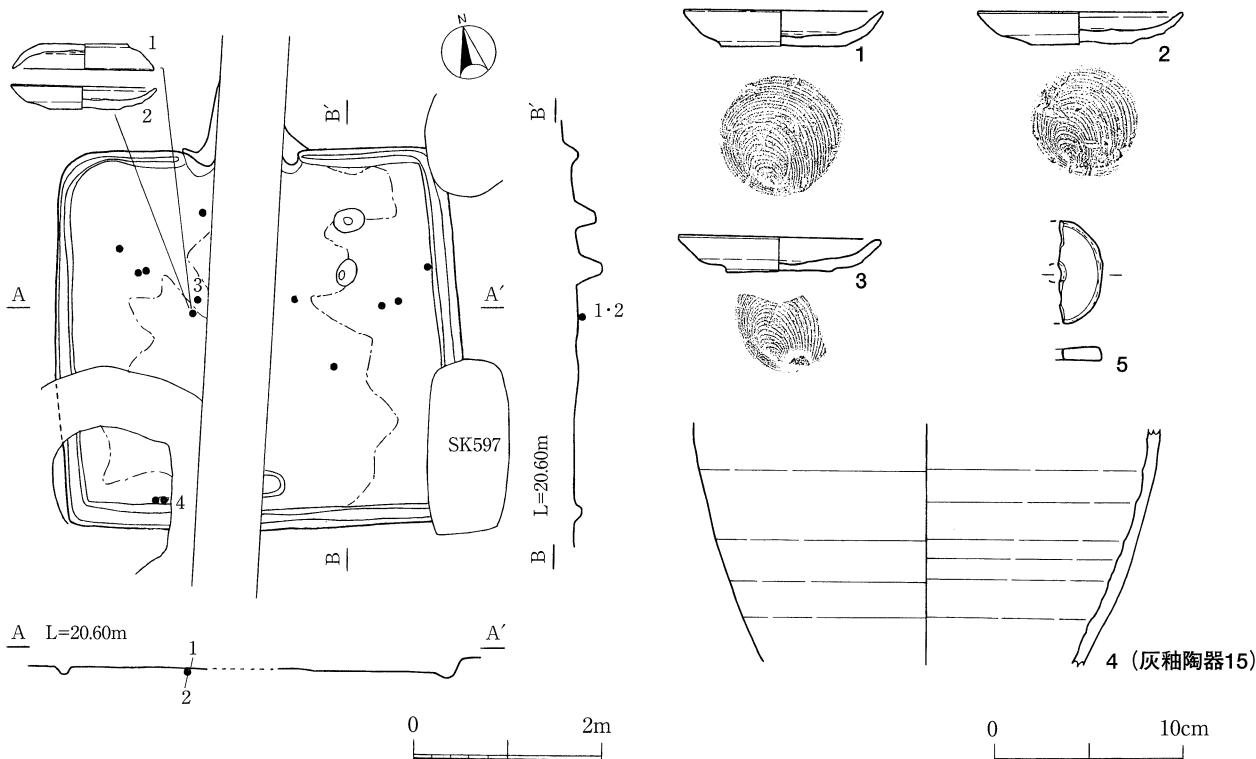
で補強している。住居覆土は3層からなり、壁際に壁から50cm程までロームを主体とする初層の三角堆積が見られる。住居を埋没させている主体土層は、炭化材片を多く含む土層である。遺物は、回転切り離し無調整の底部を持った土師器壺（No 1・2）と内面細かなヘラ磨きの土師器碗（No 3），格子叩き甕片（No 4）が、その他に須恵器のバケツ形をした平底甕ないし甕片が出土している。

神出遺跡11号住居跡出土遺物観察表

番号	種類	器種	口径	器高	底径	残存率	胎 土	色 調	器形・技法の特徴、その他	台帳番号	出土地点	備 考
1	土師器	壺		6.6	40	透明粒子・白色微粒子	橙	底部回転ヘラ切り離し無調整	145	SI11		
2	土師器	壺		(6.9)	30	透・半透粒・雲母微粒	灰	底部ヘラ切り無調整	146	SI11		
3	土師器	碗		8	30	半透明粒子・白色微粒子	橙	内黒、細かいヘラ磨き	147	SI11		
4	須恵器	甕			10	透明・白色粒多量	明褐	体部外面格子叩き	148	SI11		

12号住居跡（第46図・写真図版8）

本住居跡はK6, K7, L6, L7グリッドに位置する。規模は長軸方向4.15m、短軸方向3.85mを測る。残存する壁高は10cmを測る。床面積は16.0m²を測り、平面形は方形を呈する。主軸はN-17°-Eを示す。床面は、攪乱によって中心部が破壊されているが、竈前面から南壁際まで床の硬化が見られた。竈は耕作によるトレンチャーで大部分が壊され、向かって左袖がわずかに残存している。覆土の1～2層は、焼土・炭化物粒を多く含み上屋の焼失にかかわる土層である。3層は床下の堀り方に堆積した土層であり、上面が硬化している。床上には部分的にロームの純層があり、床補修にかかわるものと見られる。覆土中の出土遺物は、平安時代9世紀の土師器、須恵器主体でそこに古い古墳時代前期の甕体部片や古墳時代後期6世紀の土師器壺片が混入している。床面出土の遺物の中で最も新しいものは、糸切り底の土師器小皿（No 3）で、同じ種のものは、床下の掘り方内に、2点（No 1・2）合わせ口にして埋納されていた。その他、破片で灰釉陶器の大形瓶類の体部片（No 4）が南壁際床面から出土している。その他覆土中からは須恵器壺底部利用の紡錘車片（No 5）、刀子片も出土している。



第46図 神出遺跡12号住居跡・出土遺物

神出遺跡12号住居跡出土遺物観察表

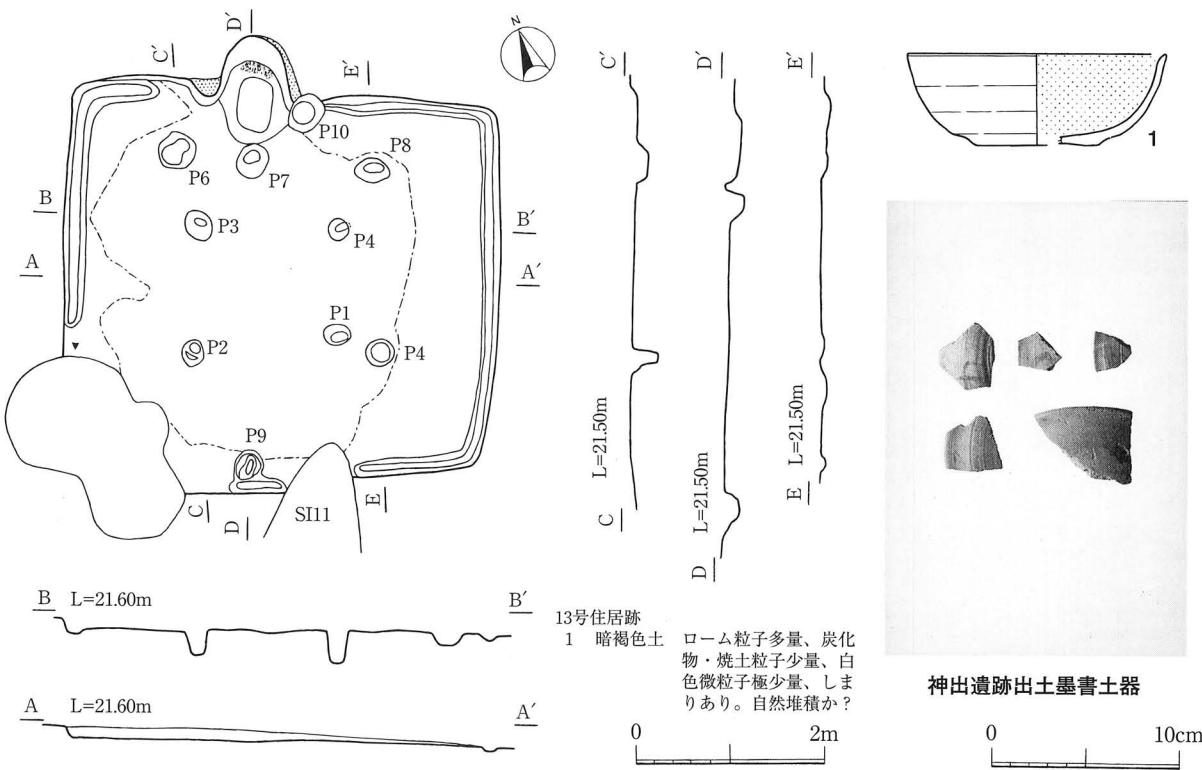
番号	種類	器種	口径	器高	底径	残存率	胎 土	色 調	器形・技法の特徴、その他	台帳番号	出土地点	備 考
1	土師器	皿	10.4	2	6.3	70	透・半透・黄白微粒			149	SI12	
2	土師器	皿	10.9	1.8	5.2	90	透・半透・雲母微粒	褐	底部回転糸切り	150	SI12	
3	土師器	皿	(10.8)	1.8	(5.6)	90	透明・半透明微粒	褐	底部回転糸切り	151	SI12	
4	灰釉陶器	大形長頸瓶				5	黒色微粒子極少量	灰白		152	SI12	
番号	種類	名称	高さ	幅	孔径	残存率	胎 土	色 調	器形・技法の特徴、その他	台帳番号	出土地点	備 考
5	土製品	有孔円盤				50	雲母粒・微粒子多量	灰		153	SI12	

13号住居跡（第47図・写真図版8）

本住居跡はM8グリッドに位置する。規模は南北方向（竈に向かって左側）4.15m、東西方方向4.50mで北壁は竈をはさんで西側が37cm程奥に掘り込まれている。残存する壁高は12cmを測る。床面積は17.4m²を測り、耕作による攪乱が一部見られた。主軸はN-17°-Eを示す。ピットはP1～P10まで床上に確認できた穴を掘り込んだが、覆土や深さからみて主柱になる穴はなく、ほとんどは耕作による攪乱穴であった。P9は住居に伴う出入り口ピットの可能性がある。竈は、袖部・火床が残らず奥壁の一部に焼土が見られただけで全体に残存状態が悪かった。残存する覆土は1層厚さ12cmで、ローム粒子・炭化物・焼土粒子を含んだ自然堆積土層である。覆土中からの出土遺物は土師器高台付椀と底部糸切りの土師器皿小片がやや目立ち、土師器の内黒坏や甕・須恵器坏片が主体であった。墨書土器片も2点出土している。墨書土器は遺跡全体で5片出土しており、40号住居出土のものを含めてすべて細片である。住居以外ではK9グリッドや表採遺物として確認されている。

神出遺跡13号住居跡出土遺物観察表

番号	種類	器種	口径	器高	底径	残存率	胎 土	色 調	器形・技法の特徴、その他	台帳番号	出土地点	備 考
1	土師器	坏	(13.8)	(6.5)	4.9	30	透明・半透明微粒少量	明褐	ロクロ整形、内面黑色処理後ヘラ磨き	154	SI13	



第47図 神出遺跡13号住居跡・出土遺物

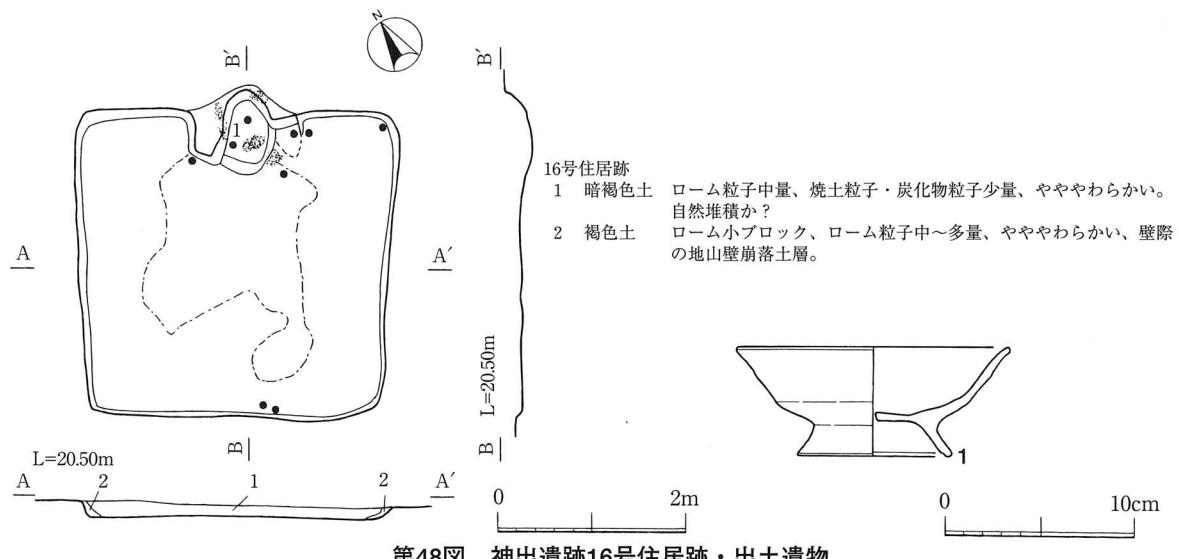
16号住居跡（第48図・写真図版8）

本住居跡はL10グリッドに位置する。規模は長軸方向3.2m、短軸方向3.1mを測る。残存する壁高は17cm

を測る。床面積は9.9m²を測り、平面形は方形を呈する。主軸はN-30°-Eを示す。竈は向かって右袖は残存せず、火床底面から側壁は焼土化していた。竈内法は奥行き86cm、幅50cmで、火床面上には炭化物粒子を含んだ灰層が堆積し、中央部に石製支脚が残存していた。支脚の石質は雲母片岩で長さ16cm、幅12.5cm、厚さ5cmである。住居覆土は自然堆積である。遺物は、竈覆土から二次被熱を受けた土師器の高台付椀が出土している。その他の出土遺物では、須恵器甕の体部片が覆土から出土しており、胎土中に海綿骨針や長石・チャート礫を含み木葉下窯跡群産と見られる。

神出遺跡16号住居跡出土遺物観察表

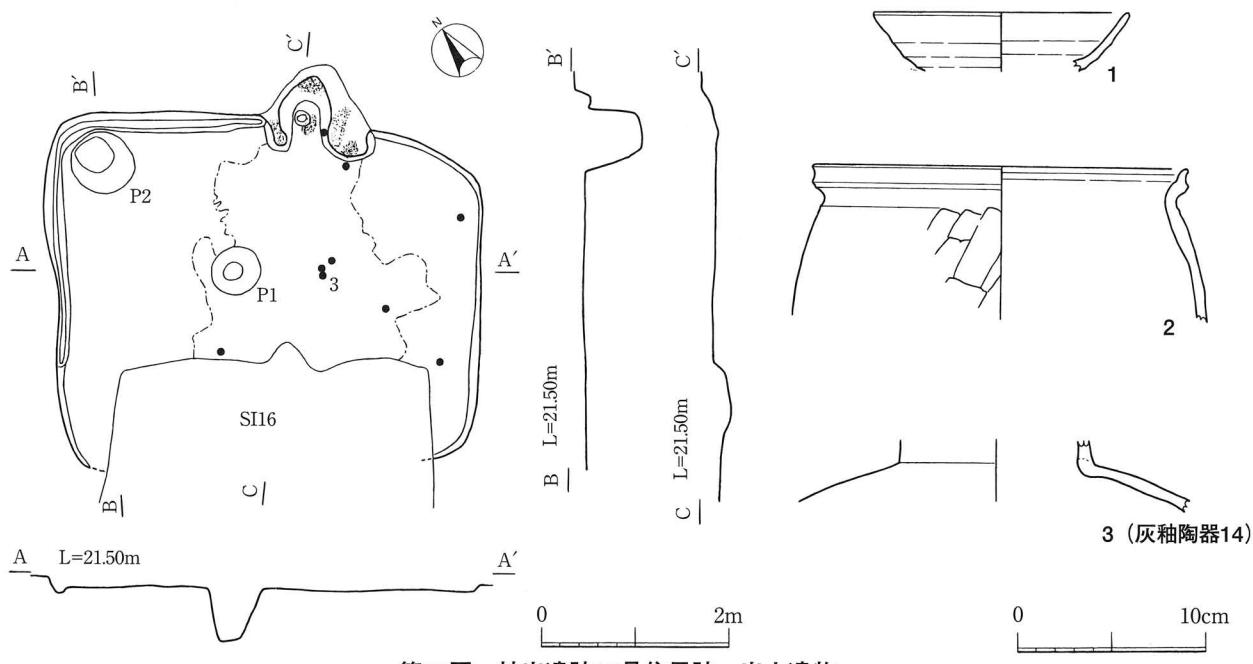
番号	種類	器種	口径	器高	底径	残存率	胎 土	色 調	器形・技法の特徴、その他	台帳番号	出土地点	備 考
1	土師器	椀	14.6	8.2	5.8	60	透・半透礫多、雲母粒	明褐～橙	内面黑色処理後ヘラナデ、底部穿孔	155	SI16	二次被熱



第48図 神出遺跡16号住居跡・出土遺物

17号住居跡（第49図・写真図版9）

本住居跡はL10グリッドに位置する。16号住居に南側の床を掘り込まれ、18号住居の覆土を掘り込んでいる。規模は長軸方向4.5mを測る。残存する壁高は13cmを測る。平面形は隅丸方形で、主軸はN-37°-Eを示す。



第49図 神出遺跡17号住居跡・出土遺物

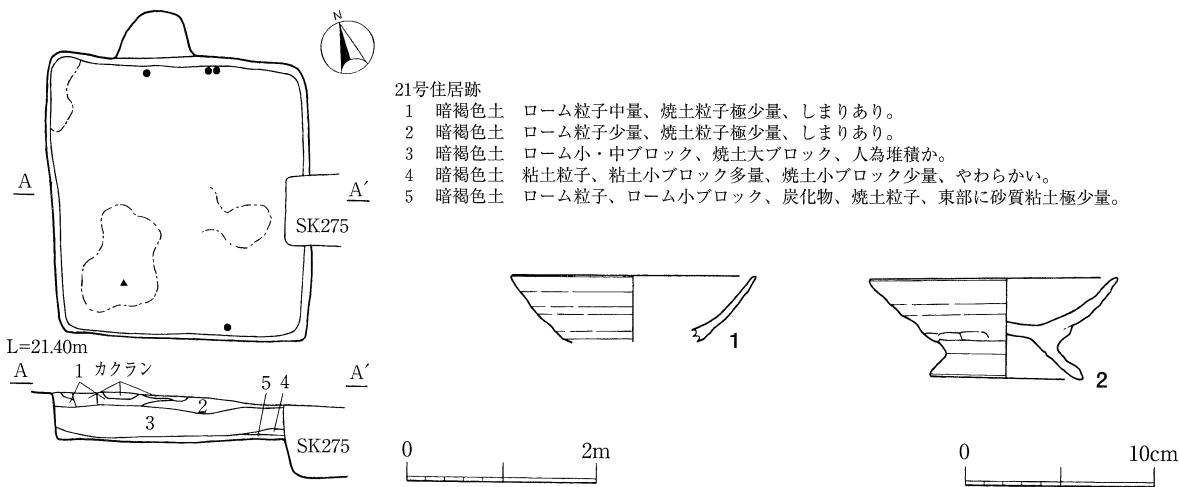
ピットは2箇所確認できた。P1は床を壊しており、住居跡よりも新しく、規模は径54cm、深さ58cmである。P2は住居跡北西コーナーにあり、径64cm、深さ55cmである。位置的にP2は住居に伴う可能性がある。竈内法は奥行き80cm、幅50cmを測る。床の硬化面は竈前面から2m程の幅で南に向かって延びている。出土遺物は破片で灰釉陶器の広口瓶の肩部片（No3）、土師器坏（No1）、甕片（No2）が出土している。

神出遺跡17号住居跡出土遺物観察表

番号	種類	器種	口径	器高	底径	残存率	胎 土	色 調	器形・技法の特徴、その他	台帳番号	出土地点	備 考
1	土師器	坏	(13.6)			10	半透明・雲母微粒子	褐	内面横位ヘラ磨き。外面ロクロナデ	156	SI17	
2	土師器	甕	(20)			5	透明・半透明粒多	褐		157	SI17	
3	灰釉陶器	広口瓶				5	半透明礫少量	灰白		158	SI17	

21号住居跡（第50図・写真図版9）

本住居跡はL8グリッドに位置する。規模は長軸方向2.85m 短軸方向2.63mを測る。残存する壁高は52cmを測る。床面積は7.5m²を測り、平面形は方形を呈す。長軸方向はN-14°-Eを示す。東側の中央部を土坑によって壊されている。住居東壁側の覆土の下層に粘土の堆積がわずかに見られる。北側に竈の掘り込み状の突出があるが、壁の上部を浅く掘り込むだけの突出部分である。覆土上層中にはほぼ平坦な硬化面が部分的に3箇所見られる。床は地山ハードロームを削り出しており、表面は固いが生活痕による汚れの乏しい状態である。南壁の床近くの覆土下層から土師器のやや足の長い高台付椀が出土している。竈をもたないが、土坑によって東壁にあった竈が壊されている可能性も考えられる。しかし他の平安時代の住居跡とくらべ掘り込みの深いことや壁溝を持たないことは異質な点である。調査時に方形堅穴の可能性も考え調査したが結論はでなかった。出土遺物は、10世紀代の南関東的な形態的要素を持つ須恵器高台付坏（No2）や底部回転糸切りで底部周辺手持ちヘラ削りの土師器坏片、底部回転糸切りの内黒土師器椀片等が覆土から出土している。



第50図 神出遺跡21号住居跡・出土遺物

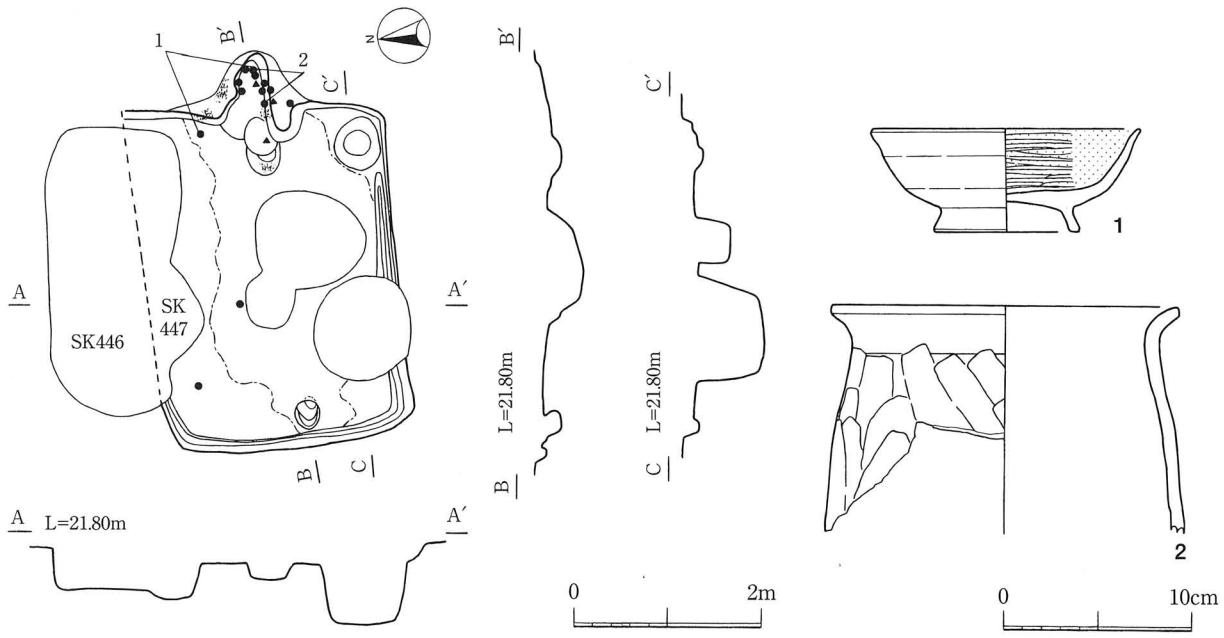
神出遺跡21号住居跡出土遺物観察表

番号	種類	器種	口径	器高	底径	残存率	胎 土	色 調	器形・技法の特徴、その他	台帳番号	出土地点	備 考
1	土師器	坏	(13.1)			10	半透明・黄白色微粒子	明褐		159	SI21	
2	須恵器	高台付坏	13.1	5.4	8	60	透明・半透明粒子、白色礫	灰白	体部下端手持ちヘラ削り後高台張り付け	175	SK275 SI21の遺物	

22号住居跡（第51図）

本住居跡はM7グリッドに位置する。規模は長軸方向3.43m、短軸方向2.52mを測る。残存する壁高は16cmで北壁側と南部を446、447号土坑その他に掘り込まれている。床面積は8.6m²で方形を呈する。主軸はN-109°-Eを示す。ピットは2か所確認されP1は竈対面の壁直下にあり出入り口施設に関わる穴の可能

性がある。P 2 は南西コーナー部に上端径50cm、上端から約 5 cm 下がって一旦平坦になり、底径25cm 程の浅いくぼみ穴として確認された。竈は東壁側に壁を65cm 程掘り込んで構築している。竈内壁は板状に剥離する石材を立ててつくっており、火床部中央には石製支脚が残っていた。竈内法は奥行き90cm、巾40cm を測る。出土遺物は、No 1・2 の土師器高台付壺と甕が竈内から、須恵器甕の体部片 (13×15cm) を打ち欠いて調整した楕円形の不明土製品が覆土から出土している。



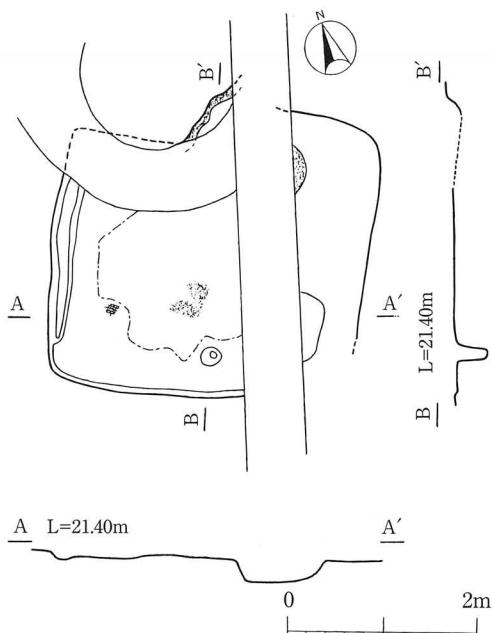
第51図 神出遺跡22号住居跡・出土遺物

神出遺跡22号住居跡出土遺物観察表

番号	種類	器種	口径	器高	底径	残存率	胎 土	色 調	器形・技法の特徴、その他	台帳番号	出土地点	備 考
1	土師器	高台付壺	(14.3)	5.5	8	50	雲母粒～微粒多量	暗褐	高台の一部橙色化、コゲ痕あり	160	SI22	
2	土師器	甕	(18.4)			5	透明・半透明粒、雲母微粒			161	SI22	

24号住居跡（第52図）

本住居跡は K 7 グリッドに位置する。規模は長軸方向3.26m、短軸方向3.05m を測る。主軸は N-23°-E を示す。残存する壁高は7cm を測る。床は、中央部が硬化し、床上に炭化材片焼土の堆積が見られた。耕作により床中央部が壊され、南東コーナー付近は床が流失し掘り方が露出していた。壁際には幅 3 cm の壁溝が確認された。ピットは 1 カ所、出入り口施設にかかるピットで径17cm、深さ34cm を測る。竈は耕作のトレンチャーにより壊されており、向かって左奥壁が確認面から深さ15cm まで（床から 5 cm まで）赤変して残存していた。竈に一部残っていた粘土は砂質褐色粘土である。覆土は炭化材片、焼土ブロックを含有する暗褐色土である。出土遺物はわずかに格子叩きの須恵器甕体部細片が出土



第52図 神出遺跡24号住居跡

している。

25号住居跡（第23図）

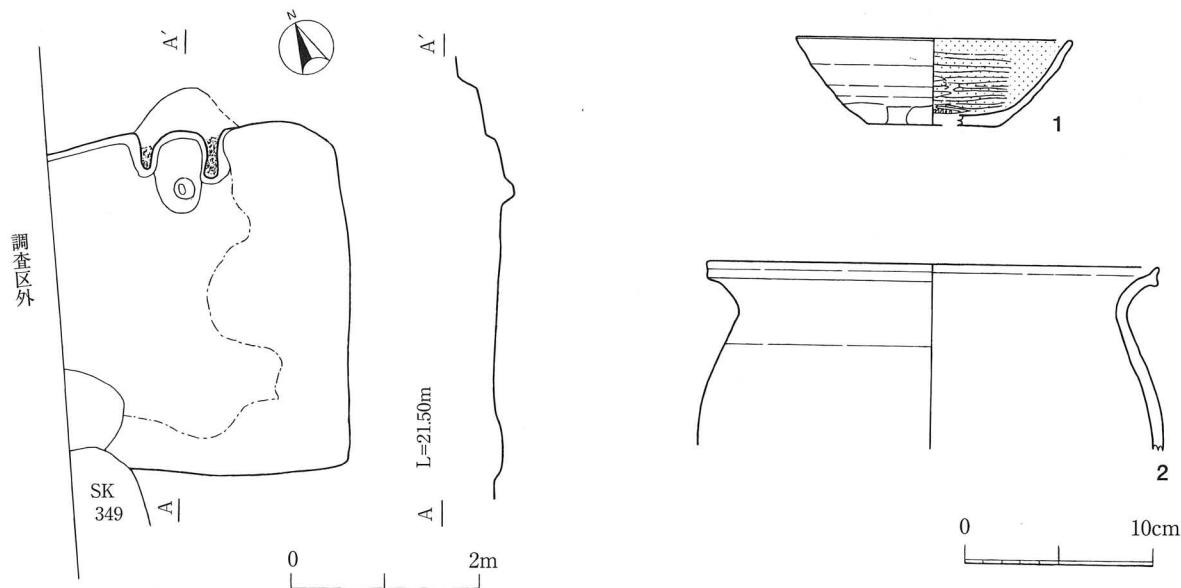
本住居跡はN11グリッドに位置し、東側半分はエリア外に延びている。規模は南北方向3.7mを測る。残存する壁高は30cmを測る。主軸はN-18°-Eを示す。床は南西コーナー付近を除いて全体が硬化している。ピットは南西コーナーに1か所、壁溝と重なって確認されたが住居に伴うものかどうかは不明である。遺物は南西コーナー寄りの西壁直下の床上から土師器と須恵器の甕形土器の底部が2点出土している。

神出遺跡25号住居跡出土遺物観察表

番号	種類	器種	口径	器高	底径	残存率	胎 土	色 調	器形・技法の特徴、その他	台帳番号	出土地点	備 考
1	須恵器	甕		15.8	20	半透明・雲母微粒子	灰白			163	SI25	
2	土師器	甕		7.2	15	透明・半透明粒多量	褐			162	SI25	

27号住居跡（第53図・写真図版9）

本住居跡はM5, M6グリッドに位置し、西壁はエリア外にある。28・29・30号住居と重複し、いずれよりも新しい。規模は南北方向3.45m、残存する壁高は34cmを測る。主軸はN-24°-Eを示す。北壁に両袖の遺存状態のよい竈が壁を50cm程掘り込んで付設されている。竈は内法で奥行き85cm、巾50cmを測る。床は竈前面が特に硬化しているが、東～南の壁際の床面が不明瞭であった。出土遺物は、土師器の壺（No1）・甕（No2）が覆土から出土している。



第53図 神出遺跡27号住居跡・出土遺物

神出遺跡27号住居跡出土遺物観察表

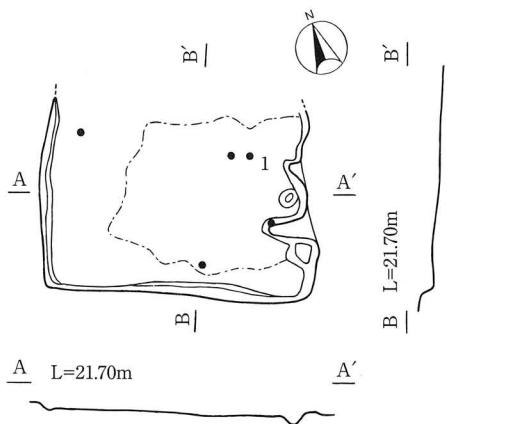
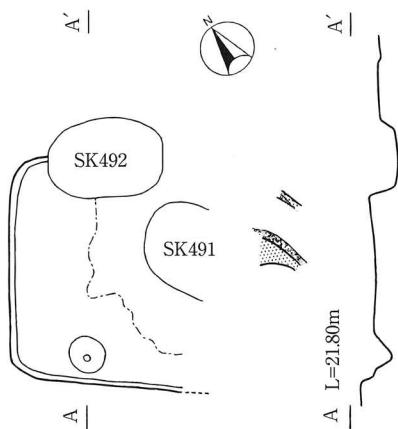
番号	種類	器種	口径	器高	底径	残存率	胎 土	色 調	器形・技法の特徴、その他	台帳番号	出土地点	備 考
1	土師器	壺	(14.6)	4.5	(7)	30	透明・白色微粒子	褐	内面黒色処理	164	SI27	
2	土師器	甕	(24)			10	透明・半透明粒、雲母微粒	褐		165	SI27	

31号住居跡（第54図・写真図版9）

本住居跡はN6グリッドに位置する。規模は北西壁で2.3m残存し、壁高は19cmを測る。主軸はN-49°-Wを示す。491号、492号土坑に床面を壊されているが、残存部分での床面の硬化は住居中央部に認められた。32号住居覆土中に491号土坑に壊され、わずかに竈の焼土と粘土が確認され、東竈の残存と考え

神出遺跡31号住居跡出土遺物観察表

番号	種類	器種	口径	器高	底径	残存率	胎 土	色 調	器形・技法の特徴、その他	台帳番号	出土地点	備 考
1	土師器	壺	(14)			10	雲母微粒子	褐	内面黒色処理	166	SI31	



第54図 神出遺跡31号住居跡・出土遺物

第55図 神出遺跡35号住居跡・出土遺物

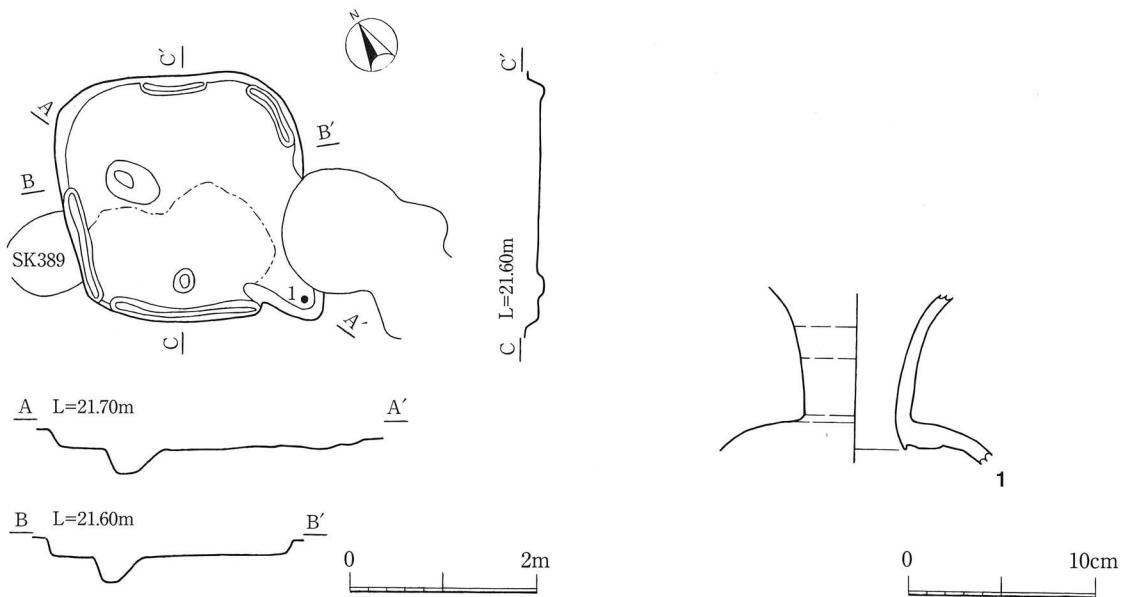
られる。出土遺物は覆土中に縄文土器片、古墳時代前期・中期土師器片、歴史時代土師器・須恵器片を含み9世紀以降の住居跡と考えられる

35号住居跡（第55図・写真図版9）

本住居跡はN7グリッドに位置する。439号土坑によって東側の竈の煙道部分が掘り込まれている。規模は長軸方向2.7mを測り、残存する壁高は9cmである。北側の壁は地形が傾斜しているため削平を受けている。主軸はN-112°-Eを示しており、いわゆる東竈の住居である。床は竈前面から、住居中央部にかけて硬化が著しかった。竈は両袖部がわずかに残っており、奥壁の一部が焼土化していた。竈の規模は、内法で奥行き55cm、幅45cmを測る。出土遺物は床上から土師器高台付椀（No1）が出土している。

神出遺跡35号住居跡出土遺物観察表

番号	種類	器種	口径	器高	底径	残存率	胎 土	色 調	器形・技法の特徴、その他	台帳番号	出土地点	備 考
1	土師器	高台付椀	15	5	7.4	80	透明粒・白色微粒子	橙	内面黒色処理	167	SI35	



第56図 神出遺跡36号住居跡・出土遺物

36号住居跡（第56図・写真図版9）

本住居跡はM8グリッドに位置する。規模は長軸方向2.45m、短軸方向2.45mを測る。残存する壁高は18cmを測る。床面積は6.0m²を測り、平面形は隅丸方形を呈す。主軸はN-24°-Eを示す。竈が南コーナー部に付設されている。竈袖の遺存状況は悪いが、火床上には炭化物微粒子を含んだ灰が薄く堆積しその奥に須恵器高坏が支脚に転用されている。竈の規模は、内法で奥行き65cm、幅40cmを測る。覆土は人為的な堆積土が床面全体から竈内まで覆っている。

神出遺跡36号住居跡出土遺物観察表

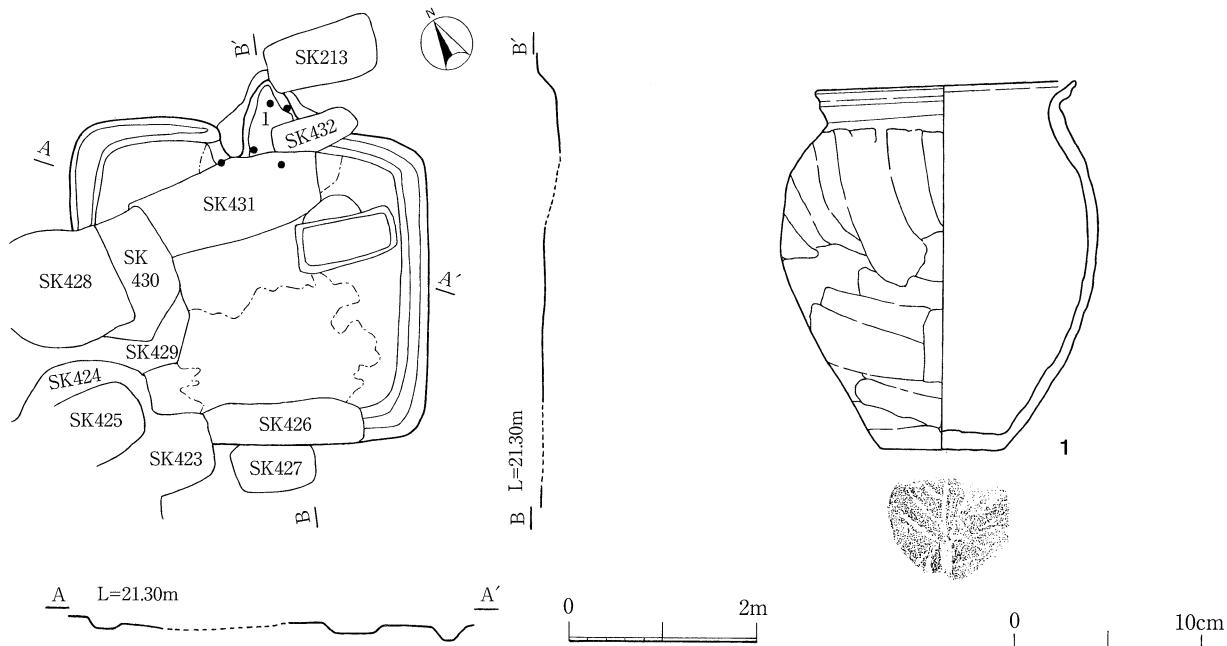
番号	種類	器種	口径	器高	底径	残存率	胎 土	色 調	器形・技法の特徴、その他	台帳番号	出土地点	備 考
1	須恵器	長頸瓶				10	透明・半透明粒、白色微粒	青灰		169	SI36	

37号住居跡

本住居跡はM8, L8グリッドに位置する。588・284・463号土坑に掘り込まれ竈だけが残存していた。竈から見て主軸はN-13°-Wである。竈の壁外への掘り込みは約70cm、規模は内法で奥行き80cm、幅37cmを測る。

40号住居跡（第57図・写真図版9）

本住居跡はL10グリッドに位置する。423・425・426・430・431・432号土坑に掘り込まれている。規模は長軸方向3.65m、短軸方向3mを測る。残存する壁高は10cmを測る。床面積は11.0m²を測り、平面は隅丸方形、主軸はN-29°-Eを示す。床は南側半分が硬化している。竈は左袖部から煙道部にかけて残存していた。出土遺物は、小形の土師器甕（No1）が竈から出土している。土師器内黒坏小片に墨書（No2）が見られた。



第57図 神出遺跡40号住居跡・出土遺物

神出遺跡40号住居跡出土遺物観察表

番号	種類	器種	口径	器高	底径	残存率	胎 土	色 調	器形・技法の特徴、その他	台帳番号	出土地点	備 考
1	土師器	甕	13.8	19.7	7	90	透明・白色粒多量	褐	体下半部器壁橙色、にぶい褐色粘土付着	171	SI40	

(2) 土坑 (第58図・表4)

平安時代の土坑の可能性のあるものは、9号土坑、164号土坑、371号土坑、614号土坑である。形態上は方形ないし橢円形で、深さも比較的浅い。遺物は9世紀代の須恵器や10世紀以降の回転糸切りによる土師器皿や灰釉陶器が出土している。371号土坑からは、古墳時代～平安時代（10世紀代まで）の土師器片等とともに銅椀の一部のような銅製品片（No5）が出土している。口縁部が残存せず、腐蝕も激しい。

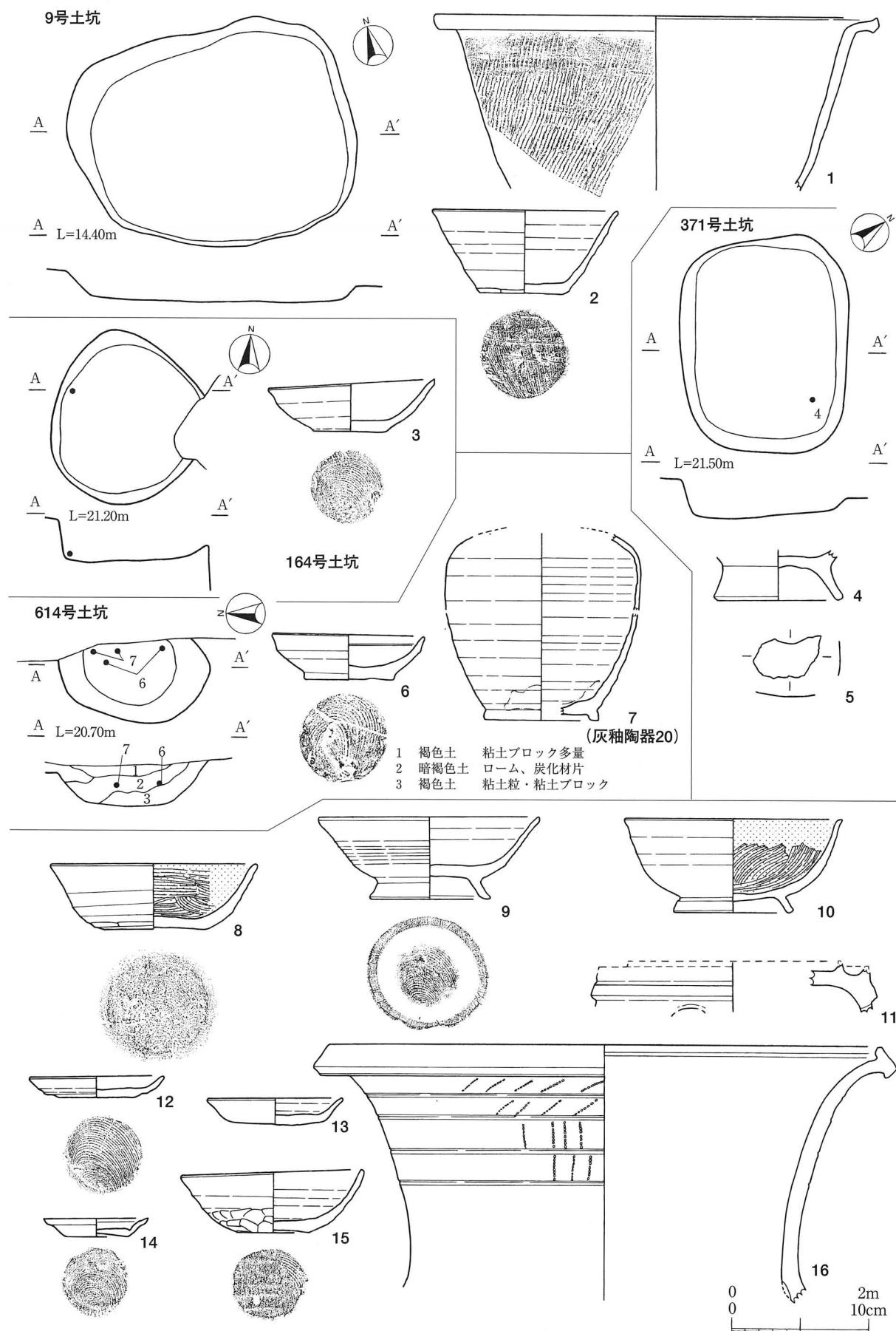
614号土坑のNo6の土師器皿はNo7の灰釉陶器とともに炭化材片を含んだ中層から出土している。口縁端部に特徴があり、外面に稜を持っている。付近の土坑からも同じタイプの小皿No14が出土しており、いずれも砂粒を多く含み中世のかわらけとは胎土の点で異質である。土師器皿も灰釉陶器も接合可能な破片で出土しており、同時廃棄遺物である。No7の灰釉陶器長頸瓶は、高台内面の貼り付け部の調整が難で釉調も濃緑色を呈している。灰釉長頸瓶の生産地や時期的検討は今後の課題であるが、これまで猿投産と見られていたもののうち多くは遠江産であることが指摘されている。釉の発色が濃いもの、砂っぽくスカスカとした感じ、長石を多く含有し、一部表面に融け出してセルロイド状を呈するもの、高台部が歪んでいたり、接合部の調整が難であったりするものがそれらに当たるということである。その他の土坑出土遺物は、より新しい時代の土坑中への混入遺物と考えられる。その中でも特徴を持った個体を図化している（No8～16）。No11の須恵器窓は窓がアーチ状に開き、これまでつくば市柴崎遺跡で出土しているものと同じタイプである。No16の須恵器甕口縁部は、沈線五段区画の中に櫛歯状刺突による列点文が付き、胎土・色調から湖西産の可能性の高い個体である。この須恵器甕は8世紀前半頃のものだが、中世に一度掘り上げられたらしく、古瀬戸平椀や在地系折り縁皿等とともに中世の2号テラス面に掘られた土坑中に廃棄されていた。図示した土坑の規模は表4を参照していただきたい。

神出遺跡土坑出土遺物観察表

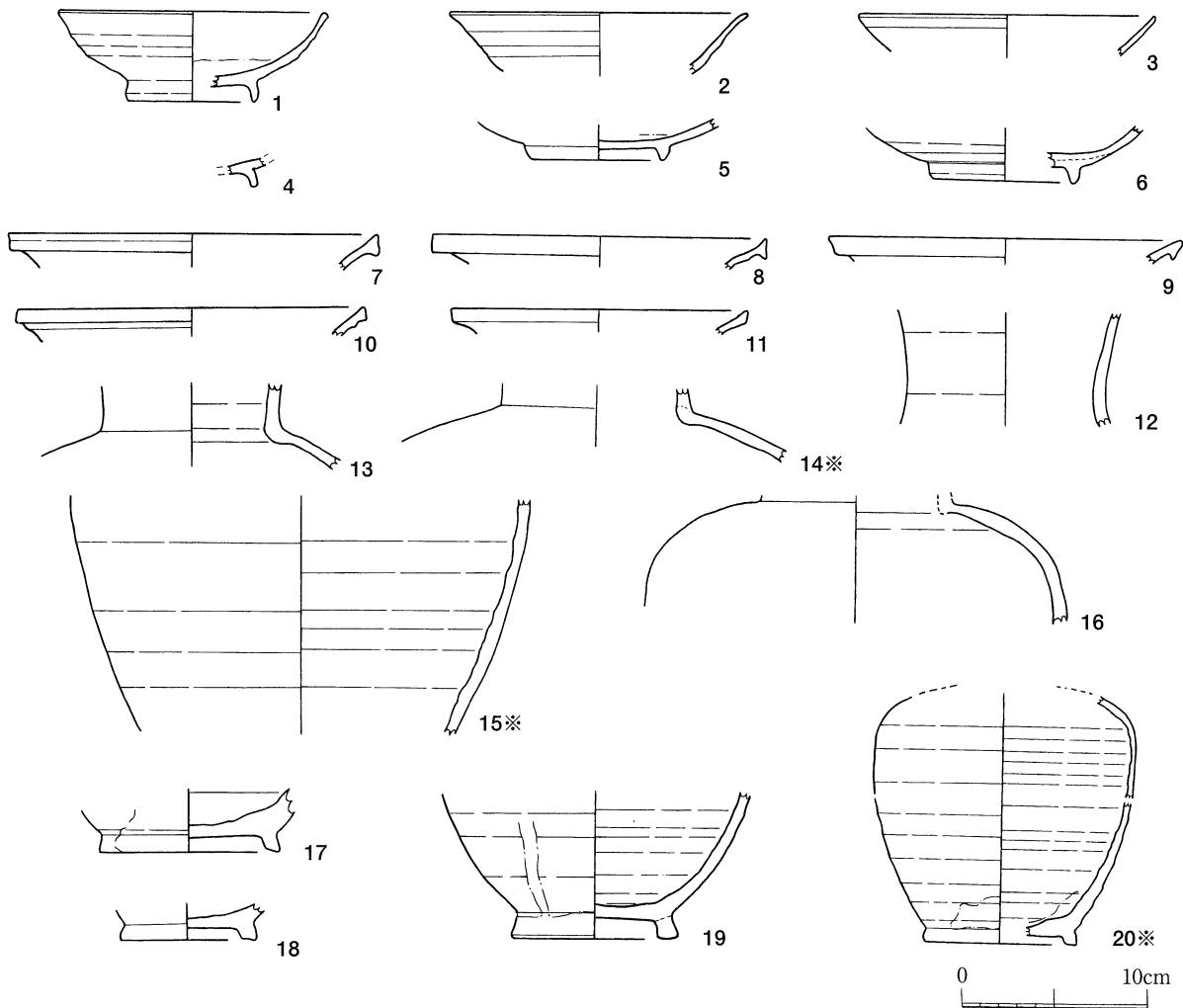
番号	種類	器種	口径	器高	底径	残存率	胎 土	色 調	器形・技法の特徴、その他	台帳番号	出土地点	備 考
1	須恵器	甕	32			10	白色	灰褐	内面に火擣痕あり	174	SK9	
2	須恵器	壺	13	6	5.8	20	半透明粒、灰角丸礫、骨針	灰	底部一方向ヘラ削り、ヘラ記号有り	173	SK9	木葉下産
3	土師器	壺	12	3.4	5.2	100	白色・半透明微粒、骨針	褐	底部回転糸切り	212	SK164	
4	土師器	高台付壺				9.2	白色微粒多量	橙～褐		176	SK371	
5	金属製品	銅椀片	4.6	2.9		5				177	SK371	
6	土師器	小皿	11	3.2	6.6	100	半透明・白色微粒多量	橙	底部回転糸切り	222	SK614	
8	土師器	壺	14.9	4.7		70	透～半透明粒、白色微粒	褐	底部回転糸切り	182	SK15	
9	土師器	高台壺	15.8	5.9	8.6	60	雲母粒～微粒多量	褐		180	SK491	
10	土師器	高台椀	(15.6)	6.8	(8.6)	50				178	SK421	
11	須恵器	円面硯	(20.4)			10	透明・半透明粒～礫	灰～青灰	アーチ状の窓孔か	179	SK472	
12	土師器	小皿	9.8	1.5	5.6	100	半透明・赤褐色粒	橙	底部回転糸切り	220	SK582	
13	土師器	小皿	9.8	2		90	半透明・白色微粒中量	褐	外面部ろくろによる弱い削り	240	2号テラス	P1
14	土師器	小皿	7.6	1.3	4.4	100	金雲母微粒	橙	見込みに親指痕、底部に人差し指・中指痕	224	SK615	
15	土師器	壺	13.2	4.4	5	100	透明・半透明・白色微粒	橙	底部回転糸切り後一方向ヘラ削り	181	1トレシ	火擣痕
16	須恵器	甕	(42)			5	白色・黒色微粒	灰白	沈線で5段に区画し列点紋を刺突	183	SK17	他

神出遺跡出土灰釉陶器観察表(1)

番号	種類	器種	口径	器高	底径	残存率	胎 土	色 調	器形・技法の特徴、その他	台帳番号	出土地点	備 考
1	灰釉陶器	椀	(14.5)	4.9	(6.8)	45	白色微粒少量	灰白	高台の接合が難で内面無調整	184	地下式9	
2	灰釉陶器	椀	(16)			5		灰白		324	地下式11	
3	灰釉陶器	椀	(16)			5	白色微粒子少量	灰		325	SI18	
4	灰釉陶器	椀				5		灰白		326	SK542	
5	灰釉陶器	椀				7.2	白色微粒少量	灰白		186	SK21	
6	灰釉陶器	椀				(7.6)	15	黒色微粒	灰白	185	SK399	
7	灰釉陶器	広口瓶	(20)			5		灰白		319	J8G	
8	灰釉陶器	広口瓶	(18)			5	白色微粒子少量	灰		321	SI1	
9	灰釉陶器	広口瓶	(19)			5		灰白		322	SI21	
10	灰釉陶器	広口瓶	(19)			5		灰白		323	SI21	
11	灰釉陶器	広口瓶	(16)			5		灰白		320	SK264	
12	灰釉陶器	広口瓶				5	白色微粒少量	灰白		190	J8G	



第58図 神出遺跡9、164、371、614号土坑・その他出土遺物



第59図 神出遺跡出土灰釉陶器（※印の土器は各遺構の出土遺物の図中にも同じものあり）

神出遺跡出土灰釉陶器観察表(2)

番号	種類	器種	口径	器高	底径	残存率	胎 土	色 調	器形・技法の特徴、その他	台帳番号	出土地点	備 考
13	灰釉陶器	広口瓶				5	黒色微粒極少量	灰白		305	I11G	
16	灰釉陶器	短頸壺				10	白色微粒少量	灰白		187	地下式9	
17	灰釉陶器	長頸瓶			9.6	5	黒色微粒少量	灰白		189	表探	
18	灰釉陶器	長頸瓶			7.2	10	白色微粒少量	灰		188	地下式7	
19	灰釉陶器	長頸瓶			9	20		灰白	鉄分と長石粒の融けた不均質な胎土	255	E10	
20	灰釉陶器	長頸瓶			(8.2)	40	白色微粒、黒褐色粒	灰白	高台内面の調整雑、濃緑色釉	223	SK614	

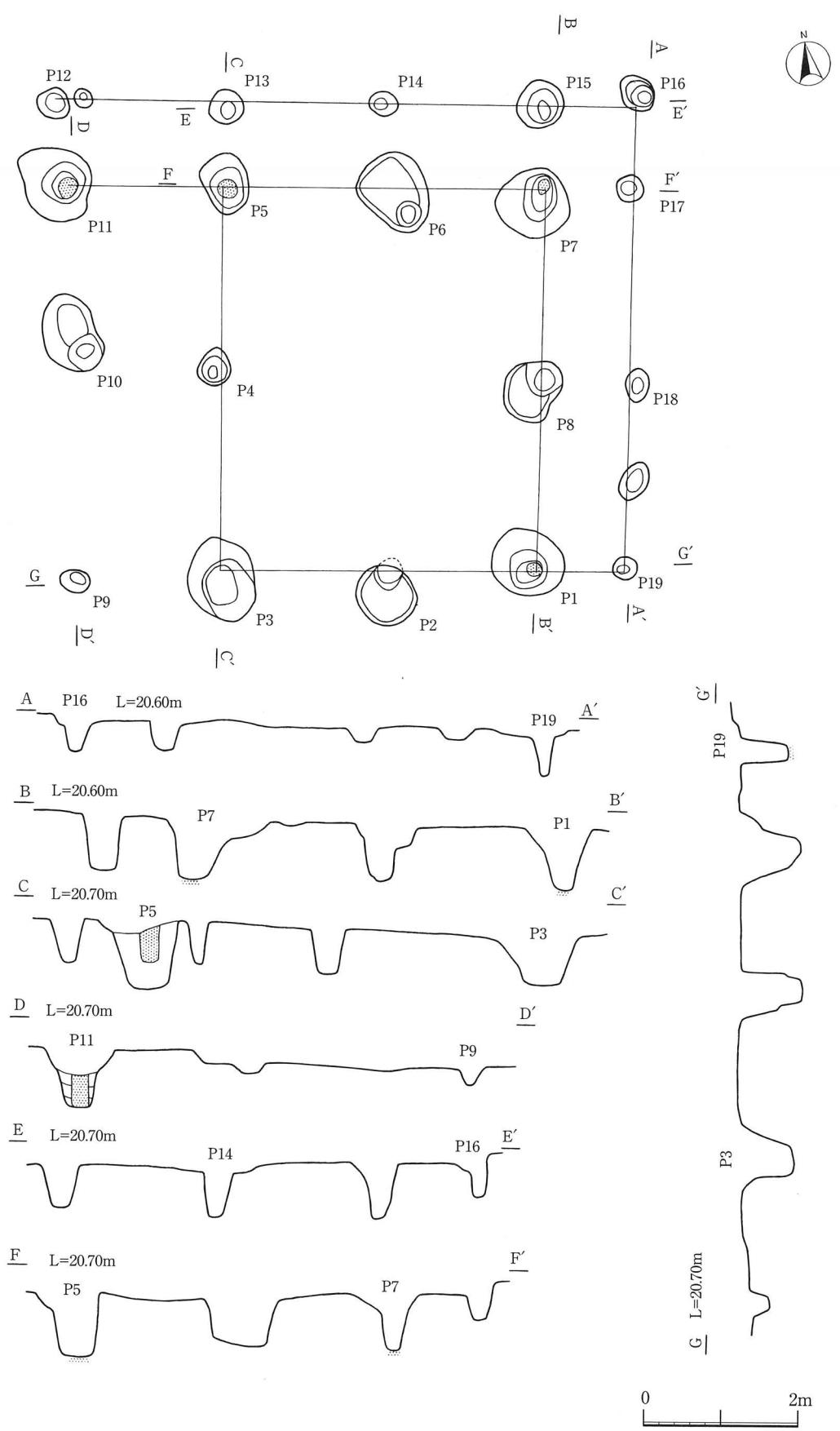
3. 中世以降

該期の遺構は掘立柱建物跡7棟、礎石建物跡1棟、方形堅穴遺構10基、地下式壙29基、火葬墓7基、土坑約560基、道・溝16条、柱穴約400本、テラス状遺構2箇所である。出土遺物は原則として種類ごとにまとめて最後に掲載した。(最後に掲載したものと同じものが遺構図中に数点再掲載してある。)

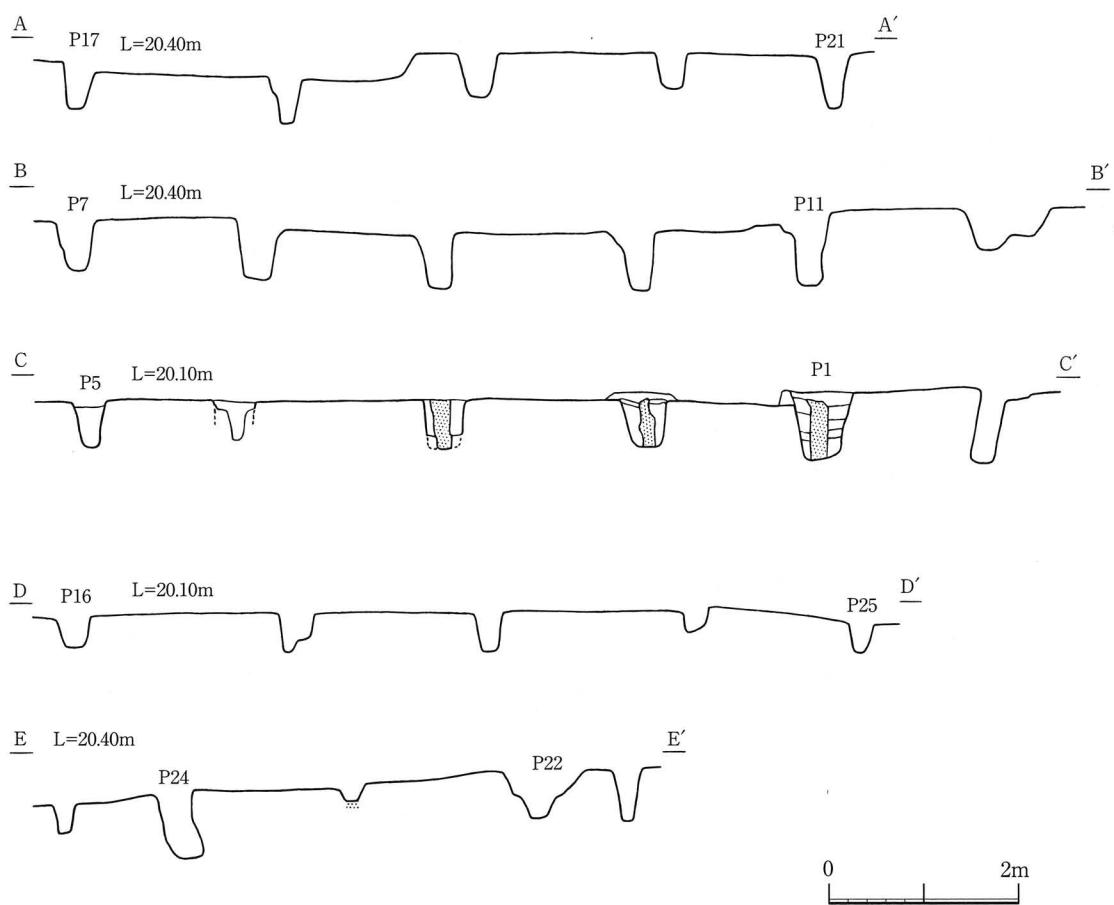
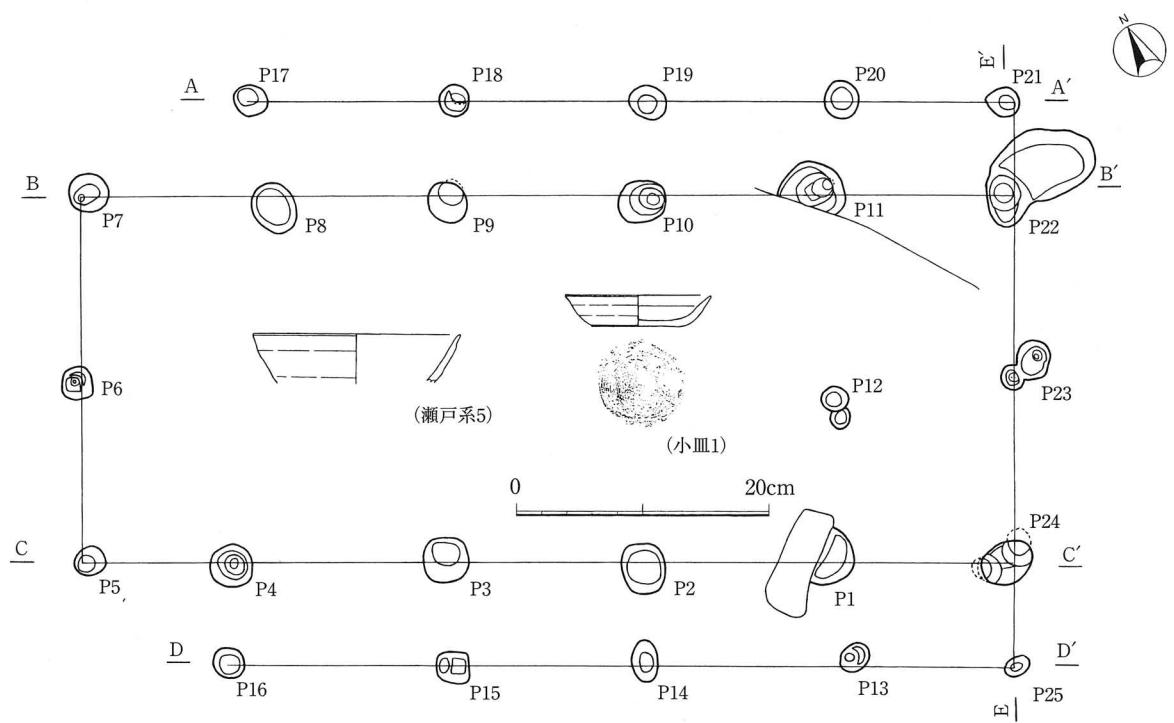
(1) 掘立柱建物跡

神出遺跡の緩斜面上に数多く残された柱穴状ピットの内掘立柱建物跡として認識できたものは8棟である。分布状況は遺跡の西の標高20m付近に3棟、遺跡の中央部から東部の標高20m付近に5棟である。

なお、遺構番号の欠番は9号掘立柱建物跡の一部分と礎石建物跡につけた番号を整理時に削除したため生じたものである。



第60図 神出遺跡1号掘立柱建物跡



第61図 神出遺跡 2号掘立柱建物跡

1号掘立柱建物跡（第60図・写真図版10）

梁行2間、桁行3間の建物である可能性が考えられる。しかし遺構確認面の南西部が粘土とロームの整地土層で、さらに西側に庇ないし縁の柱列が延びる可能性がある。北側と東側が建物に向かって傾斜する地形で閉じているため庇列のない南側が正面となると推測され、主軸はN-12°-Eを示す。柱間は梁行方向で2.5m、桁行方向で2.1m、庇ないし縁は母屋柱列から1.2m離れ、主柱列と対応した列上に主柱穴よりもより細い掘り方で掘られている。

2号掘立柱建物跡（第61図・写真図版10）

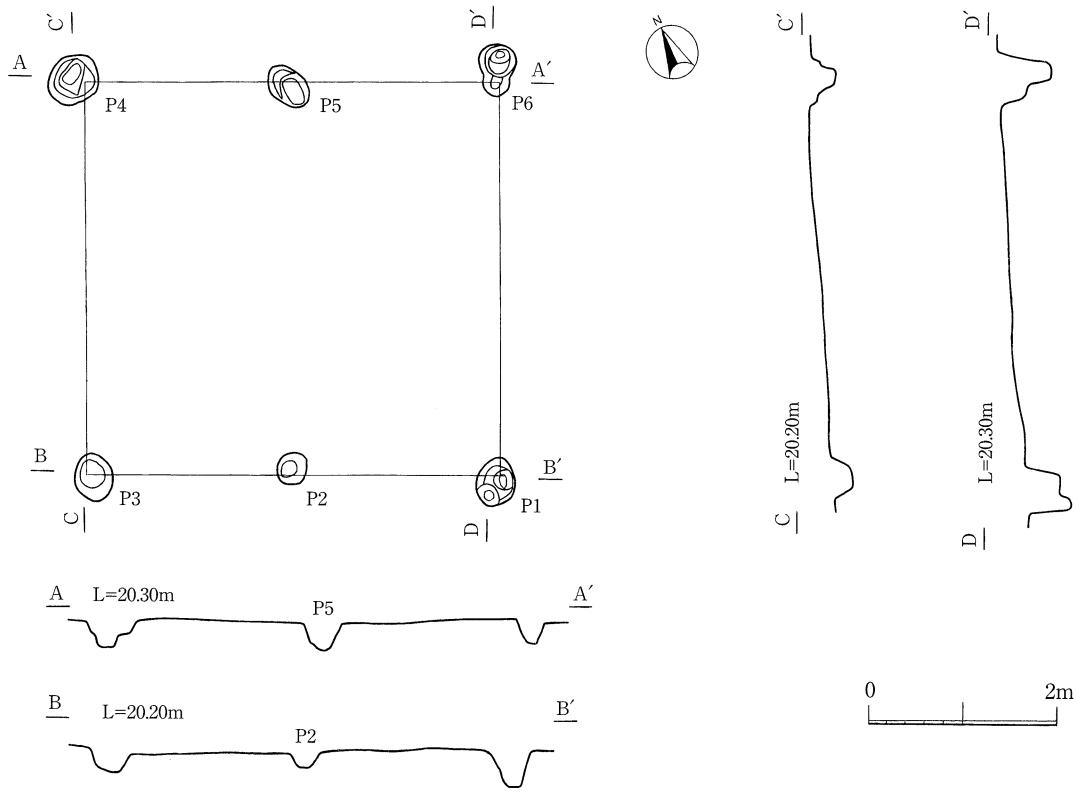
梁行2間、桁行5間の東西に長い建物で南北にそれぞれ4間の庇様の柱列が付く。南を正面と考えた場合、主軸はN-32°-Eを示す。柱間は南北の桁列を東側から見ていくと、南北列とも2.1m、1.8m、2.1m、4間目は北列が1.8m 南列が2.3m、5間目が北列2.1m、南列1.6mである。梁行は1.9~2.0mである。庇列は南側列が、1.8m、2.1m、2.1m、2.4m、北側列が1.8m、2.1m、2m、2.3mである。古墳時代の9号住居跡と重複し、同住居跡の床を掘り込んでいる。柱穴のP1~P4は柱痕が明瞭で周囲の詰め土も褐色土と暗褐色土のやや不明瞭な互層となっている。出土遺物はP9の埋没土中から古瀬戸平椀片、P2から土師質土器小皿が出土している。

3号掘立柱建物跡（第62図）

梁行1間、桁行2間の建物で、南を正面と考えた場合、主軸はN-21°-Eを示す。柱間は南北の梁行4.2m、桁行2.1~2.3mで、ほぼ方形である。

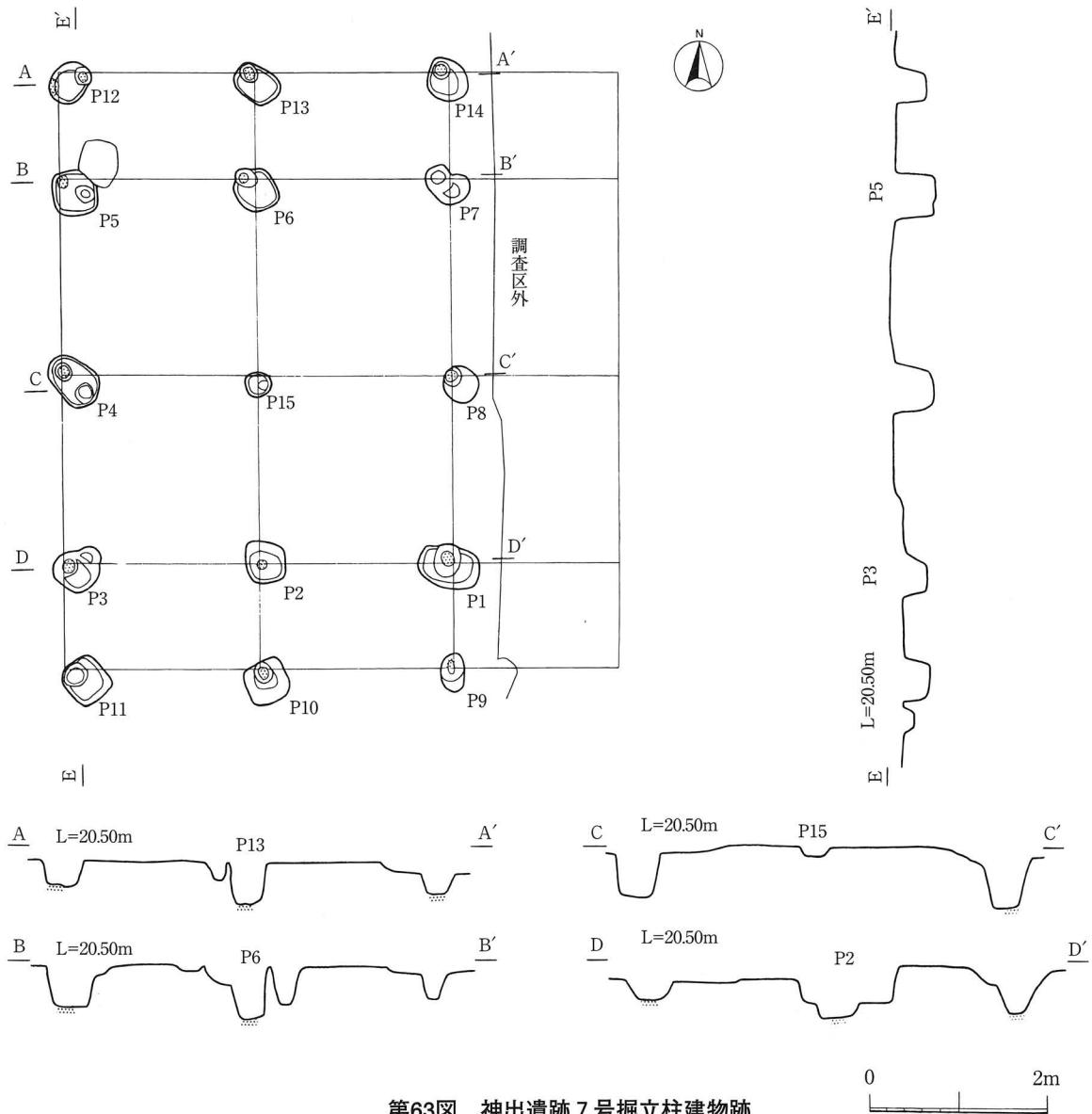
7号掘立柱建物跡（第63図）

I 9・10グリッドに位置する。遺構確認面表層に焼土、炭化物が広範囲に分布しており、焼失家屋と判断される。1号礎石建物と重複関係にあり、1号礎石建物が新しい。同建物とは北面の柱筋及び南北軸を揃えており、強い相互関連が窺われる。平面形式は、柱穴が調査区外へ更に延びている可能性が高く不確定であ



第62図 神出遺跡3号掘立柱建物跡

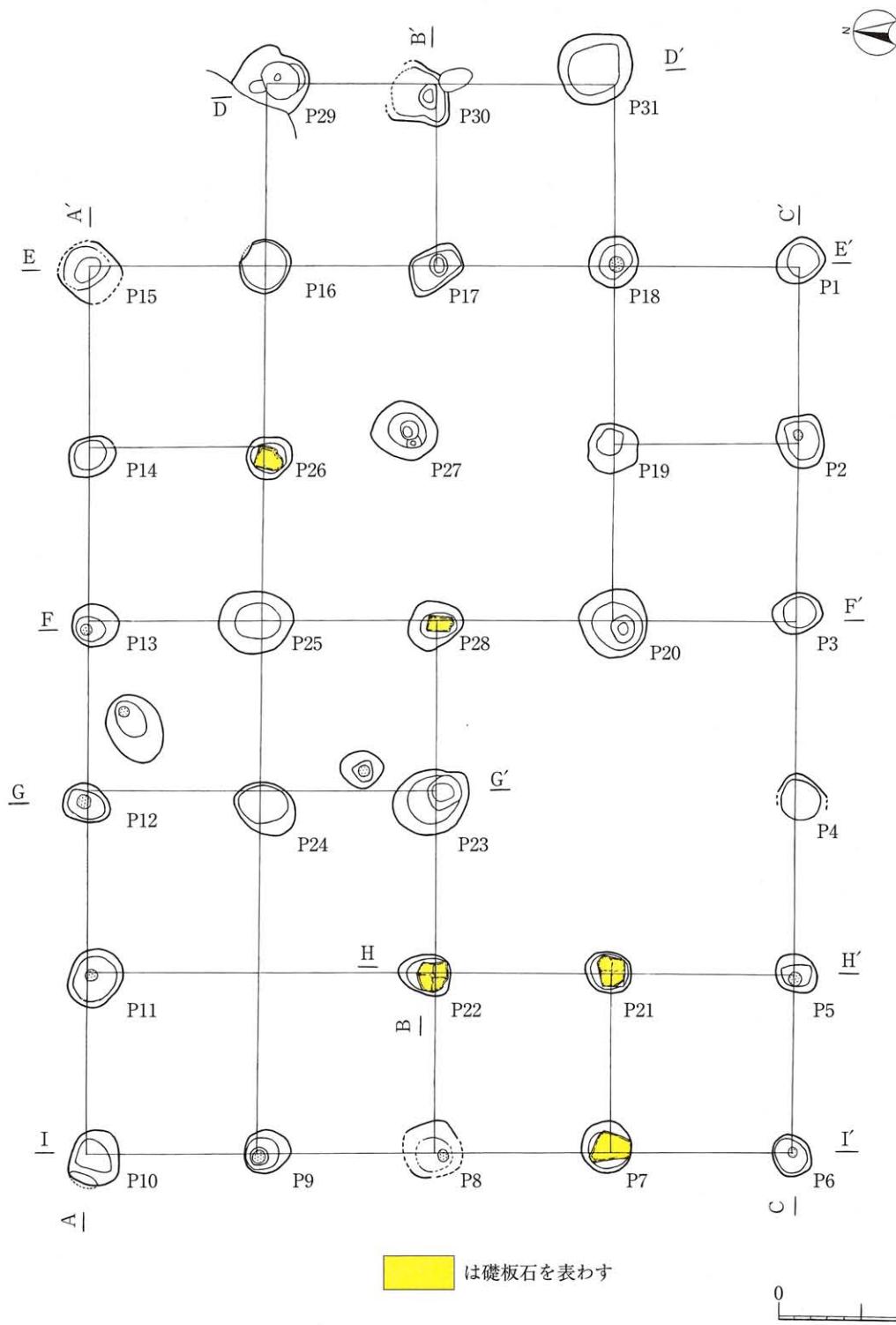
るが、現状では南北軸がほぼ正方位を示す東西2間（4.20m）、南北2間（4.20m）の総柱建物で、南北に庇が付いている。柱間寸法は母屋が2.10m（7尺）の等間、庇の出は南北とも1.20m（4尺）であり、西側柱列（P3～5・11・12）の掘形内には、柱筋に近接して床桁の束柱と推察される柱痕が確認されている。



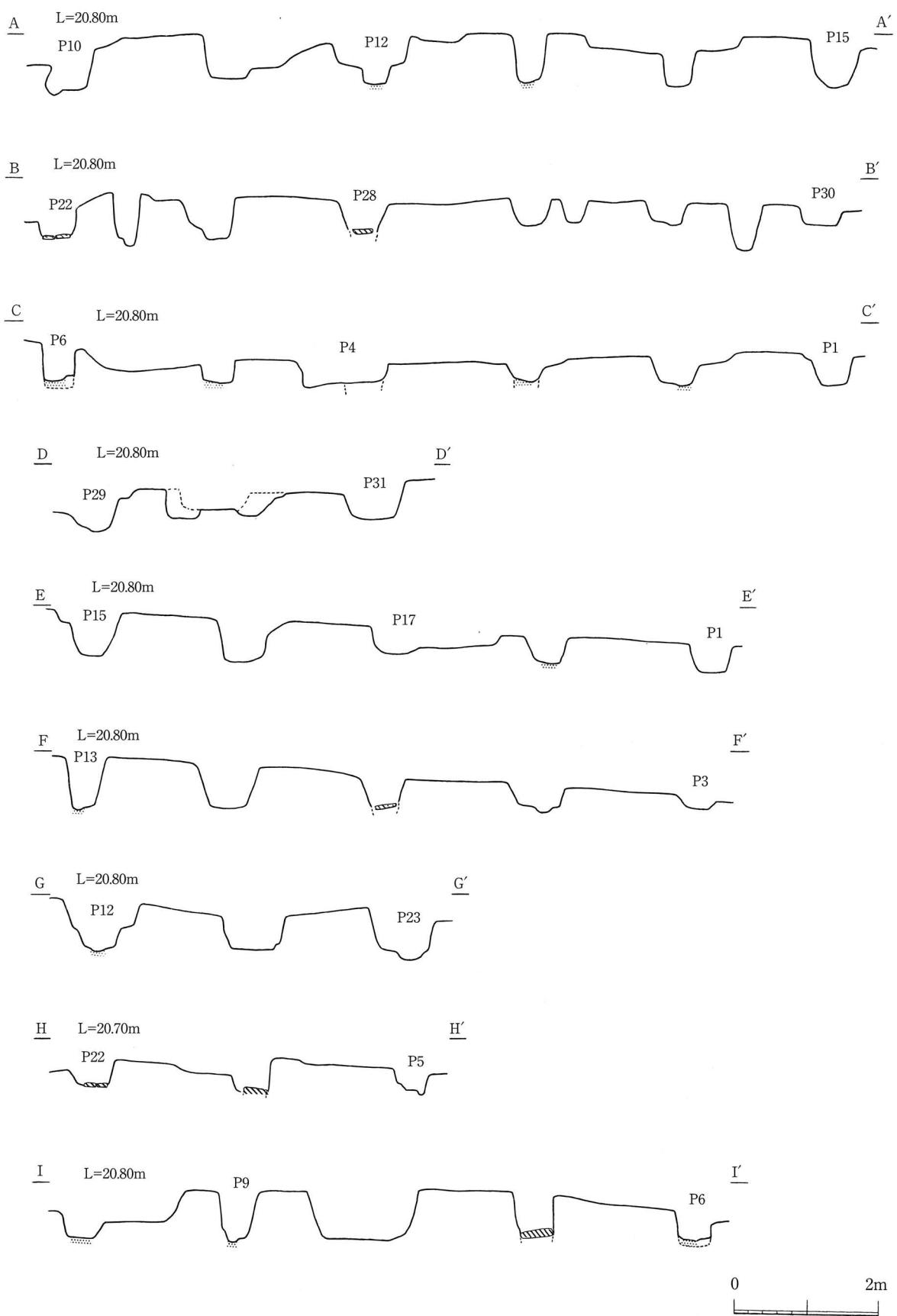
第63図 神出遺跡7号掘立柱建物跡

9号掘立柱建物跡（第64・65図・写真図版10）

柱穴群の中で大きくしっかりとした掘り方を持った一群に注目して、柱穴間の距離と方向の検討を行っていくと、ほぼ2.1mの柱間、N-2°-Wの傾きを示す一群が遺跡の中央部に存在する。規模は4間×5間で、東側に2間×1間分張り出しの付いた東西方向に長い建物となる。柱掘り方は径50cm前後で平面形は方形気味である。底面に礎板状の板石を入れている柱穴が5箇所（P7, 21, 22, 26, 28）あり、礎板状の石は1辺30～40cm、厚さ5cm程の大きさの雲母片岩である。礎板石は内区で4か所残存し、P21・22は柱の荷重で板石に十字のひびが入っていた。他のピットにも礎板石を入れていたかどうか捉えられなかったが、覆土から雲母片岩の破片の出土した柱穴もありその可能性がある。外区列では底面に柱あたりのやや汚れた硬化部を残



第64図 神出遺跡 9号掘立柱建物跡(1)



第65図 神出遺跡 9号掘立柱建物跡(2)

す柱穴が9か所確認され、1か所（P7）だけ礎板石を入れていた。P27は柱筋が通らず、P4とP23の間には柱穴はなかった。他遺構との切り合い関係は、P4が3号火葬墓より古く、4号溝はP11とP22の間にあったと考えられる柱穴を壊している。10号竪穴と重複し先後関係がある。出土遺物は、P24から常滑甕の小片が出土している。

10号掘立柱建物跡（第67図・写真図版10）

遺跡の中央部、柱穴群や竪穴遺構の密集する地域に、平面方形の東西棟を確認した。規模は梁行2間、桁行3間を確認し、梁行方向柱間約1.9m、桁行方向柱間約2.0mである。南北方向柱列を南から見てN-27°-Eの傾きを示し、11号掘立柱建物跡と軸線を同じくする。重複関係は、P9が551号土坑よりも新しい。

11号掘立柱建物跡（第66図・写真図版10）

1間×1間の方形で、柱穴規模は径30～40cm、柱間は東西方向2.5m、南北方向2.3mである。南北軸線N-27°-Eの傾きで10号掘立柱建物跡と位置や向きの点で関連が考えられる。

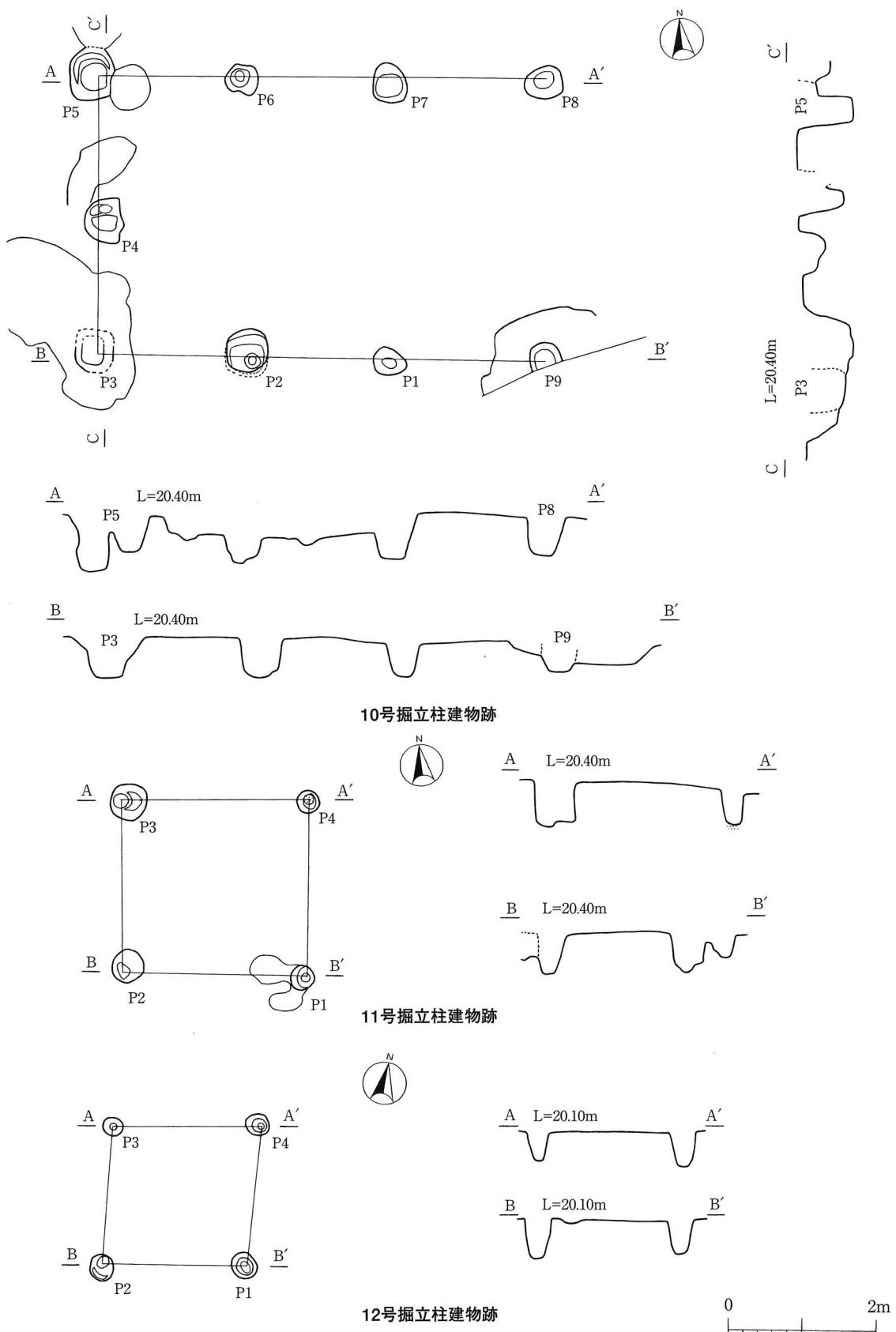
12号掘立柱建物跡（第66図・写真図版10）

1間×1間の方形で、柱穴規模は径約30cm、柱間は東西方向1.9～2.0m、南北方向1.83mである。南北軸線N-3°-Wの傾きで、礎石建物に関連すると考えられる地形の削平・整地の範囲内に立っている。

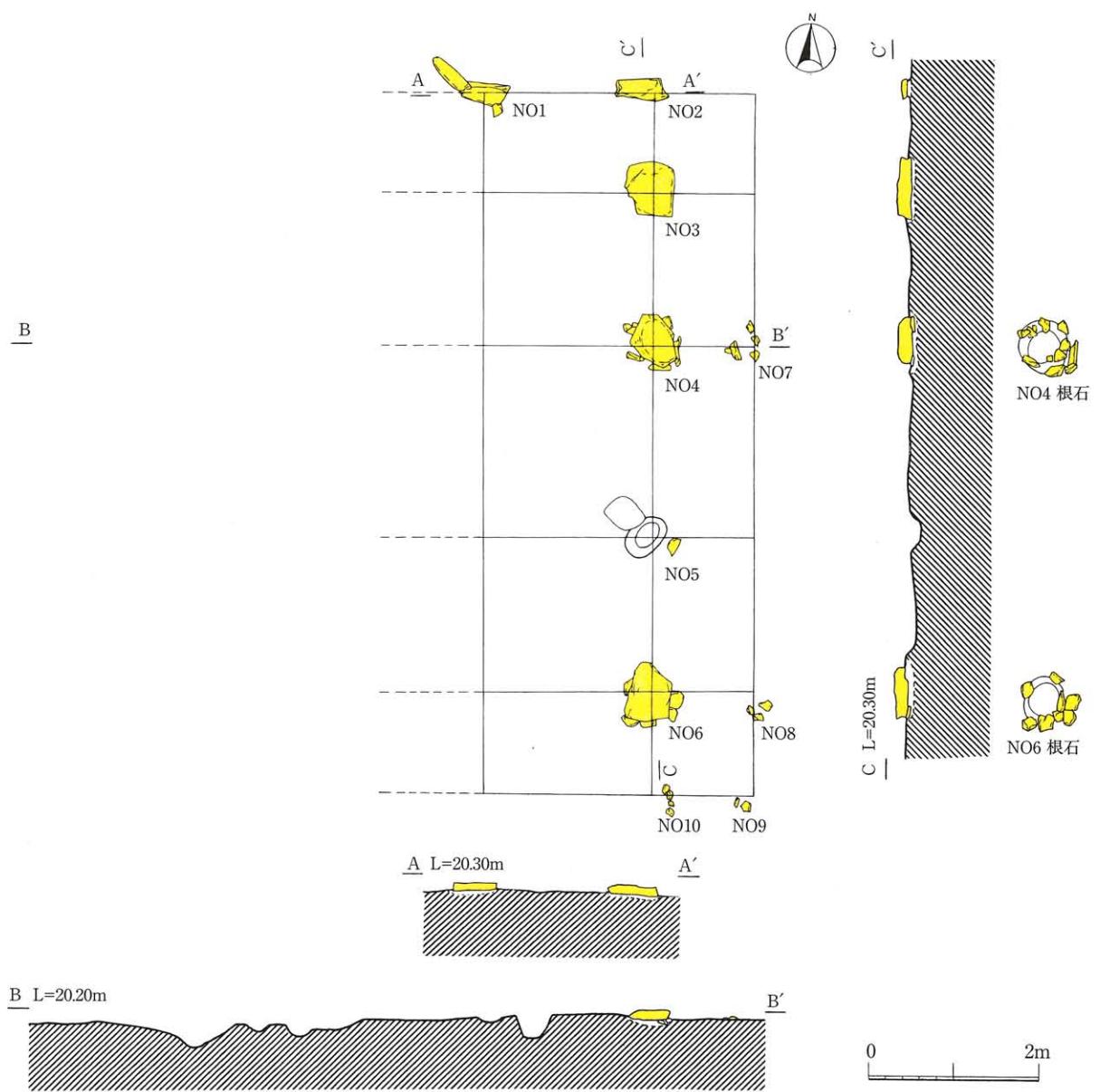
（2）1号礎石建物跡（第67図・写真図版11）

I9～I10グリッドに位置する。後世の遺構（10・12号溝等）や攪乱等によって、遺構の西側大半が削平されており、遺存する礎石と根石は図示したNo1～10までである。この礎石は筑波石を加工した物であり、礎石上には柱位置が確認されなかった。したがって、平面形式や柱間寸法は定かではなく、柱の据え方は「石場建て柱」ではなく「石置土台」であったかもしれない。

南北軸がほぼ正方位を示す東西2間以上、南北3間（6.30m）の総柱建物で、石束列が西面を除く3面に部分的に確認されている。この石束は庇もしくは縁束（濡れ縁）と考えられ、本来は4面に配されていた可能性が高い。間口と奥行については不明瞭であるが、東柱列の中央間（No4～5）を両脇より30cm（1尺）広く取っており、一つの可能性として東面を間口、東西列を奥行として考えられる。柱間寸法はNo4～5が2.40m（8尺）、他は2.10m（7尺）の等間であり、石束の出は1.20m（4尺）と推察される。時期は不明瞭であるが、前述した事実関係と7号掘立柱建物の調査状況より、本建物は7号掘立柱建物が焼失した後に礎石建物として再構築されたものと推察される。



第66図 神出遺跡10~12号掘立柱建物跡



第67図 神出遺跡 1号礎石建物跡

(3) 柱穴群 (第68図・写真図版21)

本遺跡の中央部は緩やかな馬の背状の尾根地形で南・北それぞれの側に下る傾斜地形となっている。南側の緩斜面の標高20.5m 地点から標高20m 弱地点は比較的平坦で、南北幅20m 弱、東西幅55m の平場となっている。方眼グリッドでは、J 5～J 9、H 5～H10グリッドの地点に当たる。この平坦な地形上には総数約400本の柱穴状ピットがあいている。調査時に柱穴列として捉えられた掘立柱建物跡4棟以外に、掘立柱建物跡が存在した可能性は大きい。そこで、この地域の柱穴群の図面と遺跡内で確認されたすべての柱穴の計測表を掲載する。柱穴から出土している遺物はP629からかわらけ、P631から砥石、P930から青磁片が出土している。P629出土かわらけは強い火熱を被っており、古瀬戸片や他の遺構出土のかわらけに見られた強い火を受けた痕跡と共通している。この焼けたかわらけは柱穴を掘って柱を立てた際にに入ったか、建物の倒壊や柱の抜き取り等の後に入ったかのどちらかと考えられるので、この柱穴を掘る以前か柱穴が機能しなくなる前にこの一帯は火災にあっている可能性がある。

柱穴一覧表 (1)

番号	位置	長径×短径×深さ(cm)	出土 遺 物
1	E 4	38×32×30	
2	E 4	37×34×32	
3	E 4	55×36×36	
4	E 5	46×42×15	
5	E 5	34×34×44	
6	E 5	35×33×34	
7	E 5	55×40×44	
8	E 6	39×33×27	
9	E 8	40×32×36	
10	E 8	45×40×46	
11	E 8	33×25×52	
12	E 8	35×32×32	
13	E 8	35×35×54	
14	E 8	20×18×54	
15	E 8	30×25×41	
16	F 8	34×32×31	
17	F 8	57×45×62	
18	F 8	52×41×46	
19	E 8	30×28×30	
20	F 4	27×25×37	
21	F 4	28×23×20	
22	F 4	37×35×35	
23	G 4	36×21×26	
24	G 4	25×25×13	
25	G 5	17×17×26	
26	F 5	24×19×18	
27	F 5	44×36×40	土師器片(古墳)
28	F 5	24×20×21	
29	G 5	45×39×36	
30	G 5	37×33×55	
31	G 6	30×23×26	
32	G 6	43×32×27	
33	G 6	52×28×26	かわらけ、土師器小片(古墳)
34	G 6	23×22×23	
35	G 6	19×18×14	
36	G 6	33×22×15	
37	G 7	35×18×49	
38	G 7	40×25×23	
39	G 7	44×34×20	
40	F 7	26×20×29	
41	F 7	31×20×17	
42	G 7	25×24×23	
43	G 6	46×34×16	
44	F 7	34×28×12	
45	F 7	24×20×34	

番号	位置	長径×短径×深さ(cm)	出土 遺 物
46	F 6	30×25×33	
47	F 6	35×30×27	
48	F 6	21×21×36	
49	F 6	18×16×22	
50	G 6	25×21×15	
51	G 6	39×32×10	
52	G 6	25×22×16	
53	G 6	25×21×14	
54	G 7	20×19×15	
55	G 7	24×23×13	
56	G 7	28×27×32	
57	F 7	27×25×33	
58	F 7	28×27×28	
59	F 7	25×21×14	
60	F 7	31×27×32	
61	F 7	31×27×24	
62	F 7	30×26×62	
63	G 7	44×36×17	
64	G 7	23×22×29	
65	G 7	33×26×20	
66	G 7	33×27×23	
67	G 7	59×37×17	
68	G 7	40×36×15	
69	G 7	40×36×25	
70	G 7	30×28×29	
71	G 7	29×26×24	
72	G 7	27×23×36	
73	G 7	28×27×18	
74	G 6	32×24×32	
75	G 6	49×43×39	
76	G 6	32×29×19	
77	G 6	46×40×39	
78	G 6	40×33×28	
79	G 6	39×38×30	
80	G 7	34×26×22	
81	R 2	40×27×28	
82	Q 2	20×19×53	土師質土器小皿(図No12)
83	Q 3	18×17×37	
84	Q 3	29×18×27	
85	Q 2	27×24×37	
86	Q 2	26×23×15	
87	Q 2	34×26×61	
88	Q 3	29×28×93	
89	O 2	24×18×45	
90	O 2	18×15×42	

柱穴一覧表（2）

番号	位置	長径×短径×深さ(cm)	出土遺物	番号	位置	長径×短径×深さ(cm)	出土遺物
91	O3	46×24×25		156	M2	42×33×44	
92	N3	38×30×21		157	M2	32×26×23	
93	O2	24×21×20		158	M2	24×19×14	
94	L1	29×24×24		159	M2	32×27×-	
95	L1	32×31×26		160	M2	27×25×6	
96	L1	46×37×77		161	M1	37×29×18	
97	L1	35×24×72		162	M1	27×26×16	
98	L1	29×25×30		163	M1	26×25×10	
99	L1	30×25×46		164	M2	28×26×-	
100	L1	46×41×38	S B3-P3	165	M2	34×32×19	
101	L1	27×22×9		166	M2	23×20×19	
102	M1	26×25×19		167	M2	33×25×21	
103	L2	39×33×35		168	M2	28×25×13	
104	L2	56×49×28		169	N2	30×23×14	
105	L2	53×30×59		170	N2	18×17×15	
106	L2	36×33×-		171	M1	33×29×8	
107	L2	29×26×15		172	M1	49×32×32	
108	L2	29×25×48		173	M1	29×28×18	
109	L2	53×35×31	S B3-P5	174	M1	23×22×9	
110	L2	38×29×53		175	M1	32×18×12	
111	L2	40×38×45		176	M1	42×36×39	
112	L2	39×37×33		177	M1	25×19×37	土師器細片(平安)の混入
113	L2	26×24×15		178	M1	40×26×45	
114	L2	36×34×40		179	N1	27×23×26	
115	L2	33×27×11		180	M1	34×30×15	
116	L2	56×44×33		181	M1	30×24×29	
117	L2	55×51×25		182	M1	23×18×20	
118	L2	39×33×58	S B3-P6	183	M1	24×23×19	
119	L2	41×30×-		184	M1	54×46×21	
120	L2	35×30×64		185	M1	27×26×13	
121	L2	26×28×20		186	M1	30×25×23	
122	L2	47×33×36		187	M1	36×28×27	
123	L1	25×22×25		188	M1	24×22×-	
124	L2	36×35×60		189	M1	25×24×-	
125	L2	36×35×37	土師器片(平安)、土錘	190	M1	39×32×18	
126	L2	50×44×65		191	M1	27×24×10	
127	L2	32×28×21		192	M1	20×19×-	
128	M2	59×55×48		193	M1	40×34×19	
129	L2	38×33×7		194	M1	25×18×18	
130	M2	59×51×18		195	M1	22×16×17	
131	L2	40×35×69		196	N1	42×36×-	
132	L2	40×32×40		197	N1	60×50×48	
133	M1	44×38×26		198	N1	24×21×9	
134	L1	32×28×30		199	N2	27×25×27	
135	M1	42×32×53		200	N2	25×18×-	
136	M1	23×21×16		201	N2	26×25×13	
137	M1	30×25×21		202	N2	38×35×10	
138	M1	31×25×27		203	N2	45×36×8	
139	M1	35×33×40		204	N1	33×27×-	
140	M1	37×27×18		205	N2	45×35×25	
141	M2	42×38×24		206	N3	30×26×10	
142	M2	36×28×6		207	N2	36×32×17	
143	M2	40×36×14		208	N3	34×25×23	
144	M2	32×31×10		209	N3	37×34×12	
145	M2	28×27×9		210	N2	41×29×16	
146	M2	41×30×9		211	M2	49×36×11	
147	M2	31×30×30		212	M2	24×23×26	
148	M2	43×30×-		213	M2	29×27×24	
149	M2	33×18×7		214	M2	24×24×19	
150	M2	27×24×-		215	M2	52×35×12	
151	M2	34×30×36		216	M2	34×32×10	
152	M2	42×30×42		217	N2	38×31×-	
153	M2	38×28×16		218	N2	68×38×65	
154	M2	40×38×20		219	N2	48×24×15	近世陶磁器片
155	M2	37×33×36		220	N2	34×27×13	

柱穴一覧表（3）

番号	位置	長径×短径×深さ(cm)	出土遺物
221	N2	62×34×17	
222	N2	28×24×-	
223	M2	32×31×23	
224	M2	34×27×19	
225	M2	32×27×14	
226	M2	44×34×20	
227	M2	27×27×24	
228	M2	21×20×29	
229	M2	44×34×9	
230	M4	32×29×32	
231	M4	28×24×16	
232	M5	35×29×45	
233	M5	22×18×32	
234	-	-	
235	L4	38×24×27	
236	L4	30×26×65	
237	-	-	
238	K4	39×35×27	
239	K4	57×48×41	
240	-	-	
241	-	-	
242	-	-	
243	-	-	
244	-	-	
245	-	-	
246	-	-	
247	-	-	
248	-	-	
249	-	-	
250	N4	42×34×46	
251	O2	46×31×18	
252	P1	38×27×15	
253	P1	30×28×32	
254	M1	42×38×-	
255	M1	39×37×-	
256	-	-	
257	L2	27×20×21	
258	M1	30×25×28	S I 6-P 10
259	J7	38×30×14	
260	J7	24×21×10	
261	L7	52×34×25	繩文土器片、土師器細片(古墳)
262	I8	48×43×35	土師器甕片(古墳)
263	I8	73×71×50	土師器細片(古墳、平安)
264	I8	39×31×74	
265	I8	52×51×53	
266	I8	23×20×34	
267	I8	28×25×30	
268	I8	20×18×62	
269	I8	32×19×60	
270	-	-	
271	-	-	
272	-	-	
273	-	-	
274	M7	43×36×38	
275	J8	29×25×26	古瀬戸平椀片
276	L8	38×34×55	
277	L8	40×38×47	
278	I4	40×37×31	土師器小片(古墳)
279	H4	47×46×-	
280	H6	23×23×51	土師器小片(古墳)
281	I6	65×59×63	S B9-P 16
282	I6	32×27×20	内耳鍋片
283	I6	45×36×44	土師器細片(古墳、平安)
284	I6	63×54×40	土師器細片、常滑片
285	I6	40×37×33	土師器細片

番号	位置	長径×短径×深さ(cm)	出土遺物
286	I7	30×29×40	土師器細片
287	I7	50×43×54	土師器細片
288	I7	32×25×17	常滑片
289	I6	55×39×45	
290	I6	31×24×46	土師器小片
291	-	-	鉄釉天目椀片
292	I8	26×26×23	土師器坏片(古墳)
293	I6	49×41×28	須恵器片転用土製品(平安)
294	I6	41×26×-	土師器細片
295	I6	74×68×34	S B9-P 30
296	I6	25×23×40	
297	-	-	
298	-	-	
299	I4	23×17×58	
300	H4	44×30×35	土師器小片
301	H4	43×31×44	常滑片(押印文)13世紀中頃内耳鍋片
302	H5	52×45×-	土師器坏片(古墳)、平面形四角
303	I6	24×22×39	土師器片(古墳、平安)、黒色土器
304	H6	43×33×49	
305	-	-	常滑片
306	H6	42×32×41(34)	土師器細片
307	H6	35×31×27	不明土製品
308	H5	32×30×55	土師器小片(古墳)
309	I6	51×39×42	土師器細片
310	I6	29×28×-	土師器細片
311	I6	38×28×-	土師器小片(平安)
312	I6	44×43×44	土師器細片、土玉
313	K7	49×45×112	
314	K8	43×36×-	
315	-	-	土師器小片
316	K8	25×23×15	
317	K8	51×56×20	
318	K8	40×35×43	土師器細片、灰釉椀細片
319	K8	25×23×22	
320	K8	26×23×36	
321	-	-	
322	K8	22×17×33	
323	K8	25×18×24	
324	K8	25×24×20	
325	-	-	
326	-	-	
327	-	-	
328	-	-	
329	-	-	
330	-	-	
331	-	-	
332	-	-	
333	-	-	
334	J8	32×27×49	
335	J8	27×24×44	
336	J8	25×21×45	斜向、須恵器片
337	J8	24×18×27	
338	J8	33×30×30	
339	J8	33×30×30	
340	I9	36×35×5	
341	I7	26×25×28	
342	I7	46×44×56	
343	I7	30×23×33	
344	I7	29×21×30	
345	I7	31×19×26	
346	I7	35×-×29	
347	I7	36×26×44	
348	I7	76×70×80	
349	I7	30×26×21	
350	I8	36×33×36	

柱穴一覧表（4）

番号	位置	長径×短径×深さ(cm)	出土遺物	番号	位置	長径×短径×深さ(cm)	出土遺物
351	I 9	36×27×24		416	H 4	61×36×30	
352	G 4	65×46×22	平面形四角	417	H 4	44×43×33	
353	G 4	30×32×18		418	H 4	27×23×10	
354	—	—	平面形四角	419	H 4	45×35×19	
355	G 4	50×—×13	平面形四角	420	H 4	48×35×42	
356	G 4	52×43×11		421	H 4	44×31×35	
357	G 4	44×30×24		422	H 4	35×25×27	
358	G 4	50×42×27		423	I 4	28×25×34	斜向
359	G 4	41×38×36		424	I 4	30×25×4	
360	G 4	25×24×13		425	H 4	36×30×—	
361	G 4	51×34×17		426	H 4	28×25×35	
362	G 4	31×29×18		427	H 4	68×52×39	
363	G 4	54×46×23		428	G 4	—×28×—	
364	G 4	28×24×—		429	H 5	60×43×51	
365	G 4	32×23×49		430	H 5	25×23×39	
366	G 4	21×18×—		431	H 5	36×23×57	
367	H 4	—×34×13	平面形四角	432	H 5	81×68×49	
368	H 4	35×22×49		433	H 5	56×41×46	
369	H 4	25×15×36		434	H 5	55×39×48	
370	G 4	42×30×24	斜向	435	—	—	
371	G 4	46×30×44		436	H 5	41×37×37	
372	G 4	24×25×56		437	G 5	27×27×14	
373	G 4	22×21×55		438	G 5	35×21×13	
374	G 4	20×18×60		439	G 5	52×45×16	
375	G 4	30×22×43		440	G 5	40×28×18	
376	H 4	19×18×37		441	H 5	25×21×32	
377	H 4	25×21×46		442	H 5	33×24×23	
378	H 4	52×43×53		443	G 5	37×36×29	斜向
379	H 4	54×48×15		444	G 5	44×32×17	
380	H 4	27×27×41		445	H 5	34×29×13	
381	H 4	31×29×—		446	H 5	37×31×28	
382	H 4	56×40×—		447	H 5	26×24×29	
383	H 4	36×33×—		448	G 5	27×23×18	
384	H 4	31×27×—		449	G 5	30×28×28	
385	H 4	25×24×—		450	G 5	29×27×16	
386	H 4	25×22×—		451	H 5	51×39×62	
387	H 4	50×39×—		452	H 5	48×36×20	
388	—	—	平面形四角	453	H 5	30×23×44	
389	H 4	23×19×—		454	H 5	25×22×17	
390	G 4	44×39×18	平面形四角	455	H 5	40×28×25	
391	G 4	47×43×57		456	H 5	41×38×—	
392	G 4	36×—×36		457	H 5	26×24×19	
393	G 5	28×25×23	斜向	458	H 5	35×28×64	
394	G 4	30×26×20		459	H 6	48×40×43	
395	H 4	22×21×9		460	I 6	54×36×39	
396	H 5	31×21×11		461	H 6	31×23×13	
397	H 5	60×47×37		462	I 6	56×46×46	
398	H 5	18×14×28		463	H 6	23×19×26	
399	H 5	29×28×23		464	H 6	63×57×30	平面形四角
400	H 5	29×16×14		465	H 6	25×23×51	
401	H 5	32×30×20		466	H 6	49×37×35	平面形四角
402	G 5	16×15×22		467	H 6	32×27×52	平面形四角
403	G 5	84×69×37		468	H 6	54×34×24	
404	G 5	35×34×22		469	H 6	30×22×28	
405	G 5	36×29×20		470	H 6	59×51×53	
406	G 5	34×31×21		471	H 6	28×23×48	
407	G 5	54×45×15		472	H 6	32×27×23	
408	H 5	39×38×18		473	—	—	
409	H 5	39×35×35		474	H 6	30×29×—	
410	H 5	33×30×—		475	H 6	32×15×—	
411	—	—		476	H 6	32×25×26	
412	H 5	28×19×15	平面形四角	477	H 6	31×25×21	
413	H 4	22×21×39	平面形四角	478	H 6	28×23×56	
414	H 4	32×31×37		479	I 6	32×29×39	
415	H 4	27×24×15	平面形四角	480	H 6	40×30×38	平面形四角

柱穴一覧表（5）

番号	位置	長径×短径×深さ(cm)	出土遺物
481	H 6	33×32×58	平面形四角
482	I 4	23×22×42	
483	I 6	32×20×54	
484	I 4	35×29×28	
485	I 6	41×31×32	土師器小片（古墳）
486	I 4	40×31×27	平面形四角
487	I 4	20×19×38	
488	I 4	23×18×33	
489	I 4	58×—×63	同一番号 I 6 にあり
490	I 4	75×46×32	斜向
491	I 6	48×42×66	
492	I 5	32×25×35	
493	I 5	30×24×30	
494	I 5	55×—×66	
495	I 5	35×25×60	
496	I 6	34×27×32	
497	I 6	32×28×60	
498	I 6	36×34×40	
499	I 6	41×36×38	
500	I 6	21×19×38	
501	I 6	25×22×52	
502	I 6	41×32×42	
503	I 6	44×38×54	
504	I 6	29×21×23	
505	I 6	32×26×11	
506	I 6	29×17×—	
507	I 6	33×33×24	
508	I 6	33×31×62	
509	I 6	36×29×47	
510	I 6	35×34×53	
511	I 7	43×35×46	
512	I 7	37×36×50	
513	I 7	45×40×59	
514	I 6	32×29×55	
515	I 6	46×28×23	
516	I 6	80×57×37	
517	I 7	78×49×46	
518	I 7	34×30×35	
519	I 7	40×39×72	
520	I 6	35×34×34	
521	I 6	43×34×24	
522	I 7	22×13×35	
523	I 7	31×26×53	
524	I 7	23×12×—	
525	I 6	31×27×10	
526	I 6	30×27×54	
527	I 6	50×36×	土師器小片（古墳）
528	I 6	19×16×—	
529	I 6	33×25×30	
530	I 6	54×35×—	平面形四角
531	I 6	43×34×15	
532	I 6	32×36×—	
533	I 6	31×31×61	斜向柱
534	I 6	32×23×55	
535	I 6	50×48×70	土師器小片（古墳）
536	I 6	43×38×52	
537	I 6	30×26×37	
538	I 6	38×21×42	
539	I 6	34×29×51	
540	I 6	26×22×17	
541	I 6	20×13×37	
542	I 6	26×21×50	
543	I 6	32×28×54	
544	I 6	60×53×67	
545	I 6	23×22×35	平面形四角

番号	位置	長径×短径×深さ(cm)	出土遺物
546	I 6	60×53×29	
547	I 6	25×24×35	平面形四角
548	I 7	52×43×47	
549	I 7	54×37×65	
550	I 7	40×32×50	
551	I 7	48×38×73	斜向柱
552	I 7	50×43×24	
553	I 7	32×27×30	
554	I 7	25×24×42	
555	I 7	40×34×15	
556	I 7	31×26×14	
557	I 7	31×26×32	
558	I 7	36×—×26	
559	I 7	32×25×45	
560	I 7	44×30×41	
561	I 7	43×43×27	
562	I 7	38×34×49	
563	H 7	70×58×76	S B10-P5、平面形四角
564	H 7	35×26×20	
565	H 7	32×25×47	
566	H 7	31×21×41	
567	H 6	43×31×39	
568	H 6	30×30×30	
569	H 6	54×40×35	
570	H 6	61×63×—	
571	—	—	
572	H 6	41×38×37	
573	H 6	39×32×24	
574	L 10	67×36×23	
575	L 10	51×40×48	
576	L 10	37×32×29	
577	L 10	41×37×35	
578	H 6	24×22×52	斜向
579	L 10	37×34×13	
580	L 10	50×45×38	
581	L 10	44×40×7	
582	L 10	55×41×34	
583	L 10	34×35×59	斜向
584	L 10	31×—×40	
585	L 10	37×27×—	
586	L 10	32×36×32	
587	L 10	28×26×23	
588	K 10	36×35×41	
589	K 10	33×32×30	
590	K 10	43×34×53	
591	K 10	27×22×43	
592	K 10	44×29×30	
593	I 6	39×34×51	平面形四角
594	I 6	39×32×57	
595	I 6	50×42×52	
596	I 6	36×34×29	
597	I 6	37×32×—	斜向
598	I 6	41×27×—	
599	I 6	46×46×38	土師器細片
600	I 6	42×32×55	斜向
601	I 6	60×55×45	
602	I 6	43×31×66	斜向
603	I 6	44×27×37	
604	H 6	24×19×67	
605	H 6	19×15×50	
606	H 6	43×25×39	平面形四角
607	I 6	46×37×—	
608	I 6	64×59×—	
609	H 6	100×84×50	
610	—	—	

柱穴一覧表（6）

番号	位置	長径×短径×深さ(cm)	出土遺物	番号	位置	長径×短径×深さ(cm)	出土遺物
611	I 6	37×26×52		676	H 7	33×29×14	
612	I 6	38×32×36		677	H 7	47×37×72	
613	I 6	34×30×52		678	H 7	45×31×18	
614	I 6	32×27×30		679	H 7	50×39×82	
615	I 6	40×31×63		680	H 7	37×29×45	
616	H 6	36×21×15		681	H 7	32×24×-	
617	H 6	54×53×48	土師器細片	682	H 7	45×40×-	
618	H 6	43×34×17		683	H 7	32×25×70	
619	H 6	31×26×61		684	H 7	56×51×59	
620	H 6	22×20×96		685	H 7	52×34×47	
621	H 6	32×19×31		686	H 7	41×-×50	
622	H 6	45×37×64	6世紀初頭土師器坏片	687	H 7	24×18×25	
623	H 6	28×22×115	土師器坏片P622と同一個体	688	H 7	23×12×65	
624	H 6	38×35×30	平面形四角	689	H 7	30×26×80	
625	H 6	45×45×35		690	H 7	25×-×41	
626	H 6	24×22×60		691	-	-	平面形四角
627	H 6	32×30×74		692	H 7	40×36×40	
628	H 6	30×21×46		693	H 7	36×22×42	
629	H 6	29×28×39	かわらけ(図No7)	694	H 7	22×15×37	
630	H 6	22×21×23		695	H 7	66×52×57	
631	H 6	54×26×64	砥石	696	H 7	30×23×17	
632	H 6	-×33×19	平面形四角	697	H 7	28×23×23	
633	H 6	33×26×47	平面形四角	698	H 7	36×31×23	
634	H 6	36×28×49	平面形四角	699	-	-	
635	H 6	33×27×53		700	H 7	45×42×56	S B12-P2
636	H 6	31×27×21		701	H 8	23×21×28	
637	H 6	40×34×15		702	H 8	22×9×29	
638	H 6	33×30×33		703	H 7	21×19×28	
639	H 6	35×29×12		704	H 7	62×38×15	
640	H 6	30×28×44		705	H 7	21×17×19	
641	H 6	48×43×48		706	H 8	29×20×22	
642	H 6	38×29×35		707	H 7	60×65×84	
643	H 6	36×34×20		708	H 7	50×50×39	平面形四角
644	H 6	35×-×30		709	H 7	54×-×18	
645	H 6	41×35×50	平面形四角	710	I 7	40×29×62	
646	H 6	50×37×32		711	I 7	23×18×42	
647	H 6	34×26×45		712	I 7	19×13×26	
648	H 6	27×24×29		713	I 7	28×26×36	
649	H 6	35×29×17		714	I 7	35×30×15	
650	H 7	35×29×22	平面形四角	715	I 7	25×26×24	平面形四角
651	H 6	50×35×70		716	I 7	32×20×46	
652	H 6	63×40×-		717	I 7	33×28×24	
653	H 7	50×45×62		718	-	-	平面形四角
654	H 7	42×29×62		719	I 7	36×29×19	
655	H 7	26×25×52		720	I 7	27×27×53	
656	H 7	48×41×16		721	I 7	23×21×16	
657	H 7	34×29×30		722	I 7	25×23×33	
658	H 7	24×23×33		723	I 7	25×18×48	
659	H 7	33×28×35		724	I 7	23×20×56	
660	H 7	29×22×17		725	I 7	21×22×26	
661	H 7	38×34×26		726	I 7	24×21×40	
662	H 7	40×-×20	土師器坏片(古墳)	727	I 7	19×14×42	
663	H 7	84×53×62		728	I 7	23×21×35	
664	H 7	35×26×37		729	I 7	23×23×24	
665	H 7	52×48×25		730	I 7	22×19×18	
666	H 7	40×30×25		731	I 7	41×30×39	平面形四角
667	H 7	62×40×41		732	I 7	47×34×24	平面形四角
668	H 7	40×33×18		733	H 7	31×33×18	平面形四角
669	H 7	49×37×41		734	H 8	27×23×61	
670	H 7	23×15×30		735	H 8	56×49×55	S B11-P3、平面形四角
671	H 7	46×34×48	S B10-P1	736	I 7	36×34×19	
672	-	-		737	-	-×-×26	平面形四角
673	H 7	33×30×25		738	I 7	52×34×-	
674	H 7	36×32×44		739	I 9	15×15×22	
675	H 7	40×36×28		740	I 8	23×22×47	

柱穴一覧表（7）

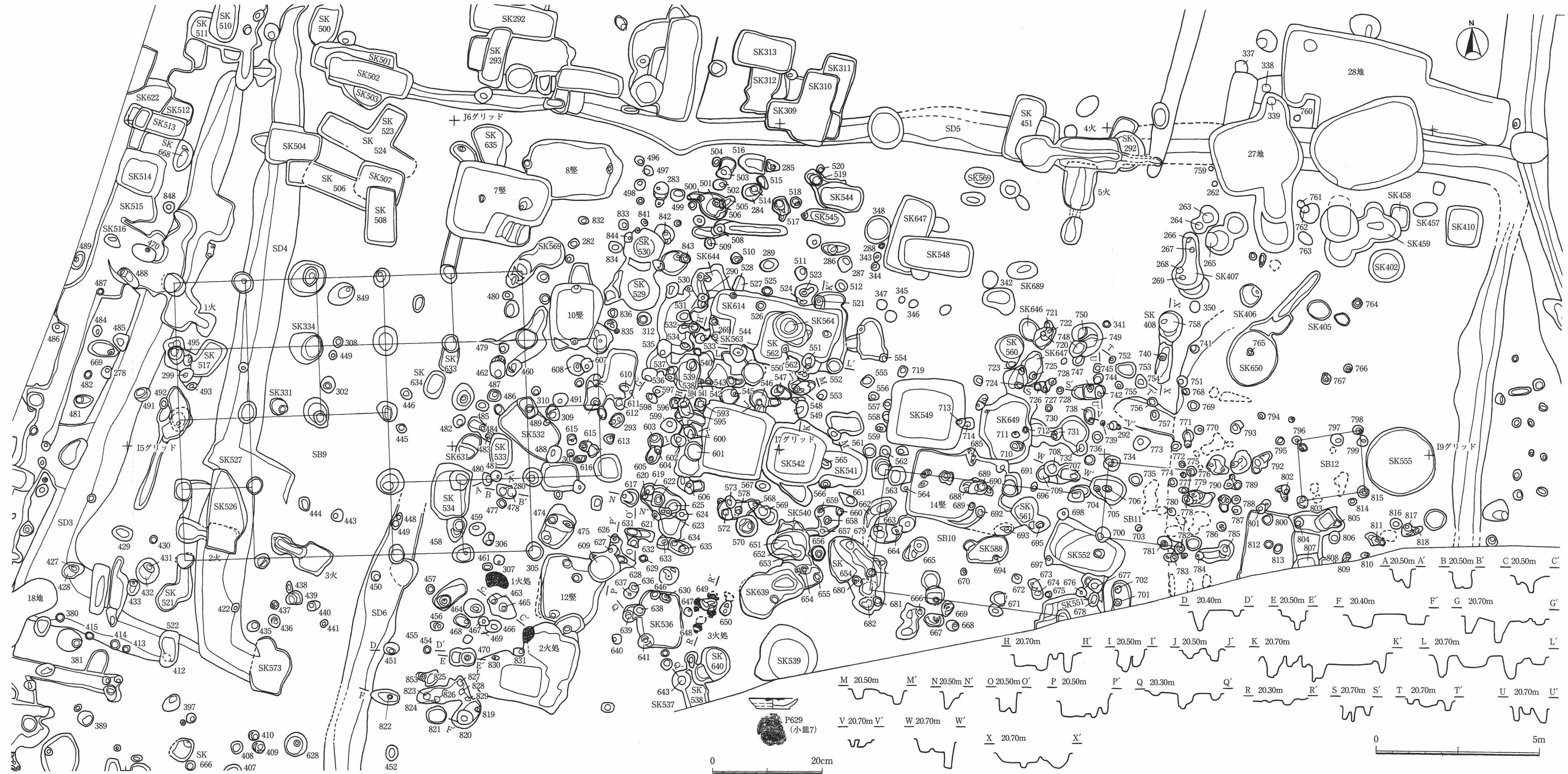
番号	位置	長径×短径×深さ(cm)	出土遺物
741	I 8	27×22×42	
742	I 8	40×28×42	平面形四角
743	I 8	28×21×31	
744	I 8	27×22×20	
745	I 7	32×27×42	
746	I 7	21×16×40	斜向
747	I 7	36×29×18	
748	I 7	57×45×50	
749	I 7	42×34×34	
750	I 7	47×26×42	
751	I 8	35×31×36	
752	I 8	21×19×15	
753	I 8	63×49×22	
754	I 8	22×24×15	
755	I 8	43×34×32	
756	I 8	33×26×14	
757	I 8	32×26×30	
758	I 8	18×12×44	
759	—	—	
760	—	—	
761	I 8	20×19×	
762	—	—	
763	—	—	
764	I 8	30×29×	
765	I 8	23×21×31	
766	I 8	27×26×15	
767	I 8	34×28×23	
768	I 8	24×23×21	
769	I 8	35×32×6	
770	I 8	29×27×18	
771	I 8	40×33×6	
772	I 8	34×29×20	
773	I 8	52×45×24	
774	H 8	41×38×20	
775	H 8	21×16×—	
776	H 8	30×28×43	S B11-P 4
777	H 8	28×21×35	
778	H 8	34×27×40	
779	H 8	23×20×34	
780	H 8	24×23×9	
781	H 8	48×39×46	
782	H 8	36×30×32	S B11-P 1
783	H 8	26×24×35	
784	H 8	28×26×44	
785	H 8	61×48×53	
786	H 8	30×29×20	
787	H 8	27×26×37	
788	H 8	27×26×35	
789	H 8	28×23×20	
790	H 8	34×26×18	
791	H 8	65×56×—	
792	H 8	70×59×41	
793	I 8	42×34×20	
794	I 8	22×21×15	
795	I 8	24×24×48	
796	I 8	27×25×40	S B12-P 3
797	I 8	39×38×20	
798	I 8	32×29×49	S B12-P 4
799	I 8	34×32×41	
800	H 8	35×34×28	
801	H 8	33×28×39	
802	H 8	33×24×29	
803	H 8	36×33×55	S B12-P 2、平面形四角
804	H 8	32×29×29	
805	H 8	27×—×87	平面形四角

番号	位置	長径×短径×深さ(cm)	出土遺物
806	H 8	40×34×19	
807	H 8	71×—×29	平面形四角
808	H 8	47×—×22	平面形四角
809	H 8	20×19×7	
810	H 8	28×17×9	
811	H 8	35×26×30	
812	H 8	27×26×13	
813	H 8	31×26×22	
814	H 8	23×23×26	
815	H 8	38×32×44	S B12-P 1、平面形四角
816	H 8	34×34×17	
817	H 8	26×22×36	
818	H 8	32×16×21	
819	H 6	18×16×38	
820	H 6	49×44×33	
821	H 5	64×54×30	
822	H 5	87×48×44	
823	H 5	20×17×—	平面形四角
824	H 5	19×15×—	平面形四角
825	H 5	59×38×34	
826	H 5	16×15×27	平面形四角
827	H 6	23×17×24	平面形四角
828	H 6	20×15×—	平面形四角
829	H 6	15×11×—	
830	H 6	19×14×66	
831	H 6	33×25×43	
832	I 6	39×29×33	
833	I 6	33×29×33	
834	I 6	44×34×46	
835	I 6	18×13×27	
836	—	—	
837	I 6	29×27×23	
838	I 6	50×39×40	
839	I 6	37×29×23	
840	I 6	31×22×16	平面形四角
841	I 6	16×15×39	
842	I 6	52×42×50	
843	I 6	28×26×46	
844	M 7	44×32×32	
845	H 5	39×34×29	
846	G 4	24×20×26	
847	G 5	46×44×4	
848	I 5	33×32×39	
849	—	—	
850	G 4	32×26×25	
851	G 4	16×11×29	
852	G 4	12×10×14	
853	G 4	25×22×23	
854	—	—	
855	H 9	25×18×30	
856	H 9	31×29×32	
857	H 9	32×26×36	
858	H 9	35×26×43	
859	H 9	33×32×22	
860	I 9	19×18×60	
861	H 9	35×25×16	
862	H 9	22×19×15	
863	H 9	27×22×16	
864	I 9	37×32×5	
865	H 9	28×26×20	
866	H 9	25×24×25	
867	H 9	20×19×4	
868	H 9	19×12×25	
869	H 9	17×16×12	
870	H 9	27×16×22	

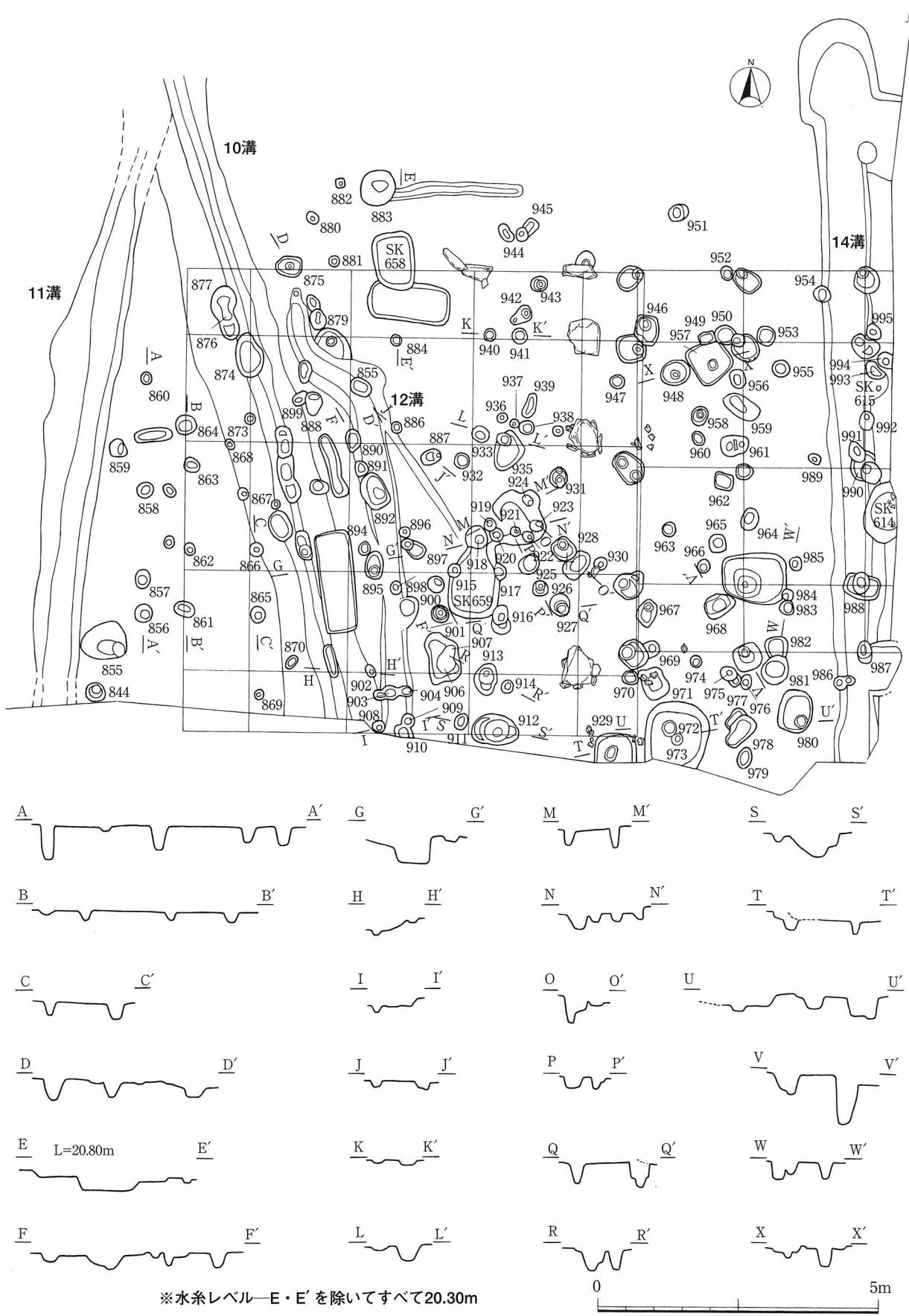
柱穴一覧表（8）

番号	位置	長径×短径×深さ(cm)	出土遺物
871	H9	56×38×8	
872	H9	15×13×5	
873	I9	19×17×8	
874	I9	76×48×24	
875	I9	35×33×15	
876	I9	28×—×22	
877	I9	60×44×24	
878	I9	44×34×40	
879	I9	36×28×30	
880	I9	25×18×12	
881	I9	17×16×8	
882	I9	14×14×22	角柱
883	I9	65×59×27	
884	I9	18×17×—	土師器細片(古墳)
885	I9	39×24×30	
886	I9	19×19×10	
887	H9	36×24×12	
888	I9	40×30×21	土師器小片
889	I9	28×19×18	
890	I9	38×28×17	
891	H9	26×22×—	
892	H9	65×44×22	
893	H9	32×24×17	
894	H9	21×21×—	
895	H9	48×30×7	古瀬戸鉢皿片
896	H9	20×18×8	
897	H9	45×30×25	
898	H9	24×21×—	
899	H9	45×40×44	
900	H9	30×27×25	
901	H9	34×30×—	
902	H9	26×14×6	
903	H9	30×24×—	
904	H9	28×17×21	
905	H9	40×—×—	
906	H9	33×32×—	
907	H9	24×22×—	
908	H9	21×20×15	
909	H9	26×25×10	
910	H9	—×30×9	
911	H9	29×21×14	
912	H9	85×54×40	
913	H9	56×42×40	
914	H9	21×20×37	
915	H9	24×20×27	
916	H9	35×25×38	古墳時代土師器小片
917	H9	30×22×32	
918	H9	42×40×25	
919	H9	22×21×36	
920	H9	25×22×18	
921	H9	17×14×14	
922	H9	21×16×22	
923	H9	22×19×22	
924	H9	19×16×27	
925	H9	36×34×19	
926	H9	26×24×22	
927	H9	41×36×46	
928	H9	42×35×52	
929	H10	74×—×30	
930	H10	22×19×—	青磁碗片(図青磁No1)
931	H9	23×16×—	
932	H9	27×25×22	
933	I9	32×24×5	

番号	位置	長径×短径×深さ(cm)	出土遺物
934	I9	26×23×27	
935	I9	70×54×25	鉄片
936	I9	17×17×—	
937	I9	15×15×—	
938	I9	25×23×—	鉄片
939	I9	45×21×9	
940	I9	19×18×4	
940	I9	18×18×6	
941	I9	27×26×10	
942	I9	29×25×61	
943	I9	46×24×16	
944	I9	35×20×—	
945	I9	46×22×—	
946	I10	53×43×19	
947	I10	24×23×—	
948	I10	49×45×38	
949	I10	29×20×7	角柱
950	I10	37×33×21	
951	I10	35×27×—	
952	I10	24×21×20	
953	I10	34×32×8	
954	I10	30×27×—	
955	I10	30×28×18	
956	I10	33×27×—	
957	I10	20×18×18	
958	I10	32×27×7	
959	I10	70×34×37	
960	I10	22×17×7	
961	I10	48×35×46	
962	H10	31×29×—	
963	H10	24×24×8	
964	H10	41×29×27	
965	H10	33×30×30	
966	H10	22×21×28	
967	H10	43×32×13	
968	H10	56×39×92	
969	H10	29×29×22	
970	H10	26×22×15	
971	H10	54×53×26	
972	H10	25×24×30	
973	H10	19×18×24	
974	H10	19×18×10	
975	H10	26×24×19	
976	H10	24×18×17	
977	H10	42×—×5	
978	H10	59×38×22	土師器細片
979	H10	36×24×—	
980	H10	75×58×33	
981	H10	50×48×14	
982	H10	38×37×10	
983	H10	27×24×32	
984	H10	20×20×24	
985	H10	22×20×32	
986	H10	37×24×15	
987	H10	40×25×12	
988	H10	66×40×21	
989	H10	23×16×16	
990	H10	52×45×20	
991	I10	42×26×40	
992	I9	34×25×21	
993	I9	38×24×—	
994	I9	33×26×13	鉄釘
995	I9	27×24×—	



第68図 神出遺跡柱穴群 (1)



第69図 神出遺跡柱穴群(2)

(4) テラス状遺構

本遺跡の南部の傾斜地に2段のテラス状遺構が見られる。南向きの傾斜地には南から浅く谷が入っており、南の低地から見て谷の左側部分の地山を削り込んで造成されている。上の段のテラスを2号テラス、下の段を1号テラスと呼び、低地（台地下水田面）からの比高差は、それぞれ9m、13mである。

1号テラス（第70図・写真図版12）

1号テラスは、F8グリッドの南部からE8グリッド北部にかけて位置し、斜面を75~90cmの深さまで削り込んで、東西方向8m、南北方向6.5mの平坦面を造っている。平坦面上には、土坑が2基、柱穴状ピットが10か所、地下式擴2基が確認された。テラス面を覆っていた堆積土は、地形の傾斜面上部からの自然流入土で、整地や盛土の堆積は見られなかった。出土遺物は古瀬戸片、常滑片、土師質土器小皿・内耳鍋片等の中世の遺物に混じって、古墳時代前期の壺口縁部片や6世紀頃の赤彩された土師器高环片、平安時代の土師器片等が混入している。古瀬戸片は、折縁深皿、折縁中皿、天目茶碗、縁釉小皿でいずれも藤沢編年後Ⅱ期（1380年～1420年）のものである。

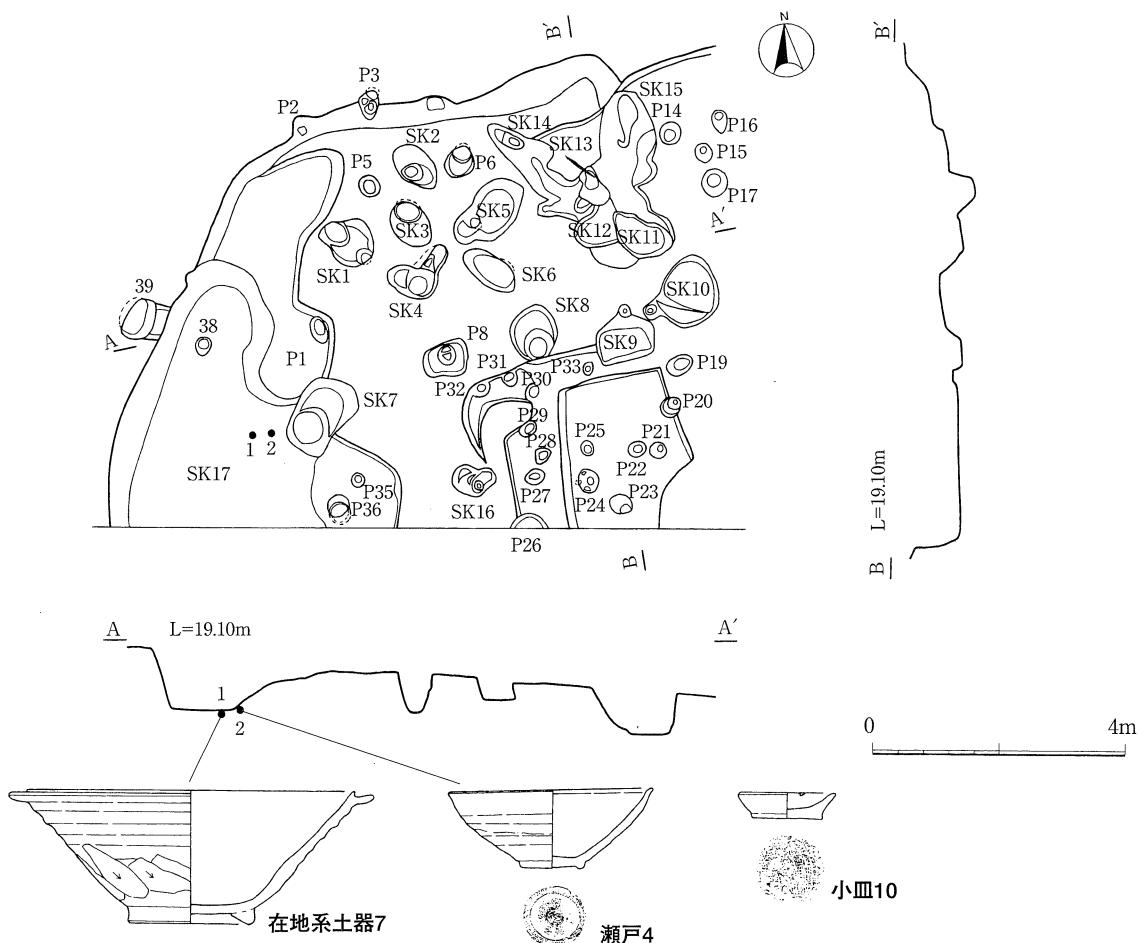


第70図 神出遺跡1号テラス状遺構・出土遺物

2号テラス（第71図・写真図版12）

1号テラスの上位に傾斜面を深さ40~70cm削り込んで、幅12m、奥行き10mの平坦面を造っている。平坦面上には、土坑が17基、柱穴状ピットが39か所確認された。出土遺物はH9グリッドから、古瀬戸瓶子（蕨手連續文の梅瓶）、折縁皿片、平椀片、常滑片、硯石片、スタンプ文のついた火舎が出土している。テラスの南側の17号土坑からは古瀬戸平椀1個体分が、須恵質で断面三角形の低い高台のついた須恵質の折縁深皿とともに出土している。形態的に瀬戸の折縁皿、技法的に山茶碗系の在地系土器である。テラス上に開い

た柱穴状の3号ピットからは土師質土器小皿が強い火を受けた状態で出土している。



第71図 神出遺跡 2号テラス状遺構・出土遺物

(5) 竪穴遺構

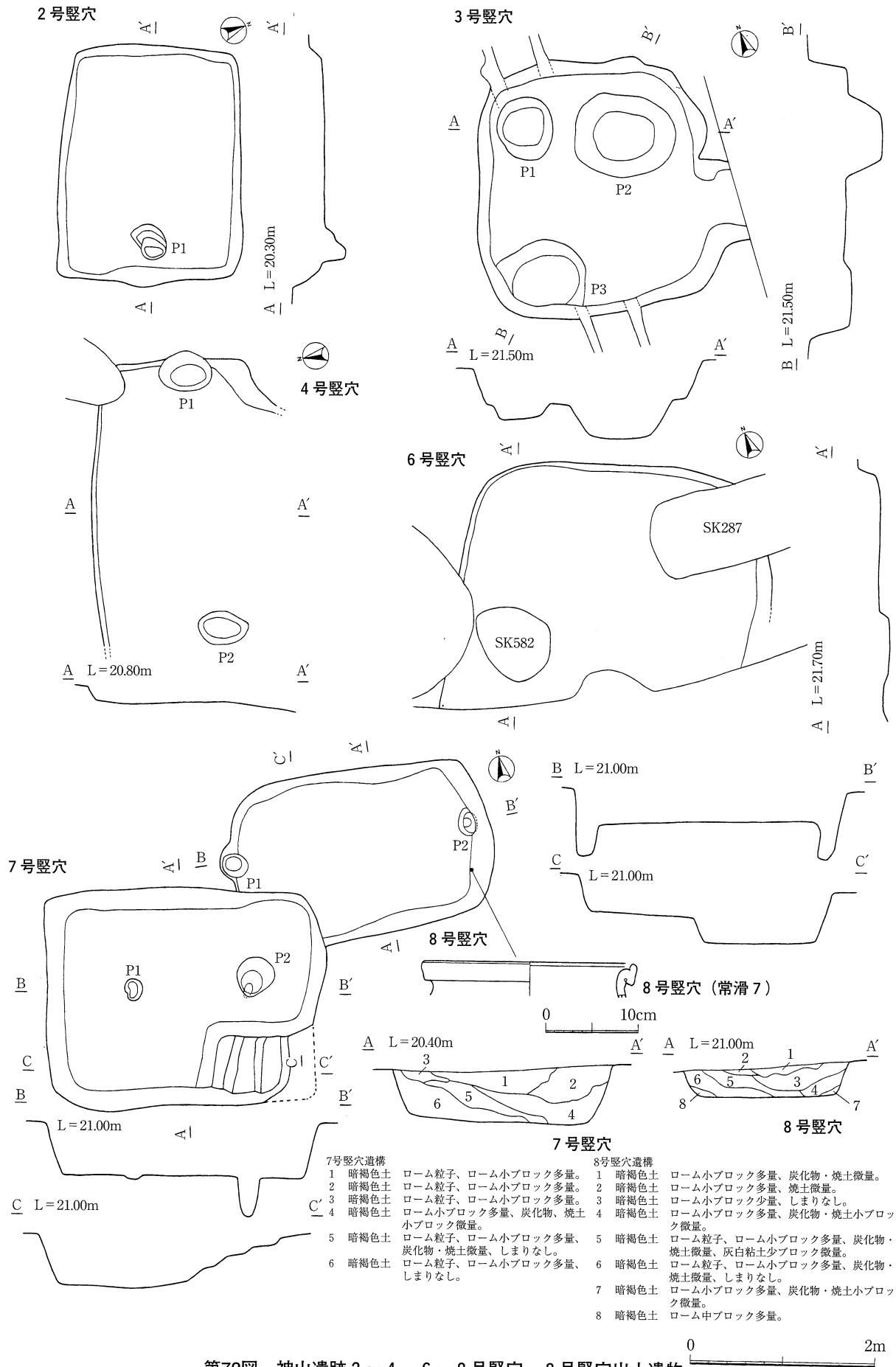
中世の城跡や集落、墓域等で見られる方形に掘り込まれ出入り口施設を持っている竪穴を方形竪穴遺構と総称して呼ぶことが多い。これらについては、出土遺物の少なさなどから時期や性格がはっきりしていないが、通常の土坑や土坑墓と較べてある程度の大きさと規格性があり、中世を通じて形態変化しながら存在する。本遺跡の例では、規模はおおよそ2m以上、地山削り出しのスロープ状の出入り口施設や柱穴の掘り込みを底面に持つ特徴がある。方形であるが出入り口施設を持たない深い土坑と比較して掘り込みは浅く、古代の住居跡の床と同じように硬化面を残すものもある。全部で10基がそれと認識できる。ここではその他に調査時に竪穴遺構としたものも含めてこれらをまとめて報告することとする。

1号竪穴遺構（第72図）

本跡はL3～M3グリッドに位置する。規模は長軸3.1m 短軸2.4m、深さ0.1mを測る。ピットではなく残存状態が悪いが方形気味の平面形である。

2号竪穴遺構（第72図・写真図版19）

本跡はI1グリッドに位置する。規模は長軸2.25m 短軸1.81m、深さ0.32mを測る。ピットは1か所、径



第72図 神山遺跡 2～4、6～8号竪穴・8号竪穴出土遺物

26cm、深さ26cmの柱穴状である。

3号竪穴遺構（第72図・写真図版19）

本跡はM5～N5グリッドに位置する。規模は長軸2.4m 短軸2.15m、深さ0.35mを測る。ピットは3か所、P1は径0.9cm 深さ0.4cm、P2は径0.6cm 深さ0.18cm、P3は径1.08cm 深さ0.37cm。平面形は、角の丸い方形である。

4号竪穴遺構（第72図）

本跡はJ5～J6グリッドに位置する。規模は長軸3m以上、短軸1.9m以上、深さ0.30mを測る。ピットは2か所柱穴状で、P1は径0.47cm、P2は径0.72cm。東壁の南部には内側に突出する地山の削り残しがある。

6号竪穴遺構（第72図）

本跡はL7グリッドに位置する。9号溝に切られており、南壁は残存していない。規模は長軸3.12m、短軸2.7m以上、深さ0.25mを測る。平面形は、角の丸い方形。

7号竪穴遺構（第72図・写真図版19）

本跡はJ6グリッドに位置する。8号竪穴と重複し規模は長軸2.8m 短軸1.95m、深さ0.56mを測る。ピットは2か所、P1は、径0.23cm、深さ5cmで柱を埋設することはできない深さである。P2は径0.23cm 深さ0.44cmである。平面形は長方形で南東コーナーに地山削り残しの階段施設を付設する。覆土はローム粒子、ローム小ブロックを多量に含む埋め戻し堆積土層である。

8号竪穴遺構（第72図・写真図版19）

本跡はJ6グリッドに位置する。9号竪穴遺構と重複している。規模は長軸2.55m 短軸1.65m、深さ0.35mを測る。ピットは2か所、壁際に接してある。P1は径20cm 深さ45cm。P2は径24cm深さ34cm。覆土中から常滑甕口縁部片が出土している。常滑甕は中野編年の6a期で13世紀第3四半世紀頃の遺物である。

9号竪穴遺構（第73図・写真図版19）

本跡はM7グリッドに位置し、26号地下式壙によって南壁を壊されている。規模は長軸2.7m以上で柱穴位置から推測すると約3m、短軸1.88m、深さ0.53mを測る。ピットは2か所あり柱穴状である。柱穴の心々間で1.5mの長さを測る。P1は径28cm 深さ40cm。P2は径26cm 深さ36cm。西壁中央部に20°の傾斜角度を持ち竪穴外に1.3m程突出した出入り口施設を持つ。出入り口の斜面から床の中央付近まで硬化面が広がっている。

10号竪穴遺構（第73図・写真図版19）

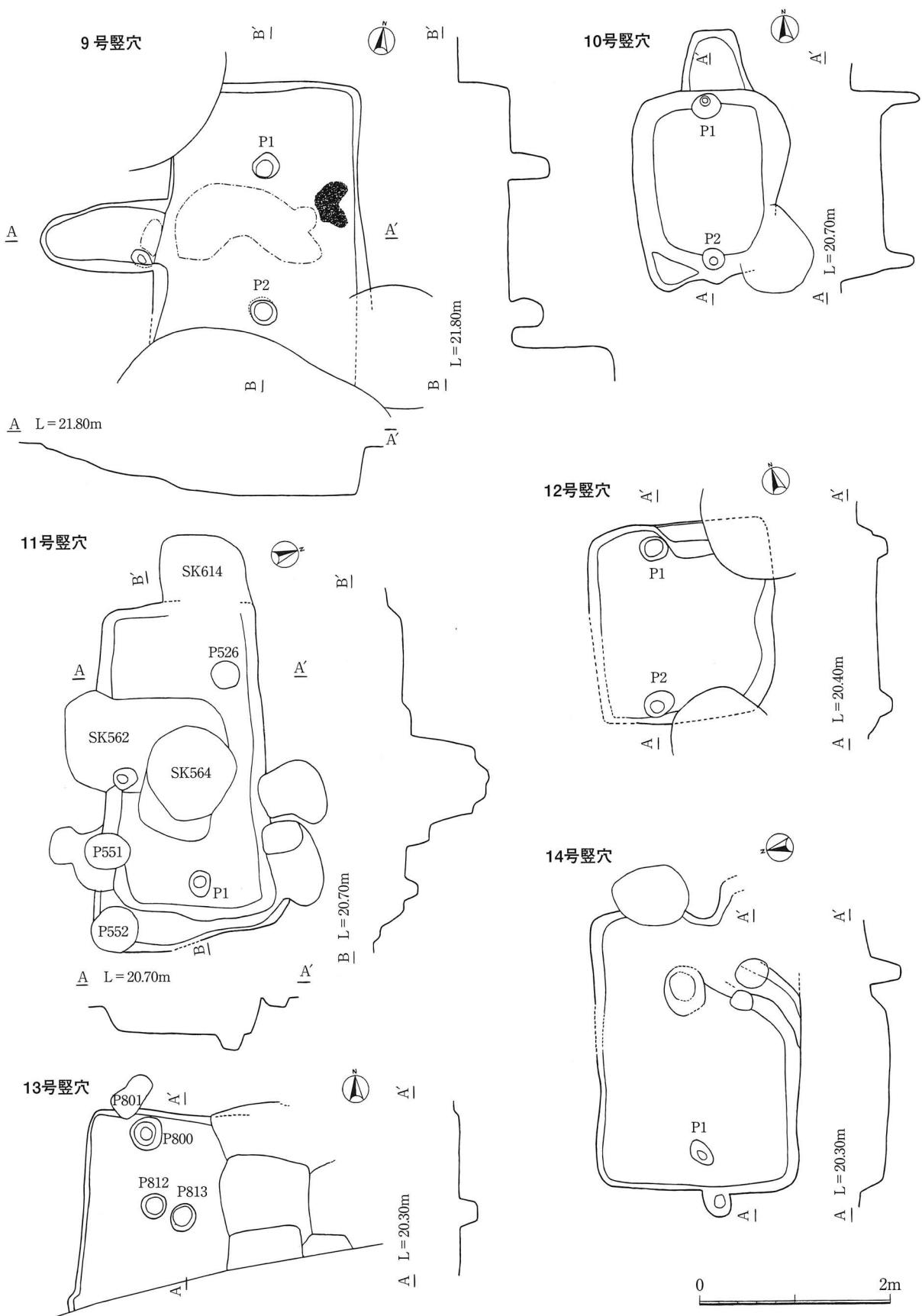
本跡はJ6グリッドに位置する。規模は長軸1.53m 短軸1.15m、深さ0.31mを測る。ピットは2か所、壁際に接してある。P1は径24cm 深さ52cm。P2は径23cm 深さ32cm。柱穴の心々間で1.5mの長さを測る。北壁東寄りの竪穴外に0.6m程突出した浅い掘り込みがあり、出入り口施設の可能性がある。出土遺物は底面から体部の器高のある深い内耳鍋が出土している。

11号竪穴遺構（第73図）

本跡はJ6～J7グリッドに位置する。複数の土坑に掘り込まれており、東側半分と北壁だけが残存している。規模は長軸2.5m以上、短軸1.4m、深さ0.35mを測る。ピットは1か所確認され、径24cm、深さ14cmである。

12号竪穴遺構（第73図・写真図版19）

本跡はI6グリッドに位置する。規模は長軸1.95m 短軸1.6m、深さ0.18mを測る。ピットは2か所、壁寄りにある。P1は径24cm 深さ12cm。P2は径25cm深さ13cm。



第73図 神出遺跡 9~14号竪穴・出土遺物

13号豎穴遺構（第73図）

本跡はI8グリッドに位置する。東壁を複数の土坑に切られ、南壁は調査エリアの外にある。規模は長軸2m以上、短軸1.4m以上、深さ6cmである。

14号豎穴遺構（第73図・写真図版19）

本跡はI7グリッドに位置する。規模は長軸2.85m、短軸2.1m、深さ0.25mを測る。ピットは2か所、径20cmと40cm、深さ32cm。

（6）地下式壙

1号地下式壙（第74図・写真図版17）

本跡はG8グリッドに位置する。規模は豎坑長軸0.7m、短軸0.5m、深さ0.84m、主室長軸1.62m、短軸1.02m、底面積1.44m²を測る。豎坑から主室方向に向かう方向を主軸として、主軸方位は、N-47°-Wを示す。出土遺物は覆土中から縄文時代から平安時代の土器片が出土している。

2号地下式壙（第74図・写真図版17）

本跡はG8グリッドに位置する。規模は豎坑長軸0.48m、短軸1.31m、深さ0.75m、主室長軸1.23m、短軸0.95m、底面積0.97m²を測る。主軸方位は、N-47°-Wを示す。出土遺物は瀬戸系陶器（志戸呂）の折縁皿（第38図No38）が覆土から、縄文時代から平安時代の土器片が出土している。

3号地下式壙（第74図・写真図版17）

本跡はG8グリッドに位置する。規模は豎坑長軸0.54m、短軸0.47m、深さ0.65m、主室長軸2.4m、短軸2.05m、底面積3.99m²を測る。主軸方位は、N-20°-Wを示す。豎坑、主室とも底面は平らで、豎坑と主室には0.4mの段差がある。覆土中から内耳鍋（第103図No6）、古瀬戸折縁皿（第99図No22）、常滑片口鉢（第101図No1）が出土している。片口鉢は二次的な被熱を受けて橙色、古瀬戸折縁皿は釉が風化している。

4号地下式壙（第74図・写真図版17）

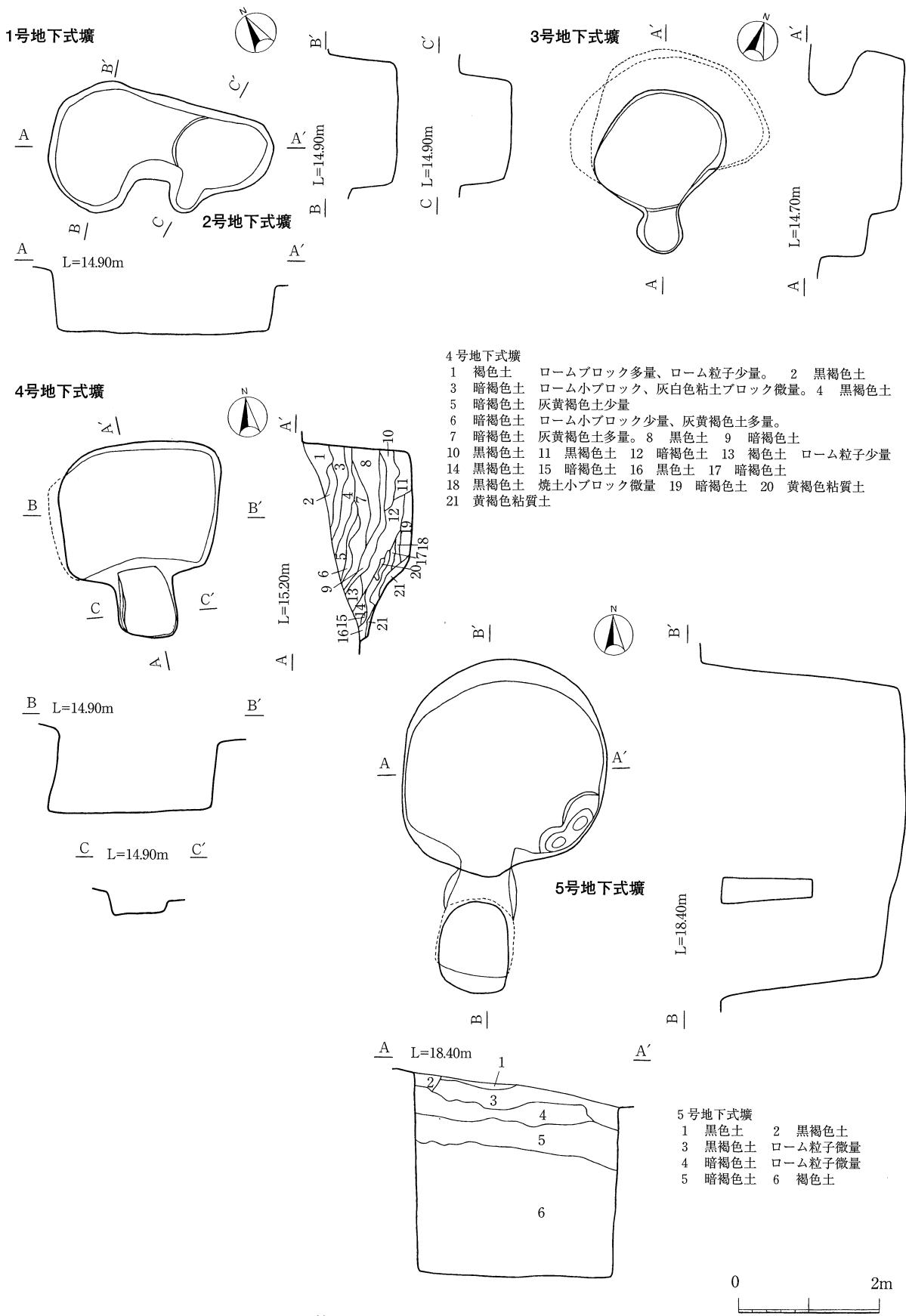
本跡はG8グリッドに位置する。規模は豎坑長軸0.93m、短軸0.69m、主室長軸2.34m、短軸1.53m、深さ1.5m、底面積3.44m²を測る。主軸方位は、N-10°-Wを示す。豎坑と主室には0.65mの高低差があり、豎坑底面は主室に向かって傾斜している。覆土は豎坑の傾斜にそった流入土と天井崩落土、その後の埋没土である。遺物は出土していない。

5号地下式壙（第74図・写真図版17）

本跡はG8グリッドに位置する。規模は豎坑長軸1.3m、短軸1.08m、深さ2.36m、主室長軸2.74m、短軸2.3m、底面積5.54m²を測る。主軸方位は、N-170°-Wを示す。出土遺物は覆土中から縄文時代から平安時代の土器片が出土している。

6号地下式壙（第75図・写真図版17）

本跡はG8グリッドに位置する。豎坑が2か所あるが、2基の地下式壙の重複と考えられる。土層断面観察では豎坑から主室を見て、右側の豎坑の主室が左側の豎坑の主室を切っている。よって古い地下式壙を6A号地下式壙、新しい方を6B号地下式壙と呼ぶ。規模は6A号が豎坑長軸1.48m、短軸0.54m、深さ0.56m、主室長軸2.3m、短軸1.83mを測る。6B号が豎坑長軸1.0m、短軸0.61m、深さ0.58mを測る。調査中、単独遺構と捉えていたため古くて深い地下式壙の底面の立ち上がり面で東壁の掘り込みを止めていたため規模は不明である。6A号地下式壙の主軸方位はN-168°-Wを示す。6A号地下式壙の豎坑は豎坑の降り口手前部分と主室との間に段差がある。主室と豎坑底面の高低差は0.23mである。6B号地下式壙の豎坑出土遺物は覆土中から縄文時代から平安時代の土器片が出土している。遺構の埋没に近い時期の遺物としては土師質土器



第74図 神出遺跡1～5号地下式壙

小皿（第102図 No 6）、白磁碗（第98図 No 7）片が覆土から出土している。

7号地下式壙（第75図・写真図版17）

本跡は G 8 グリッドに位置する。規模は豊坑長軸0.58m、短軸0.45m、深さ0.32m、主室長軸2.75m、短軸2.0m、底面積 5.27m^2 を測る。主軸方位は、N-169°-W を示す。豊坑底面は主室に向かって傾斜している。出土遺物は覆土中から縄文時代から平安時代の土器片が出土している。

8号地下式壙（第75図・写真図版17）

本跡は G 8 グリッドに位置し、9号地下式壙を掘り込んでいる。規模は豊坑長軸1.0m、短軸0.68m、深さ1.0m、主室長軸3.08m、短軸2.21m、底面積 5.28m^2 を測る。主軸方位は、N-97°-W を示す。主室と豊坑底面の高低差は0.14m である。出土遺物は覆土中から縄文時代から平安時代の土器片が出土している。

9号地下式壙（第75図・写真図版17）

本跡は G 8 グリッドに位置し、8号地下式壙に主室の一部を掘り込まれている。規模は豊坑長軸0.71m、短軸0.69m、深さ1.7m、主室長軸3.05m、短軸1.64m、底面積 5.02m^2 を測る。主軸方位は、N-153°-W を示す。出土遺物は覆土中から縄文土器片、土師器・須恵器小片が出土している。

10号地下式壙（第76図・写真図版17）

本跡は G 8 グリッドに位置する。規模は豊坑長軸0.9m、短軸0.7m、深さ0.45m、主室長軸2.61m、短軸1.95m、底面積 4.47m^2 を測る。主軸方位は、N-77°-W を示す。主室が主軸方向に長い出土遺物は覆土中から縄文時代から平安時代の土器片が出土している。

11号地下式壙（第76図）

本跡は G 8 グリッドに位置する。規模は豊坑長軸1.94m、短軸0.87m、深さ0.98m、主室長軸2.93m、短軸2.18m、底面積 6.51m^2 を測る。主軸方位は、N-73°-W を示す。豊坑の降り口手前部分に豊坑底面より0.24m高い段差がある。出土遺物は覆土中から縄文時代から平安時代の土器片が出土している。

12号地下式壙（第76図・写真図版17）

本跡は G 8 グリッドに位置する。規模は豊坑長軸0.7m、短軸0.7m、深さ0.5m、主室長軸1.68m、短軸1.43m、底面積 2.06m^2 を測る。主軸方位は、N-158°-W を示す。豊坑底面と主室との間に0.5m の段差がある。出土遺物は覆土から内耳鍋（第103図 No 8）、土師質土器小皿（第102図 No 9）古瀬戸平椀（第99図 No 6）が出土している。

13号地下式壙（第76図・写真図版17）

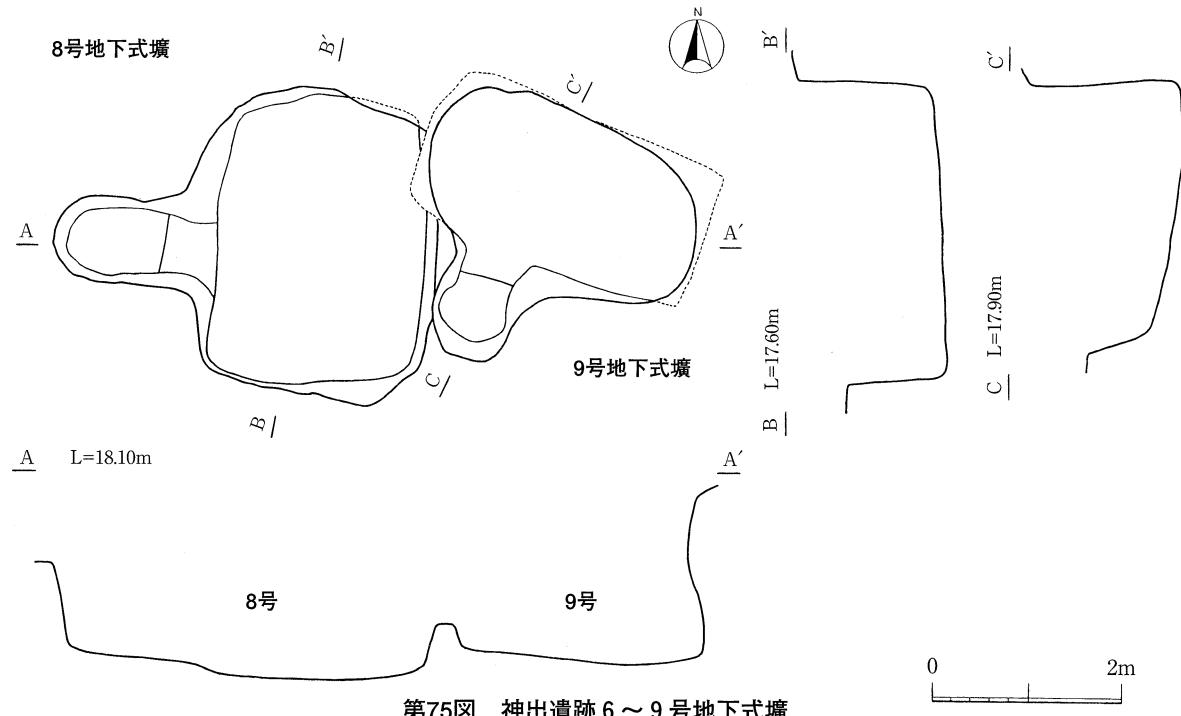
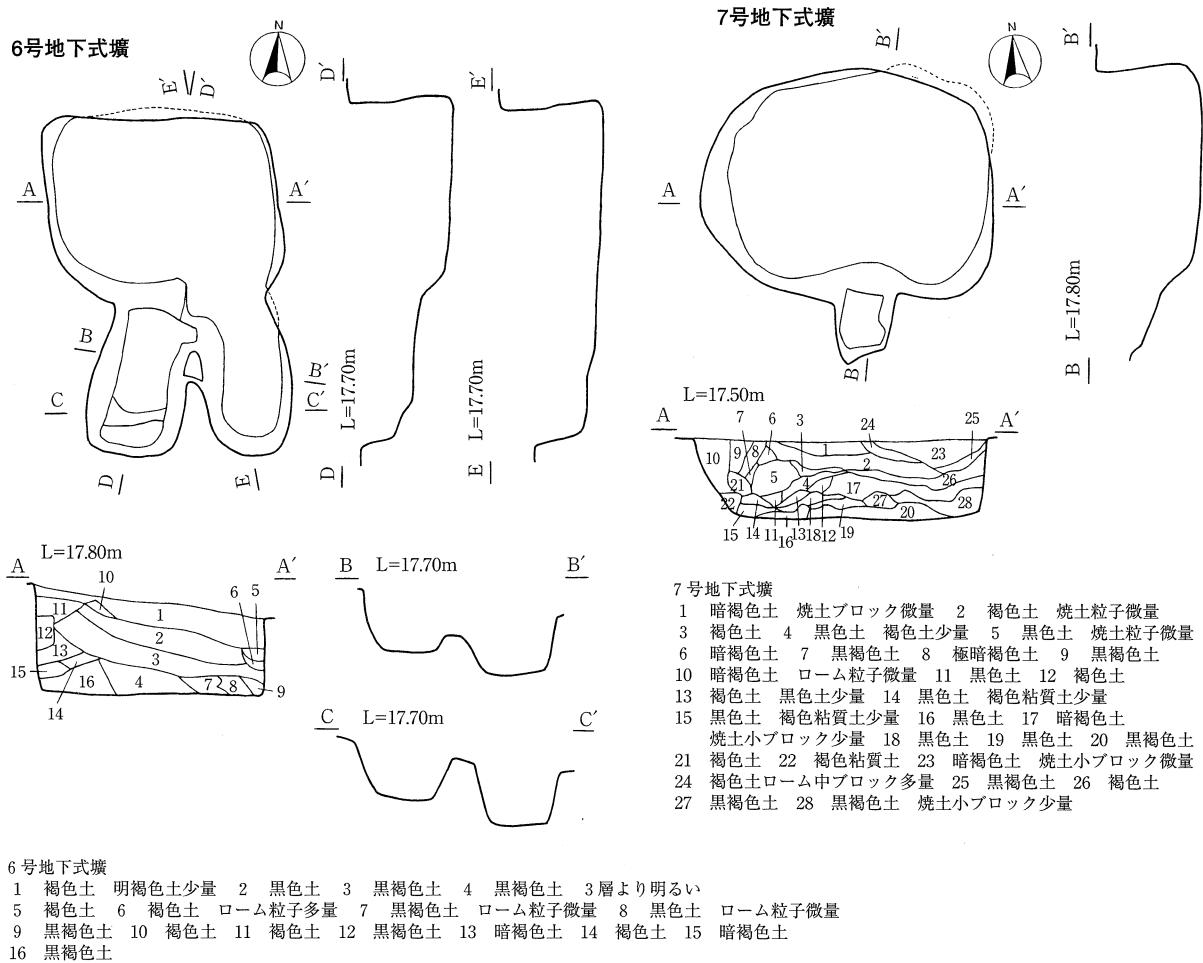
本跡は G 8 グリッドに位置する。規模は豊坑長軸0.72m、短軸0.68m、深さ0.74m、主室長軸2.04m、短軸2.03m、底面積 3.69m^2 を測る。主軸方位は、N-109°-W を示す。豊坑底面と主室底面は、ほぼ同じ高さである。出土遺物は覆土中から縄文時代から平安時代の土器片が出土している。

14号地下式壙

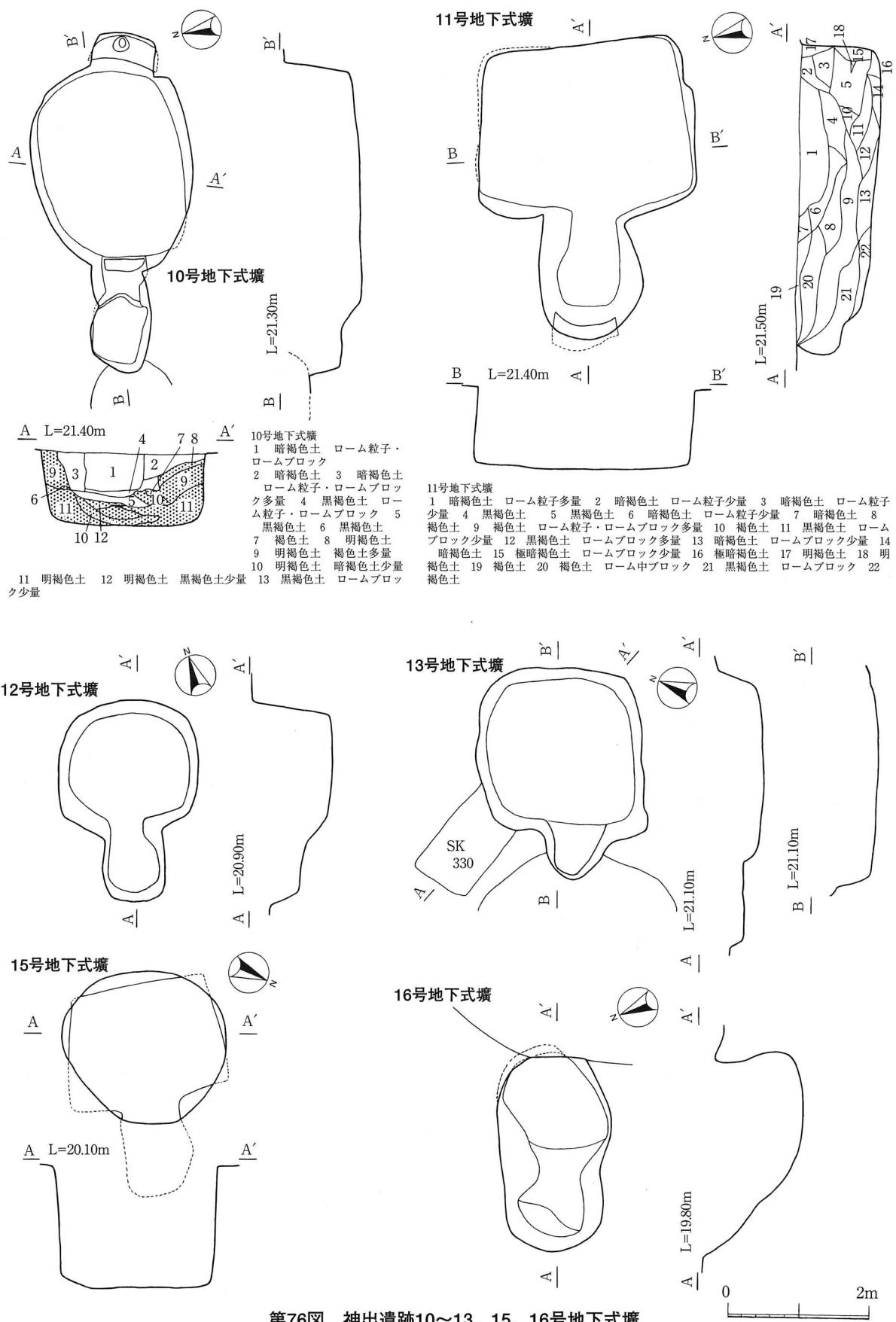
本跡は G 8 グリッドに位置する。規模は長軸2.86m、短軸2.02m を測る。主軸方位は、N-35°-W を示す。平面不整形である。出土遺物は覆土中から縄文時代から平安時代の土器片が出土している。

15号地下式壙（第76図）

本跡は G 8 グリッドに位置する。規模は豊坑長軸1.2m、短軸0.94m、深さ1.7m、主室長軸2.17m、短軸1.63m、底面積 3.46m^2 を測る。主軸方位は、N-64°-W を示す。調査当初土坑として調査を行った旧番号は、49号土坑である。出土遺物は土師質土器小皿が2点覆土中から出土している。



第75図 神出遺跡 6～9号地下式壙



第76図 神出遺跡10~13、15、16号地下式壙

16号地下式壙（第76図）

本跡はG8グリッドに位置する。規模は竪坑長軸0.92m、短軸0.9m、深さ0.7m、主室長軸1.15m、短軸1.40mを測る。主軸方位は、N-115°-Wを示す。出土遺物は覆土中から縄文時代から平安時代の土器片が出土している。

17号地下式壙（第77図）

本跡はG8グリッドに位置する。規模は竪坑長軸0.98m、短軸0.78m、深さ1.5m、主室長軸2.2m、短軸1.83m、底面積3.37m²を測る。主軸方位は、N-27°-Wを示す。竪坑と主室底面は、ほぼ同じ高さである。出土遺物は覆土中層に竪坑から流れ込むようにして大量のヤマトシジミとオオタニシが、その貝層中から土師質土器小皿（第102図 No21）や内耳鍋片が出土している。その他に覆土中からは縄文時代から平安時代の土器小片が出土している。

18号地下式壙（第77図・写真図版17）

本跡はG8グリッドに位置する。規模は竪坑長軸1.23m、短軸0.96m、深さ1.56m、主室長軸2.45m、短軸2.0m、底面積2.90m²を測る。主軸方位は、N-71°-Wを示す。竪坑と主室底面は、ほぼ同じ高さである。出土遺物は覆土中から縄文時代から平安時代の土器片が出土している。

19号地下式壙（第77図・写真図版18）

本跡はG8グリッドに位置する。規模は竪坑長軸0.94m、短軸0.56m、深さ0.63m、主室長軸3.43m、短軸1.84m、底面積5.38m²を測る。竪坑底面は、主室底面の同じ高さまで掘り込まれた後、土が入れられ竪坑底面は0.3m程高まりを持っている。竪坑底面と主室の間にもう一段の段差がある。主軸方位は、N-118°-Wを示す。出土遺物は覆土中から縄文時代から平安時代の土器片が出土している。

20号地下式壙（第77図・写真図版18）

本跡はG8グリッドに位置する。規模は竪坑長軸1.03m、短軸1.02m、深さ1.56m、主室長軸2.93m、短軸2.48m、底面積7.33m²を測る。主軸方位は、N-137°-Wを示す。覆土は、大きく4層に分層される。上から1層はローム主体の比較的均質な土層でやわらかく埋め戻し土のようである。2層は、粘土や暗褐色土を主体とした小ブロック単位の流入もしくは投げ入れ土層。3層は地下式壙の天井落下土層。4層は竪坑底面に三角堆積した、ロームブロック土層である。竪坑の途中に小さなドーム状の天井の横穴が開いていた。

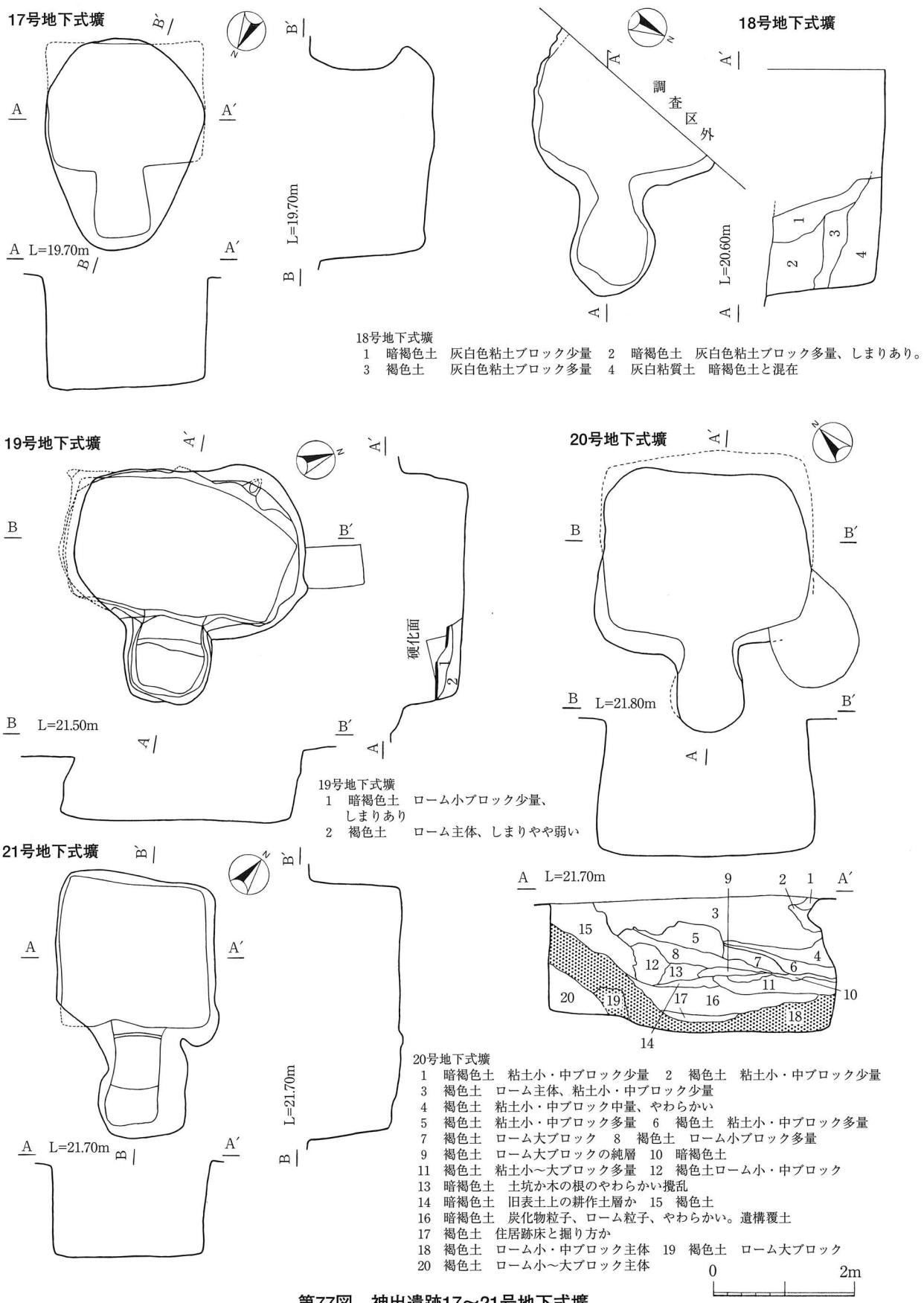


21号地下式壙（第77図・写真図版18）

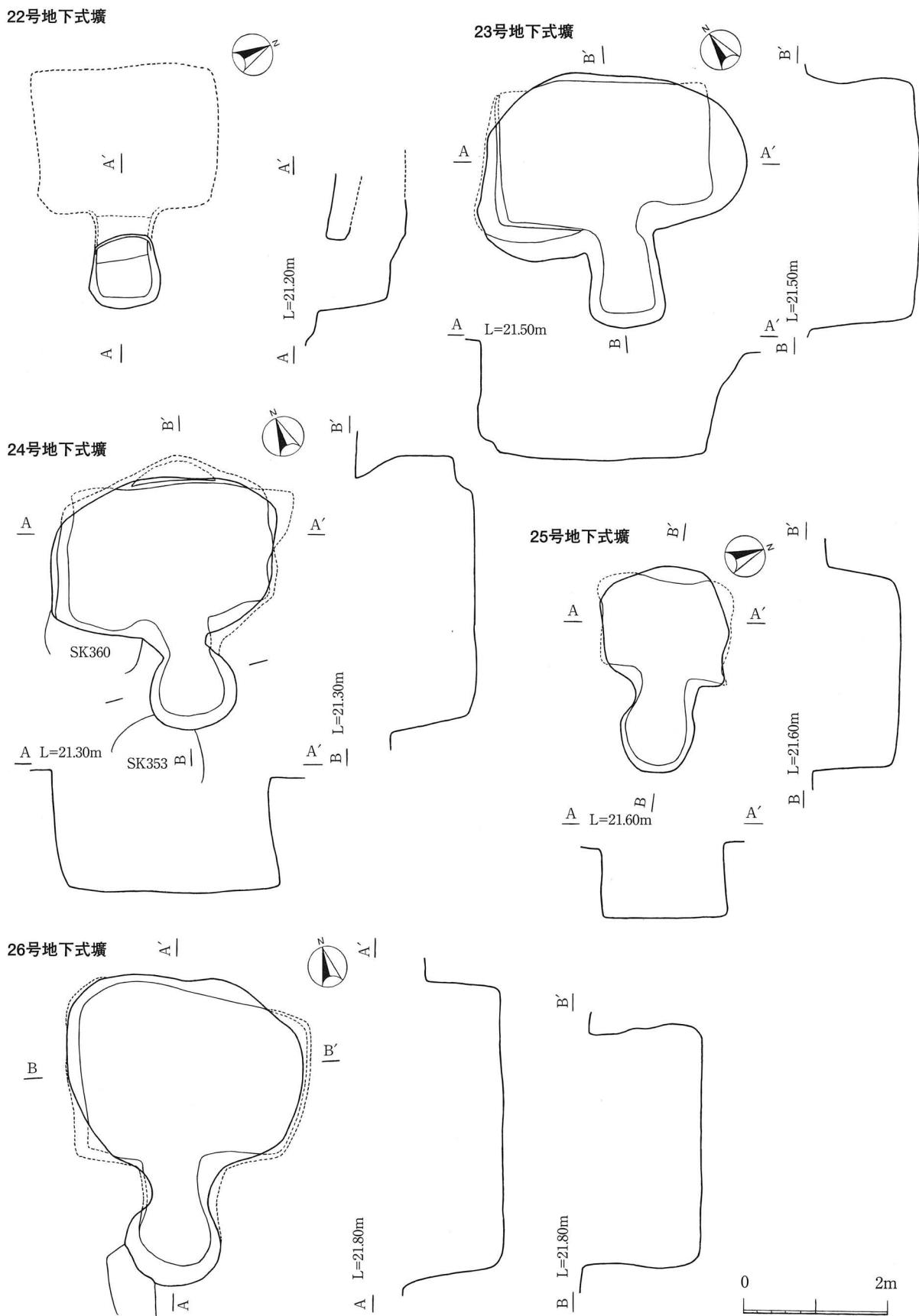
本跡はG8グリッドに位置する。規模は竪坑長軸1.23m、短軸0.73m、深さ1.33m、主室長軸2.2m、短軸2.14m、底面積4.24m²を測る。主軸方位は、N-143°-Wを示す。竪坑と主室底面は、ほぼ同じ高さである。出土遺物は覆土中から縄文時代から平安時代の土器片が出土している。

22号地下式壙（第78図）

本跡はG8グリッドに位置する。規模は竪坑長軸0.75m、短軸0.48m、深さ0.98m、主室長軸約2.5m、短軸約2.0m、底面積約4.78m²と推測される。主軸方位は、N-68°-Wを示す。主室は完掘できなかったため主室規模の数値は、上位落ち込み面で推定した数値である。出土遺物は覆土中から縄文時代から平安時代の土器片が出土している。



第77図 神出遺跡17～21号地下式壙



第78図 神出遺跡22~26号地下式壙

23号地下式壙（第78図・写真図版18）

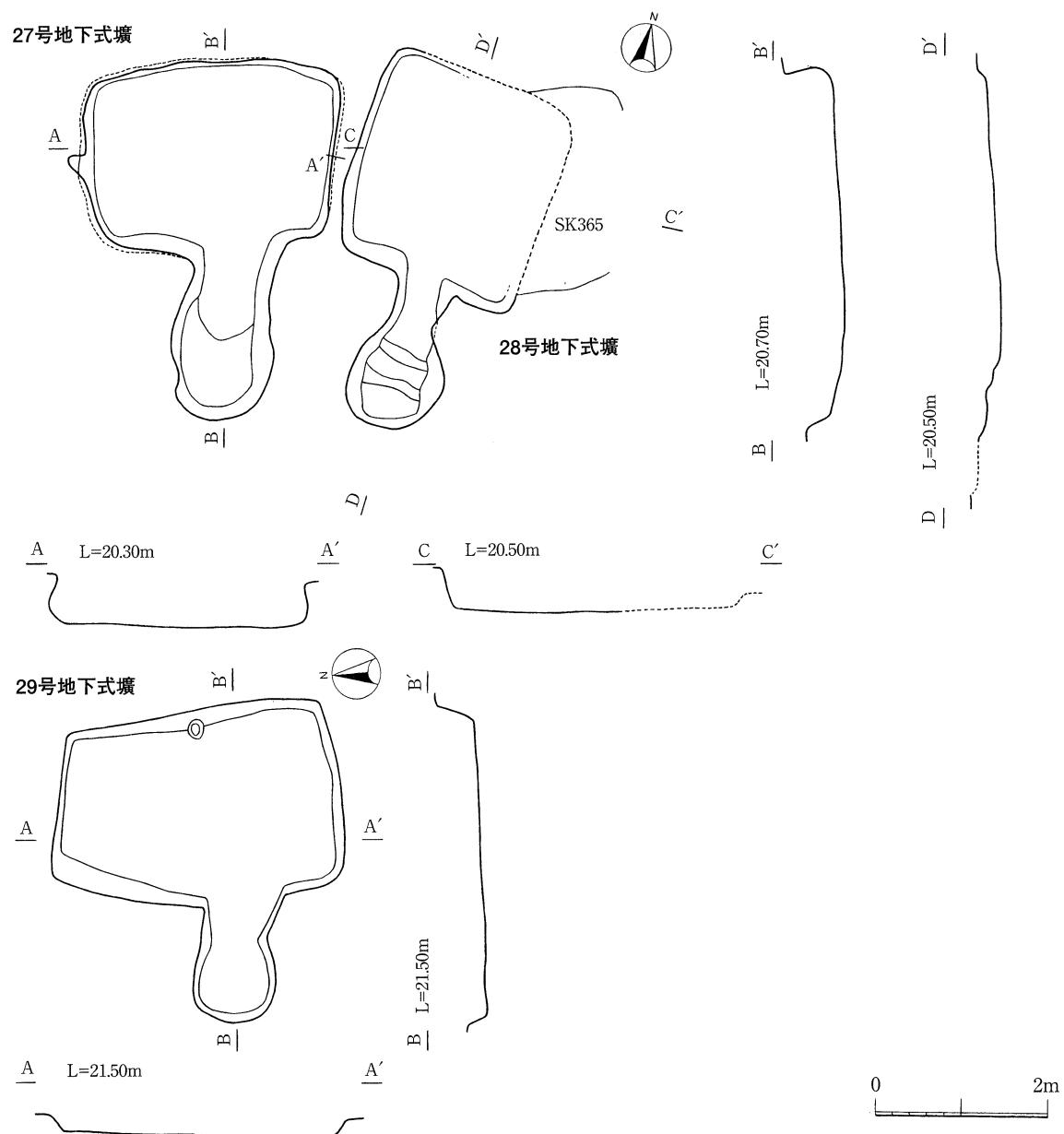
本跡はG8グリッドに位置する。規模は竪坑長軸1.1m、短軸0.75m、深さ1.53m、主室長軸2.89m、短軸2.06m、底面積 5.31m^2 を測る。主軸方位は、N-146°-Wを示す。竪坑と主室底面はほぼ同じ高さである。出土遺物は覆土中から縄文時代から平安時代の土器片が出土している。

24号地下式壙（第78図）

本跡はG8グリッドに位置する。規模は竪坑長軸0.90m、短軸0.87m、深さ1.22m、主室長軸2.83m、短軸1.81m、底面積 5.20m^2 を測る。主軸方位は、N-160°-Wを示す。竪坑と主室底面はほぼ同じ高さである。出土遺物は覆土中から縄文時代から平安時代の土器片が出土している。

25号地下式壙（第78図・写真図版18）

本跡はG8グリッドに位置する。規模は竪坑長軸1.0m、短軸0.84m、深さ1.16m、主室長軸1.8m、短軸1.28m、底面積 2.30m^2 を測る。主軸方位は、N-120°-Wを示す。竪坑と主室底面はほぼ同じ高さである。出



第79図 神出遺跡27~29号地下式壙

土遺物は覆土中から縄文時代から平安時代の土器片が出土している。

26号地下式壙（第78図・写真図版18）

本跡はG8グリッドに位置する。規模は豊坑長軸0.97m、短軸0.9m、深さ1.42m、主室長軸3.12m、短軸2.47m、底面積 6.64m^2 を測る。主軸方位は、N-155°-Wを示す。豊坑と主室底面はほぼ同じ高さである。出土遺物は覆土中から縄文時代から平安時代の土器片が出土している。

27号地下式壙（第79図・写真図版18）

本跡はG8グリッドに位置する。規模は豊坑長軸1.28m、短軸0.8m、深さ0.29m、主室長軸2.72m、短軸2.0m、底面積 4.94m^2 を測る。主軸方位は、N-169°-Wを示す。豊坑と主室底面はほぼ同じ高さである。出土遺物は覆土中から縄文時代から平安時代の土器片が出土している。

28号地下式壙（第79図・写真図版18）

本跡はG8グリッドに位置する。規模は豊坑長軸1.1m、短軸0.69m、深さ0.32m、主室長軸2.18m、短軸2.1m、底面積 4.63m^2 を測る。主軸方位は、N-175°-Wを示す。豊坑底面は主室に向かって降りる2段の低い階段状になっている。出土遺物は覆土中から縄文時代から平安時代の土器片が出土している。

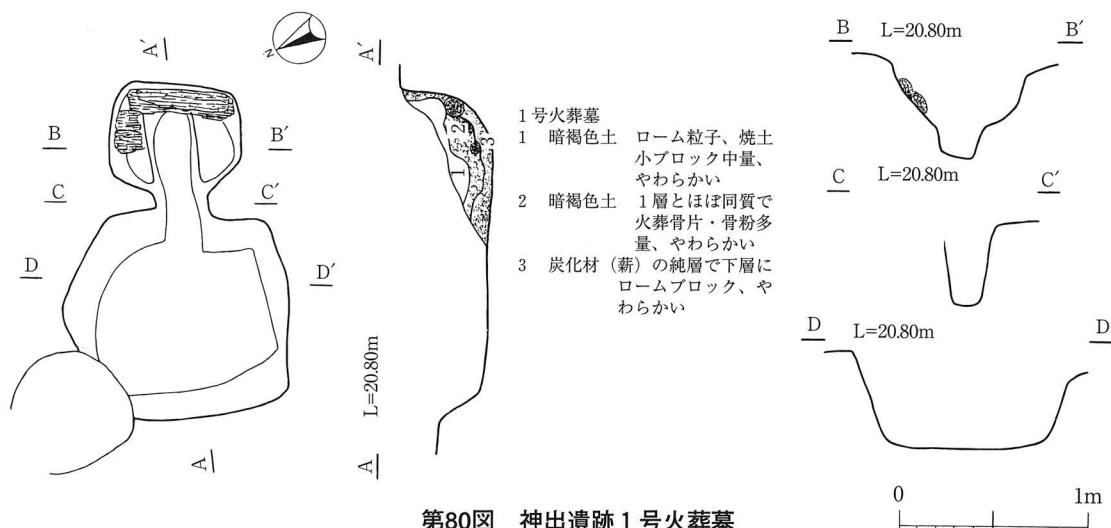
29号地下式壙（第79図）

本跡はG8グリッドに位置する。規模は豊坑長軸0.81m、短軸0.8m、深さ0.22m、主室長軸3.11m、短軸1.90m、底面積 5.53m^2 を測る。主軸方位は、N-87°-Wを示す。豊坑と主室底面はほぼ同じ高さである。出土遺物は覆土中から縄文時代から平安時代の土器片が出土している。

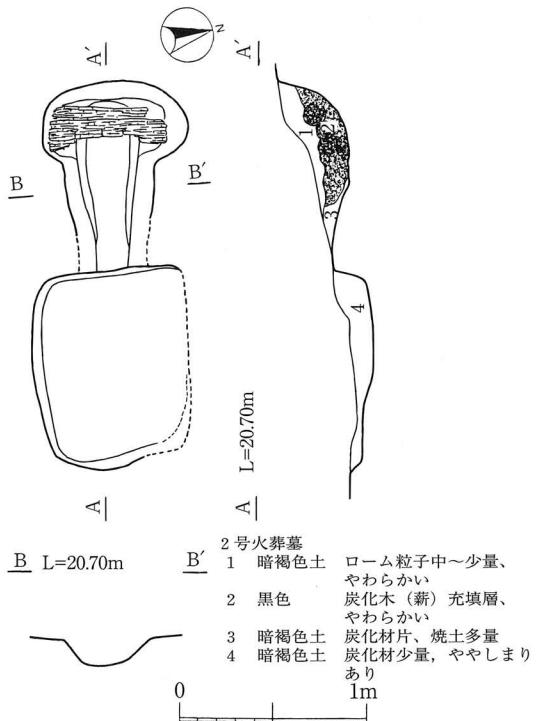
(7) 火葬墓（火葬遺構）

1号火葬墓（第80図・写真図版13）

本跡はJ5グリッドに位置し、3号溝によって一部を掘り込まれている。規模は主土坑が長軸0.7m、短軸0.6m、深さ0.5mを測る。主土坑と直交方向に主土坑の底面よりも0.17m掘り下げて幅0.25m、長さ0.8mの溝を切っている。溝は土坑の壁をくり抜いて外に突出し、溝の先端は方形の土坑と接続している。外の方形土坑の規模は、下端で長軸0.9m、短軸0.7mである。方形の土坑から主土坑を向いた方向を主軸方位とする、N-113°-Eである。主土坑の覆土は下層から炭化材層、火葬骨片の極少量混在する暗褐色土層が堆積している。溝や方形の土坑は空気の流入口的あるいは焚き口的な役割か。



第80図 神出遺跡1号火葬墓



第81図 神出遺跡 2号火葬墓

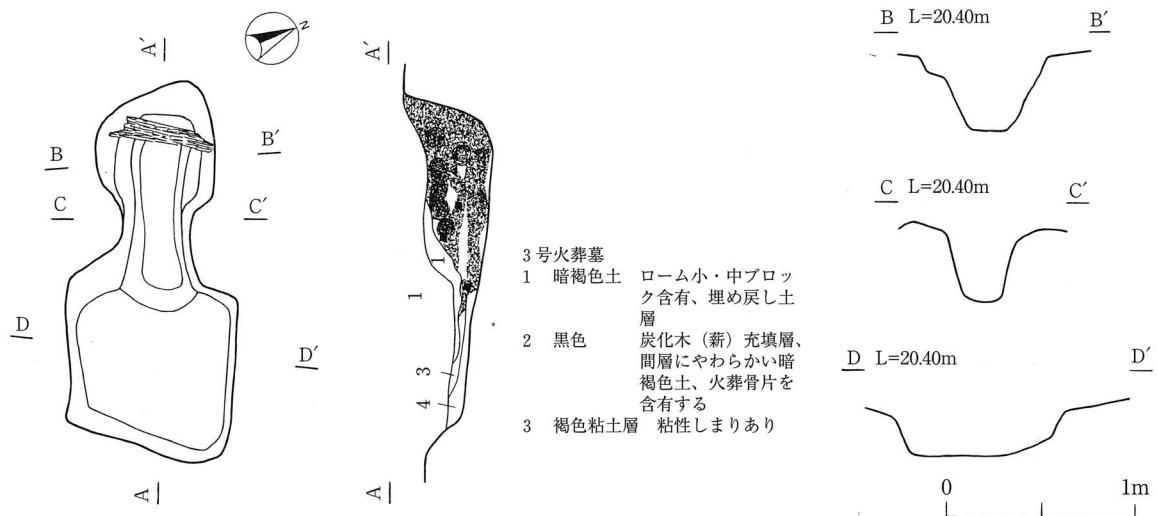
2号火葬墓（火葬遺構）（第81図・写真図版13）

本跡は I5 グリッドに位置する。規模は主土坑が長軸 0.88m、短軸 0.77m、深さ 0.36m を測る。土坑と直交方向に幅 0.29m、長さ 0.9m の溝を底面から土坑外に 0.55m 程延ばしている。外に延びた溝の先端は方形の土坑と接続している。方形土坑の規模は、下端で長軸 0.93m、短軸 0.78m である。方形の土坑から主土坑を向いた方向を主軸方位とすると、N-76°-W である。主土坑内には、炭化材片と焼土を多量に含有した暗褐色土層が堆積し、その上に炭化木の横置きに積め込んだ層が堆積している。火葬骨片は見られなかった。方形土坑内にも炭化材を少量含んだ暗褐色土が堆積していた。

3号火葬墓（第82図・写真図版13）

本跡は I5 グリッドに位置する。規模は長軸 0.7m、短軸 0.66m、深さ 0.4m を測る。主土坑と直交方向に主土坑の底面よりも 0.30m 掘り下げて幅 0.21m、長さ 1.03m の溝を

切っている。溝は土坑の壁をくり抜いて外に突出しているよう、溝の先端は方形の土坑と接続している。方形土坑の規模は下端で長軸 0.8m、短軸 0.79m でほぼ方形である。主軸方位は N-63°-W である。主土坑、方形土坑とも底面は地山の粘土層が露出している。主土坑の覆土は最下層にぶい褐色粘土の薄い堆積があり、その上に形のくずれた炭化材層、さらに褐色の粘土層をはさんで厚い炭化木の充填層が堆積している。火葬骨片は炭化木の充填層の間隙にやわらかい暗褐色土層が入っておりその中に少量含有されている。火葬骨片の総量は 200g を計る。



第82図 神出遺跡 3号火葬墓

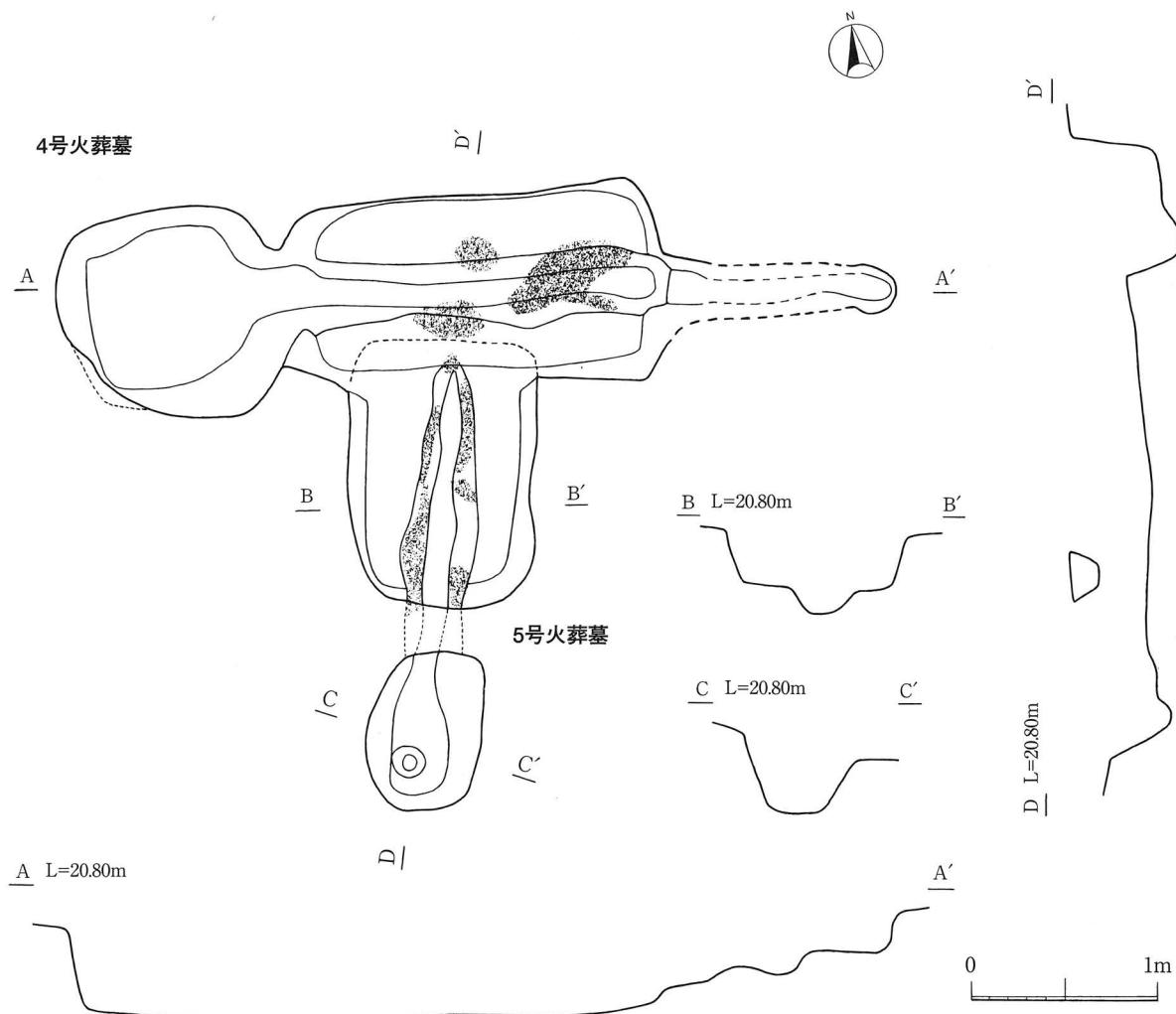
4号火葬墓（火葬遺構）（第83図・写真図版13）

本跡は J7 グリッドに位置する。5号火葬墓が本跡の覆土を掘り込んでいる。規模は長軸 1.92m 短軸、1.03m、深さ 0.53m を測る。主土坑長軸中心線上に底面よりも 10m 低く掘り込んで、幅 0.35m、長さ 2.5m の

溝を切っている。主土坑の外に延びた溝の先端の一方は方形の土坑と接続している。もう一方の先端は、主土坑外に0.9m程のびて、0.3m程上がっており煙道のような役割を果たしているように観察された。土坑内には炭化材層を下層とし、上層にローム主体の埋め戻し土層が堆積している。底面や溝内は著しく赤変、焼土化している。

5号火葬墓（火葬遺構）（第83図・写真図版13）

本跡はJ7グリッドに位置する。4号火葬墓の覆土を掘り込んで構築している。規模は長軸1.5m、短軸0.98m、深さ0.3mを測る。主土坑の長軸方向で土坑の底面よりも低い高さに幅0.3m、長さ2.35mの溝を切り、溝は土坑の南壁をくり抜いて外に1m突出している。外に延びた溝は長軸0.85m、短軸0.62mの方形の土坑と接続している。主土坑底面の溝内壁が著しく焼土化している。



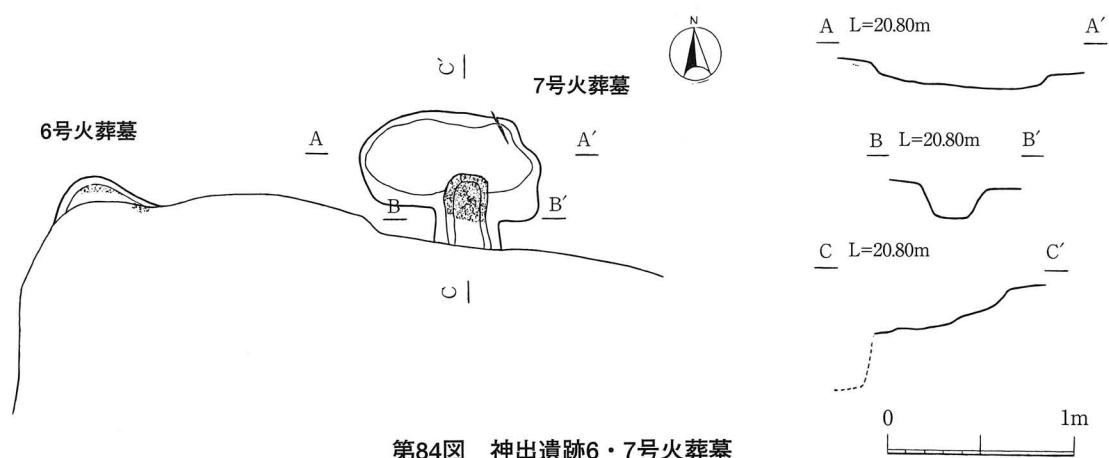
第83図 神出遺跡4・5号火葬墓

6号火葬墓（第84図）

本跡はK8グリッドに位置する。393号土坑によって掘り込まれており遺存状態が悪く炭化物を含んだ焼土化した落ち込みとして確認された。炭化材片とともに火葬骨片が総重量90g採取され、火葬墓主土坑の一部と判断した。規模は残存全長0.55mを測る。

7号火葬墓（火葬遺構）（第84図・写真図版13）

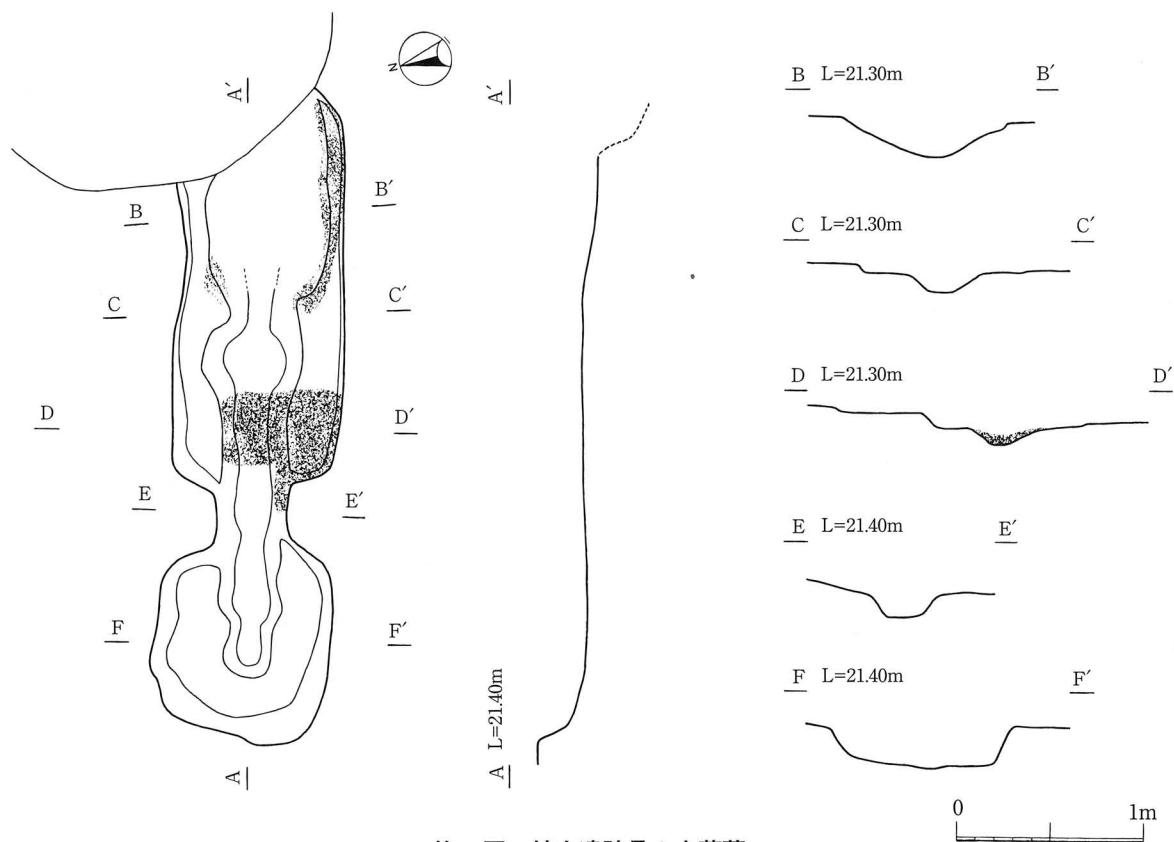
本跡はK8グリッドに位置する。270号土坑によって掘り込まれている。主土坑の規模は長軸0.95m 短軸0.52m、深さ0.09mを測る。土坑と直交方向に土坑の底面よりも低い高さに幅0.34mの溝を切り、溝は主土坑の底面を0.01m程掘り込んでいる。主土坑にくい込んだ溝の内壁から底面が焼土化している。



第84図 神出遺跡6・7号火葬墓

8号火葬墓（火葬遺構）（第85図・写真図版13）

本跡はK7～K8グリッドに位置する。東側の一部を耕作溝によって掘り込まれている。規模は長軸2.1m、短軸0.9m、深さ0.25mを測る。主土坑長軸中心線上に底面よりも約0.01m低く掘り込んで、幅0.35m、残存長2.2mの溝を切っている。主土坑の外に延びた溝の先端は長軸0.85m、短軸0.62mの方形の土坑と接続している。主土坑内には炭化材が堆積しており、底面や溝内は著しく焼土化している。



第85図 神出遺跡号8火葬墓

(8) 溝・道状遺構

本遺跡からは、溝状遺構が9条、道状遺構が6条確認されている。道状遺構としたものは溝の埋没途上に踏みしめられたような硬化面の連続的な検出によって判断したもので、形態的には溝の形態と同一であるが、調査時点の呼称に従った。以下に各遺構について詳述する。

1号道（第86図）

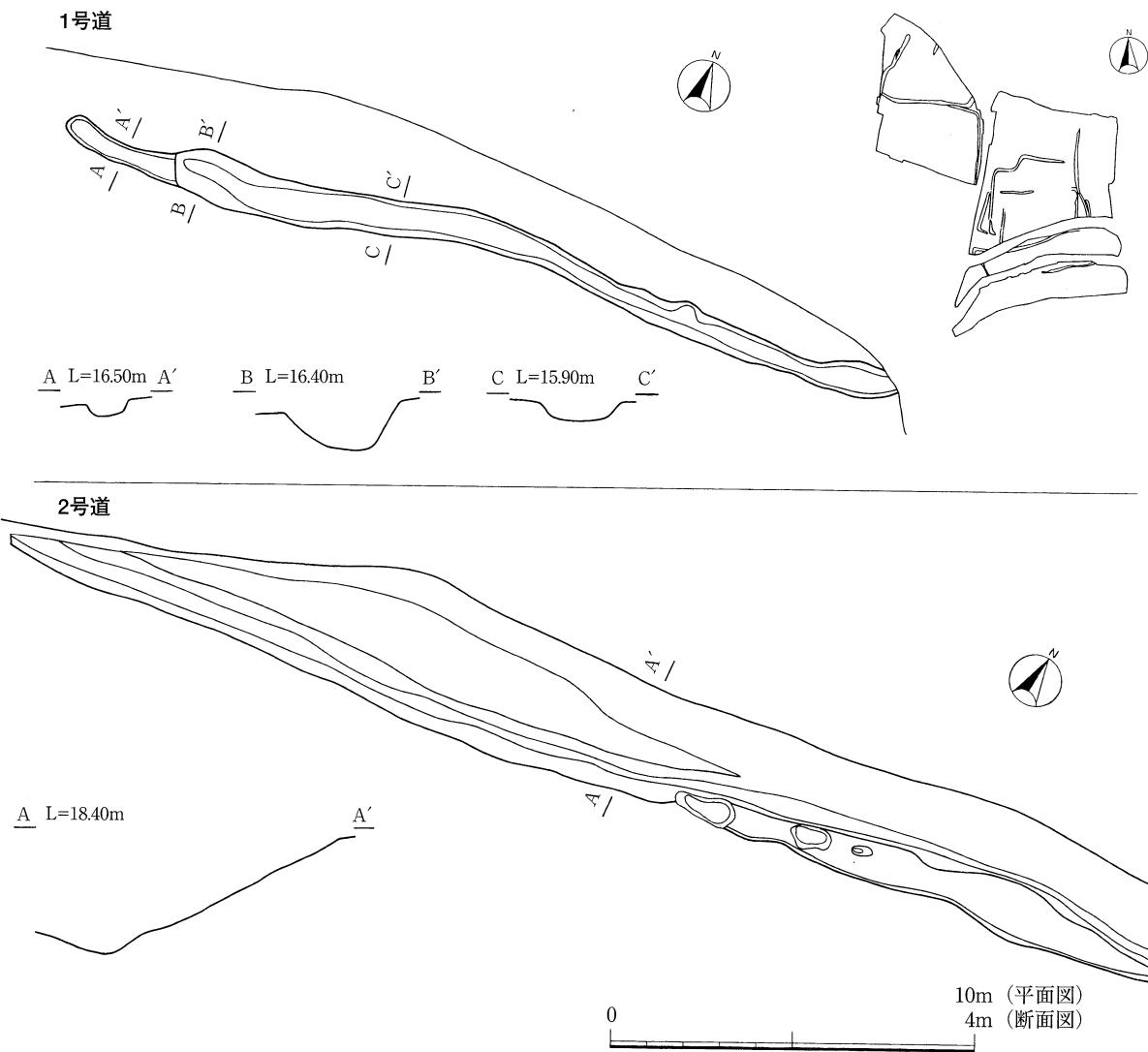
本跡は遺跡南部の標高16.5~15mの傾斜地にあり、緩やかに東に傾斜して掘削されている。西端はG7グリッド付近からほぼ東に向かって延び、G9グリッド地点でエリア外に延びている。長さ24m、幅1.1m、深さ0.01m、断面形は逆台字形である。

2号道（第86図・写真図版20）

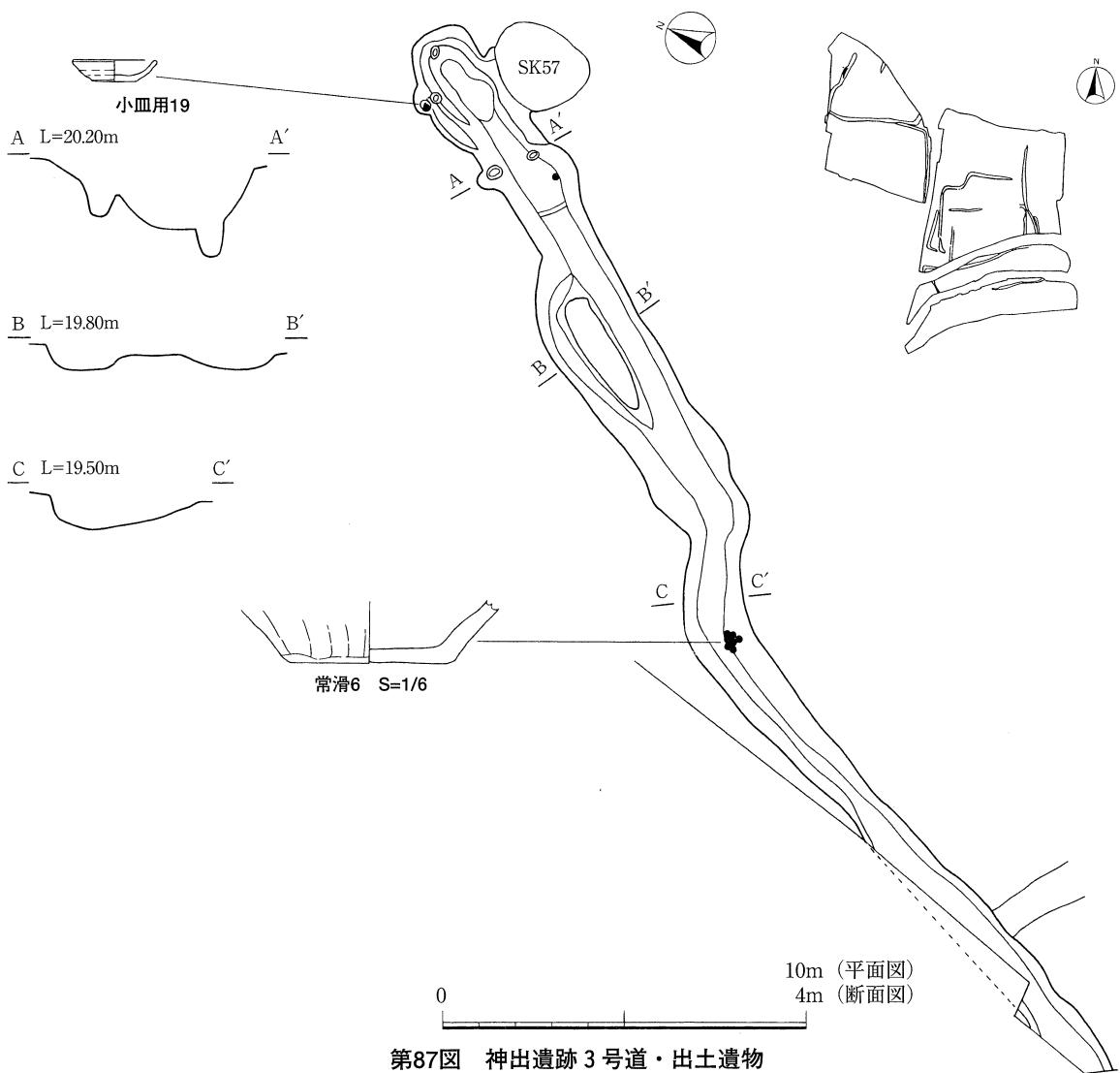
本跡は遺跡南部の南面した緩やかな傾斜地上にあり、等高線に平行しながらわずかに西が高くに東に傾斜して掘削されている。西端はH6グリッド付近からほぼ東に向かって延び、H9グリッド地点でエリア外に延びている。長さ34m、幅1.0~1.5m、深さ0.2m、断面形は浅い皿状である。

3号道（第87図・写真図版20）

本跡は遺跡中央部の南面した緩やかな傾斜地下にあり、等高線に平行して北が高くに南に傾斜して掘削されている。北端はR2グリッド付近からほぼ南に向かって延び、O1グリッド地点でエリア外に延びてしま



第86図 神出遺跡1・2号道



第87図 神出遺跡3号道・出土遺物

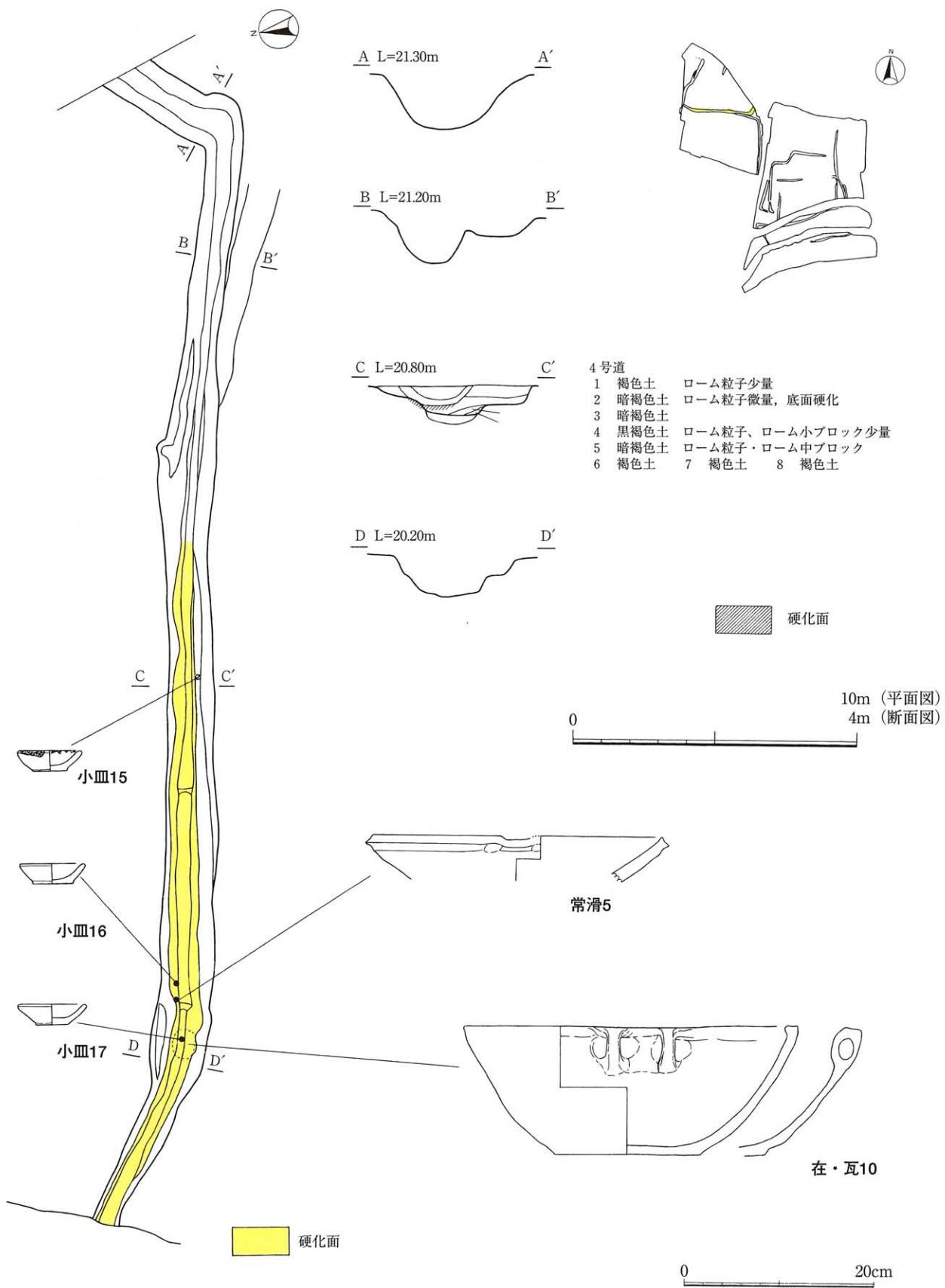
っている。長さ34m、幅0.9~2.4m、深さ0.2~0.6m、断面形は浅い皿状である。出土遺物は、土師質土器小皿（No8,18,19,20）、常滑片口鉢（No 2 =常滑 No 6）、古瀬戸平椀片（瀬戸系 No 3）、内耳鍋片、近世陶磁器片少量が覆土から出土している。

4号道（第88図・写真図版20）

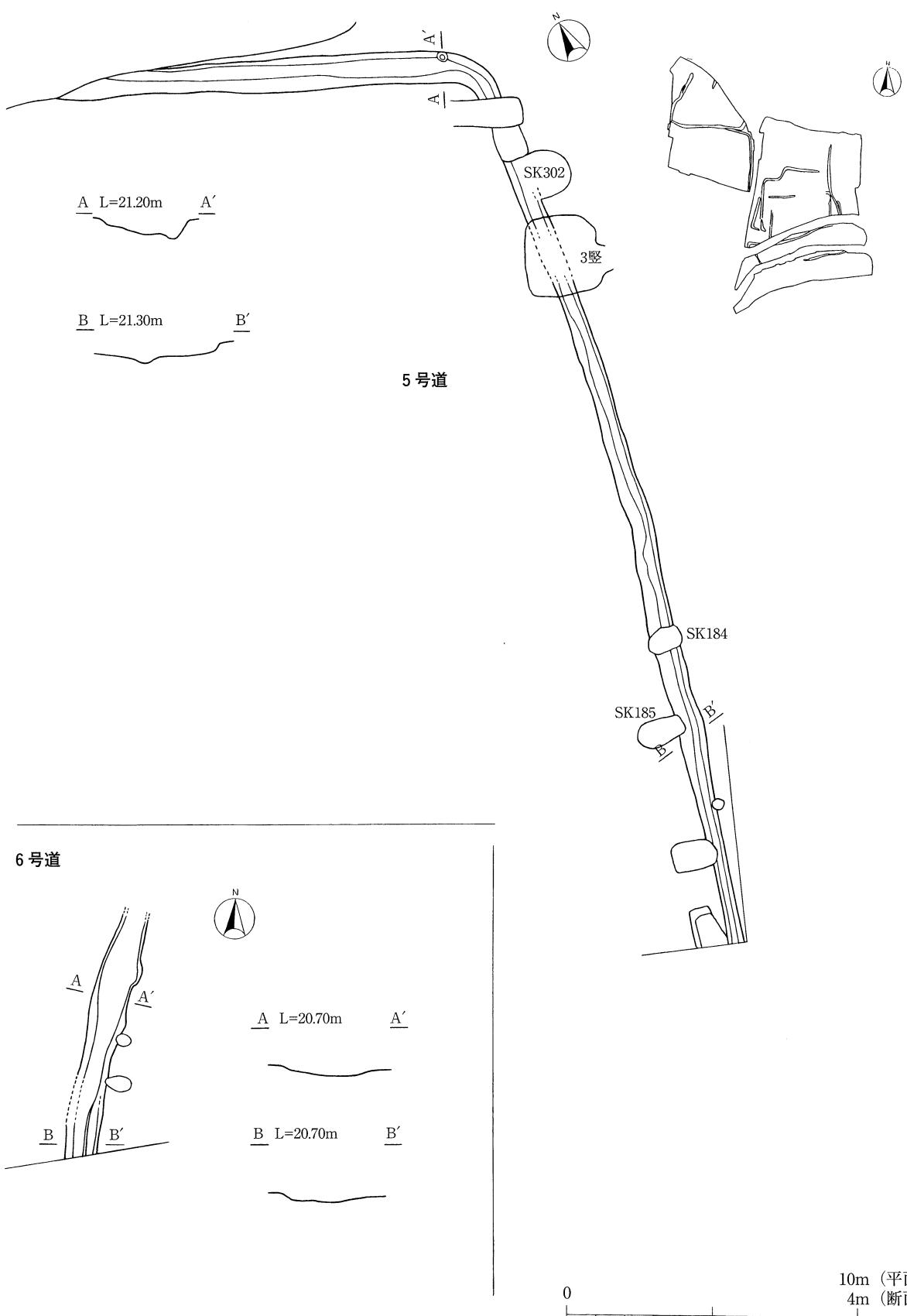
本跡は遺跡西部の西下がりに傾斜した台地緩斜面上にあり、等高線に直交して西下がりに傾斜して掘削されている。東端はM5グリッド付近からほぼ東に向かって延び、O1グリッド地点でエリア外に延びている。長さ41m、幅1.0~1.6m、深さ0.5m、断面形は逆台字形である。5号道がM5グリッド付近から重なってきており覆土の上層を掘り込まれている。出土遺物は内耳鍋（在・瓦 No10）、土師質土器小皿（小皿 No15・16・17）、常滑片口鉢片（常滑 No 5）、古瀬戸片、土師質土器の羽釜片、鉄滓等が出土している。

5号道（第89図）

本跡は遺跡中央部にあり、南端はK4グリッド付近から北に向かって延び、N5グリッド地点で西に90°向きを変え、4号道と重なって西に延びている。長さ45m、幅0.5~1.1m、深さ0.2m、断面形は浅い皿状である。出土遺物は近世陶磁器片、土師質土器小皿（No22）が覆土から出土している。



第88図 神出遺跡 4号道・出土遺物



第39図 神出遺跡 5・6号道

6号道（第89図）

本跡は遺跡中央部の南面した緩傾斜地上にあり、北が高く南に傾斜して掘削されている。西端はJ5グリッド付近から南に向かって延び、H5グリッド地点でエリア外に延びている。長さ9m、幅1.2m、深さ0.01m、底面が平坦で硬化しており道路として捉えた。4号溝や11号溝とともに柱穴状の小穴群の広がる地域を区画するような位置にある。

1号溝（第90図・写真図版20）

本跡は遺跡南部の南面した緩やかな傾斜地上にあり、北が高く南に傾斜して掘削されている。北端はH4グリッドのエリア外から南に向かって延び、G4グリッド地点で再びエリア外に延びている。長さ6m、幅0.7m、深さ0.01m、断面形は浅い皿状である。

2号溝（第90図）

本跡は遺跡北西部の北下がりの地形上にあり、南端はQ3グリッド付近から北東に向かって延び、R3グリッド地点でエリア外に延びている。長さ6m、幅1.6m、深さ0.3~0.4m、断面形は浅い皿状である。出土遺物は近世陶磁器片、古瀬戸瓶子片、内耳鍋片、龍泉窯系蓮弁文青磁碗片（No3・4）が出土している。

3号溝（第90図・写真図版20）

本跡は遺跡中央部にあり、北端はK5グリッドから南に向かって18m延び、L7グリッドで東に向かって屈曲し1.5m延びて地形の流失でその後は追うことができない。幅1.1~1.3m、深さ0.3m、断面形は逆台形で底面は浅い皿状である。

4・9号溝（第90図・写真図版20）

本跡は遺跡中央部にあり、東端はK9グリッドから西に向かって直線的に19m延び、L7グリッドで南に屈曲し7m、再び西にクランク状に屈曲し9m延び、再度南に向かって屈曲しそのまま南へ28m延びて今度は東へ屈曲し、地形の流失でその後は追うことができない。総延長64m、幅1.6m、深さ約0.5m、断面形は逆台形である。調査時点で4号・9号と別番号を付したが同一の連続した溝である。出土遺物は古墳時代の土師器片が多く、古瀬戸梅瓶小片、近世陶磁器片が出土している。

5号溝（第91図・写真図版20）

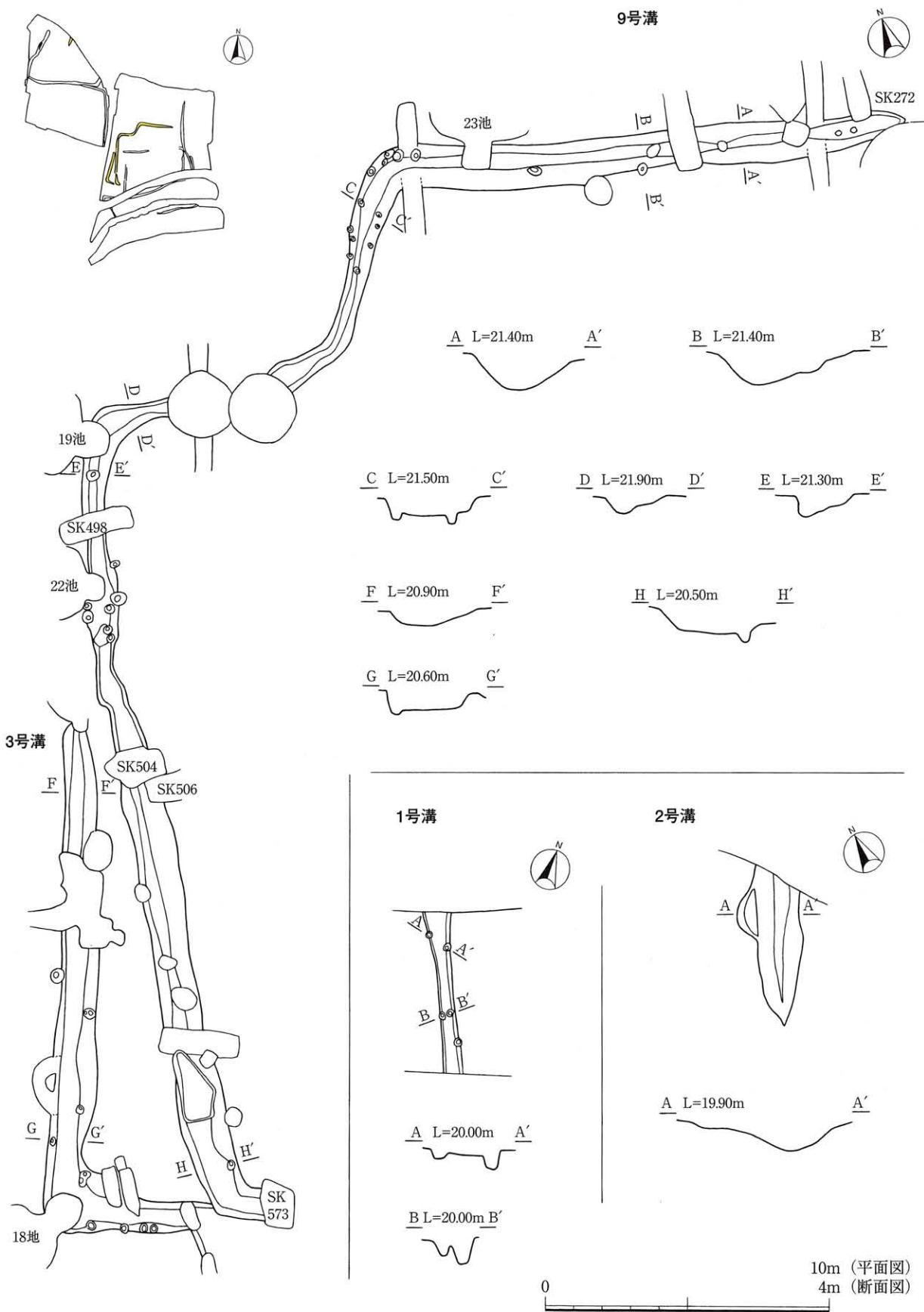
本跡は遺跡中央部にあり、東端はJ9グリッドから西に向かって37m延び、J5グリッドから先の接続は不明である。多くの土坑や地下式壙に掘り込まれている。幅0.6~1.2m、深さ約0.01m、断面形は浅い皿状である。

10号溝（第91図・写真図版20）

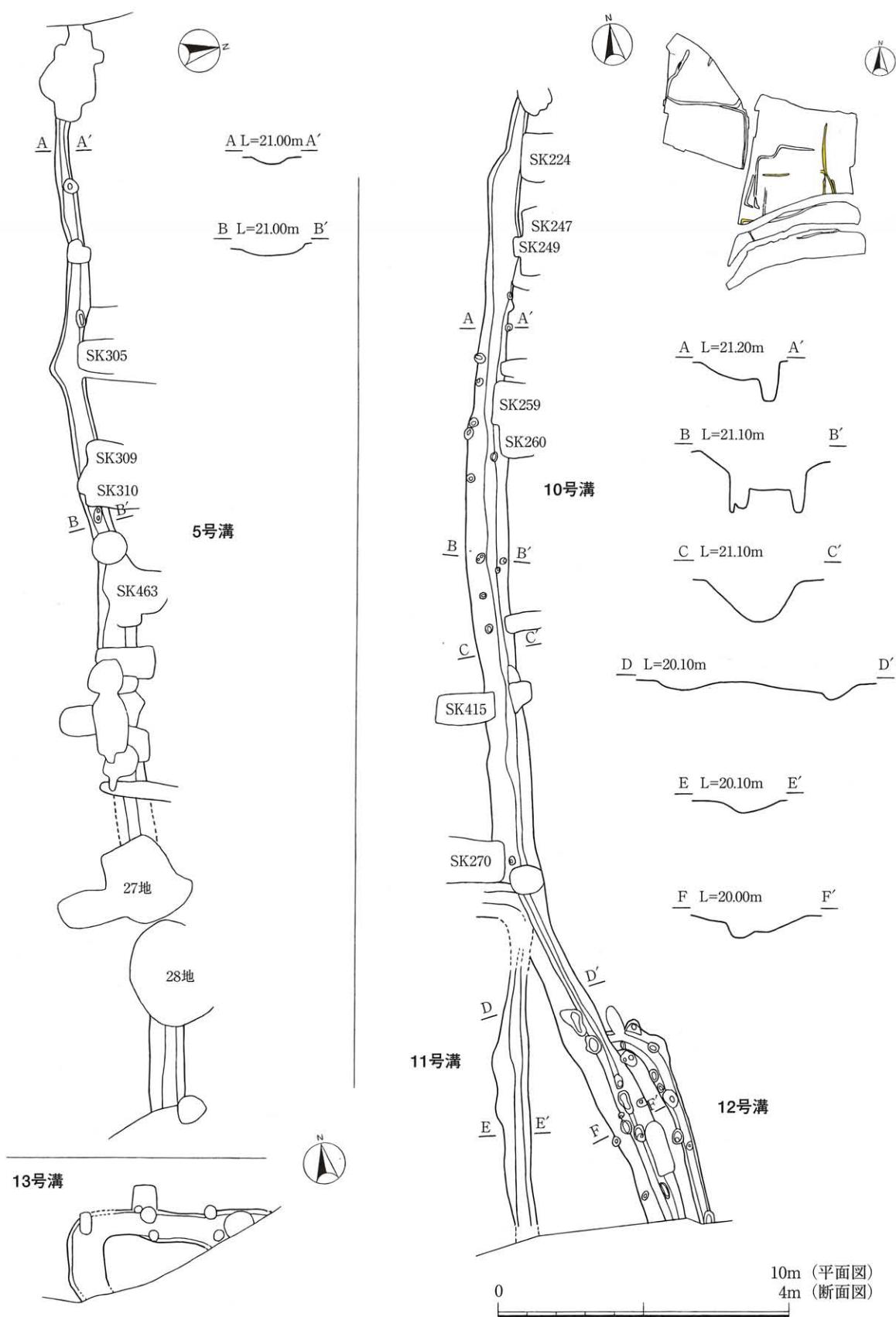
本跡は遺跡東部にある南北方向に延びる溝で、東西方向に延びる台地の尾根状地形を分断している。北端はM9グリッド付近からほぼ南に向かって延び、I9グリッド地点で調査エリアの外に延びている。北端は自然の傾斜地形で流失してしまっている。長さ39m、幅0.5~1.4m、深さ0.6m、断面形は「V」状で、時期不明の長方形土坑によって何か所も掘り込まれている。出土遺物は近世陶磁器片や砥石片が出土している。

11号溝（第90図）

本跡は遺跡中央部の南側の平坦面上にあり、南に緩やかに傾斜して、I9グリッド地点で調査エリアの外に延びている。北部は削平を受けているものの、5号溝と接続しているように地山の汚れた範囲が観察された。長さ9m、幅0.6~0.9m、深さ0.3m、断面形は浅い皿状である。出土遺物は近世陶磁器片や常滑片（No8）、古瀬戸片が出土している。



第90図 神出遺跡 1~4、9号溝



第91図 神出遺跡 5、10~13号溝

12号溝（第91図・写真図版20）

本跡は遺跡中央部の緩やかな傾斜地の東端にあり、北が高く南に緩やかに傾斜して掘削されている。北端はJ9グリッド付近から南南東に向かって延び、I9グリッド地点で調査エリア外へ延びて、10号溝と接続している。長さ7.5m、幅0.4~0.8m、深さ0.1m、断面形は浅い皿状で、時期不明の長方形土坑や火葬墓によって掘り込まれている。4号溝や11号溝とともに柱穴状の小穴群の広がる地域を区画するような位置にある。

13号溝（第91図）

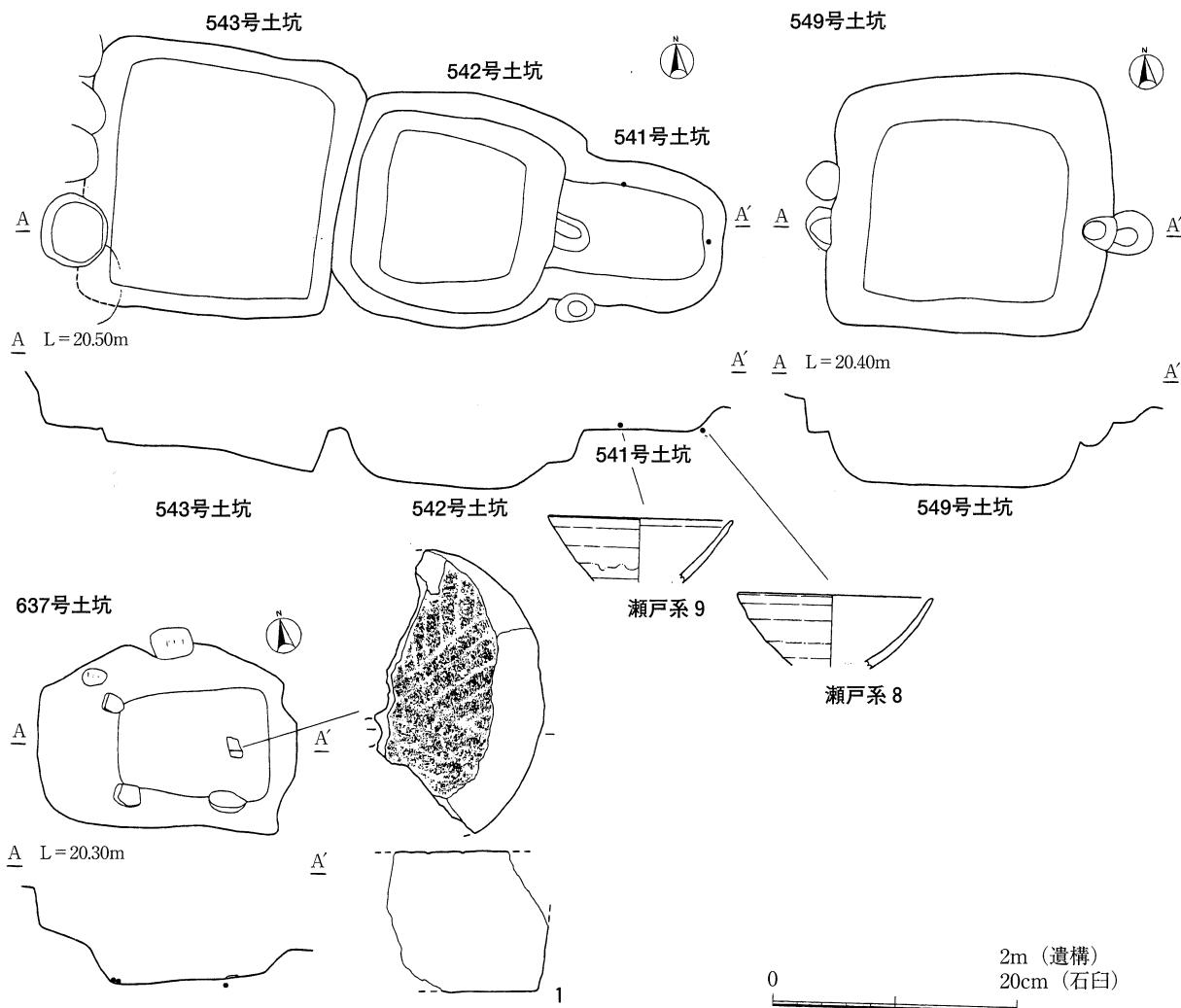
本跡は遺跡南西部、H4グリッドにある。長さ東西方向7m、南北方向3m、幅1m、深さ0.02m、断面形は浅い皿状である。

(9) 土坑

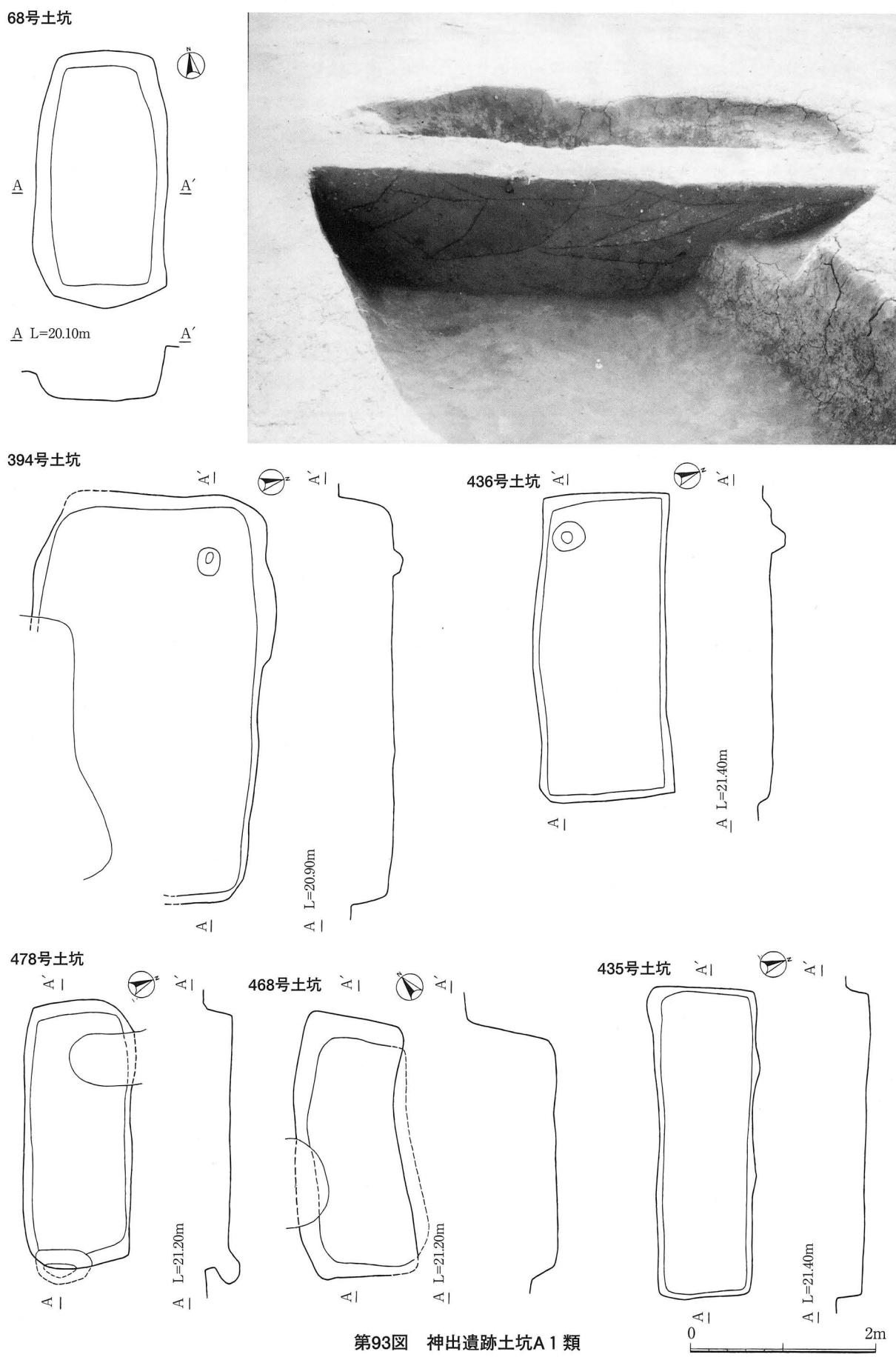
本遺跡からは、総数670基余りの土坑が確認・調査されている。その中で形態や切り合ひ関係、覆土の状態、出土遺物等から、中世に所属すると判断された土坑についてまず図を掲載し、その他の時期のはつきりしていないものについては土坑を形態別に分類し、その中から代表的な例を掲載することとする。なお、土坑の規模や覆土中の遺物等については土坑一覧表を参照いただきたい。

中世の方形土坑（第92図・第4表・写真図版15・16）

541号土坑は底面から古瀬戸平椀片（No8・9）が出土している。542号土坑からも古瀬戸碗片が出土し、形態や覆土の点からも類似している。543号土坑も方形で50cmを越える掘り込みというように、このページの



第92図 神出遺跡541~543、549、637号土坑・出土遺物

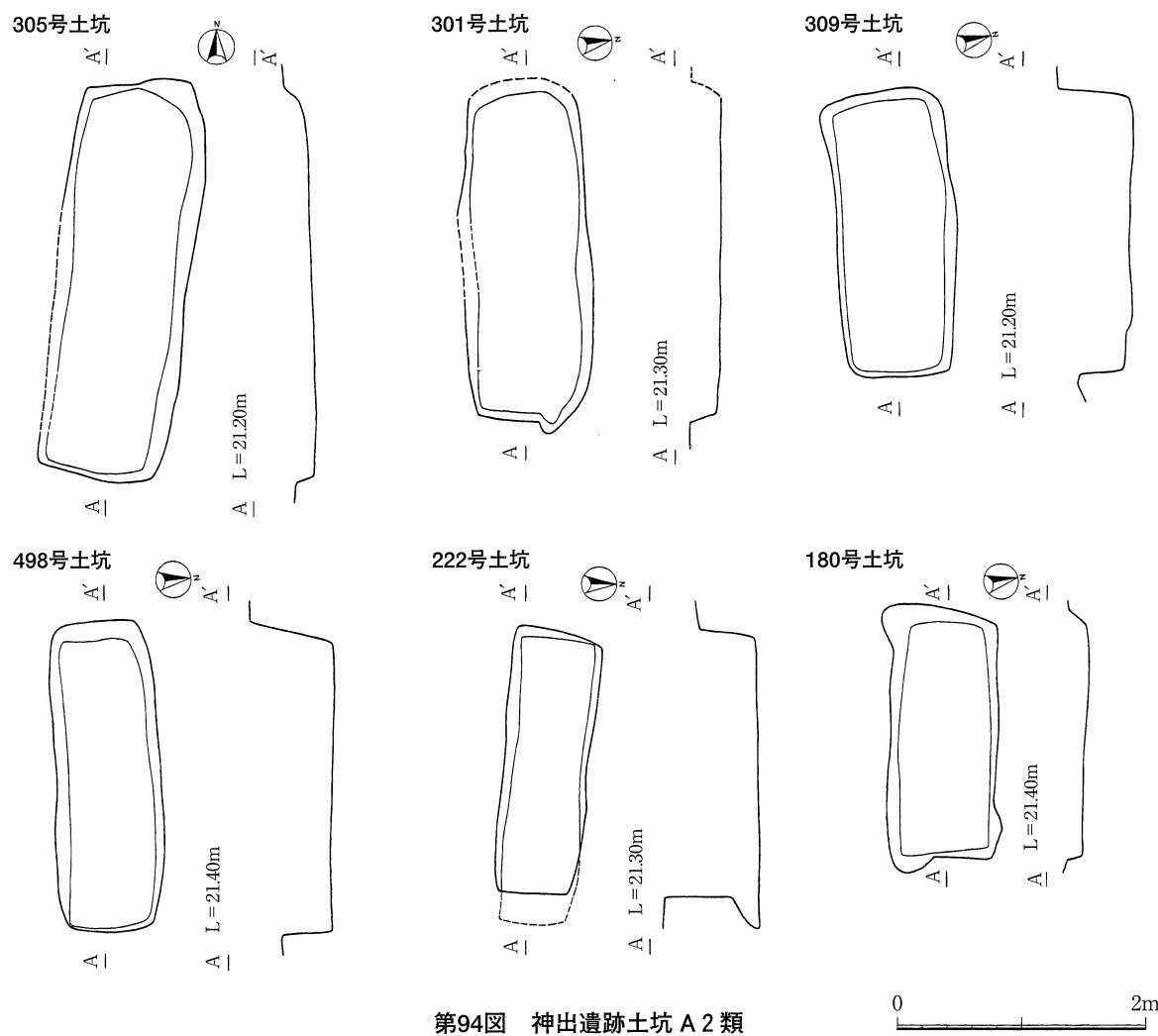


図に掲載した土坑は時期や性格が限定できそうな土坑である。637号土坑からは、石臼片と板状の筑波石が出土しているが、板状の石は平坦な面上に円形に平滑に整形した痕跡が残っており、礎石もしくは9号掘立柱建物跡で使われているような礎盤石の廃棄されたものの可能性がある。石臼は区画が六分割、副溝5~6本、ふくみがないので下臼である。時期的には古瀬戸の平椀等が15世紀代の遺物であり、15世紀後半頃の年代が推測できる。

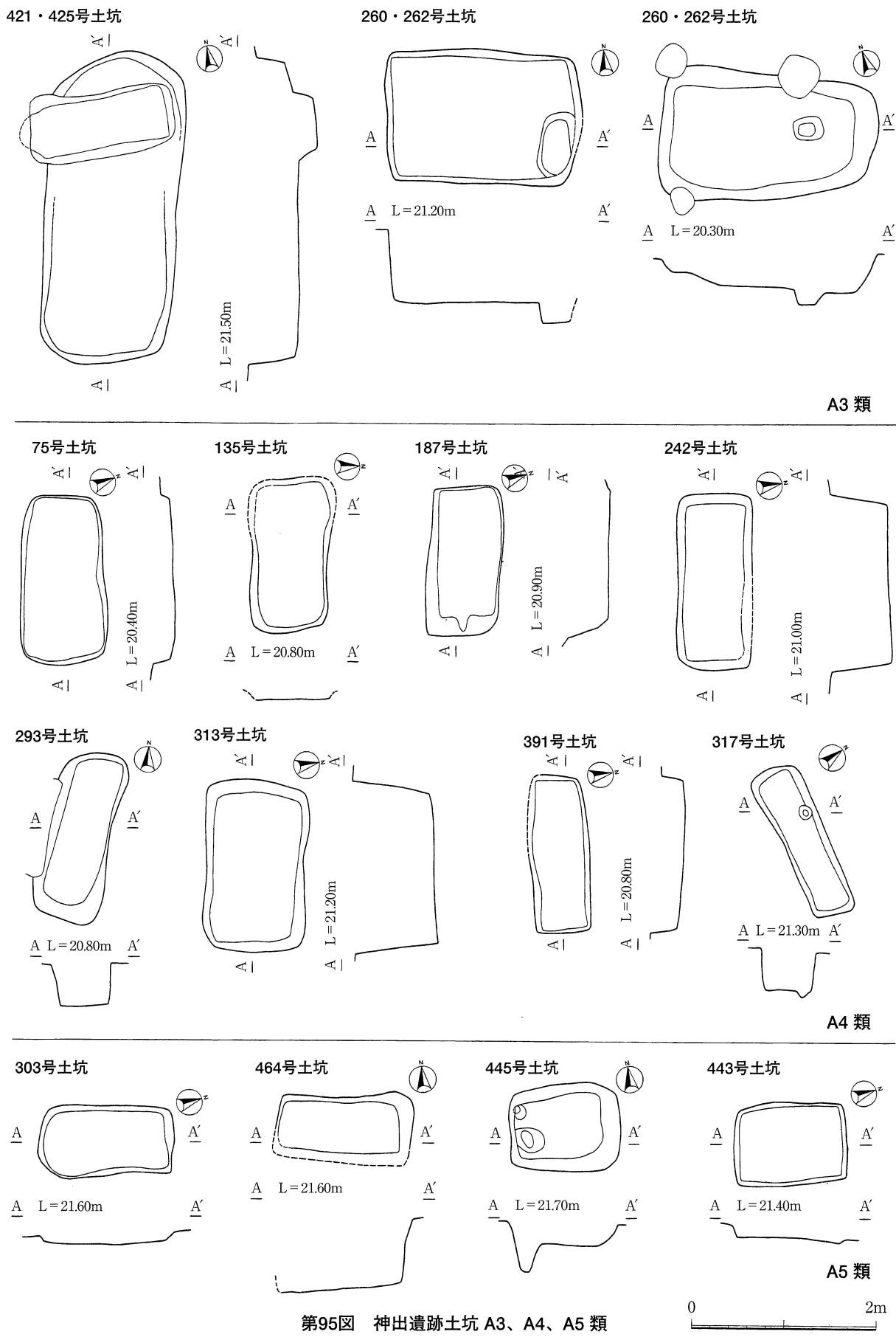
その他の土坑（第80図・第4表・写真図版16）

その他の土坑とは、古墳時代～平安時代の土坑を除いた、遺構にともなう出土遺物に乏しいものを対象とした。これらの大部分は切り合い関係から見て中世以降の時期になると考えられるものが多い。分類は、平面形と規模から行った。平面形態から、円形のものと長方形の2種類に分かれる。それぞれの中で大きいものから小さいものまで数値を限って規模別に分けた。以下は土坑の分類基準である。

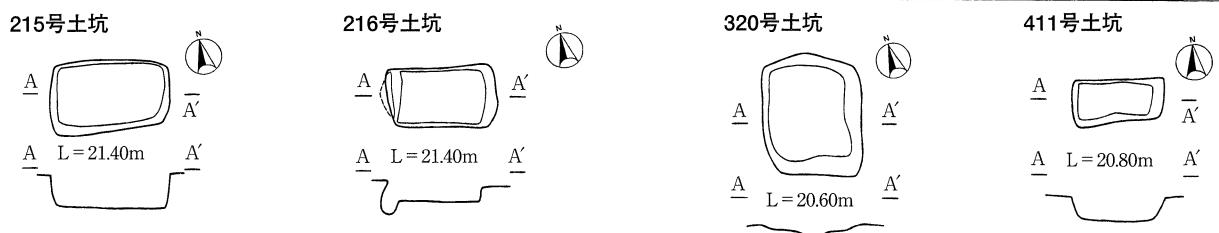
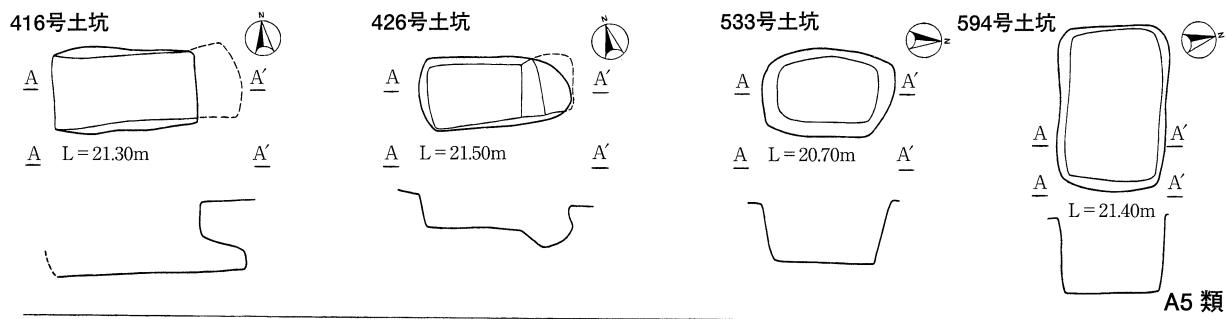
- A1 長方形で長さ3m以上、巾1m以上のもの。（第93図）
- A2 長方形で長さ2m以上、巾1m以上のもの。（第94図）
- A3 長方形で長さ2m以上、巾1m以下のもの。（第95図）
- A4 長方形で長さ1.5~2mのもの。（第95図）
- A5 長方形で長さ1.5~1mのもの。（第95・96図）
- A6 長方形で長さ1m以下のもの。（第96図）



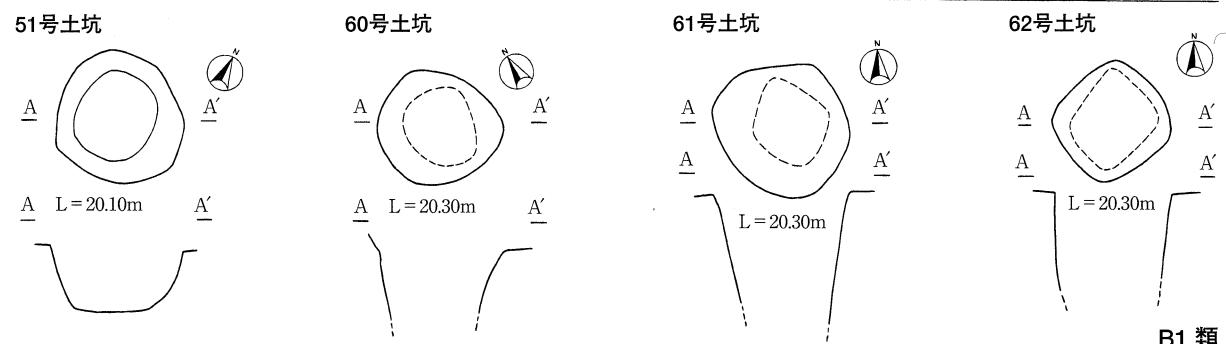
第94図 神出遺跡土坑A2類



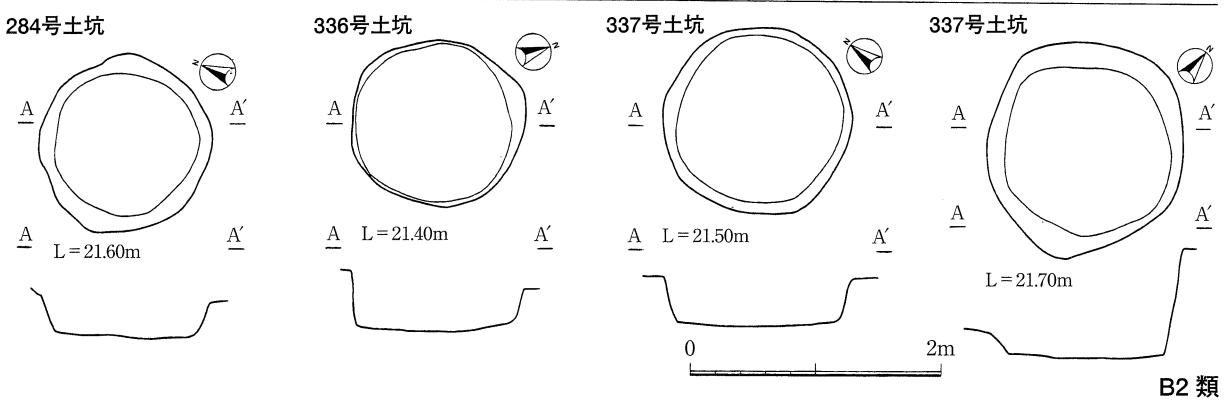
第95図 神出遺跡土坑 A3、A4、A5 類



A6類

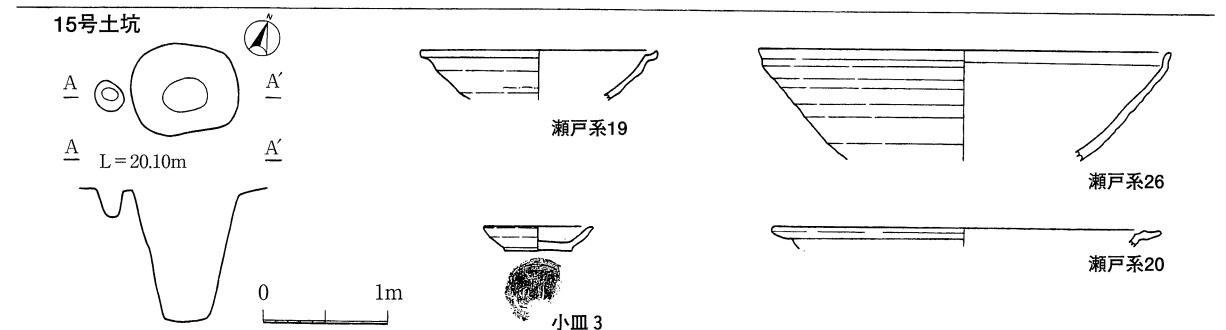


B1類



0 2m

B2類

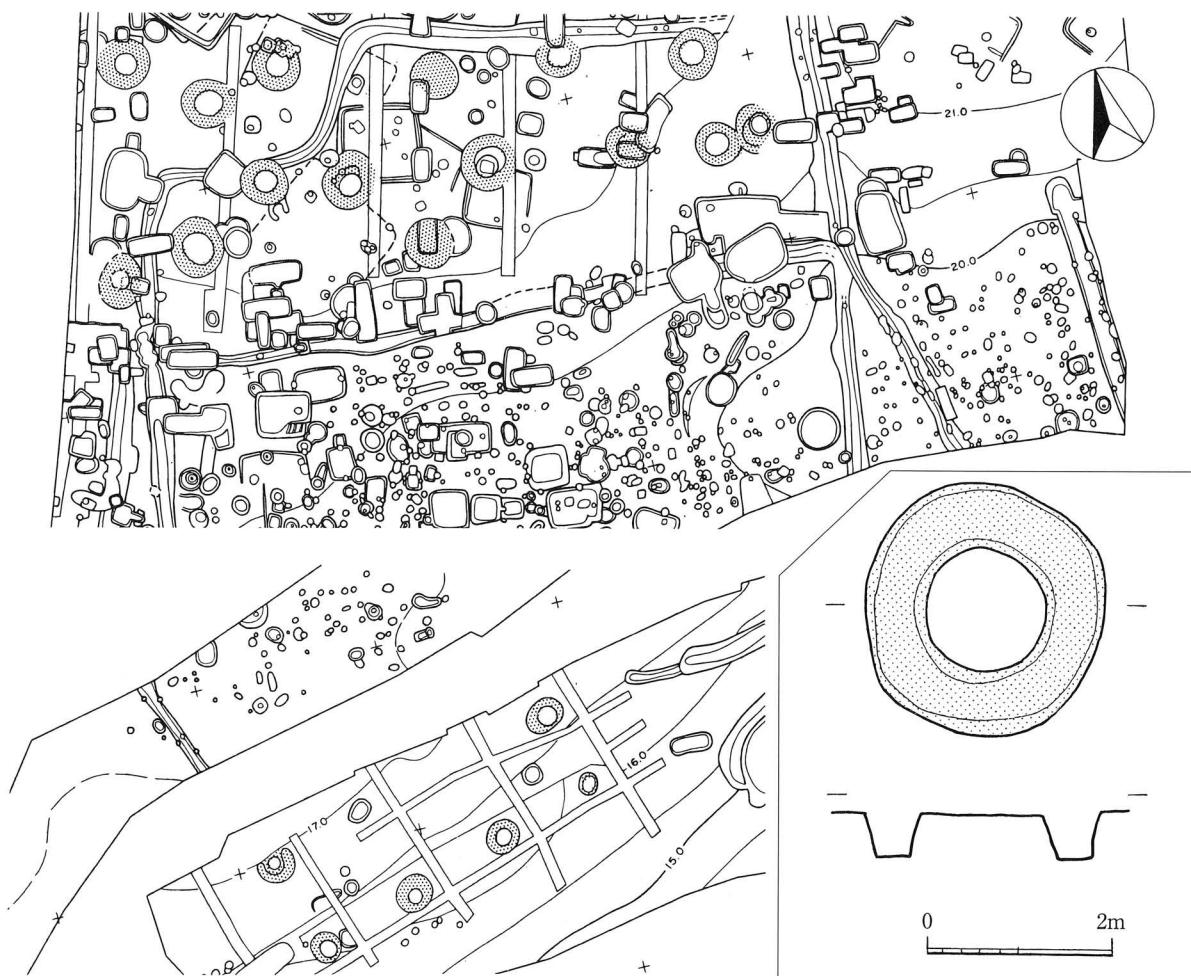


第96図 神出遺跡土坑 A5、A6、B1、B2類、15号土坑・出土遺物

B1 円形で直径1.4m 以上のもの。(第96図)

B2 円形で直径1.4m 以下のもの。(第96図)

以上の土坑は時期・性格が不明なものがほとんどであるが、円形のB2類のタイプで人骨片が出土しているものがあり、このタイプの中には墓壙の可能性のあるものもある。B1類の中で555・171号土坑からは古墳時代6世紀初頭前後の時期の遺物が出土しており、大形で円筒形土坑の中にはこの時期の屋外貯蔵施設的な性格の予測されるものも含んでいる。長方形A類については中世の遺構を掘り込んでいるものが多く、A4類に属する146号土坑からは近代の軍関係のバッチ状金属製品、A5類の658・659号土坑からは6枚ずつ寛永通宝が出土している。658号土坑のものは初鋸年1636年の古寛永4枚、1668年からの寛永通宝の文銭2枚であり、1668年以降の年代が考えられる。659号土坑のものは6枚とも新寛永で1697年以降の年代が考えられる。A6類の中の63号土坑からは永楽銭とともに古瀬戸卸し皿片、瀬戸・美濃天目椀が出土しており16世紀以降の年代が考えられる。つまり長さが1.5m以下の長方形土坑の中には江戸時代の墓壙になるものや、1.5~2.0mの長方形土坑の中には近代の土坑になるもの、径1.4以下円形土坑の中には時期不明であるが骨を残存させるような条件の墓壙があるということがわかる。その他にも近現代において畑内にぶどう棚を作る際に掘られるコンクリート支柱穴や、樹木周囲に掘られた径約2.5mのリング状の溝(第97図参照)が遺跡中央部と南部の斜面上で等間隔に20箇所確認された。



第97図 神出遺跡近・現代の果樹園跡

第4表 神出遺跡土坑一覧表(1)

番号	位 置	平 面 形	長軸×短軸×深さ(m)	出 土 遺 物 そ の 他
1	F-5	不整長方	1.80×0.60×0.05	
2	F-5	不整長方	1.15×0.95×0.15	
3	G-6	方 形	0.09×0.09×0.25	
4	F·G-6	円 形	0.09×—×0.20	
5	G-7	長方形	2.10×0.75×0.35	
6	G-8	楕円形	1.28×0.82×0.61	
7	G-9	長方形	1.50×1.30×0.65	須恵器甕・高坏・甌(平安)、繩文片
8	G-9	不整長方	1.20×1.01×0.15	
9	G-9	不整長方	2.10×1.80×0.21	須恵器甕(平安)
10	G-9	長方形	2.00×0.90×0.24	繩文~土師器片(平安)
11	G-10	隅丸長方	1.05×0.70×0.20	内耳鍋片
12	G·F-10	不整円形	0.80×0.52×0.21	
13	G-4	隅丸長方	0.80×0.45×0.11	
14	H-5	楕円形?	(1.24)×1.12×0.58	
15	G-5	円 形	0.87×0.73×1.00	かわらけ、常滑片、古瀬戸片、内耳鍋片、刀子、茶臼片
16	H-5	円 形	1.60×—×0.70	内耳鍋片、古瀬戸縁釉皿
17	H-5	楕円形	0.90×0.72×0.30	
18	G-6	不整円形	0.70×—×0.20	
19	H-7	楕円形	0.90×0.70×0.33	土師器、須恵器(平安)片、須恵器壺口縁片(古墳)
20	G·H-7	長楕円形	0.90×0.50×0.15	土師器細片、繩文土器片
21	H-7	長楕円形	1.32×0.55×0.20	繩文土器片(前期)
22	—	楕円形	0.90×0.60×0.20	
23	H-7	長楕円形	0.45×0.25×0.20	
24	H-7	方 形	0.60×0.42×0.20	
25	H-7	長楕円形	2.00×0.80×0.20	土師器坏(古墳)
26	H-7	隅丸長方	1.15×0.90×0.15	かわらけ、内耳鍋片
27	H-7	楕円形	0.75×0.55×0.30	
28	H-7	楕円形	0.55×0.40×0.05	
29	H-7	楕円形	0.60×0.44×0.25	
30	H-7	楕円形	0.70×0.50×0.30	
31	H-7	不整方形	0.35×—×0.20	
32	H-7	隅丸長方	1.20×0.95×0.25	
33	H-7	不整形	1.70×0.52×—	土師器細片(古墳)
34	H-8	不整形	1.02×0.79×0.12	
35	H-8	不整円形	1.07×0.84×0.38	
36	H-8	楕円形	0.60×0.50×0.09	
37	H-10	円形?	2.14×(1.35)×0.32	土師器片(平安)
38	H-10	楕円形	0.73×0.69×0.17	
39	H-10	楕円形	0.89×0.73×0.23	常滑鉢、繩文片、土師器・須恵器細片(平安)
40	H-10	円形	0.75×0.65×0.45	繩文、土師器細片
41	H-10	楕円形	(1.16)×0.87×0.18	繩文土器片、土師器細片(古墳)
42	H-10	円形	0.48×0.44×0.27	繩文土器小片(前期)、土師器小片(平安)
43	—	楕円形?	2.23×1.25×—	繩文土器片(阿玉台)、須恵器片(平安)
44	R-2	方 形	(1.48)×(1.43)×0.15	
45	R-2	不整形	(1.90)×(1.90)×0.18	
46	Q-2	方 形	1.84×(1.80)×0.10	
47	Q-2	楕円形	1.85×(1.90)×0.12	内耳鍋片
48	Q-2	長方形	1.87×0.71×0.13	
49	Q-2		3.14×2.28×0.70	かわらけ、内耳鍋片、15号地下式壙に変更
50	Q-3	楕円形	0.78×0.31×0.14	
51	Q-3	円 形	1.03×1.01×0.52	
52	Q-3	方 形	0.63×0.61×0.14	
53	Q-3	円 形	0.47×0.41×0.15	
54	P-2	楕円形?	1.39×1.31×0.74	
55	P-2	楕円形	1.56×1.40×1.25	

神出遺跡土坑一覧表（2）

番号	位 置	平 面 形	長軸×短軸×深さ(m)	出 土 遺 物 そ の 他
56	P-2	楕円形	1.09×0.78×0.32	
57	Q-3	不整形	2.46×2.35×1.30	内耳鍋片
58	P-3	楕円形	0.88×0.47×0.10	
59	O-3	長円形？	0.90×0.94×—	60号土坑に切られている。
60	O-3	円 形	0.96×0.94×—	
61	O-3	円 形	1.10×1.05×—	
62	O-3	正方形	0.87×0.82×—	
63	O-3	円 形	0.70×0.55×0.20	瀬戸卸し皿、土師器細片
64	O-3	円 形	0.98×0.96×0.46	
65	O-3	隅丸長方	1.51×0.77×0.42	
66	P-4	正方形	1.22×0.96×0.50	
67	P-4	不整形	(0.52)×1.34×0.25	須恵器体部片（平安）、68号土坑に切られている。
68	P-4	長方形	2.78×1.42×0.59	
69	P-4	正方形	1.04×0.88×0.36	煉瓦片
70	O-2	隅丸長方	1.35×0.75×0.26	
71	O-2		1.56×1.28×1.50	内耳鍋片、かわらけ、17号地下式壙に変更
72	O-2		2.30×1.92×1.60	須恵器甕体部片
73	O-2	円 形	2.05×1.95×1.55	土師器・須恵器片、内耳鍋片？
74	N-3	長方形	2.64×0.87×0.20	土師器小片
75	N-3	長方形	1.84×0.94×0.25	
76	N-3	不整形	(1.00)×1.03×0.06	二枚貝（しじみ）、内耳鍋片
77	N-3	不整形	0.85×0.61×0.10	
78	N-3	楕円形	1.16×0.83×0.31	土師器片（古墳・平安）
79	N-3	楕円形	0.73×0.40×0.22	瓦質土器小片
80	O-3	楕円形	0.89×0.61×0.31	
81	O-3	楕円形	0.94×0.56×0.28	
82	O-3	楕円形	1.10×0.60×0.23	
83	N-3	円 形	0.45×0.43×0.16	
84	N-4	長方形	1.51×0.64×0.37	
85	O-4	楕円形	0.62×0.43×0.85	土師器坏（古墳）
86	O-4	円 形	0.72×0.62×0.20	
87	O-4	方 形	0.72×0.68×0.39	土師器坏、甕、高坏（古墳）、砥石、
88	N-4	長方形	0.88×0.62×0.21	土師器坏、甕、高坏（古墳）
89	N-4	隅丸長方	1.38×0.63×0.47	
90	N-4	方形？	— ×1.76×0.22	
91	N-4.5	円 形	2.10×2.00×0.25	土師器片（古墳）、古式須恵器片
92	N-5	長方形	0.66×0.50×0.21	土師器坏（古墳）
93	N-4.5	不整形	1.68×1.20×0.49	土師器片（古墳）
94	N-5	長方形	1.21×0.63×0.16	
95	N-5	円 形	1.70×1.53×0.24	
96	N-2	楕円形	1.48×1.22×0.17	
97	N-2	楕円形	0.98×0.77×0.14	
98	M-2	不整形	1.00×0.96×0.16	内耳鍋片、土師器片（古墳）
99	M-2	長方形	2.47×1.93×0.25	
100	L-1	長方形	2.48×1.53×0.80	
101	L-2	楕円形	1.18×1.00×0.32	土師器細片（古墳・平安）
102	L-2	円 形	0.43×0.39×0.15	瀬戸碗、染付碗（近世）
103	L-3	不整形	1.35×0.75×0.54	
104	L-3	楕円形	1.07×0.72×0.94	
105	L-3	楕円形	0.97×0.72×0.78	土師器片（古墳～平安）、須恵器（平安）
106	L-3	円 形	0.59×0.35×—	赤彩椀（古墳）
107	M-3	不整形	1.88×0.97×0.10	土師器小片（古墳）
108	M-3	楕円形	0.91×0.59×0.43	
109	M-3	長方形？	0.74×0.63×0.33	土師器小片（古墳）
110	M-3	円 形	0.59×0.52×0.87	土師器鉢、土玉（古墳）

神出遺跡土坑一覧表（3）

番号	位 置	平 面 形	長軸×短軸×深さ(m)	出 土 遺 物 そ の 他
111	N - 2	正方形	1.58×1.56×0.20	かわらけ片
112	M - 3	楕円形	0.55×0.53×0.20	
113	M - 3	不整形	1.63×0.86×0.19	
114	M - 3	楕円形	0.88×0.37×0.11	
115	M - 3	楕円形	0.43×0.34×0.16	
116	M - 3	円 形	0.63×0.57×0.29	
117	M - 3	円 形	1.10×1.03×0.35	
118	M - 3	円 形	0.57×0.56×0.43	
119	L - 3	楕円形	1.05×0.97×0.10	
120	M - 3	円 形	1.00×0.90×0.40	土師器甕体部片（古墳）
121	L - 3	楕円形	2.02×0.85×0.10	土師器片（平安）
122	L - 3	楕円形	1.88×0.45×0.07	土師器糸切り底坏片、甕体部片（平安）
123	M - 3	長方形	1.06×0.74×0.20	かわらけ
124	M - 3	長方形	0.97×0.61×0.15	土師器甕体部小片
125	M - 3	長方形	0.90×0.68×0.22	土師器・須恵器小片（平安）
126	M - 3・4	隅丸長方	1.44×0.90×0.38	土師器細片、近世陶磁器細片
127	M - 4	長方形	1.50×0.75×0.32	土師器細片、近世陶磁器細片
128	—	—	—	
129	M - 3	隅丸長方	1.00×0.58×0.19	
130	M - 3	楕円形	1.00×0.66×0.26	瀬戸椀、土師器坏片（古墳）
131	M - 4	長方形	1.38×0.75×0.15	
132	M - 4	長方形	0.92×0.64×0.15	
133	M - 4	長方形	1.90×0.72×0.39	
134	M - 4	長方形	1.33×1.22×0.17	
135	M - 4	長方形	1.95×0.82× —	
136	M - 3	隅丸長方	0.83×0.79×0.11	
137	M - 4	不整形	1.57×1.32×0.22	
138	M - 4	正方形	1.08×0.77×0.20	
139	N - 4	円 形	0.86×0.74×0.50	
140	M - 4	長方形	1.45×0.72×0.12	近世陶磁器片
141	N - 4	不整形	1.92×1.75×0.16	近現代瓦片
142	N - 4	不整形	1.64×0.33×0.20	
143	M - 4	楕円形	1.25×0.70×0.50	土師器ミニチュア埴
144	M - 4	不 明	0.65×0.60×0.58	土師器細片（古墳）
145	N - 4	楕円形	2.02×1.03×0.66	
146	N - 4	長方形	1.39×0.88×0.59	海軍関係バッチ（近代）近代の墓坑か
147	M - 4	長方形	1.42×0.94×0.22	
148	M - 4	長方形	2.20×0.89×0.28	内耳鍋片、近世陶磁器片、古瀬戸片
149	M - 4	方 形	1.00×0.38×0.74	土師器（古墳）
150	M - 4	方 形	1.30×1.22×1.06	近世陶磁器片
151	—	—	—	土師器細片（平安）
152	M - 4	隅丸長方	1.93×1.12×0.68	近世瀬戸、不明土製品
153	—	—	—	
154	L - 3	楕円形	1.14×0.88×0.18	
155	L - 4	不整形	1.47×0.92×0.10	土師器細片（平安）
156	L - 4	円 形	0.98×0.84×0.76	
157	K - 4	長方形	1.34×0.78×0.16	土師器細片（古墳）
158	K - 4	長方形	1.36×0.74×0.17	近世陶磁器片（灯明皿）
159	K - 4	不整形	1.50×0.96×0.14	土師器甕片
160	K - 4	正方形	0.44×0.38×0.22	土師器細片（古墳）、かわらけ、軽石片
161	K - 4	円 形	0.95×0.91×0.50	
162	K - 5	不整形	1.54×1.46×0.34	土師器細片（古墳）、貝（オオタニシ）
163	K - 5	不整形	1.00×0.52×0.77	土師器甕、椀、ミニチュア埴・脚台（古墳）
164	L - 5	円 形	1.21×1.08×0.34	かわらけ
165	L - 5	正方形	0.51×0.48×0.58	

神出遺跡土坑一覧表(4)

番号	位 置	平 面 形	長軸×短軸×深さ(m)	出 土 遺 物 そ の 他
166	L-5	長方形	0.97×0.52×0.36	土師器坏、椀、須恵器甕体部片(古墳)
167	L-5	楕円形	0.65×0.39×0.27	土師器細片(平安)
168	L-5	円 形	0.99×0.93×0.08	土師器甕片(古墳)
169	M-5	楕円形	0.92×0.68×0.14	
170	M-5	円 形	1.10×1.06×0.11	土師器細片(古墳、平安)
171	M-5	円 形	1.61×1.42×0.22	
172	M-5	楕円形	0.80×0.46×0.14	土師器坏、甕片(古墳)
173	M-6	長方形	0.97×0.71×0.47	
174	M-6	隅丸長方	1.43×0.78×0.71	
175	M-6	長方形	1.10×0.74×0.45	近世陶磁器、土師器細片
176	M-6	長方形	1.88×0.76×0.40	内耳鍋片
177	M-6	長方形	1.21×0.92×0.38	
178	M-6	円 形	0.60×0.57×0.65	
179	L-5	円 形	0.58×0.54×0.22	
180	L-5	長方形	2.00×0.86×0.18	
181	K-5	長方形	1.42×0.90×0.18	
182	K-5	正方形	1.30×1.28×0.24	近代すり鉢
183	K-5	長方形	1.46×0.90×1.32	土師器細片(古墳)、灰釉陶器長頸瓶
184	K-5・6	楕円形	1.12×0.80×0.50	土師器細片(古墳、平安)
185	K-5	楕円形	1.44×0.84×1.20	
186	J・K-5	長方形	2.48×0.66×0.38	常滑片、堺・明石系摺鉢、土師器・須恵器細片
187	J-5	長方形	1.62×0.80×0.52	
188	J-5	長方形	1.54×0.80×0.18	
189	J-5	長方形	1.26×0.67×0.63	近世瀬戸片
190	J-5	正方形	0.86×0.84×0.60	常滑片
191	L-4	円 形	0.78×0.75×0.61	土師器細片、坏、鉢、須恵器甕
192	Q-2	楕円形	0.90×0.58×0.38	土師器細片(古墳)
193	Q-2	円 形	1.20×0.97×0.38	かわらけ
194	Q-2	正方形	1.20×1.07×0.54	
195	P-2	正方形	1.05×0.91×0.52	
196	N-2	長方形	0.64×0.41×0.91	土師器甕片(古墳)
197	M-4	不整形	0.81×0.56×0.16	
198	L-3	不整形	1.14×0.78×0.88	かわらけ、常滑片
199	L-3	楕円形	0.83×0.67×0.55	
200	L-3	楕円形	0.66×0.56×0.42	
201	K-4	円 形	0.74×0.62×0.32	
202	N-2	楕円形	1.24×0.77×0.19	
203	M・N-4	楕円形	1.44×1.10×0.28	
204	M-4	長方形	1.26×0.77×0.19	
205	M-4	長方形	0.05×0.32×0.37	
206	M-5	楕円形	0.60×0.32×0.35	
207	O-4	円 形	0.58×0.54×0.14	
208	N・O-2	円 形	1.43×1.21×0.14	
209	O-2	楕円形	0.90×(0.13)×0.25	
210	L-11	長方形	0.84×0.52×0.67	
211	K-11	楕円形	0.72×0.57×0.27	
212	—	—	—	
213	K-11	長方形	1.12×0.60×0.53	
214	K-11	長方形	1.14×0.58×0.57	須恵質甕体部片
215	L-11	長方形	0.96×0.57×0.28	
216	L-11	長方形	0.90×0.45×0.20	
217	L-11	長方形	1.25×0.58×0.21	
218	L-11	長方形	1.10×0.63×0.42	
219	M-9	不整形	1.37×0.73×0.42	
220	M-9	長方形	2.10×0.68×0.75	近世陶磁器片

神出遺跡土坑一覧表（5）

番号	位 置	平 面 形	長軸×短軸×深さ(m)	出 土 遺 物 そ の 他
221	M-9	長方形	(0.37)×0.74×0.15	
222	M-9	不明	1.07×—×0.73	
223	M-9	長方形	1.50×0.81×0.14	
224	M-9	L字形	2.00×0.77×0.82	
225	M-9	長方形	1.28×0.55×0.64	近世陶器、土師器細片
226	M-9	不整形	1.95×0.64×0.72	
227	M-9	長方形	1.37×0.53×0.36	鉄鍋片、土師器細片
228	L-10	正方形	0.80×0.65×0.18	
229	L-10	不整形	1.70×0.70×0.20	
230	K-10	長方形	2.76×0.77×0.58	
231	K-10	円 形	1.60×0.53×1.03	近世陶磁器、土師器細片（平安）
232	K-10	長方形	1.32×1.00×—	繩文土器片、土師器片（平安）、近代瓦片
233	—	—	—	土師器椀（古墳）
234	K-10	長方形	3.00×2.00×0.76	近世陶磁器片
235	K-10	長方形	2.10×0.90×—	土師器細片
236	K-11	長方形	0.84×0.43×0.26	
237	L-10	楕円形	1.22×0.69×0.43	土師器細片（古墳、平安）
238	L-10	長方形	1.72×0.80×0.19	土師器細片
239	—	—	—	
240	—	—	—	
241	K-10	長方形	1.13×0.82×0.35	
242	K-10	長方形	1.93×0.81×0.64	
243	K-9	長方形	1.45×0.52×—	土師器細片（平安）
244	K-9	方 形	0.46×(0.45)×0.24	
245	M-9	円 形	1.07×—×0.71	
246	M-9	不整形	—×0.71×0.09	
247	L-10	長方形	2.20×0.93×0.44	土師器・須恵器細片（平安）
248	L-10	隅丸長方	0.80×0.40×0.36	
249	L-10	長方形	1.61×0.70×—	土師器細片、古式須恵器片
250	K-10	長方形	1.33×0.95×0.34	
251	K-10	正方形	2.34×0.92×0.15	
252	K-10	正方形	1.30×1.18×—	
253	K-10	不 明	1.37×0.25×—	
254	—	—	—	
255	K-10	長方形	1.64×0.70×0.20	
256	K-10	正方形	0.50×0.43×0.35	
257	K-10	長方形	1.00×0.85×0.50	
258	K-10	不 明	—×—×0.41	
259	K-10	長方形	1.60×0.77×0.70	
260	K-10	長方形	2.13×0.54×0.50	古墳～中世の土器細片混入
261	K-10	長円形	1.65×0.79×0.93	瀬戸（近世）、煙管
262	K-10	楕円形	0.59×0.44×1.00	
263	K-10	長方形	1.70×0.67×0.36	
264	K-9	長方形	1.23×0.54×0.50	土師器片（古～平）、湖西産須恵器、灰釉陶器
265	K-9	長方形	1.25×0.70×0.26	青磁片、近世陶磁器、須恵甕片（外面同心円文）
266	K-9	長方形	0.56×0.33×0.14	
267	K-9	長方形	1.26×(0.68)×0.38	
268	K-9	長方形	1.87×1.07×0.70	
269	K-9	長方形	1.06×0.63×0.69	
270	—	—	—	砥石、灰釉陶器（平安）、土師器片、土玉
271	—	—	—	
272	L-8	長方形	1.76×0.78×0.23	土師器片（平安）
273	L-8	長方形	1.92×0.94×0.55	土師器細片
274	K-8	長方形	1.35×0.61×0.62	土師器細片、近代煉瓦・コンクリート片
275	L-8·9	長方形	1.41×0.90×0.77	土師器細片（古墳、平安）、墨書き土器「官？」

神出遺跡土坑一覧表（6）

番号	位 置	平 面 形	長軸×短軸×深さ(m)	出 土 遺 物 そ の 他
276	L-10	不整形	0.47×0.37×0.46	
277	L-10	不整形	1.67×1.38×0.43	古瀬戸盤の足片
278	L-10	正方形	1.09×1.00×0.77	土師器片（古墳、平安）
279	L-8	円 形	1.13×1.17×0.31	灰釉皿（平安）、土師器細片（平安）
280	L-8	長方形	1.75×0.82×0.71	土師器細片（古墳、平安）、硯石片
281	L-8	長方形	(1.22)×(0.66)×0.10	
282	L-8	長方形	1.51×(0.56)×0.50	
283	L-8	長方形	4.19×0.59×0.13	土師器片（古墳、平安）
284	L-8	円 形	1.89×1.83×0.54	
285	L-8	方 形	(2.38)×(1.27)×0.10	
286	K-9	長方形	1.26×1.10×0.78	
287	K-8	長方形	2.45×0.85×0.30	縄文土器片、土師器細片（平安）
288	K-9	長方形	3.67×0.86×0.77	かわらけ、土師器・須恵器細片
289	L-8	長方形	1.25×0.54×0.40	
290	K-8	長方形	1.23×0.51×0.58	土師器細片（古墳、平安）、古瀬戸片
291	J-7	長方形	3.25×1.06×0.27	近世瀬戸片、常滑片、鉄釘
292	J-7	長方形	2.70×0.95×0.51	
293	J-7	長方形	1.85×0.64×0.74	
294	J-7	円 形	0.91×0.88×0.52	
295	J-7	楕円形	— ×0.47×	
296	J-7	長方形	2.12×0.76×0.43	近世陶磁器片、古瀬戸片、土師器細片
297	J-7	不 明	(0.68)×(0.45)×0.10	
298	J-7	不整形	0.75×0.54×	
299	J-7	楕円形	0.63×0.32×	
300	J-7	不 明	(0.55)×0.66×	
301	J-7	長方形	2.72×1.25×0.24	
302	M-6	円形？	2.08×1.60×0.44	須恵器甕片（古墳）
303	K-6	長方形	1.41×0.77×0.15	土師器細片（古墳、平安）
304	K·L 6	長方形	0.46×0.81×0.15	
305	J-7	長方形	3.12×1.13×0.42	
306	J-7	円 形	0.94×0.89×0.27	
307	J-7	円形？	(1.83)×(1.08)×0.13	
308	J-7	不 明	(0.95)×(0.32)×0.22	
309	I-8·J-7	長方形	2.31×0.92×0.60	土師器・須恵器小片（平安）、中・近世陶磁器片
310	I·J-8	長方形	2.26×1.05×0.65	土師器片、近世陶磁器片
311	J-8	長方形	2.15×0.99×0.31	
312	J-7	長方形	1.38×1.00×0.08	
313	J-7	長方形	1.85×1.06×0.90	近世陶磁器片、土師器片（平安）
314	K-6·7	楕円形	1.20×0.90×0.21	
315	N-2·3	不整形	1.22×0.58×0.32	土師器片（古墳）、土玉
316	K-7	長方形	0.84×0.99×1.04	近世陶磁器
317	L-11·12	長方形	1.74×0.46×0.42	
318	J-7	不 明	(0.48)×0.70×0.19	
319	M-4	不整形	1.80×0.76×0.16	
320	M-4	長方形	0.98×0.80×0.12	
321	M-3	楕円形	1.22×0.60×0.13	
322	M-3	隅丸長方	1.10×0.45×0.06	
323	M-3	長方形	1.39×0.60×0.33	
324	M-3	長方形	1.15×0.70×0.23	
325	—		—	
326	—		—	
327	—		—	
328	Q-2	楕円形	1.30×0.96×0.10	
329	J-5	円 形	1.10×1.08×	
330	L-4	長方形	1.50×0.86×0.20	

神出遺跡土坑一覧表（7）

番号	位 置	平 面 形	長軸×短軸×深さ(m)	出 土 遺 物 そ の 他
331	M-4	円 形	0.49×0.45×0.74	
332	—		—	土師器細片（古墳）
333	G-6	円 形	1.20×1.06×0.16	
334	—		—	
335	—		—	
336	J-7	円 形	1.42×1.35×0.48	土師器・須恵器片（平安）、
337	M-6	円 形	1.51×1.46×0.42	土師器坏・甕片（古墳）
338	M·L-6	円 形	1.22×1.21×0.15	土師器小片（古墳、平安）
339	M-6	方 形	0.94×0.92×	土師器片
340	L-6	長方形	1.46×1.14×0.12	
341	L-6	不整円形	1.73×1.40×0.23	土師器・須恵器片（古墳、平安）
342	—		—	
343	—		—	
344	—		—	
345	—		—	
346	M-6	長方形	1.63×0.91×0.05	
347	—		—	
348	M-6	円 形	1.05×0.89×0.35	
349	L-6	橢円形	2.05×(0.96)×0.75	土師器・須恵器細片（平安）
350	—		—	
351	L-8	橢円形	0.80×0.70×0.28	
352	L-8	円 形	1.06×0.98×0.34	
353	L-8	円 形	1.33×1.31×0.98	縄文土器片、土師器細片（古墳）、筑波石小塊
354	K·L-8	橢円形	1.76×1.42×0.73	近世陶磁器片、土師器細片
355	K-8	長円形	(1.44)×0.74×0.15	
356	L-8	円 形	1.70×1.64×0.87	
357	L-8	橢円形	— × — ×0.33	
358	L-8	不 明	1.13×0.60×0.42	
359	L-8	不 明	— × — ×0.32	
360	L-8	長方形	1.35×0.64×	
361	K-6	円 形	1.60×1.35×0.27	
362	M-8	円 形	0.83×0.78×0.18	
363	M-8	円 形	0.89×0.81×0.36	縄文土器（前期）、土師器片（平安）
364	M-8	円 形	0.98×0.91×0.58	土師器細片（平安）
365	L-9	橢円形	2.67×2.26×1.17	土師器赤彩坏（古墳）
366	M-6	円 形	1.66×1.51×0.70	土師器細片（古墳、平安）、須恵器（平安）
367	—		—	土師器細片（古墳）
368	N-6	円 形	1.11×0.98×0.32	縄文土器片、土師器細片（平安）
369	—		—	
370	K-8	橢円形	1.23×1.10×0.19	
371	J-8	橢円形	1.53×1.20×0.30	土師器細片（古墳、平安）、鉄片、銅椀（皿）状製品
372	J-8	円 形	1.10×1.07×0.31	
373	—		—	
374	—		—	
375	—		—	
376	J-8	長円形	1.40×0.58×0.24	
377	M-8	橢円形	1.36×1.04×0.26	弥生土器片？、土師器細片
378	M-8	円 形	0.75×0.70×0.23	土師器細片（平安）、筑波石塊
379	M-9	円 形	1.00×0.88×0.22	土師器片（古墳）
380	L-9	円 形	1.03×0.93×0.15	縄文土器片、土師器片
381	L-9	橢円形	0.58×0.53×0.48	土師器細片
382	M-9	円 形	0.74×0.67×0.14	
383	L-9	円 形	1.04×0.93×0.12	土師器椀片（平安）、土師器片（古墳）、古式須恵器片
384	L-9	橢円形	0.73×0.53×0.55	
385	M-9	円 形	0.93×0.85×0.38	

神出遺跡土坑一覧表（8）

番号	位 置	平 面 形	長軸×短軸×深さ(m)	出 土 遺 物 そ の 他
386	—		—	縄文土器片、土師器片(古墳)
387	L-8	楕円形	0.80×0.66×0.15	
388	L-9	楕円形	0.80×0.78×0.18	
389	L-9	円 形	0.90×0.83×0.10	
390	L-9	長方形	0.96×0.67×0.26	土師器細片
391	J-10	長方形	1.68×0.90×0.34	
392	—		—	
393	—		—	
394	T-9	長方形	4.42×2.60×0.70	
395	S·T-9	長方形	3.45×2.38×0.53	土師器片(古墳)
396	T-9	不 明	1.70×0.67×0.30	
397	T-9	不 明	1.70×0.60×0.47	
398	T-9	楕円形	0.90×0.70×0.55	土師器片(古墳)、常滑片口鉢片
399	—		—	土師器片、古瀬戸平椀、灰釉陶器(平安)
400	S-9	不整形	1.00×0.68×0.58	土師器甕小片
401	S-9	不 明	1.05×0.60×0.15	縄文土器小片、土師器片(古墳)、須恵器(平安)
402	S-9	円 形	0.96×0.96×0.17	
403	S-9	円形?	0.95×0.90×0.15	土師器微細片
404	J-8	長円形	2.00×0.40×0.17	土師器・須恵器細片
405	J-8	円 形	0.73×0.61×0.10	
406	J-8	円 形	0.67×0.64×0.30	
407	—		—	土師器片(古墳、平安)
408	J-8	楕円形	1.30×1.46×0.28	土師器片(古墳前期、後期)
409	—		—	
410	—		—	
411	K-9	長方形	0.74×0.37×0.20	土師器細片(平安)
412	K-10	円 形	0.83×(0.61)×0.82	
413	K-9	長方形	1.62×0.65×0.57	
414	K-9	長方形	0.70×0.52×0.60	石片
415	—		—	
416	K-9	長方形	1.14×0.64×0.55	
417	K-9	長方形	1.93×1.05×0.74	土師器細片
418	K-9	長方形	1.52×0.80×0.82	
419	K-9	長方形	2.09×0.76×0.71	
420	L-10	長方形	1.75×0.80×0.36	
421	L-9	長方形	(2.21)×1.43×0.45	土師器細片(古墳、平安)、土師器椀(平安)
422	L-9	方 形	0.56×0.46×0.12	
423	L-9	方 形	(0.73)×0.77×0.60	
424	L-9	楕円形	1.32×0.39×0.32	
425	L-9	長方形	1.56×0.76×0.63	
426	L-10	長方形	1.21×0.58×0.48	
427	L-10	長方形	0.84×0.57×0.13	
428	L-9	円 形	1.41×1.25×1.08	
429	L-9·10	方 形	1.44×(1.13)×0.30	
430	L-9·10	不整形	1.45×(0.90)×0.57	
431	L-10	長方形	2.02×0.90×0.48	
432	M-10	長方形	0.90×0.43×0.44	
433	M-7·8	長方形	2.35×0.80×0.20	
434	M-8	長方形	1.50×0.84×0.20	縄文土器片、土師器細片(平安)
435	M-8	長方形	3.32×1.08×0.30	縄文土器片、土師器細片(古墳)、古式須恵器片
436	M-8·9	長方形	3.31×1.45×0.15	
437	M-8	正方形	0.87×0.76×0.10	
438	M-8	円 形	0.55×0.55×0.23	
439	M-8	不整形	1.73×0.73×0.17	
440	M-8	長方形	0.73×0.44×0.17	

神出遺跡土坑一覧表（9）

番号	位 置	平 面 形	長軸×短軸×深さ(m)	出 土 遺 物 そ の 他
441	M-8	長方形	1.31×1.17×0.28	土師器坏、甕片(古墳)
442	M-8	円 形	0.54×0.54×0.15	
443	M-8	長方形	1.22×0.90×0.21	
444	M-8	長方形	0.88×0.37×0.14	
445	M·L-8	長方形	1.18×0.95×0.27	須恵器甕片(平安)、内耳鍋片?
446	L-8	長方形	3.13×1.30×0.45	土師器椀(平安)
447	L-8	不整形	0.52×0.48×0.38	
448	K-9	楕円形	1.71×0.62×0.37	鉄片、土師器細片(平安)
449	—		—	土師器細片(古墳、平安)
450	—		× ×0.68	
451	—		—	常滑片、土師器細片(平安)
452	—		—	近世陶磁器片、土師器細片、灰釉陶器椀
453	—		—	
454	—		—	
455	—		—	近世陶磁器片、古瀬戸片、鉄釘
456	J-8·9	楕円形	0.93×0.71×0.44	
457	S-9·10	楕円形	0.73×0.40×0.25	つくば石礫
458	S-9	楕円形	0.78×0.60×0.08	土師器細片(古墳、平安)
459	S-9	長方形	0.70×0.67×0.25	土師器片(古墳、平安)、須恵器片(平安)
460	M-8	円 形	0.42×0.37×0.24	
461	M-8	不整円形	0.67×0.65×0.58	縄文土器片、土師器細片(古墳、平安)
462	L-9	長方形	0.52×0.32×0.08	
463	L-8	楕円形	(0.70)×1.54×0.31	
464	L-8	長方形	1.46×0.80×0.82	
465	L-8	不整形	(1.44)×0.91×0.36	土師器甕体部片(古墳)
466	I-9	長方形	0.90×0.70×0.12	縄文土器片、土師器細片(古墳)
467	I-9	不整形	2.05×1.05×0.37	縄文土器片、土師器細片
468	I-9	長方形	2.80×1.05×0.93	
469	I-9	楕円形	1.50×1.10×1.20	
470	K-8	不整形	1.40×0.85×0.15	土師器・須恵器片(平安)、つくば石礫片
471	K-8	円 形	2.47×2.47×—	土師器細片(古、平)、土師質土器鉢片、古瀬戸片
472	K-8	楕円形	0.75×0.60×0.26	土師器細片(古墳、平安)、須恵器硯片
473	K-8	円 形	0.80×0.66×0.22	
474	—		—	
475	—		—	
476	M-9	円 形	1.27×1.10×0.33	
477	M-9	楕円形	1.00×0.56×0.22	
478	M-9	長方形	2.85×1.17×0.31	縄文土器細片、土師器細片
479	M-9	長方形	0.80×0.70×0.25	
480	—		—	近世磁器片、土師器細片、古瀬戸片
481	—		—	
482	—		—	
483	K-8·9	不 明	(1.10)×0.90×035	
484	K-8	長方形	0.90×0.70×0.11	土師器高台付坏(平安)
485	K-8	長方形	1.50×0.80×0.17	土師器細片(古墳、平安)、瀬戸椀片
486	K-8	長方形	1.70×0.73×0.64	
487	M-8	円 形	1.08×1.00×0.26	土師器細片(平安)
488	M-8	円 形	1.34×1.33×0.35	
489	—		—	土師器片(古墳)
490	—		—	
491	M-7	長方形	1.20×0.69×—	土師器椀片(平安)
492	M-7	楕円形	1.24×0.83×0.30	
493	—		—	土師器細片(古墳、平安)、須恵器片
494	K-6	正方形	0.88×0.75×0.50	
495	K-6	長方形	1.20×0.67×0.58	近世陶磁器片、土師器小片(古墳)

神出遺跡土坑一覧表 (10)

番号	位 置	平 面 形	長軸×短軸×深さ(m)	出 土 遺 物 そ の 他
496	K - 6	長方形	0.88×0.57×0.20	
497	J - 6	長方形	1.50×0.68×0.22	
498	J - 6	長方形	2.55×0.84×0.65	
499	J - 6	円形?	1.90×1.30×0.21	
500	J - 6	橢円形	1.35×0.86×0.20	土師器・須恵器片(平安)
501	J - 6	長方形	0.63×0.90×0.37	
502	J - 6	長方形	2.72×0.75×	常滑甕体部片、土師器細片
503	J - 6	不 明	1.35×0.62×0.54	
504	J - 6	不 明	(0.43)×0.73×	近世唐津片、常滑片、土師器細片
505	I - 6	長方形	1.65×1.00×0.25	近世陶磁器片、土師器細片
506	—		—	
507	—		—	
508	—		—	
509	J - 6	不 明	2.25×1.30×0.35	土師器細片、近世陶磁器片、古瀬戸片
510	J - 6	橢円形	1.35×0.85×0.66	
511	J - 6	長円形	1.50×0.95×0.56	
512	J - 6	長方形?	0.80×0.54×0.15	
513	I·J - 6	長方形	1.90×0.75×0.60	
514	I·J - 6	長方形	1.40×1.34×0.54	
515	I·J - 6	不整形	1.00×0.92×0.29	常滑甕体部片、土師器細片(古墳)、瓦片、刀子片
516	I - 6	橢円形	0.95×0.60×0.44	
517	I - 6	橢円形	1.20×0.75×0.30	
518	I - 5	不整形	1.68×0.65×0.73	土師器坏(古墳)
519	J - 4	長方形	1.26×0.67×0.32	
520	J - 4·5	方 形	0.92×(0.34)×0.63	
521	I - 5	不整形	0.86×0.67×0.26	
522	H - 6	橢円形	1.06×0.68×0.40	
523	H - 5	橢円形	0.72×0.55×	
524	G·H - 5	不整形	0.78×1.14×0.32	
525	H - 5	不整形	2.06×1.08×0.50	
526	I - 5	不整形	2.50×1.25×0.25	内耳鍋片、古瀬戸椀片
527	I - 5	長方形	2.72×1.05×0.46	
528	—		—	古瀬戸瓶子底部片
529	J - 6	橢円形	(1.45)×1.35×0.45	
530	J - 6	円 形	1.19×(1.30)×0.49	土師器細片(平安)、灰釉陶器椀片
531	J - 6	長方形	1.57×0.94×0.36	
532	J - 6	長方形	1.88×1.17×0.26	常滑甕片、土師器細片(古、平)、須恵器(平安)
533	I·J - 6	長方形	1.06×0.68×0.50	土師器細片(古墳)
534	I - 5·6	長方形	1.76×1.14×0.54	砥石、土師器細片(古墳)
535	I - 6	長方形	(1.73)×(1.10)×0.33	近世瀬戸片、古瀬戸鉢片、土師片、鉄鎌、常滑甕片
536	H - 7	長方形	1.70×1.37×0.10	かわらけ、内耳鍋片、鉄釉椀小片
537	H - 7	円 形	0.60×0.57×0.23	内耳鍋片、常滑小片、土師器小片(古墳)
538	—		—	内耳鍋片、常滑片、須恵器系陶器片
539	H - 7·8	円 形	2.05×1.80×0.55	硯石、縁釉小皿(鉄釉)、古瀬戸片
540	H - 8	不整形	0.80×0.40×0.13	
541	I - 7	橢円形?	(1.42)×1.15×0.19	古瀬戸平椀・瓶子片、常滑片、灰釉陶器片、須恵器片
542	I·J - 6·7	正方形	1.82×1.66×0.68	古瀬戸椀片、かわらけ、常滑片(SK535常滑片と同一個体)
543	I·J - 6	正方形	2.20×1.98×0.62	
544	I - 8	橢円形	1.40×0.80×0.30	
545	I - 8	長円形	1.32×0.47×0.20	
546	—		× ×0.18	
547	—		× ×0.45	
548	—		× ×0.40	
549	J - 7	正方形	2.29×2.12×0.70	土師器細片(平安)
550	I·J - 7	不整円形	1.20×—×0.24	古瀬戸合子体部片(575号土坑と同一個体)

神出遺跡土坑一覧表 (11)

番号	位 置	平 面 形	長軸×短軸×深さ(m)	出 土 遺 物 そ の 他
551	I - 7	不 明	(2.20) × (0.73) × 0.30	吉瀬戸瓶子・片口片、土師器細片(平安)
552	I - 7・8	長方形	2.35 × 1.40 × 0.43	吉瀬戸瓶子底部片、常滑片
553	I - 7・8	楕円形	1.12 × 0.84 × 0.14	
554	J - 7	円 形	0.96 × 0.96 ×	
555	I・J - 9	円 形	2.13 × 2.11 × 0.24	土師器甕片(古墳)、砥石
556	G - 5	方 形	1.00 × 0.85 × 0.22	
557	G - 5	長方形	1.25 × 0.84 × 0.09	
558	G - 6	円 形	0.60 × 0.55 × 0.17	
559	-	-	-	土師器・須恵器細片(平安)、常滑片
560	J - 7	円 形	0.86 × 0.85 × 0.35	土師器細片(古墳)
561	I - 7	不整円形	0.82 × 0.79 × 0.32	土師器細片(古墳)
562	I - 7・8	隅丸長方	1.65 × 1.00 × 1.24	吉瀬戸縁釉小皿、内耳鍋片、かわらけ
563	I - 7	隅丸長方	0.80 × 0.68 × 0.15	
564	I - 8	円 形	1.18 × 0.90 × 1.24	縄文土器片、土師器小片(古墳、中近世不明土製品)
565	L - 8	楕円形	135 × 1.00 × 0.25	土師器細片(古墳、平安)、つくば石
566	-	-	-	
567	-	-	-	
568	-	-	-	吉瀬戸瓶子片、土師器細片
569	-	-	-	
570	I - 8		2.50 × 0.98 × 0.25	土師器細片(古墳、平安)
571	H - 8	円 形	0.59 × 0.53 × 0.53	
572	-	-	-	
573	H - 6	不整形	1.57 × 1.17 × 0.08	
574	I - 7	不整形	- × 1.18 × 0.65	
575	L - 8	円 形	0.60 × 0.55 × 0.18	吉瀬戸合子底部片
576	L - 8	円 形	1.07 × 1.07 × 0.40	土師器小片(古墳)
577	L - 8	円 形	1.08 × 1.08 × 0.70	縄文土器片、土師器小片(古墳、平安)
578	K - 8	楕円形	0.74 × 0.71 × 0.27	
579	K - 8	長方形	1.10 × 0.57 × 0.28	
580	K・L - 8	長方形	1.35 × 0.74 × 0.29	
581	K - 8	円 形	1.07 × 1.07 × 0.15	
582	K - 8	楕円形	0.80 × 0.75 × 0.37	かわらけ?
583	K - 8	円 形	1.27 × 1.00 × 0.70	
584	-	-	-	
585	L - 8	不整形	2.15 × (2.12) × 0.30	
586	L - 8	不整形	(1.50) × 1.13 × 0.16	
587	L - 8	不整形	1.15 × 0.47 × 0.12	
588	H - 8	楕円形	1.33 × 0.83 × 0.25	かわらけ、すさ入り焼土塊
589	-	-	-	吉瀬戸天目椀、土師器小片(古墳)
590	-	-	-	
591	K - 8	隅丸長方	1.82 × 0.83 × 0.71	
592	L - 9	不整形	1.20 × 0.70 × 0.40	
593	L - 9	不整形	2.64 × 1.05 × 0.25	
594	L - 8	長方形	1.31 × 0.88 × 0.62	
595	L - 8	正方形	0.90 × 0.83 ×	近世瀬戸系すり鉢片、
596	K - 6	長方形	1.13 × 0.76 × 0.61	土師器片(古墳)
597	K - 7	長方形	1.84 × 0.96 × 1.10	
598	K・L - 6	不整形	0.96 × 0.90 × 0.51	38号住居跡のP 3
599	L - 7	楕円形	0.54 × 0.43 × 0.60	
600	S - 9	楕円形	0.60 × 0.55 × 0.13	
601	K - 7	円 形	2.03 × 1.50 × 0.37	
602	M - 7	楕円形	1.20 × 1.05 × 0.20	
603	M - 7	円 形	1.20 × 1.10 × 0.67	
604	M - 8	楕円形	1.05 × 0.96 × 0.47	
605	M - 8	円 形	0.66 × 0.66 × 0.25	縄文土器片

神出遺跡土坑一覧表 (12)

番号	位 置	平 面 形	長軸×短軸×深さ(m)	出 土 遺 物 そ の 他
606	L - 8	円 形	0.83×0.68×0.70	土師器細片(平安)、縄文土器片
607	L - 8	楕円形	0.90×0.64×0.16	縄文土器片、土師器細片
608	-		-	黒曜石剥片、かわらけ
609	M - 7	円 形	0.39×0.37×0.08	かわらけ
610	L - 8	不整形	1.10×0.56×0.55	
611	-		-	
612	-		-	
613	M - 7	不整形	2.16×1.30×0.30	
614	I - 7	長方形	1.20×0.90×0.45	
615	L - 10	楕円形	0.70×0.50×0.22	
616	L - 11	楕円形	1.11×0.56×0.20	
617	-		-	
618	I - 4	長方形	1.53×0.51×0.35	
619	I - 4	不整形	1.12×0.53×0.38	
620	J - 4	方 形	- ×0.58×0.15	
621	J - 4	不整形	1.10×0.67×0.16	
622	J - 6	不整形	1.05×1.00×0.60	
623	I·J - 6	不整形	1.00×0.85×	
624	I·J - 6	不整形	1.50×0.75×	
625			-	
626	G·H - 5	円 形	0.83×0.71×0.20	
627	G - 5	円 形	1.10×1.10×0.39	
628	H - 6	円 形	0.72×0.69×0.42	
629	I - 5	円形?	0.84×0.83×0.15	
630	I - 5·6	隅丸長方	1.11×0.57×0.22	
631	I·J - 6	楕円形	0.88×0.67×0.35	
632	J - 6	不整形	(0.88)×0.47×0.29	
633	J - 5	長方形	(0.95)×0.55×0.23	
634	J - 5	長方形	0.88×0.53×0.27	
635	J - 6	不整形	(1.22)×1.20×0.12	
636	I - 6	方 形	(1.40)×(0.60)×	
637	I - 6	長方形	2.13×1.50×0.78	石臼片、石塊
638	I - 6	長方形	1.11×0.88×0.06	
639	H - 7·8	楕円形	2.00×1.24×0.70	土師器小形甕(古墳)
640	H - 7	楕円形	1.00×0.80×0.45	
641	H - 8	不整形	0.70×0.47×0.16	二次焼成を受けた糸切り底かわらけ
642	-		-	
643	J - 7	楕円形	1.15×0.74×0.21	
644	-		-	
645	-		-	
646	J - 7	円 形	0.63×0.52×0.17	
647	J - 7	楕円形	1.10×0.67×0.15	
648	J - 7	不整円形	0.97×0.76×0.28	
649	J - 7	不整円形	1.46× - ×	
650	J - 8	楕円形	1.76×1.50×0.23	
651	-		-	
652	-		-	
653	-		-	
654	H - 8	楕円形	1.25×0.60×0.18	
655	-		-	
656	-		-	
657	-		-	
658	-		-	
659	-		-	
660	-		-	

神出遺跡土坑一覧表 (13)

番号	位 置	平面形	長軸×短軸×深さ(m)	出 土 遺 物 そ の 他
661	—		—	
662	—		—	
663	—		—	
664	—		—	
665	G·H- 5	楕円形	1.00×0.49×0.11	
666	H- 6	不整形	0.75×0.55×0.10	
667	G- 6	楕円形	0.85×0.64×0.05	
668	I- 6		0.91×0.55×0.37	
669	I- 5	楕円形	0.90×0.54×	
670	—		—	
671	—		—	

神出遺跡 1 号テラス土坑一覧表

番号	位 置	平面形	長軸×短軸×深さ	出 土 遺 物 そ の 他
1	F- 8	楕円形	1.02×0.46×0.46	
2	F- 8	不整形	0.81×0.47×0.18	

神出遺跡 2 号テラス土坑一覧表

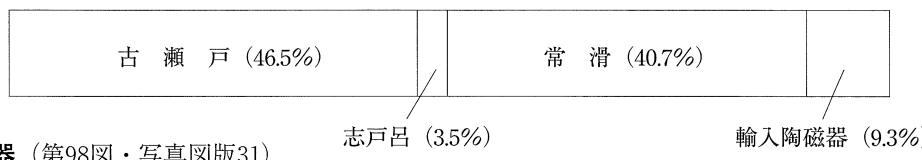
番号	位 置	平面形	長軸×短軸×深さ	出 土 遺 物 そ の 他
1	G- 8	楕円形	0.76×0.67×-	内耳鍋片 (厚さ6.3mm)
2	G- 8	楕円形	0.82×0.48×-	
3	G- 8	楕円形	0.76×0.56×-	常滑鉢片、古瀬戸大皿、御皿
4	G- 8	円 形	0.48×0.48×0.61	
5	G- 8	楕円形	1.08×0.74×-	
6	G- 8	楕円形	0.96×0.48×-	砥石 (泥岩質)
7	G- 8	楕円形	1.28×0.80×-	
8	G- 8	楕円形	0.86×0.72×-	常滑鉢? (赤焼き、外側面に指頭痕)
9	G- 9	長方形	0.90×0.70×0.18	
10	G- 9	楕円形	1.18×0.86×-	
11	G- 9	不整形	1.03×0.53×0.33	
12	G- 9	不整形	0.67×0.64×0.26	
13	G- 9	不整形	0.60×0.40×0.36	
14	G- 85	楕円形	0.52×0.34×-	常滑甕体部片
15	G- 9	不整形	0.80×0.32×-	
16	G- 8	楕円形	0.68×0.43×-	
17	G- 8	不整形	6.04×2.86×-	古瀬戸平椀、須恵質鉢

(10) 出土遺物

中世以降の出土遺物は、土器、石製品、金属製品その他が出土している。以下、種類ごとに分類して掲載する。

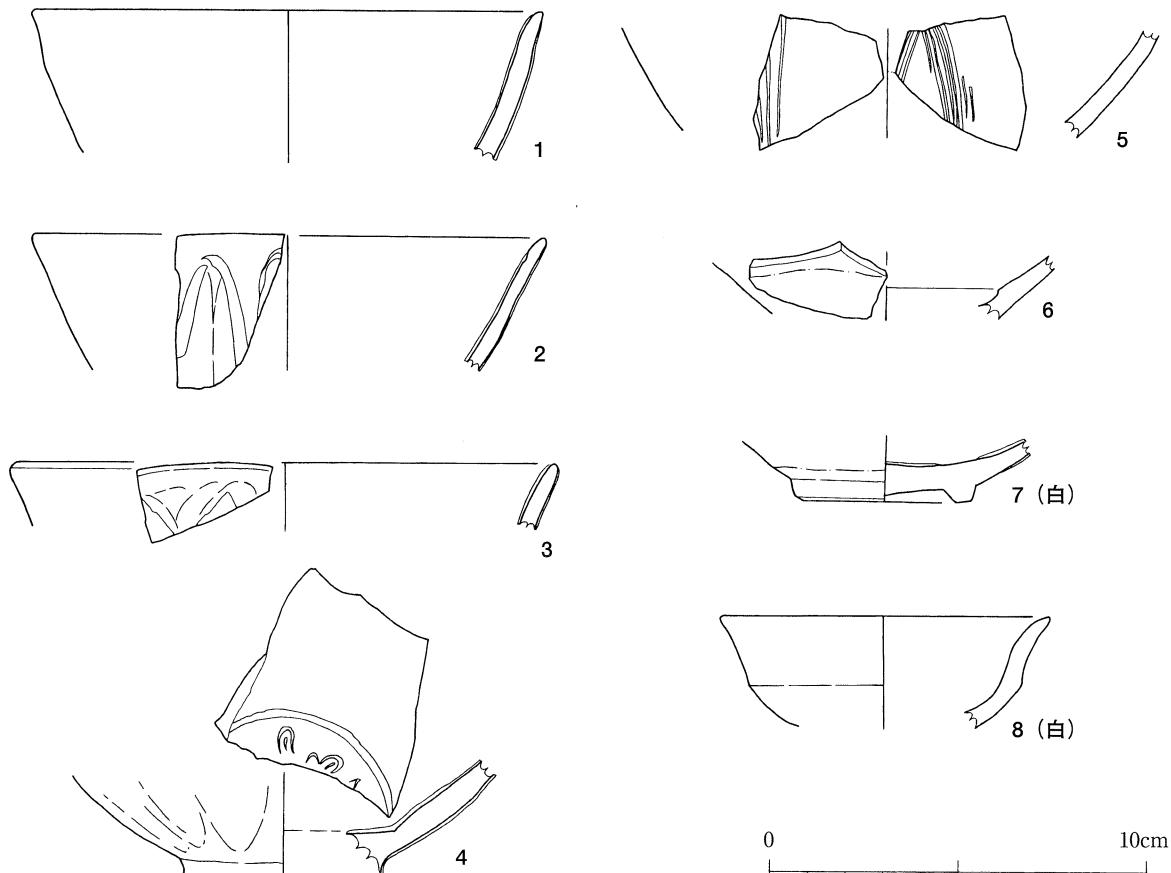
土器は輸入陶磁器、瀬戸系施釉陶器、常滑、瓦質土器、在地の鍋やかわらけ等が出土している。

在地の製品を除いた陶磁器類の出土比率は下記のグラフのようになり、古瀬戸・常滑の出土量が多い。



輸入陶磁器（第98図・写真図版31）

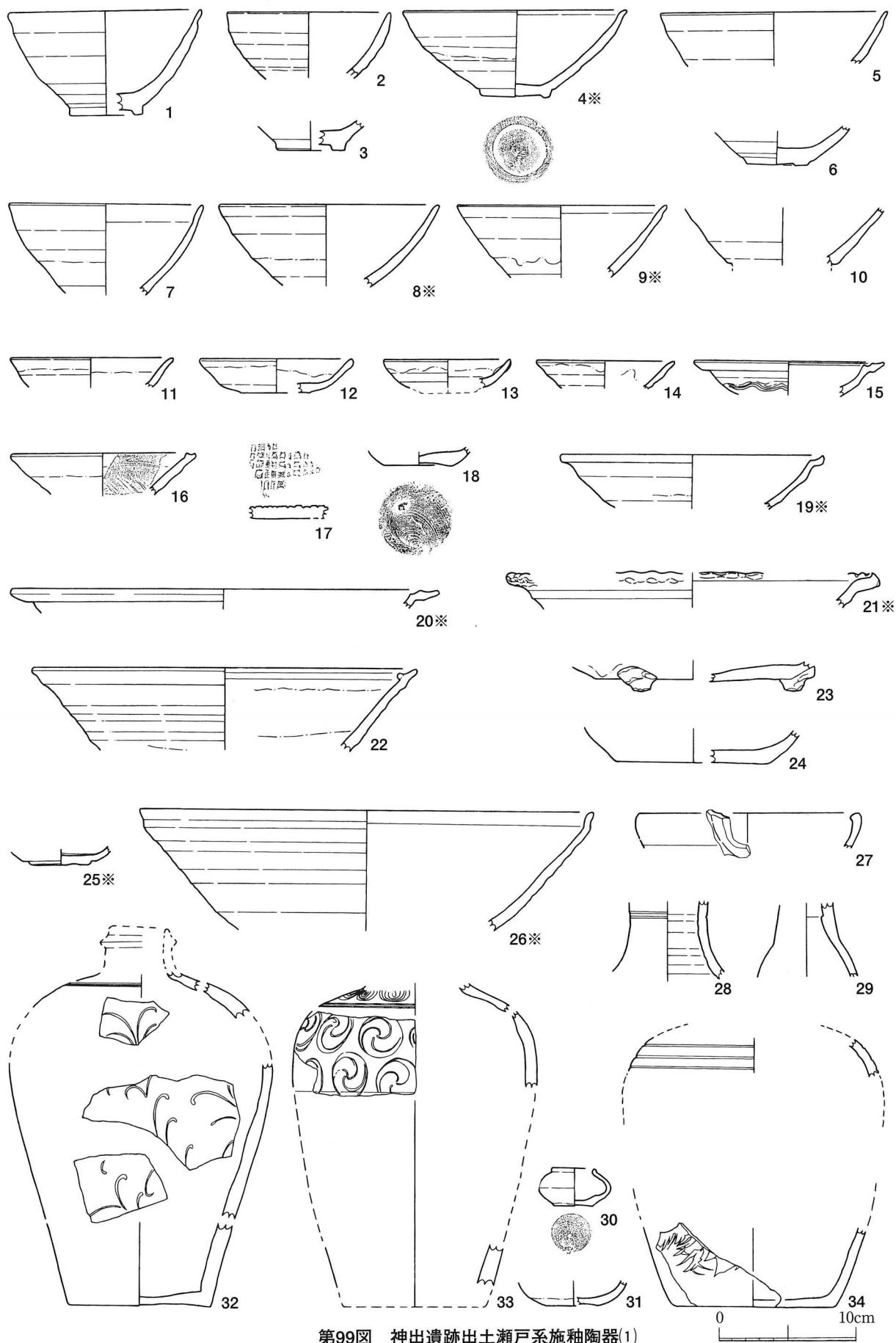
全部で7点破片で出土している。最も古いものは無文の龍泉窯系青磁碗（図98-1）で通常内面に画花文や雲文を持つタイプとされ、12~13世紀前半代の年代が与えられている。図98-5は13世紀前半代の同安窯系青磁碗で内外面に櫛描きが入っている。鎧蓮弁文の龍泉窯系青磁碗は図98-2,3,4とも13世紀後半~14世紀前半の年代が与えられる。白磁は図98-7の碗が13世紀前半代のもので内面に露胎圏を持っている。図98-8の白磁



第98図 神出遺跡出土輸入陶磁器（白）は白磁、その他は青磁

神出遺跡出土輸入陶磁器観察表

番号	種類	器種	口径	器高	底径	残存率	胎 土	色 調	器形・技法の特徴、その他	台帳番号	出土地点	備 考
1	青椀	碗				10	緻密	灰白	釉：灰オリーブ	266	P930	龍泉窯系
2	青磁	碗				5	緻密	灰白	鎧蓮弁文、灰オリーブ色釉	281	SK265	龍泉窯系
3	青磁	碗				5	緻密	灰白	鎧蓮弁文、灰色釉、I-5類	282	SD2	龍泉窯系
4	青磁	碗				5	緻密	灰白	灰オリーブ釉、I-5類	283	SD2	龍泉窯系
5	青磁	青磁皿				5	緻密	灰白	内外面櫛描き文、灰オリーブ色釉	284	J6G	同安窯系
6	青磁	段皿				5	黒色微粒	灰	釉：灰オリーブ	288	Q2G	
7	白磁	碗				20	緻密	灰白	内面に露胎圏、皿類	286	地下式6	13世紀前半
8	白磁	小椀	8.7			20	緻密	灰白		287	SK535	15世紀前半



第99図 神出遺跡出土瀬戸系施釉陶器(1)

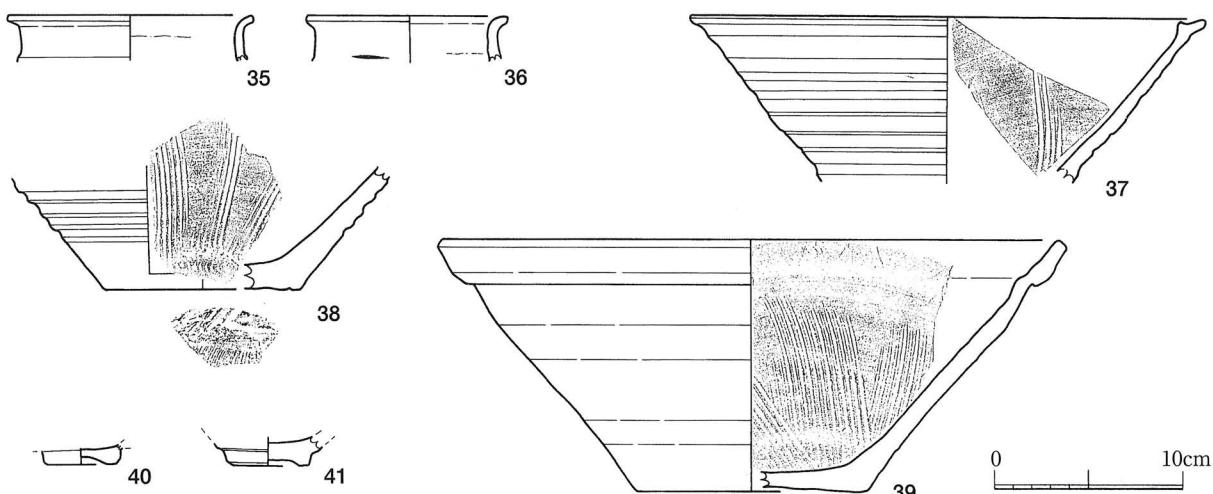
小椀は最も新しく15世紀後半代のものである。

瀬戸系施釉陶器（第99図・写真図版31）

神出遺跡中央部～南側台地斜面部にかけて瀬戸系施釉陶器が総点数40点以上出土した。その多くは土坑や掘立柱建物跡、地下式壙等から破片で出土した廃棄遺物であるが、強い二次火熱を受けた個体も見られ、この地区の古瀬戸を使用した遺構は火災にあっていると考えられる。3号掘立柱建物跡や方形の土坑中の古瀬戸平椀片は、これらの遺構が平椀の廃棄以前の時期であることを示す資料となり、掘立柱建物で古瀬戸は使用されていた可能性が考えられる。器種は壺・瓶・椀・皿・鉢・合子・香炉類等で古瀬戸等の窯窓期のものが主体であるが、大窯期の瀬戸・美濃、近世瀬戸も見られる。窯窓期のものは、瓶類に古いものが見られるが主体は15世紀代である。すり鉢、志戸呂は15世紀後半の静岡県金谷町三ツ沢窯出土遺物に類似したもので、古瀬戸製品と比較して赤身がかった印象を受ける。古瀬戸瓶類は、巴文装飾の鉄釉と蕨手文装飾の灰釉の2点が出土し、14世紀初め頃（古瀬戸中期様式Ⅱ期頃）のものである。他の遺物と較べ古く、釉はげも見られ伝世品の可能性もある。口縁部に打ち欠きが見られたので藏骨器として利用したものが再度破片になって中世～近世の遺構覆土中に散った可能性もある。平椀は古瀬戸後期様式の前半代（後Ⅰ～Ⅱ期）のもので、折縁皿や卸し皿類は後期様式の後半代、祖母懐壺は窯窓期の15世紀後半に出現し、この個体も後Ⅳ期頃か。茶陶関係では茶入れ底部片（第99図31）が出土しており、当時の高級陶器の部類に入るらしい。

神出遺跡出土瀬戸系施釉陶器観察表

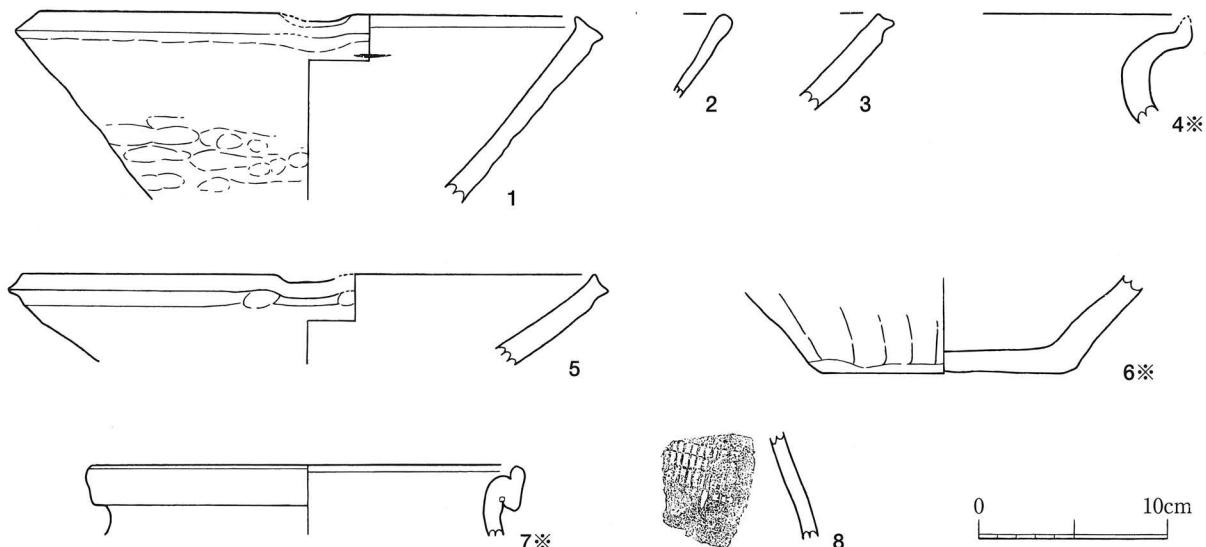
番号	種類	器種	口径	器高	底径	残存率	胎 土	色 調	器形・技法の特徴、その他	台帳番号	出土地点	備 考
1	古瀬戸	平椀	(13.3)	7.5	(4.8)	20		浅黄橙	付高台	247	D11G	
2	古瀬戸	天目椀	12			30		橙		221	SK589	釉：鉄釉
3	古瀬戸	平椀			5	10		淡黄白	付高台	334	3号道	灰釉
4	古瀬戸	平椀	16.3	6.3	5	80	黒色微粒、白色角丸碟少量	にぶい褐色	削り出し高台、高台端部の糸切り痕末調整	244	2号テSK17	
5	古瀬戸	平椀	(16.4)			5		灰白		202	SB2	釉：淡緑色
6	古瀬戸	平椀			4.5	20		灰白		276	地下式12	
7	瀬戸系灰釉	平椀	(12.8)			15		暗灰黄色		277	SK399	志戸呂
8	古瀬戸	平椀	(16)			20		淡黄		217	SK541	
9	古瀬戸	平椀	(15.2)			30		淡黄		216	SK541	
10	古瀬戸	平椀				20		灰～淡黄色		245	2号テSK15	
11	古瀬戸	縁釉皿	(11.8)			10		淡黄白		318	G6G	灰釉
12	古瀬戸	縁釉皿	(11.2)			10		淡黄白		316	SK562	灰釉
13	古瀬戸	縁釉小皿	(9.2)			10		灰白	二次被熱痕跡有り	315	SK561	鉄釉
14	古瀬戸	縁釉小皿	(10)			10		灰白		317	表探	鉄釉
15	古瀬戸	折縁皿	13.8			20	黒色微粒極少量	灰白	体部外面櫛描き波条文	278	F7G	
16	古瀬戸	卸皿				10	黒色微粒極少量	浅黄橙		310	SK63	
17	古瀬戸	卸皿				10		灰白		309	SB8	
18	古瀬戸	椀			5	40	黒色微粒	淡黄		219	SK542	
19	古瀬戸	縁釉中皿	(19)			5	白色碟少量	淡黄		208	SK15	
20	古瀬戸	縁釉深皿	(31)			5		灰白		209	SK15	
21	古瀬戸	縁釉深皿	(27)			5		浅黄橙		311	テラス1	
22	古瀬戸	折縁皿	37.8			5	暗褐色微粒子極少量	にぶい褐色		195	3号池下式貯	
23	古瀬戸	皿		(14.2)	10		黒色粒極少量	灰白		248	E9G	
24	古瀬戸	皿		(12.4)	10		白色粒極少量	灰白		249	E11G	
25	古瀬戸	小鉢			4	30		灰	内底面全面施釉	331	テラス1	濃緑色灰釉
26	古瀬戸	折縁皿	(33)			10	黒色微粒子極少量	灰白		207	SK15	
27	古瀬戸	柄付片口	(16.5)			5				332	SK480	灰釉
28	古瀬戸	仏花瓶				10		灰白	表面灰釉の風化	327	G6G	灰釉
29	古瀬戸	尊式花瓶				5		灰白	外面の灰釉再溶融痕跡有り	328	G8G	灰釉
30	古瀬戸	合子	3.1	2.7	2.8	60	黒色微粒極少量	灰白		307	SK575-550	
31	古瀬戸	茶入		(3.8)	15		灰色微粒少量	褐灰	外面褐色、断面暗灰色	333	E9G	
32	古瀬戸	瓶子			10.4	30	黒色微粒	灰白	蕨手文	280	G7G	灰釉
33	古瀬戸	瓶子				30	白色粒少量	灰白	肩部蓮弁文、体部巴文	279	SI39	鉄釉(鉛色)
34	古瀬戸	祖母懐壺			11.4	10	白色粒極少量	灰～黒灰	還元炎焼成	308	G5G	鉄釉
35	古瀬戸	捲腰形香炉	(13)			5		灰		329	G7G	灰釉
36	古瀬戸	捲腰形香炉	(11)			5		灰白		330	I6G	鉄釉
37	瀬戸系灰釉	折縁深皿	(27.4)			15	白色微粒極少量	茶褐		269	D6G	志戸呂
38	瀬戸系灰釉	折縁深皿		(104)	10		白色粒子	灰褐	底部回転糸切り	270	地下式24	志戸呂
39	瀬戸	摺鉢	33.4	13.4	12.3	50	黒色微粒子多量	にぶい褐色	使用により卸し目摩耗	267	SK595	近世
40	瀬戸・美濃	天目椀			4	10		淡黄白	高台部露胎	313	SK63	鉄釉
41	瀬戸・美濃	天目椀			4	10		灰白	高台部錫釉	314	SK15	鉄釉



第100図 神出遺跡出土瀬戸系施釉陶器(2)

常滑 (第101図・写真図版30)

常滑の総量は実測図の8点のほか写真の35片ほどで、甕・広口壺・壺・片口鉢の体部片である。8号豎穴遺構出土の壺口縁は、中野・赤羽編年の6a期=13世紀の第3四半世紀、出土の体部に格子目文スタンプの押印されているものは5期あるいは6a期で13世紀の中頃、398号土坑出土の鉢は7期の無高台14世紀前半で、古瀬戸と較べてやや古い時期のものが目立っている。



第101図 神出遺跡出土常滑

神出遺跡出土常滑観察表

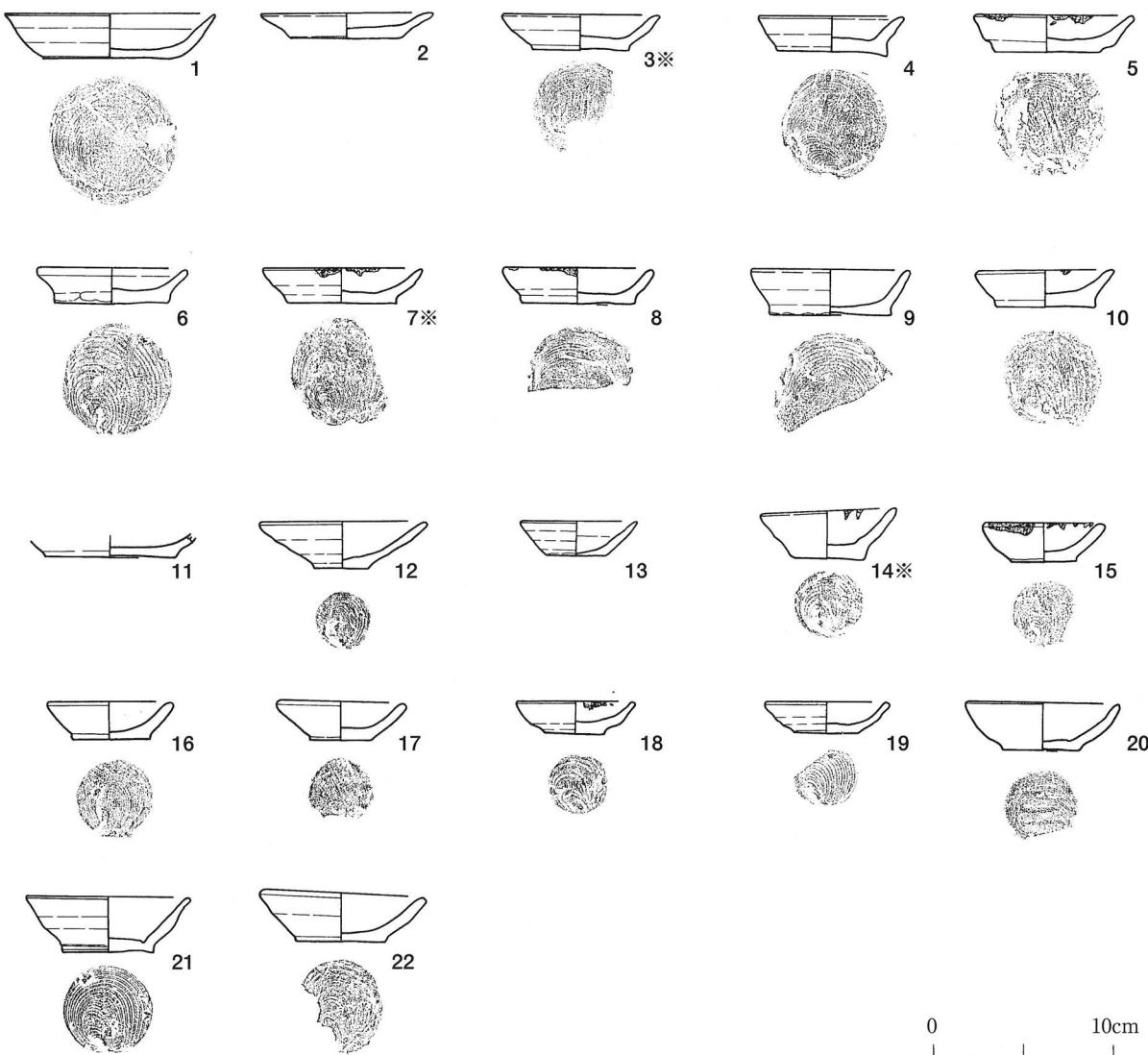
番号	種類	器種	口径	器高	底径	残存率	胎 土	色 調	器形・技法の特徴、その他	台帳番号	出土地点	備 考
1	常滑	片口鉢	8			10	透・半透明、白・灰色粒	橙(外面) 内面は褐色。二次被熱か		196	3号地下式竪	
2	常滑	片口鉢			5	白色粒・甕	灰オーブ色			253	SB8	中野編年7期
3	常滑	片口鉢			5	白色粒・甕	褐	口縁端部角形注ぎ口は幅広く張り出し弱い		252	SK398	
4	常滑	甕			5	白色微粒～甕	灰褐			238	1号テラス	
5	常滑	片口鉢(31.8)			10	白色微粒～甕中量	灰褐～褐			234	4号道	
6	常滑	片口鉢		14	20	白色粒中量	灰褐	底部半透明～白色粒・礫の砂目、内面平滑		312	3号道	
7	常滑	広口壺(23.2)			5	白色粒～微粒	暗白			191	8号豎穴	
8	常滑	甕			5	白色粒・甕	灰オーブ色			254	SD11	

在地系土器 (第102・103図・写真図版30)

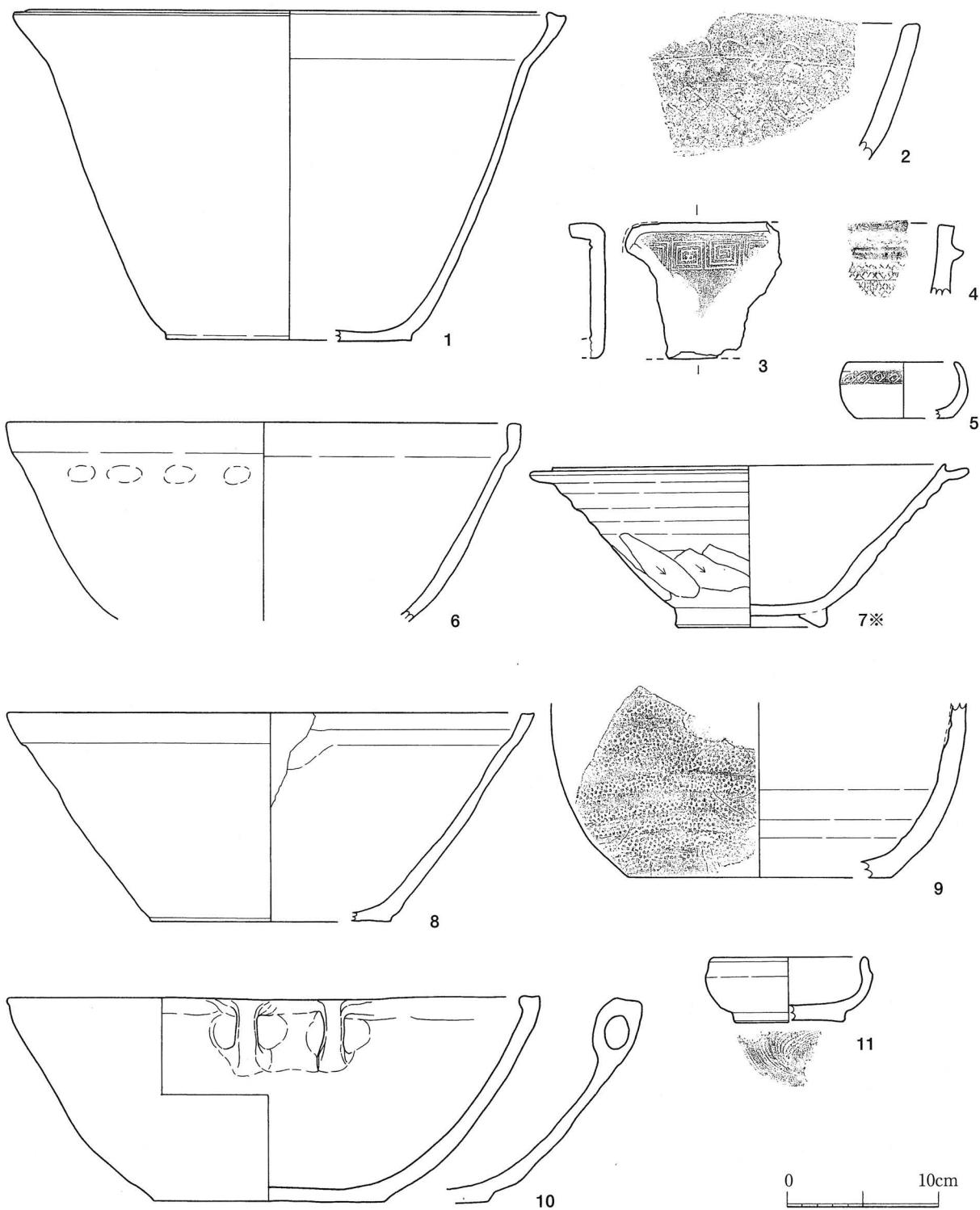
かわらけ類は掘立柱建物跡、土坑、地下式竪、溝等から出土している。底径が大きく器高の低いタイプ

神出遺跡出土土師質土器小皿観察表

番号	種類	器種	口径	器高	底径	残存率	胎 土	色 調	器形・技法の特徴、その他	台帳番号	出土地点	備 考
1	土師質土器	小皿	11.6	2.5	7	80	透明・半透明微粒	橙	底部回転糸切り	203	SB2	
2	土師質土器	小皿	(9.6)	1.4	(6)	40	半透明微粒、赤褐色微粒	褐	底部ヘラ削り、内面見込み指ナデ	204	SB8	
3	土師質土器	小皿	8.8	2	5.4	60	金雲母、赤褐色微粒	褐	底部回転糸切り	205	SK15	
4	土師質土器	小皿	8	2	6	100	半透明・白色微粒	橙	底部回転糸切り	211	SK159	
5	土師質土器	小皿	8.8	2.1	5.8	95	赤褐色粒中～少量	暗灰	灯明皿、二次被熱による器壁の著しい荒れ	225	SK641	
6	土師質土器	小皿	8.5	1.9	6.2	90	透明・白色粒少量	褐		197	地下式6	
7	土師質土器	小皿	8.8	2	6.2	70	やや砂っぽい	明褐	灯明皿、二次被熱による器壁の著しい荒れ	264	P629	
8	土師質土器	小皿	(8.4)	1.9	(6.4)	60	白色微粒	褐	底部回転糸切り	230	3号道	
9	土師質土器	小皿	8.8	2.5	6.8	60	雲母微粒極少量	褐～橙	回転糸切り	198	12号地下式	
10	土師質土器	小皿	7.7	2.1	5.6	80	赤褐色粒少量	橙～黒褐	灯明使用痕以外に全体に強いス状の炭化物付着	241	2号テラス P3覆土	
11	土師質土器	小皿			7.2	40	透明・白色微粒子	橙	底部回転糸切り痕	218	SK	
12	土師質土器	小皿	8.8	2.6	3	60	半透明・白色、赤褐色微粒	明褐	底部回転糸切り	263	P82	
13	土師質土器	小皿	6.7	2	3.4	100	灰色粒少量、赤褐色粒多量		体部内面螺旋状成形痕、底部調整痕摩耗	200	地下式15	
14	土師質土器	小皿	7.8	2.8	4	100	白色・金雲母微粒	褐	底部回転糸切り	306	テラス1 灯明皿	
15	土師質土器	小皿	6.8	2.2	3.6	100	金雲母片、赤褐色粒	褐	底部回転糸切り、口縁部タール状付着物	232	4号道 灯明皿	
16	土師質土器	小皿	6.9	2.1	4.3	100	透明・半透明粒多量	褐	底部回転糸切り	231	4号道	
17	土師質土器	小皿	7.2	2.2	3.5	100	透・半透明粒多量、金雲母	褐	底部回転糸切り	233	4号道	
18	土師質土器	小皿	6.5	1.8	3.3	100	金雲母微粒子	橙～黑色	底部外面一部被黒化	228	3号道	
19	土師質土器	小皿	(6.9)	(1.7)	3.5	100	金雲母微粒子	暗褐	底部回転糸切り	227	3号道	
20	土師質土器	小皿	(8.5)	2.7	4.1	100	半透明・黄白色微粒子	褐	底部板压痕あり、内面一部黒化	229	3号道	
21	土師質土器	小皿	9.2	3	5	100	金雲母微粒	明褐	底部回転糸切り	210	地下式17	
22	土師質土器	小皿	9.2	2.7	5.2	100	半透明・灰・白色粒多量	褐	見込み部一方向指ナデ	236	5号道	



第102図 神出遺跡出土土師質土器小皿



第103図 神出遺跡出土在地系土器、瓦質土器

(図102の4～10)とやや小振りで底径が小さいタイプ(13～19)の二つに大きく分かれる。それぞれA類、B類とする。A類は灯明皿として利用した痕跡のあるものが多いが、灯明痕跡以外に強い火熱を受けたものがある。B類は、3・4号道の覆土から出土しており、3号道の覆土中の遺物には中世の遺物以外に近世の陶磁器類が混じるためやや新しい時期の遺物と考えられる。A・B類以外のものは個体数が少なく分類が難しいが、個別に見ていくとNo1～3は底径が大きく器高が低く、A類の特徴に近いが体部が開いて立ち上

神出遺跡出土内耳鍋・瓦質土器観察表

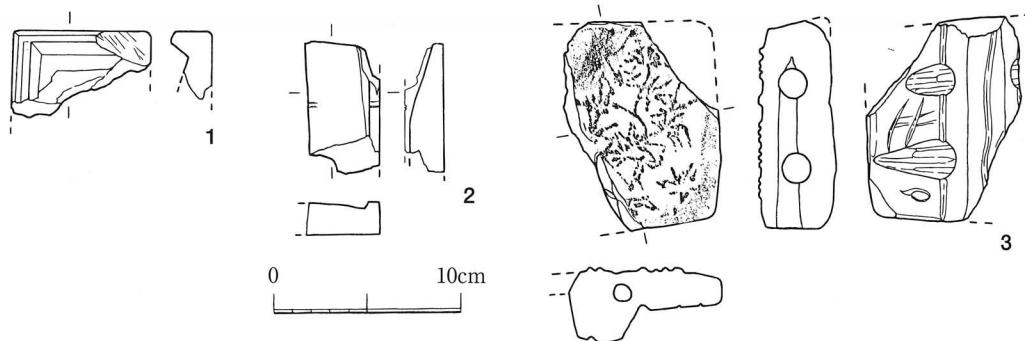
番号	種類	器種	口径	器高	底径	残存率	胎 土	色 調	器形・技法の特徴、その他	台帳番号	出土地点	備 考
1	土師質土器	内耳鍋	(36.4)	21.6	(16)	40	透明・白色粒、雲母微粒	暗褐	外面に全体にコゲ・スス付着	192	10号竪穴	
2	土師質土器	火舎			10		白色礫、白色粒	褐～橙		242	2号テラスP2	
3	瓦質土器	火鉢		9		10	雲母粒・白色粒子	黑色	外面に雷文	274	SI4	
4	土師質土器	火鉢				5	雲母粒	褐		250	B5G	
5	瓦質土器	小鉢	(7.2)	3.7	(6.4)	20	微砂粒多量	灰	外面は2条の沈線間に斜雷文のスタンプ	251	G6G	
6	土師質土器	内耳鍋			30		白色粒子少量、雲母粒多量	褐		194	3号地下槽 外側スス付着	
7	瓦質土器	片口鉢	25.9	10.6	10.6	40	半透明・白色礫	灰	還元炎焼成、焼き締めやや甘い	243	2号テラスSK17	
8	土師質土器	内耳鍋	34.8	13.7	16	30	半透明・礫・雲母微粒多量	明褐		199	12号地下式槽	
9	瓦質土器	壺			17.3	10	雲母粒多量	暗褐	体部外面に径2mm大の小突起の密集模様	262	SI32	
10	土師質土器	内耳鍋	35	13.2	15.2	70	半透明・白色微粒子	褐	3内耳、体部外面スス付着	235	4号道	
11	土師質土器	小椀	(10.5)	4.3	(7.4)	35	目立つ含有物無し	褐～黒色	底部回転糸切り、内外面ともスス付着	226	SK536	

がりが緩やかで形態に違いがある。No 1・2は掘立柱建物跡の柱穴内から出土しており、遺構の切り合ひ関係からは古い一群となろう。No 1は2号掘立柱建物跡の柱穴中から出土しているが、別の柱穴中から古瀬戸平椀片が出土しており15世紀前半以降の時期となろう。No 3は古瀬戸折縁皿や大窯期の天目椀片等とともに15号土坑から出土している。17号地下式槽出土のNo21は、土浦市寄居遺跡1号地下式槽出土のものと類似し15世紀末頃のものであろう。

在地の鍋は竪穴遺構や地下式槽、溝の覆土から出土している。第103図 No 1 の内耳鍋は10号竪穴遺構から出土しているもので体部に深さがあり15世紀前半頃の古手のものかと考えられる。No 6、8、10の内耳鍋は15世紀後半代のものか。No11は内耳鍋やかわらけ等と同じ焼成の土師質土器の小椀で内外面煤が付着し15世紀代に火災にあっている一群の土器と同じ時期のものか。

No 7の片口鉢は胎土が在地的で還元炎焼成の須恵器のような土器である。2号テラス面に確認された17号土坑の中から出土している。底部は、断面逆三角形の付高台で、体部は直線的に開き、口縁部で外反し鎧状となる。まるで瀬戸の片口鉢を模したような器形である。古瀬戸後Ⅱ期の平椀、常滑片、石製硯片、スタンプ文の押された瓦質火鉢片等中世の遺物とともに出土しており、15世紀前半頃の廃棄坑への投棄遺物と考えられる。観察表を補足すると胎土は半透明・白色の1~3mm大の礫を中心に大きいもので8mm大を含み1mm以下の粒子も比較的多く含有している。まるで雲母を含まない種類の古代の新治産須恵器の胎土のようである。最も形の似た古瀬戸の片口鉢と比較すると、片口鉢は山茶碗や小皿とともに後期様式の始め頃まで無釉陶器として残存し、灰黒色ないし灰色の発色で体部外面を搔き上げ、断面三角形の高台を付けている。胎土中に白色の礫を含むものもあるとされている。瀬戸の山茶碗系の無釉陶器の可能性もあるが、胎土・焼成の点から在地産と推測される。しかし、これまで同様の技法的特徴を持つ在地の製品は知られていない。

その他に産地不明の瓦質土器が出土している。No 2・4・5は、中世の時期のものと思われ、それぞれ



第104図 神出遺跡出土石製品

神出遺跡出土石製品観察表

番号	種類	名称	径	厚さ	孔径	残存率	石質			台帳番号	出土地点	備考
1	石製品	硯		7.4	2.2	70	粘板岩			213	SK539	
2	石製品	硯			1.8	30	粘板岩			246	2号テラス	
3	石製品	滑石製印版	5.6	4.2	4.2	46.8	滑石			265	表採	

連続スタンプ文が押されている。No 3・9は近世の瓦質土器と思われ、No 3は方形の火鉢、No 9は甕か壺形であろう。

石製品（第104図・写真図版31）

石製品は、硯石3点、砥石12点、滑石製印版1点が出土している。硯石3点は、粘板岩製で滋賀県の高島産とされるものに類似している。砥石は、仕上げ砥が2点で内1点は京都鳴滝産である。荒砥は龍文岩製の沼田砥と考えられるもの、泥岩質のもの、両側に鋸目の入った幅6cmもある幅広のもの等が出土している。No 3の滑石製印版は滑石製のスタンプ状の製品である。摘み部分に摘みと直交して貫通孔が2か所、摘みと平行して未貫通孔が1か所空いている。印面には樹枝状のやや不明瞭な絵柄が浮彫りされており、印面向かって左半分と右上が欠けている。裏面には刃傷にも見える線状の掘り込みが4か所入り、摘み部の頭と裾に摘みと平行に太めの沈線が入っている。鎌倉の中世の遺跡からの出土例が多く、鎌倉以外では博多で出土しているものが知られるだけで、地方での出土はまだないとされている。鎌倉の出土例の中に金箸が刺さっていたものがあるとのことで焼き印や臘顔染め用の版等の説がある。本遺跡のものは残念ながら表採遺物で遺構に伴っていない。本遺跡の中で印版の使用地点を強引に推測するならば、H5グリッド内に長軸約70cm、短軸約40cmの不整形の平坦で赤変硬化した火處が3か所確認されておりこの遺構との関連が推測される。

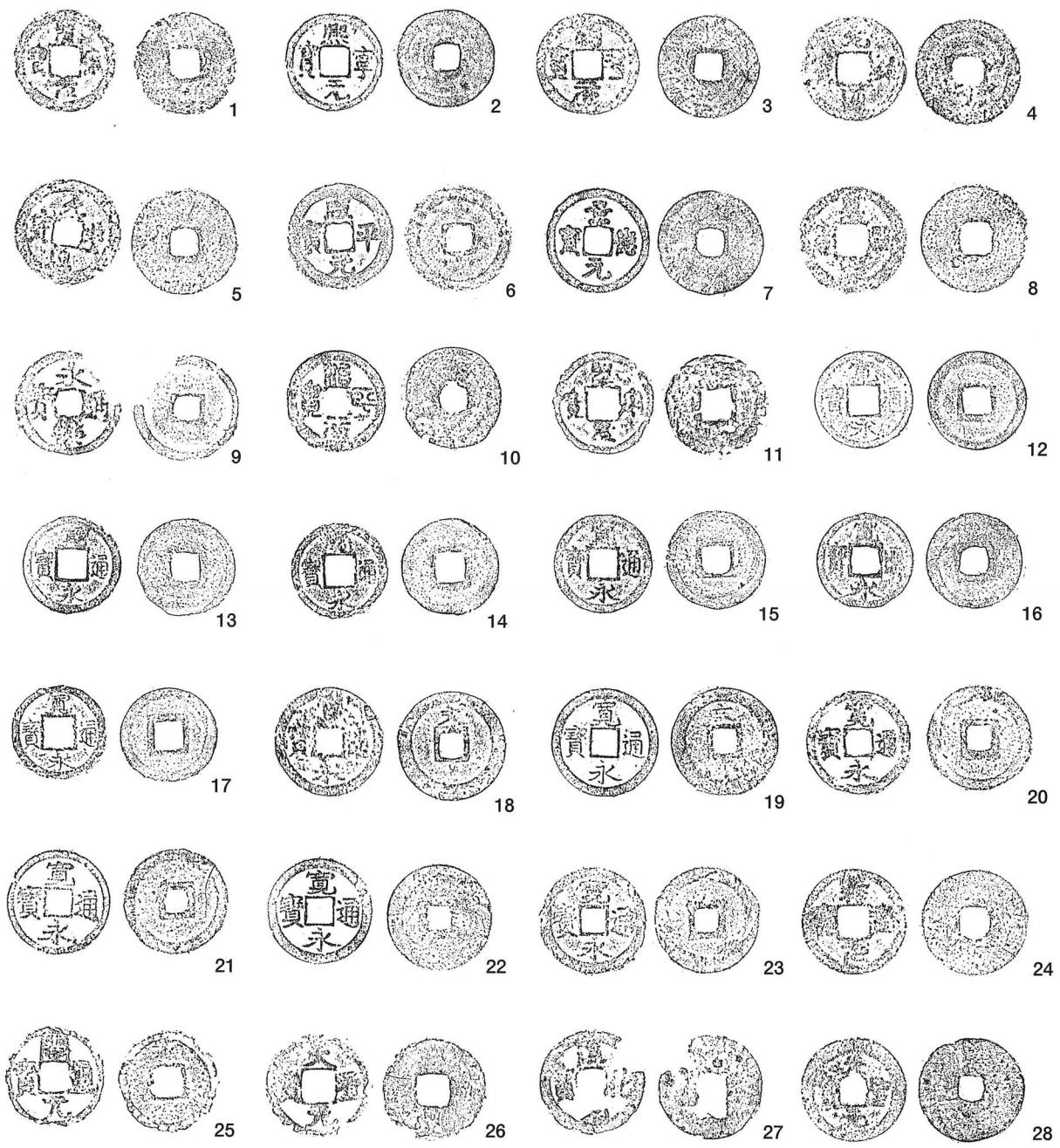
(第68図)

金属製品（第105図・図版31）

鉄製品30点以上と銅錢28点が出土している。鉄製品は全体に遺存状態が悪く形状不明なものが多い。釘状、刀子状、鎌片かと思われるものや煙管、近代のバッジ状のものも出土している。銅錢は渡来銭16点と寛永通宝12点である。

出土銭貨観察表

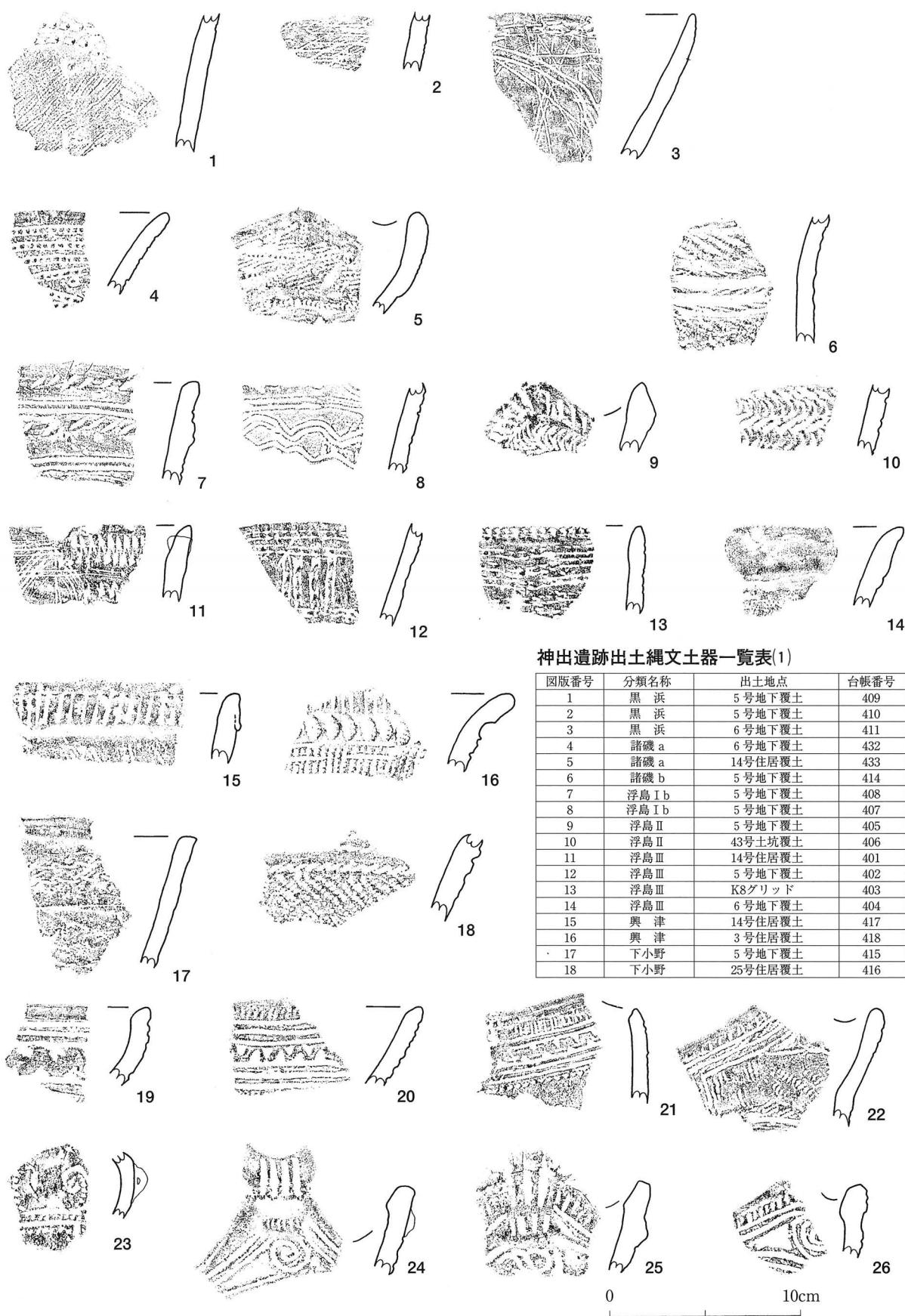
番号	種別	初鑄年（西暦）	外径(cm)	内径(cm)	厚さ(cm)	重量(g)	出土地点
1	聖宋元寶	1101年	2.3	0.65	0.11	3.03	1号掘立柱建物跡
2	い寧元寶	1068年	2.25	0.6	0.12	3.09	1号掘立柱建物跡
3	治平元寶	1064年	2.37	0.62	0.11	3.36	17号地下式壙
4	元符通寶	1098年	2.44	0.68	0.11	4.15	17号地下式壙
5	元豐通寶	1078年	2.43	0.6	0.08	2.97	17号地下式壙
6	咸平元寶	1101年	2.43	0.57	0.1	3.51	21号地下式壙
7	景德元寶	1004年	2.4	0.6	0.1	2.5	21号地下式壙
8	不 明		2.5	0.69	0.11	2.72	21号地下式壙
9	永樂通宝	1408年	2.44	0.53	0.12	3.16	63号土坑
10	治平元寶	1064年	2.3	0.59	2	3.43	536号土坑
11	聖宋元寶	1101年	2.3	0.7	0.08	1.76	536号土坑
12	寛永通宝	1697年	2.27	0.68	0.1	2.75	659号土坑
13	寛永通宝	1697年	2.27	0.63	0.09	2.53	659号土坑
14	寛永通宝	1697年	2.27	0.67	0.08	1.89	659号土坑
15	寛永通宝	1697年	2.28	0.62	0.09	2.63	659号土坑
16	寛永通宝	1697年	2.22	0.62	0.08	2.51	659号土坑
17	寛永通宝	1697年	2.22	0.63	0.08	1.9	659号土坑
18	寛永通宝	1668年	2.48	0.58	0.12	3.76	3号墓壙
19	寛永通宝	1668年	2.48	0.56	0.12	3.35	3号墓壙
20	寛永通宝	1668年	2.4	0.56	0.13	3.64	3号墓壙
21	寛永通宝	1668年	2.4	0.58	0.13	3.53	3号墓壙
22	寛永通宝	1668年	2.42	0.56	0.11	3.16	3号墓壙
23	寛永通宝	1668年	2.42	0.54	0.13	3.6	3号墓壙
24	天聖元寶	1023年	2.43	0.68	0.1	3.3	3号道
25	開元通宝	960年	2.32	0.66	0.11	2.3	P301
26	天聖元寶	1023年	2.4	0.75	0.09	2.06	中央地区表土
27	淳化元寶	990年	2.41	0.66	0.08	1.89	中央地区表土
28	天聖元寶	1023年	2.48	0.57	0.11	3.91	西区表土



第105図 神出遺跡出土銭貨

4. 遺構外出土遺物 (第106・107図・写真図版32)

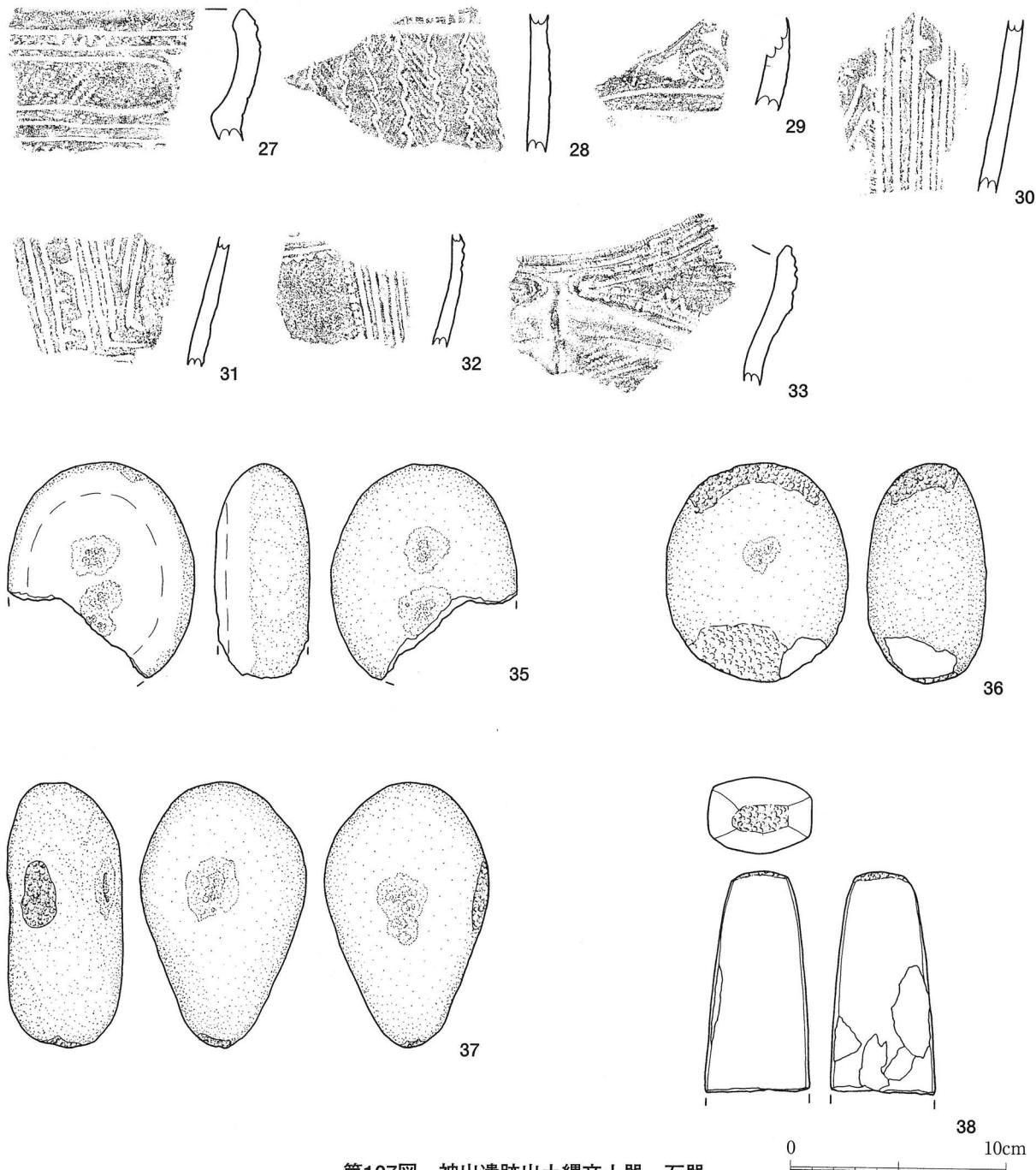
縄文土器は、古墳時代～近世の各遺構の覆土中に混入しており、遺物収納箱3箱分程出土している。しかし、調査範囲内に縄文時代の遺構はまったく発見できなかった。おそらく、自然の土壤流失、古墳時代以降の住居や土坑の掘り込み、中世の地形の掘削・削平、各遺構の掘り込みによって本来あったはずの縄文時代の遺構は流失してしまい確認できないものと考えられる。縄文土器は前期前半～中期前葉の時期の遺物で、前期前葉の五領ヶ台期のものが比較的多い。石器も数点出土している。以下に拓・実測図と一覧表を掲載する。



神出遺跡出土縄文土器一覧表(1)

図版番号	分類名称	出土地点	台帳番号
1	黒浜	5号地下覆土	409
2	黒浜	5号地下覆土	410
3	黒浜	6号地下覆土	411
4	諸磯 a	6号地下覆土	432
5	諸磯 a	14号住居覆土	433
6	諸磯 b	5号地下覆土	414
7	浮島 I b	5号地下覆土	408
8	浮島 I b	5号地下覆土	407
9	浮島 II	5号地下覆土	405
10	浮島 II	43号土坑覆土	406
11	浮島 III	14号住居覆土	401
12	浮島 III	5号地下覆土	402
13	浮島 III	K8グリッド	403
14	浮島 III	6号地下覆土	404
15	興津	14号住居覆土	417
16	興津	3号住居覆土	418
17	下小野	5号地下覆土	415
18	下小野	25号住居覆土	416

第106図 神出遺跡出土縄文土器



第107図 神出遺跡出土縄文土器・石器

神出遺跡出土縄文土器一覧表(2)

図版番号	分類名称	出土地点	台帳番号
19	五領ヶ台	6号地下覆土	420
20	五領ヶ台	5号地下覆土	421
21	五領ヶ台	14号住居号覆土	423
22	五領ヶ台	5号地下覆土	422
23	五領ヶ台	5号地下覆土	425
24	五領ヶ台	2号住居覆土	424
25	五領ヶ台	6号地下覆土	434
26	五領ヶ台	8号地下覆土	427

図版番号	分類名称	出土地点	台帳番号
27	五領ヶ台	6号地下覆土	426
28	五領ヶ台	6号地下覆土	428
29	五領ヶ台	39号土坑	430
30	五領ヶ台	5号地下覆土	429
31	五領ヶ台	5号地下覆土	431
32	五領ヶ台	5号地下覆土	412
33	五領ヶ台	441号土坑覆土	413

神出遺跡出土縄文時代石器観察表

番号	種類	名 称	長さ	厚さ	幅	残存率	石 質	重 量	台帳番号	出土地点	備 考
35	石器	磨・凹・叩石	10	4.4	8.2	70	砂岩	470g	419	SK15	内外摩擦
36	石器	磨・凹・叩石	10.2	5.5	8.4	100	安山岩	690g	423	SK473	
37	石器	磨・凹・叩石	12.3	5.3	7.7	100	安山岩	650g	424	19号地下式	
38	石器	磨製石斧	(10.2)	4.9	4.9	100	砂岩	300g	426	D11G	

第3節 調査のまとめ

本遺跡は縄文時代から古墳時代、平安時代、中世、近世、近代までの人間活動の痕跡が繰り返し刻まれた遺跡である。古代の遺構は、古墳時代前期・後期平安時代の竪穴住居跡から成る集落である。中世の遺構は掘立柱建物跡や溝、方形竪穴遺構等館跡にかかわるような遺構、さらに地下式壙や火葬墓といった墓に関連する遺構も見られる。その他に近世の土坑墓や土坑、時期不明の礎石建物跡等、近代の土坑や果樹栽培の跡が見られる。検出された遺構数は、古墳時代の竪穴住居跡20軒、平安時代の竪穴住居跡22軒、中世の掘立柱建物跡8棟、地下式壙29基、火葬遺構（火葬墓）5基、竪穴遺構12基、溝13条、テラス状遺構2か所、時期不明の礎石建物跡1棟、その他土坑約460基、柱穴約980本である。

古墳時代の竪穴住居跡は、古墳時代前期の1軒を除いてほとんどが5世紀後半から6世紀前半の大型の住居跡で、台地平坦面の最高地点を中心に分布している。出土遺物は在地産土師器と搬入土師器、搬入須恵器、平安時代の集落は9世紀後半から10世紀代が中心で、遺構の遺存状態が悪く出土遺物もやや少ないものの灰釉陶器は細片で多く出土している。中世の掘立柱建物跡は、柱穴状のピットが数多く確認されたもの明瞭に建物の配列として捉えられたものが少なく、柱間や柱列の不規則な掘立柱建物跡は相当存在していたものと推測される。方形竪穴遺構や地下式壙、柱穴、土坑は出土遺物がとぼしく時期の決定の困難なものが多い。

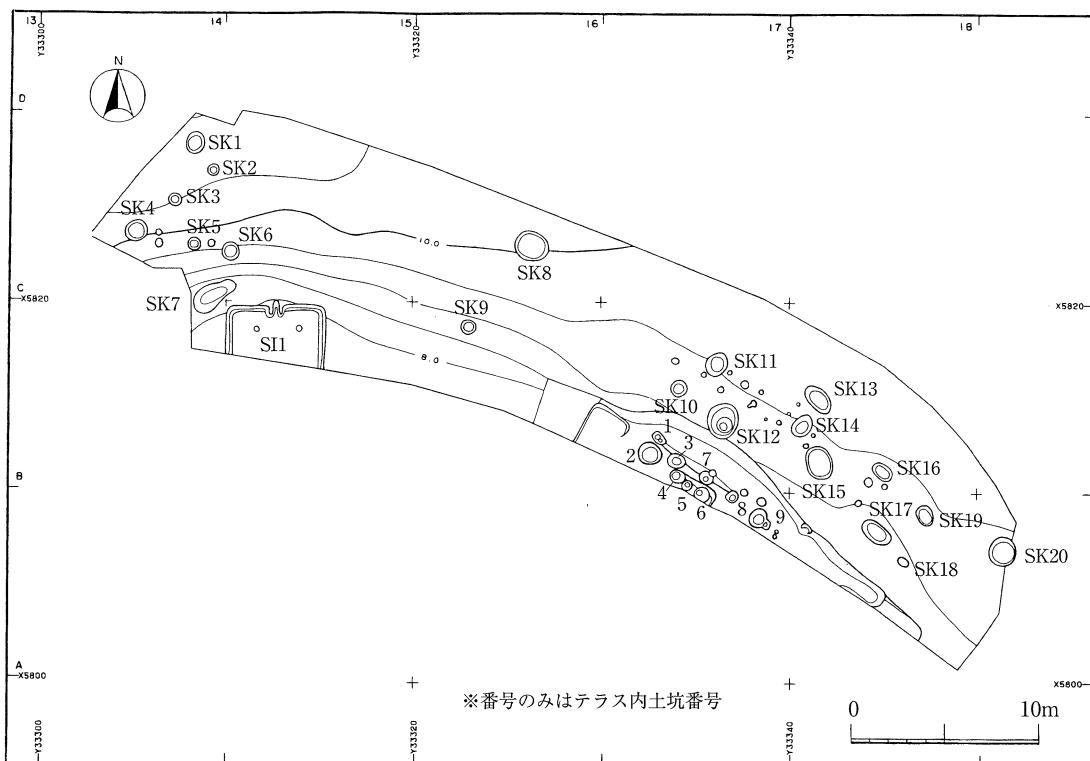
出土遺物は古墳時代の土師器、須恵器、土製品、平安時代の土師器、須恵器、灰釉陶器、中世の輸入陶磁器、古瀬戸、常滑、土師質土器、土製品、金属製品、遺構外から縄文土器片・石器等が出土している。本遺跡は台地縁辺の傾斜地形という立地環境であるが古代と中世の遺構が検出され、当時の人々の生活の跡が確認された。古代の遺構は古墳時代後期から平安時代の竪穴住居跡で、古墳時代後期1軒、奈良時代1軒、平安時代1軒である。出土遺物は7世紀後半の土師器、8世紀前半の土師器・須恵器、9世紀代の土師器、須恵器、灰釉陶器である。中世に属すると考えられる遺構は火葬墓1基、粘土張り土坑2基である。火葬墓は、南側の谷を狭んで隣接する台地上に立地する神出遺跡から7基確認されており、掘立柱建物跡等との切り合い関係から16世紀前後の時期のものと推測されており、本跡のものも同時期頃の可能性が考えられる。粘土張り土坑は、近世に見られる六文銭を伴うような円形プランではなく方形プランで内壁が火熱を受けており墓壙の可能性もあるが、性格は不明としておく。中世の時期の出土遺物は火葬墓から骨片、遺構外から古瀬戸平椀小片が出土している。その他に時期不明の溝1条と土坑13基が検出された。



第4章 中居遺跡

第1節 遺跡の概要

神出遺跡の台地はさらに南東に延び、狭い尾根状地形になっているが、中居遺跡はその尾根状地形の南斜面の裾部にある。検出された遺構は竪穴住居跡1軒、土坑29基、テラス状の自然平坦面1か所を数える。住居跡や土坑の確認されたテラス面は、標高8mで、水田面との比高差は4mを測る。



第108図 中居遺跡全体図

第2節 遺構と遺物

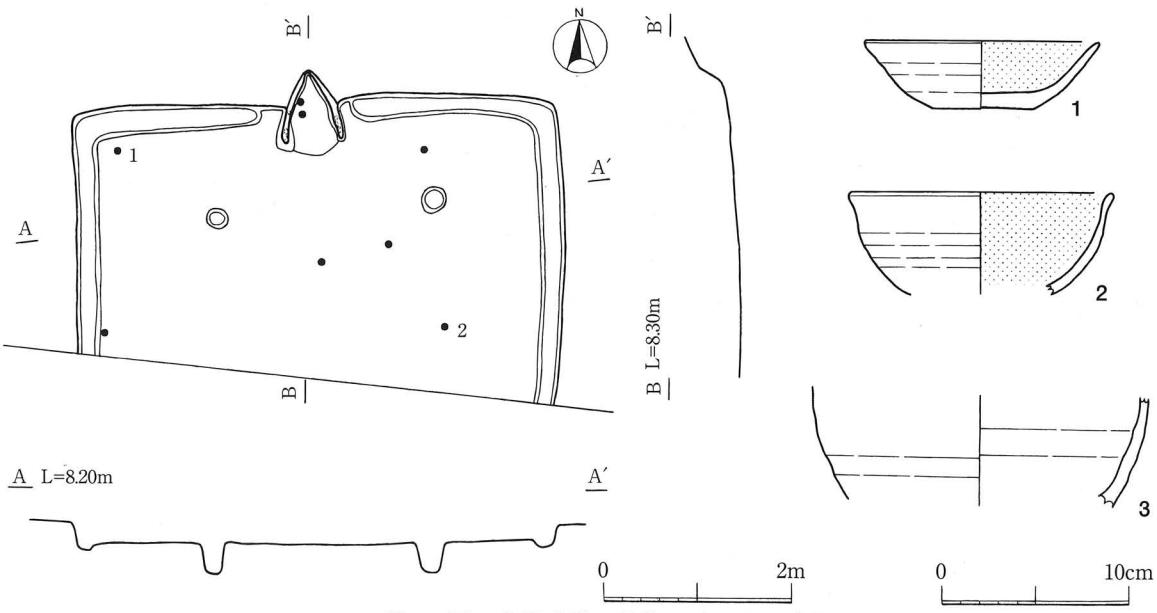
1 竪穴住居跡

1号竪穴住居跡（第109図・写真図版33）

本住居跡は、B14グリッドに位置する。南半分は調査エリア外に延びている。規模は東西方向5.06mで、主軸はN-0°を示す。残存する壁高は25cmを測り、壁溝掘り方上幅0.2mで竈部分を除いて全周している。主柱穴は、2本で北壁から1.1m、東西壁からそれぞれ1.4m離れた床上にあり、径23~28cm、深さ約35cmである。カマドは確認面上揚で0.75m竪穴外に突出する。袖部の外側最大幅は1.4mで内壁は焼土化して残存しており、燃焼室中央部奥壁から、約0.9m離れた内側へ向かって左中央に支脚が残存していた。出土遺物は、9世紀代の須恵器が多く、土師器は甕、内黒坏・椀が覆土中から出土している。

中居遺跡1号住居跡出土遺物観察表

番号	種類	器種	口径	器高	底径	残存率	胎 土	色 調	器形・技法の特徴、その他	台帳番号	出土地点	備 考
1	土師器	坏	(12.9)	3.6	4.2	30	半透明粒多量	褐色	内黒	1	SI1	
2	土師器	高坏	11.2	4.8		20	白色微粒少量	褐~暗褐色	内黒	2	SI1	内外面摩耗
3	須恵器	長頸瓶				5	白色粒・同微粒少量	駆地~セピア	内面長石吹き出し多い	3	SI1	



第109図 中居遺跡1号住居跡・出土遺物

2 テラス状遺構（第110図・写真図版34）

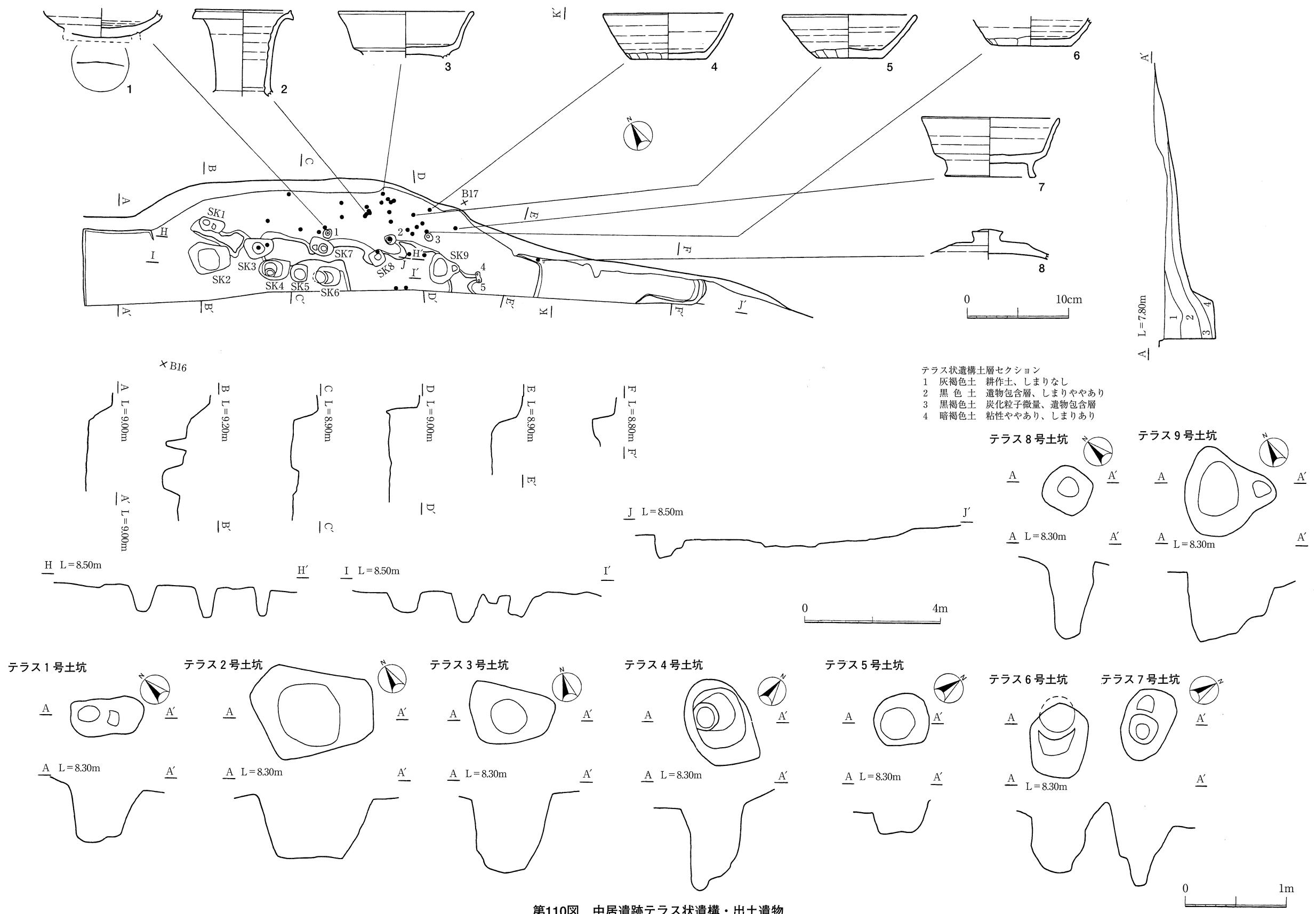
台地裾部の緩やかな傾斜が標高9m付近で急に傾斜角度を強め、高さ約2mの崖面となって下り、崖下は底面が平坦なテラス状地形となっている。このテラス面は平安時代以降に埋没したらしく、須恵器を中心とする遺物が、耕作土の下の黒色土～黒褐色土層から出土している。平坦面上には土坑9基が確認されたが遺物はほとんど出土しなかった。テラス状遺構を覆っている自然堆積層から出土している須恵器は、壺・高台付壺・甕・長頸瓶で9世紀前半代を中心とした時期の遺物である。No 1の須恵器高台付壺は胎土中に海綿骨針、チャート礫を含み木葉下産、No 2長頸瓶の胎土は精良で在地のものではなく、猿投産灰釉陶器に較らべると長石分の融出が目立ち、自然釉は黒からオリーブ、一部金色光沢を放つ、同一個体と見られる体部片はまるで常滑焼の焼き色を呈しており、須恵器であれば原始灰釉の段階、灰釉陶器とするならば猿投産でも遠江産でもない地域の製品かと見られる。その他の須恵器は、雲母粒を含む新治産と新治産で雲母を含まない胎土のものが出土している。

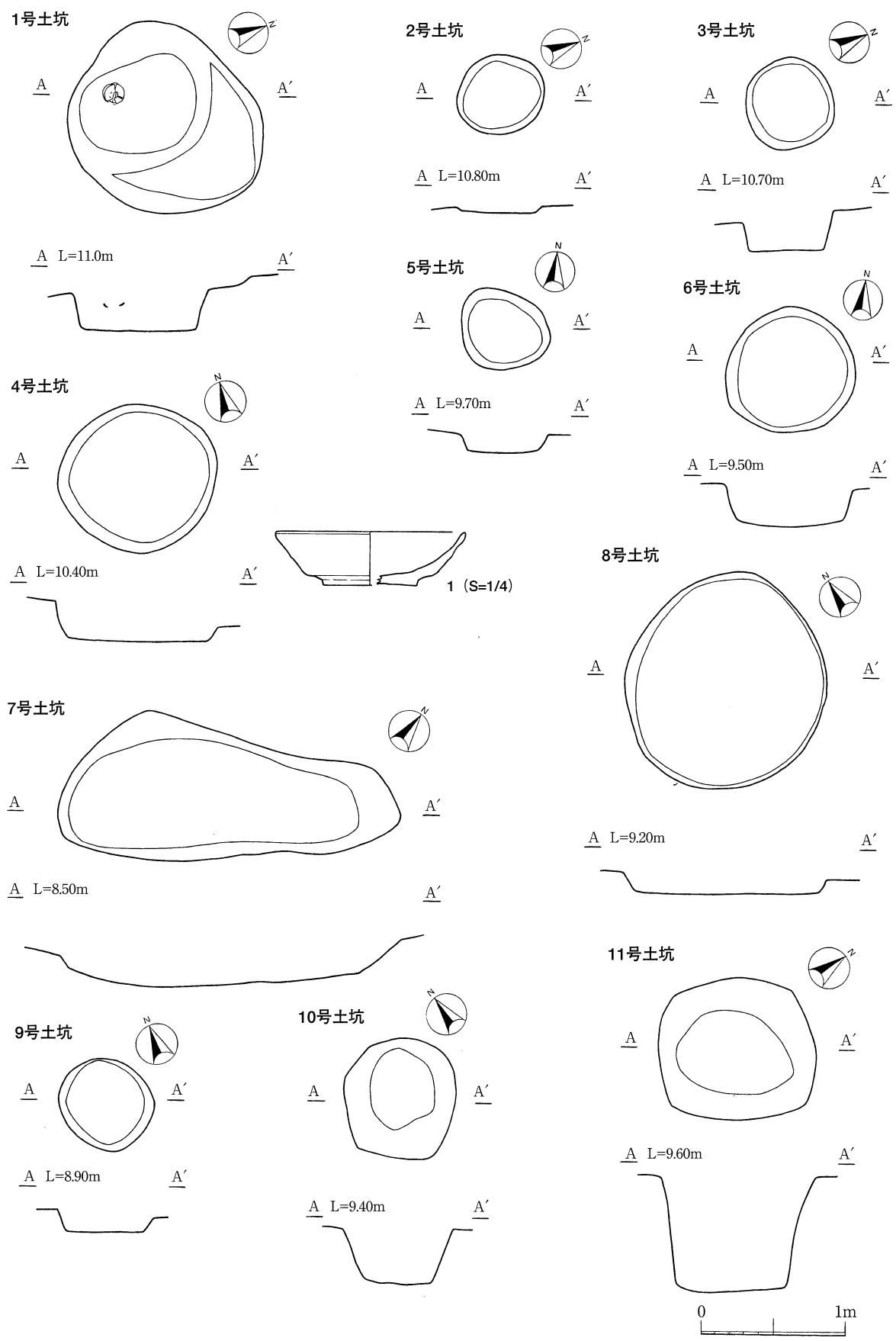
中居遺跡テラス状遺構出土遺物観察表

番号	種類	器種	口径	器高	底径	残存率	胎 土	色 調	器形・技法の特徴、その他	台帳番号	出土地点	備 考
1	須恵器	高台月壺				50	白色、灰色礫少量、海綿骨針	褐色		13	テラス上	木葉下産
2	須恵器	長頸瓶	9.5			20	黒色微粒少量	オリーブ～黒	断面灰色～褐色、頸部一段接合	19	テラス上	
7	須恵器	高台月壺(13.4)				40	透明・白色微粒子	灰色		11	テラス上	新治産
4	須恵器	壺(12.9)	4.6	7.6	60	雲母微粒子中量	灰色	底部回転ヘラ切り離し後押さえ		5	テラス上	新治産
5	須恵器	壺(13.3)	4.3	6.4	60	半透明・白色礫	灰色			7	テラス上	新治産
6	須恵器	壺				50	雲母粒、透明・白色粒中量	灰色	底部回転ヘラ削り	4	テラス上	新治産
7	須恵器	高台月壺				60	白色角礫最大8mm、半透明粒	灰色	底部回転ヘラ切り離し	12	テラス上	新治産
8	須恵器	蓋				70	透明・半透明	灰色		14	テラス上	新治産

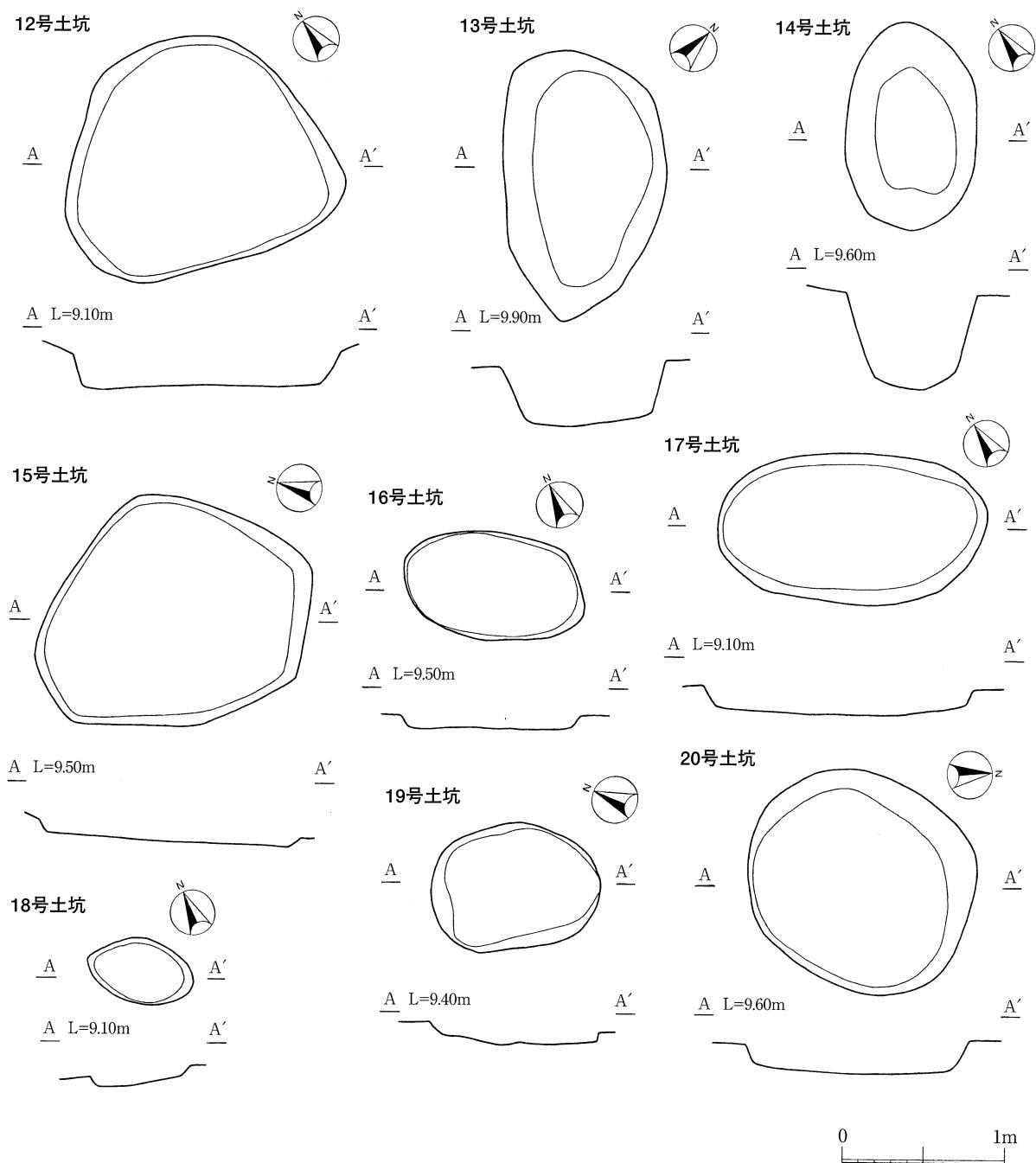
表5 中居遺跡テラス内土坑一覧表

番号	位 置	平面形	長軸×短軸×深さ	出土遺物
1	B-16	楕円形	1.38×1.20×0.24	
2	B-16	楕円形	0.64×0.54×0.03	
4	B-16	円 形	0.63×0.61×0.10	
5	B-16	楕円形	1.13×1.03×0.18	
6	AB-16	円 形	0.66×0.55×0.12	
7	B-16	不整形	2.38×0.79×0.21	
8	A-16	円 形	1.47×1.40×0.10	
9	A-16	隅丸方型	0.68×0.65×0.11	





第111図 中居遺跡 1~11号土坑



第112図 中居遺跡12~20号土坑

3 土坑（第111・112図）

29基の土坑のうち、9基はテラス面から、残り20基が遺跡内の緩斜面上から検出された。分布は、調査区西側の1号住居の北西側に6基、調査区東側のテラス状遺構の上の緩斜面上に10基、その間に2基と3群に分かれる。出土遺物は住居跡と同じ9世紀代の遺物が中心である。

中居遺跡土坑出土遺物観察表

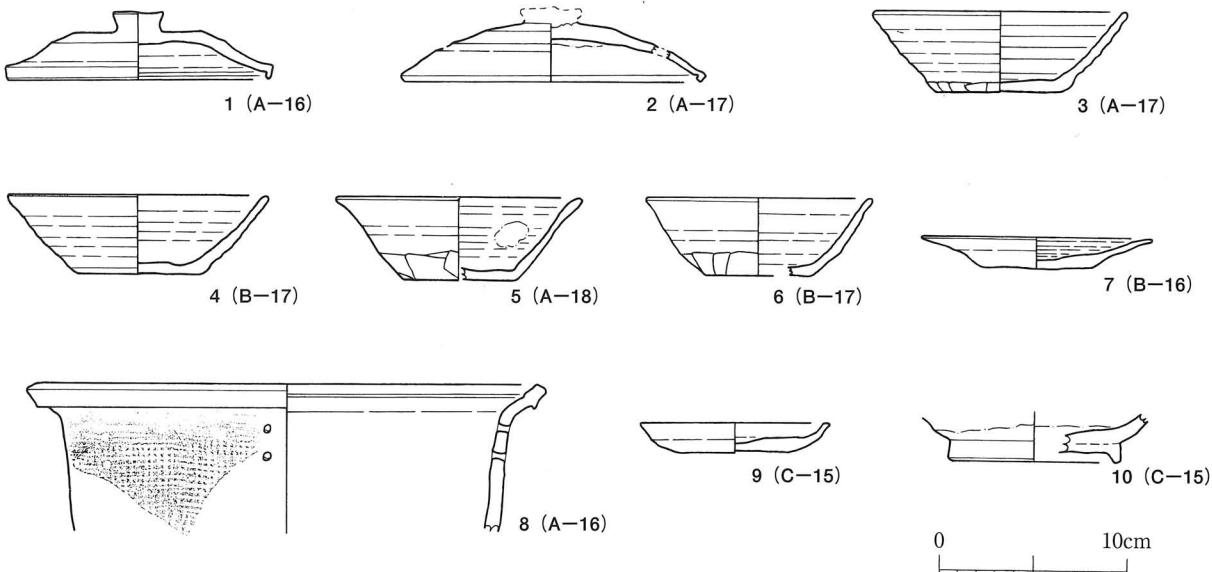
番号	種類	器種	口径	器高	底径	残存率	胎 土	色 調	器形・技法の特徴、その他	台帳番号	出土地点	備 考
1	土師器	壺	(13.3)		(6.6)	40	半透明・灰・白色粒子	褐~橙色	内面被熱痕あり	22	SK4	灯明皿か

表6 中居遺跡土坑一覧表

番号	位 置	平面形	長軸×短軸×深さ	出土遺物
1	C-13	楕円形	1.38×1.20×0.24	
2	C-13	楕円形	0.64×0.54×0.03	
4	C-13	円 形	0.63×0.61×0.10	
5	C-13	楕円形	1.13×1.03×0.18	
6	C-14	円 形	0.66×0.55×0.12	
7	BC-13	不整形	2.38×0.79×0.21	
8	C-15	円 形	1.47×1.40×0.10	
9	B-15	隅丸方型	0.68×0.65×0.11	
10	B-16	隅丸方型	0.83×0.73×0.37	
11	B-16	方 型	1.01×1.00×0.80	
12	B-17	不整形	1.71×1.42×0.20	
13	B-17	不整形	1.66×0.96×0.36	
14	B-17	不整形	0.21×0.75×0.54	
15	B-17	不整形	1.80×1.44×0.10	
16	B-17	楕円形	1.11×0.67×0.07	
17	A-17	楕円形	1.66×0.82×0.17	
18	A-17	楕円形	0.66×0.40×0.90	
19	A-17	楕円形	1.04×0.75×0.11	
20	A-18	円 形	1.47×1.28×0.18	

4 その他グリッド出土遺物 (第113図・写真図版34)

No 5 の須恵器は、体部下端手持ちヘラ削り、底部一方向ヘラ削り調整を行っているが、底部の調整時に体部を逆さにして左手（右ききの場合）の親指と中指で体部を搞んだ際に、中指を当てた内面がへこんでし



第113図 遺構外グリッド出土遺物

中居遺跡グリッド出土遺物観察表

番号	種類	器種	口径	器高	底径	残存率	胎 土	色 調	器形・技法の特徴、その他	台帳番号	出土地点	備 考
1	須恵器	蓋	(13.9)	3.6		40	透明・白色粒子、雲母粒子極少量	青灰色	内面に火襷痕	16		新治産
2	須恵器	蓋	(16)			30	半透明角礫・微粒	青灰色	内面に逆位重ね焼き痕跡	15	A17-3層	掘ノ内か
3	須恵器	壺	(13.5)	4.3	(6.5)	40	雲母微粒子多量	黒色	内外面黒色タール状物質付着	6	A17G3層	新治産
4	須恵器	壺	(13.8)	4.2	(6.5)	55	半透明・白色微粒子	暗灰色	底部回転切り離し無調整	8	B7Gテラス面	新治産
5	須恵器	壺	(13)	4.4	(6.2)	40	雲母微粒子多量	灰色	底部1方向ヘラ削り	9	A18テラス面	新治産
6	須恵器	壺	(12.0)	4.2	(5.8)	30	雲母微粒子多量	灰色	体部下端手持ち、底部1方向ヘラ削り	10	A7テラス面	新治産
7	須恵器	皿	(12.2)	1.7	5.9	60	白色粒子、雲母微粒子少量	灰褐色	底部一方向ヘラ削り	17	B16G2層	新治産
4	須恵器	甕	(27.6)			10	半透明・白色粒、雲母微粒少量	灰~暗灰色		20	B16テラス上部	新治産
5	土師器	小皿	10.1	1.6	5.8	90	半透明・灰色粒子	明褐色	底部	21	C15G	
8	灰釉陶器	椀			9.2	20	鉄分微粒子極少量	灰白色		18	C15G2層	

まっている。そのため内面に粘土を詰めて補修し、外面の突出部を体部下端へラ削り時に削っているようで、制作工程のわかる資料である。No 8 の須恵器甕は体部に縦方向に 2 カ所、焼成後の穿孔をあけている。破片のためその他の側にも孔があけられていたのかは不明である。No 9 は端部に平坦面を持つ土師器小皿、No10はやや大ぶりな灰釉陶器椀片である。

第 3 節 調査のまとめ

中居遺跡は神出遺跡の南東部の尾根状地形の南斜面の裾部に位置している。地形は、緩やかな斜面と自然の営力によって造られたテラス状の自然平坦面からなり水田面との比高差は 4 m を測る。検出された遺構は竪穴住居跡 1 軒、土坑29基で、ほとんどは平安時代 9 世紀頃の遺構と考えられる。住居跡や土坑の確認されたテラス面は、自然堆積で埋没しており、埋没土層中から 9 世紀代の須恵器を中心とした遺物が出土している。

第5章 考察

第1節 神出遺跡古墳時代集落跡について

神出遺跡の古墳時代の集落に係わる、出土遺物・竪穴住居跡の構造・「貯蔵穴」状の土坑を検討し、古墳時代の集落の変遷について概観する。

1. 出土遺物と時期区分

出土遺物の中で最も多く出土している土師器は前期のものが少量と中期末から後期前半代のものが大量に出土している。須恵器は TK208～TK10, TK217が出土し、主体は MT15である。須恵器の年代観は TK23～TK47を5世紀の第4四半世紀、MT15を6世紀第1四半世紀、TK10を6世紀第2四半世紀と考え、古墳時代中期と後期の境を須恵器のTK23以降、つまり土師器の須恵器模倣壺出現以降を後期と考えておく。

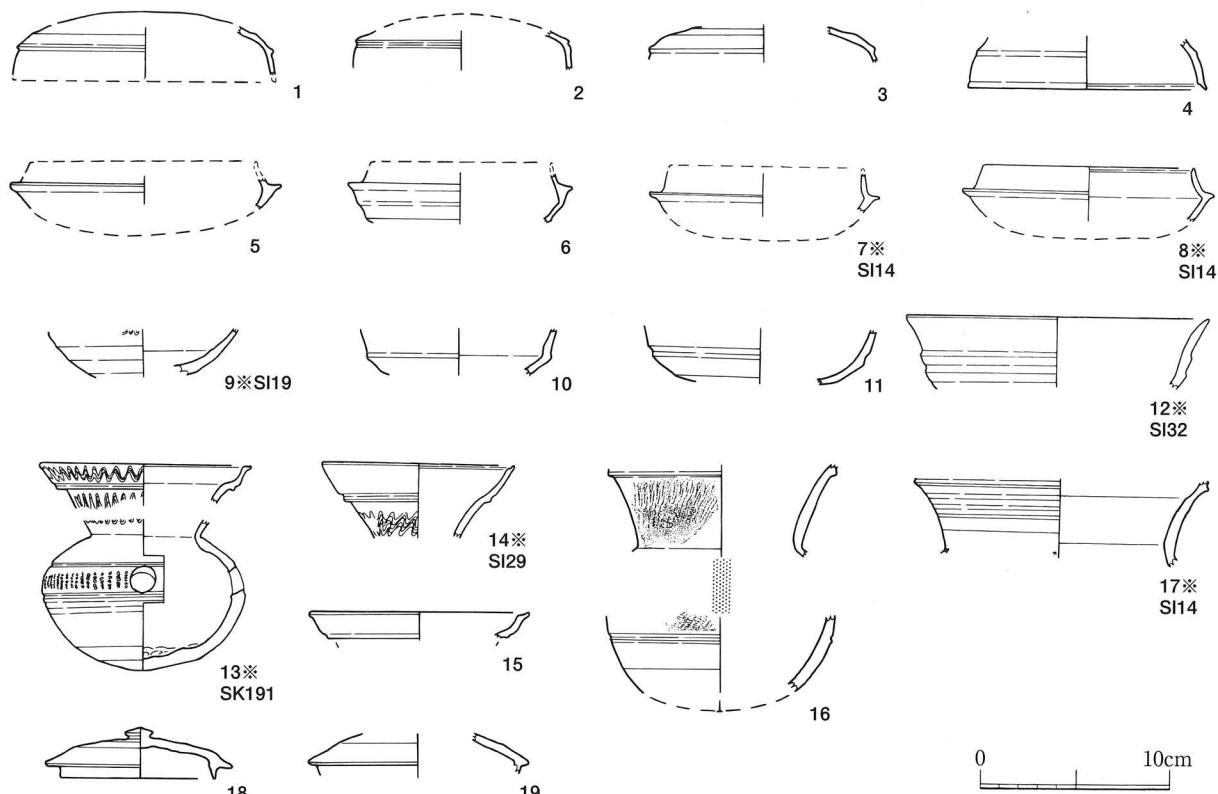
前期の土師器は34号住居と639号土坑から出土しており出土量はたいへん少ないがこれらをⅠ期の土器とする。

5世紀後半の土師器の中で最も古手のものは、29号住居出土の小さな平底を持つ赤彩壺である。29号住居からは深身の赤彩椀、木製品模倣高壺等とともにTK208～TK23頃の須恵器小形殘片が出土している。木製品模倣高壺の脚部は短脚化前のもので、同様に脚部の長い高壺は32号住居からも出土している^(注1)。これらをⅡ期の段階の土器と考えることとする。壺・椀・高壺・小形の壺類は赤彩を施すことが基本のようで、赤彩壺は外面に赤色塗彩し、胎土・焼成は牛久市のヤツノ上遺跡群^(注2)出土遺物等とも共通した在地生産の土器と見られる。

次のⅢ期の土師器の中で主体となるのは赤彩蓋模倣壺、短脚傾向の高壺、炉で使用した痕跡のある甕といった組み合わせのもので、4・14号住居等から出土している。須恵器も壺の細片が見られ、大形化して稜線のシャープさのなくなりつつある個体はMT15段階のものと考えてよいかと思われる。赤彩土器は11個体中8個体で70%である。いまだ、赤彩土器主体の時期である。中には赤く焼き上がる鉄分の多い土を使ったものも見られ、このような個体は成形技法や細部のつくりから在地産のものと区別されるので、他の地域からの搬入・流通品と考えられる。具体的には28号住居3番の土器がそれに当たり、内底面の丁寧な放射状ヘラ磨き、底部のヘラ削り、鉄分の粒子だけが目立った赤く焼き上がる精製土の使用が観察される。県内ではひたちなか市の武田遺跡群や真壁町の八幡前遺跡等でほぼ共通した特徴のものがそれぞれ在地製品に混じって見られる。このⅡ～Ⅲ期を土師器壺の特徴から、赤彩の個体が非常に目立つ時期、「赤彩土器の時期」と呼ぶことができよう。

次の段階の土師器壺の組成がよくわかるのは9号住居である。住居はすでにカマドを持っている。壺・椀はいわゆる貯蔵穴と呼ばれる出入り口ピット直下にあけられた深い穴の中に落ち込むようにして大量24点も出土している。壺は壺身模倣形態のものが5割出土しており、赤彩率は20%と低く無赤彩の土器が多い。内底面の放射状ヘラ磨きはやや雑なものが多い。19号住居は短脚高壺と赤彩蓋模倣壺、赤彩口縁部外反壺、及びTK10頃の須恵器高壺が出土している。この一括土器をⅣ期「赤彩と無赤彩の混ざった時期」と考える。

V期の土器は、38号住居の柱抜き取り穴に一括で廃棄されていた壺・甕類で、壺は内外面黒色処理された個体だけで赤彩・無赤彩土器を含まない。甕は体部下端ヘラ磨きが施されており、常総形甕への移行形態と考えられる。壺の特徴から「黒色土器の時期」と呼べよう。Ⅳ期からV期への変化が急激であり、間にもう一段階あるかもしれない。



第114図 神出遺跡出土古墳時代須恵器

*印は各遺構ページより再掲載したもの

神出遺跡古墳時代須恵器観察表

番号	種類	器種	口径	器高	残存率	胎土	色調	台帳番号	出土地点	備考
1	須恵器	壺蓋			5	白色微粒、鉄分粒	暗灰	293	E11-19	MT15~
2	須恵器	壺蓋			5	白色微粒	灰	294	SK383	MT15か
3	須恵器	壺蓋			5	白色粒少量	青灰	295	E10-16	
5	須恵器	壺	(11.9)		5	白色微粒	暗青灰	291	地下式4	MT15~TK10
6	須恵器	壺	(9.6)		5	白色微粒、鉄分粒	灰	290	S121	MT15か
7	須恵器	壺	(10.3)		5	白色微粒	灰	292	S114	MT15か
8	須恵器	壺	(11.1)		5	白色微粒	灰	289	S114	MT15~TK10
9	須恵器	無蓋高壺			5	白色微粒多量、白色粒	暗灰	300	S119貯	MT15~TK10
10	須恵器	無蓋高壺			5	白色微粒、白色粒	青灰	301	D5G	TK10
11	須恵器	無蓋高壺			5	白色礫	灰	302	SK379	
12	須恵器	無蓋高壺	(16)		5	白色微粒、白色礫	青灰	296	S132	TK47~MT15
14	須恵器	甕	(10.3)		5	白色粒中量、黒色微粒	暗灰	297	S129	TK23か
15	須恵器	甕	(11.7)		5	白色微粒	黒灰	299	SK392	TK10
16	須恵器	壺			10	鉄分粒	灰オリーブ色	298	SK19	TK47~MT15
18	須恵器	蓋	9.9	2.7	25	白色微粒、白色粒多量	灰	303	地下式21	
19	須恵器	蓋	(11.8)		5	白色微粒極少量	青灰	304	D11-20	

次に各時期の絶対年代を考える上で、細片を含めて出土須恵器の全体を見ておきたい。産地の特定は難しいが、目視観察で推測するならば、2種類に分かれるようである。ひとつは胎土が白色微粒を主体にして青灰色を呈するもので、少量の鉄分粒子を含む固体もある。器面は地色の青灰色上に胎土中の鉄分が多いため全体に黒灰色を上掛けされたような発色のもので、これまで胎土分析で陶邑産とされているものに近い。もう一方はきめの細かい明るい灰色の地に、歴史時代の灰釉陶器長頸瓶の無釉部に見られるような明るいオリーブ色の薄い自然釉と鉄分に由来する黒色の自然釉が掛かった器面発色のもので、この個体は実測図でも通常の須恵器壺の形態と異質で、地方産おそらく猿投周辺の製品かと思われる。胎土・焼成において在地的な

特徴のある個体は見られず、16番の壺以外は陶邑編年上で位置付けを考えてよいものと思われる。各須恵器の陶邑編年上の位置付けは以下のようになる。蓋坏類は、口径値の大きなものばかりで、稜線のシャープさが弱いものもあり、MT15～TK10段階と考えられる。14番の壺は、13番の壺と較べ頸部が細く TK208～TK23頃、13番の壺は TK23頃であろうか。12番の無蓋高坏は TK23～TK47、9,10,11の高坏、15の壺はTK10段階頃、18・19の蓋は7世紀第2四半世紀頃のものかと思われる。

2. 竪穴住居跡の構造

古墳時代の竪穴住居跡は、前期の住居跡1軒、後期のもの19軒確認された。ここでは前期の1軒（I群とする）を除いた中期末から後期前半代のものを対象とする。中期末から後期前半代の住居のうち確実に時期の先後関係の捉えられるのは29→28→26号住居と29→32号住居だけである。最も古い29号住居は大形で四本の柱穴に貯蔵穴、おそらく炉を持っていたものと考えられる。28号住居も基本的には同じ構成と考えられるが貯蔵穴の位置に違いが見られる。28号住居の貯蔵穴は4世紀末から5世紀第3四半世紀頃にかけて通常見られるコーナーに寄ったタイプであり、他の住居跡とは異系列である。32号住居も基本的構成は同じだが出土遺物にやや新しさが見られる。26号住居は床面の一部の残存が見られただけで、炉か竈かはわからず、貯蔵穴の掘り込みもみられなかった。以下切り合い関係の見られない住居を含めて、住居の構造に差異や変化が見られるかを検討する。住居構造の中で貯蔵穴と出入口の施設の位置関係は、竪穴住居跡の構築時の特徴が最もよく残されていると考えられる。貯蔵穴は出入り口施設と関連が深く、特にこの時期のものは出入り口のはしご施設の下に掘り込まれており、出入り口施設の作り直しが認められなければ貯蔵穴も住居構築当初から存在していたことになる。出土遺物から住居跡の廃絶時期や存続時期がいつ頃かわかるのと同じように、住居跡の構築時期がいつ頃か示す資料として貯蔵穴や出入り口施設の位置関係は重要な視点と考えられる。よつて以下に、貯蔵穴とその他の施設の位置関係を分析の視点にして住居を分類することとする。

II群 29号住居跡は比較的大形で4本主柱穴と貯蔵穴を持っているが、貯蔵穴の位置に注目してみると、中軸線から向かって右に少しずれている。同じ特徴は18・32号住居にも見られ、いずれも竈をもたない、これをII群とする。18・32号住居は、貯蔵穴周りに周堤状の高まりを持ち、出入り口ピットは貯蔵穴をまたいだ位置に開いている。周堤状の高まりは、III群の中にも見られ、III群の廃絶が出土遺物から見てII群よりも新しいことを考えると、周堤状の高まりについてはより新しい段階のものの可能性が推測される。II群に属する29号住居の出土遺物を見てみると土師器の壺・椀類に底部に平底壺、器高の深い椀が含まれ比較的古様が見られることは先に出土遺物の所で触れた。これらはおそらくTK208～TK23頃と思われる須恵器の壺口縁部片と同じ時期頃の遺物と考えてよいと思われる。32号住居の出土遺物には確実な模倣壺が見られるものの脚の長い高壺であり、18号住居の短脚化した高壺よりは古いと思われる。これらのことから住居跡の廃絶の時期は、29→32→18の順で新しくなり、29・32号住居で須恵器のTK23段階頃18号住居でMT15段階頃が廃絶の時期と考えておく。構築時期はTK208～TK23頃かと推測されるが29号住居と32号住居は重複しており存続期間が重なることはない。

III群 4・14号住居は、貯蔵穴を中軸線上に持つタイプである。貯蔵穴周りの周堤状の高まりはともに明瞭で、出入り口ピットは貯蔵穴をまたいだ位置に開いている。出土遺物の所で見たように、廃絶はMT15段階頃でIII期と考えられる。構築時期はII群の構築時期よりは新しいと推測される。

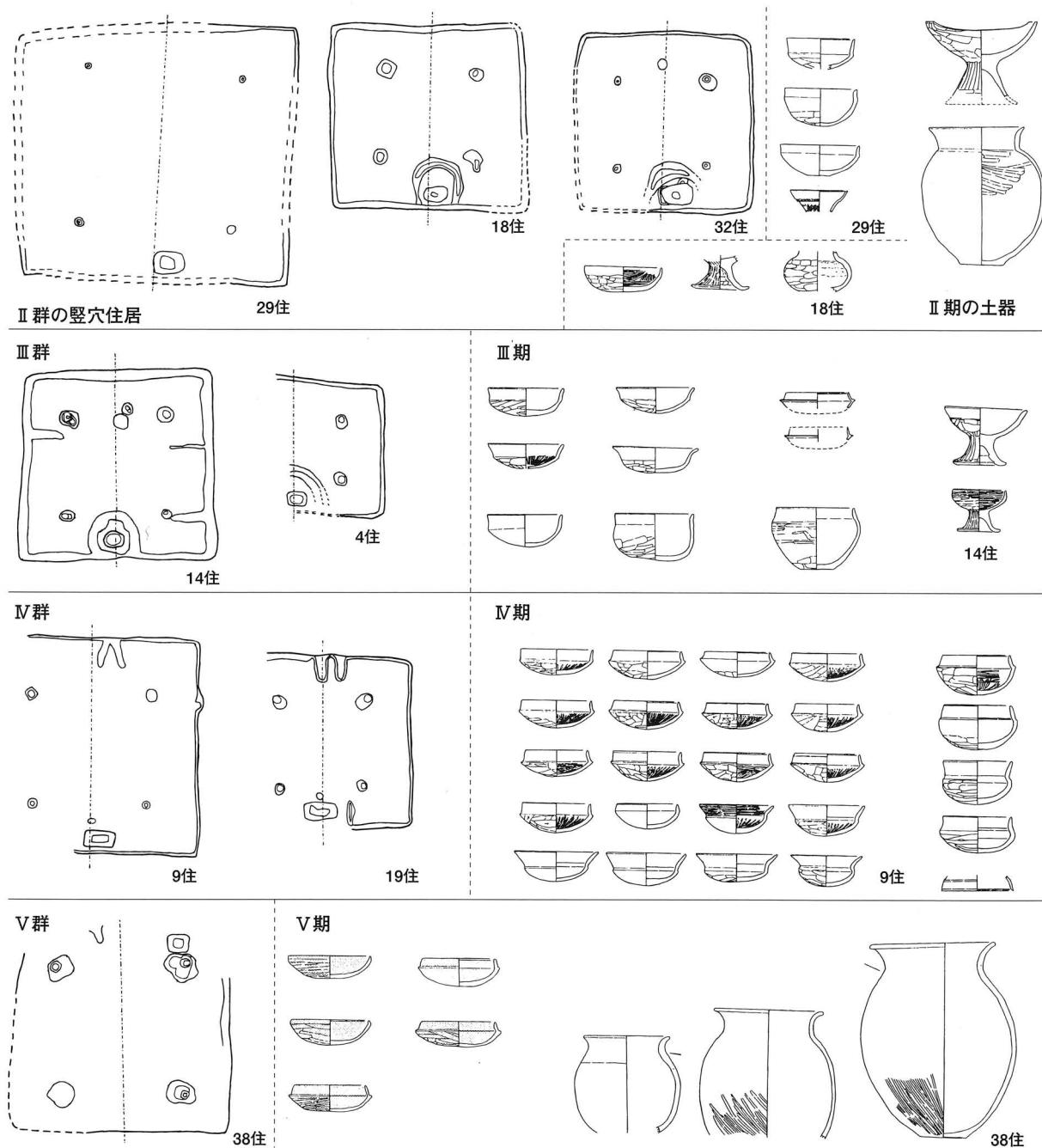
IV群 9・19号住居の貯蔵穴はIII群と同じ位置に開くが、貯蔵穴周りに周堤状の高まりはみられない。竈を貯蔵穴対面に当たる北西壁に持っている。出土遺物からIV期の須恵器のTK10頃に廃絶しており、構築時

期はⅢ群よりは新しいと考えられる。

V群 38号住居の貯蔵穴は出入り口と離れ住居の奥の竈の向かって右側に掘られている。廃絶後に一括で投棄されたⅣ期の土器は最も新しい時期の遺物である。

各群の時期的な先後関係は、廃絶時の出土遺物から見てほぼⅠ～Ⅳ期と呼び変えてよいと思われる。以上堅穴住居跡の構成要素の一つである貯蔵穴の位置にもとづいた構築時期の前後関係の推定をおこなつた。次に遺跡内に散在する貯蔵穴状の土坑について触れてみたい。

第117図の（85・87・88・92・110・163・166・172・197号の9基の土坑）は堅穴住居跡内の貯蔵穴に類似しているものの周囲に堅穴住居跡にかかわる掘り込みや柱穴さえ見られず、性格不明の土坑である。ここでこれらの遺構が堅穴住居跡の貯蔵穴である可能性について検討することとする。

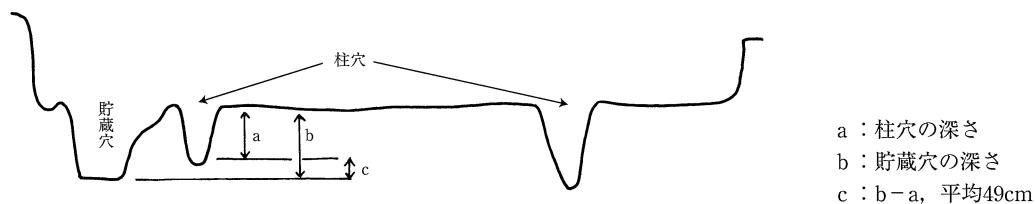


第115図 堅穴住居跡の構造変化

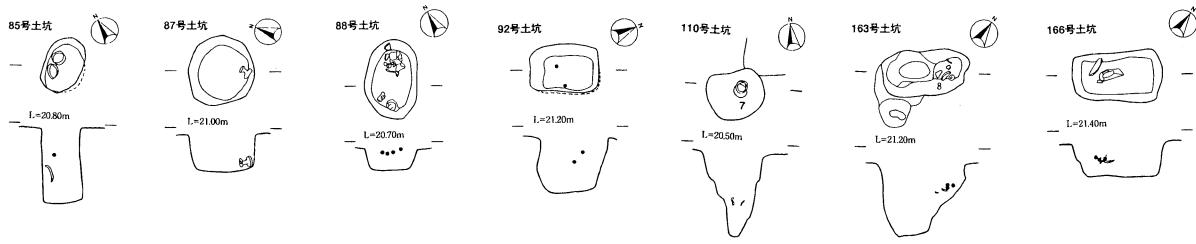
神出遺跡の5世紀後半から6世紀の前半頃の竪穴住居の中で柱穴と貯蔵穴の深さのはっきりしているもの9軒あり、貯蔵穴の深さは深いもので1.54m、浅いもので0.58m、平均1.08mである。これらの中で、柱穴の深さよりも貯蔵穴の深さの方が深いものが8軒ある。最も差の大きい18号住居の場合柱穴の底面よりも貯蔵穴の底は87cmも深く掘り下げられ、浅いもので32号住居の13cm、平均では49cmである。つまり平均で約50cmも、主柱の底面よりも貯蔵穴の底面の方が深いということである（第116図）。貯蔵穴状の土坑の確認面からの深さは、深いもので90cm、浅いもので10cm、平均44cmである。仮に住居跡の柱穴の底の深さまで、地形の流失や削平が行われてしまったとしても、貯蔵穴だけは充分残る可能性をこの点から理解できると思う。次にこれら貯蔵穴状の土坑の分布であるが、古墳時代の住居の分布と重ねてみたものが第118図である。神出遺跡の東西に馬の背状に延びる台地地形の最高地点にB群、C群がある。このうちB群が貯蔵穴状の土坑の分布範囲である。ほぼC群と似た方向性と分散状況で、あたかも竪穴住居跡の集落の分布を示すかのようである。貯蔵穴下半部だけが残るような地形の削平・流失についてはC群中の26号住居や23号住居の床が一部しか残存していないことやこの台地の縁辺に見られる常緑粘土層の露出などが挙げられる。つまり、古墳時代に集落として開かれてから平安時代、中世と長年の間地形の継続的な流失があったと推測される点と、B群の分布域はもともと台地の最も高い部分で特にこの範囲の削平が強かったと推測される点などからである。

また、これらの穴は単独の屋外土坑として考えることもできようが、この時期の屋外の貯蔵用の土坑は、牛久市ヤツノ上遺跡群で見られるような方形の竪穴構造、あるいはひたちなか市の武田遺跡群でみられるような平面円形、円筒状のやや大きな土坑であり、これまでここで見られるようなタイプの報告例はない。以上のことから85号以下の土坑群については5世紀後半から6世紀前葉頃の竪穴住居跡の一般的に貯蔵穴と呼ばれる穴の下半部の残存と結論づけることとする。

では、なぜこのような深い貯蔵穴が屋内に掘り込まれるのかについてだが、貯蔵穴の用途・性格とかかわってくる問題である。常陸南部地方に限ってこの貯蔵穴について見てみると、弥生時代後期に、竪穴住居跡の出入り口施設の近く（出入り口施設が一本柱の斜めに掛けられた階段施設であるならその下の壁との間）に浅く窪む穴が見られるようになる。その後古墳時代前期から後期前半までは長方形気味の平面形である程度の深さを持つ穴がやはり出入り口施設と関連を持ちながら継続してつくられる。古墳時代前期の古い段階のものは、出入り口ピット脇で住居のコーナーから離れた場所につくられ、前期の末のものは5世紀前半のものと同じように住居跡のコーナー部に掘りこまれるようになる。5世紀前半でも新しい時期のものはコーナー部に複数つくられるものも見られる。構造を詳しく見ると貯蔵穴の穴の縁に床面から浅い二段掘り込みが確認できる。穴の周囲は特に硬化しているが、二段掘り込みの一段目は数cm床から下がっており硬化が認められない、ここに炭化した板状のものが出土することなどから厚みのある板で覆われていたものと推測される。古墳時代前期にはこの穴の周辺で粘土塊が出土したり、ミニチュア土器が出土したりするが、土の堆積を見ると内部は空洞であったと考えられる。6世紀前半までのこの穴は、出入り口と関連の強い施設と

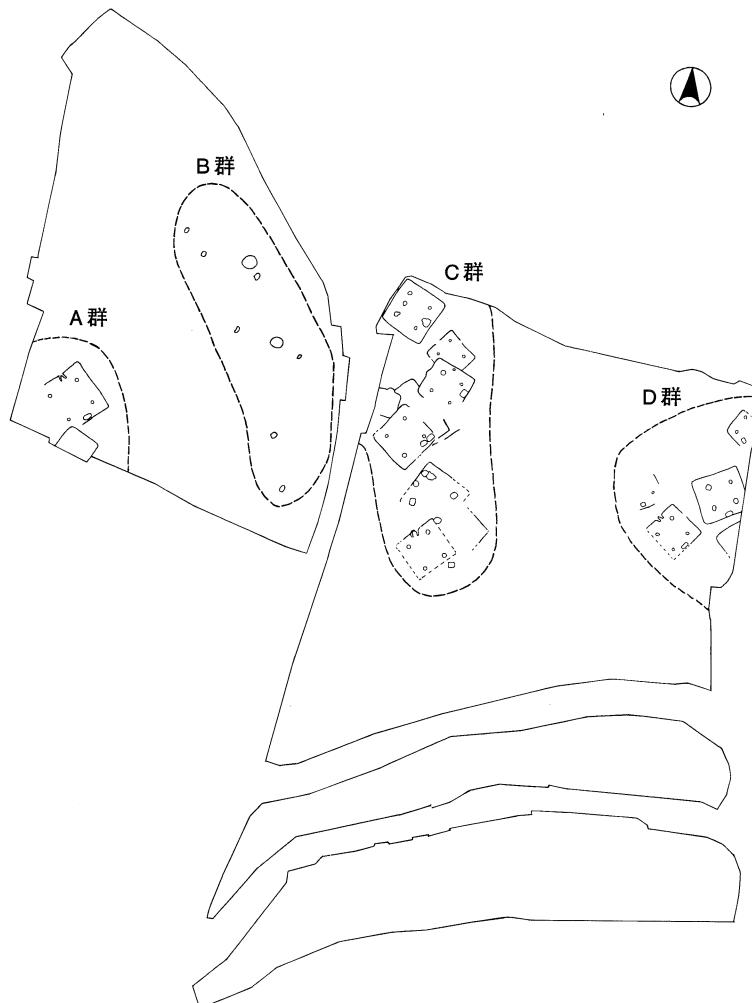


第116図 竪穴住居跡断面図



第117図 神出遺跡貯蔵穴状土坑

考えられるが、6世紀後半以降、同じような穴が竈脇に掘られる。竈周辺は食器が置かれたり水甕が設置されたりする炊事場空間であり、6世紀後半段階のものは貯蔵穴という呼称も一概に悪くないのかもしれない。古墳時代前期の玉造りの集落遺跡の工房的竪穴住居跡で、この穴が工作ピットと呼ばれているが、特に玉造りの住居跡にだけ見られるのではなく、一般の竪穴住居跡にも普遍的に見られるので、周辺が非常に良く硬化していることと併せて作業場空間と考えることもできよう。また、笛森健一氏が貯蔵穴を胎盤埋納用ピットとされている点は出入り口施設との強い関連と貯蔵穴周辺の硬化が度重なる踏みしめによると考えられるので魅力ある説である。神出遺跡で確認された貯蔵穴が異常に深い理由はその性格と係わってくる問題であろう、他地域の例との比較検討は今後の課題である。



第118図 神出遺跡古墳時代の竪穴住居の分布

3 集落変遷

前期の竪穴住居跡1軒は、南側台地縁辺部に掘り込まれた粘土採掘坑1基がほぼ同時期と思われるが、その他に遺構を伴わず集落として継続しない。古墳時代後期の竪穴住居の分布は台地の最高地点を中心に分布が認められ、5世紀後半から6世紀中頃まで継続するようである。竪穴住居跡として掘り込みが残っているもの以外に貯蔵穴のみが残存して独立の土坑のように見えるものが9基（第118図分布図B群）あり、これらを合わせると竪穴住居跡からなる集落には4群の平面分布が捉えられる。

遺構の切り合いと遺構の特徴、そして出土遺物を参考にして各竪穴住居跡の存続幅の中でいくつかの時期を切り出してみると以下のようなになる。I期は古墳時代前期、II期は5世紀の第3四半世紀の後半頃から第4四半世紀頃、III期は6世紀の第1四半世紀頃、IV期は6世紀第2四半世紀～中葉頃と考え

られる。本遺跡の古墳時代の集落は、古墳時代前期に小規模に開かれたあと、5世紀前半に一度断絶する。再び5世紀後半から入植が始まり、5世紀後葉頃から最盛期を迎える。その後集落は6世紀第2四半世紀頃に多くが廃絶し、かろうじて6世紀中頃まで大形の住居跡がわずかに続き再び断絶する。遺構外から7世紀代の須恵器がわずかに出土しているので、東出遺跡に見られる7世紀後半の竪穴住居跡等とともに居住が再び始まったようで、これが8世紀前半に廃絶している住居跡につながっているものと考えられる。

注1 木製品の刳物盤を模倣した高杯は、同じ茨城県の総和町香取西遺跡出土のものがある。両耳の突出は香取西遺跡のものの方が明瞭で、共判遺物は脚と杯部とに稜を持つ装飾性の高い高杯が出土しており、この高杯はTK216頃に見られ、新しくてもTK208頃までのものなので本跡のものよりも古い。牛久市ヤツノ上遺跡からは、舟形土器と呼ばれる（底面が橢円形に歪んだ甕の体下半部）で木製品の柄杓を模倣したとされるものもが出土している。

注2 牛久市ヤツノ上遺跡群では土師器の平底の椀・杯類が比較的多く見られる。そこで共判する須恵器がTK208新段階～KM1が主体であり、時期的に神出遺跡の古い段階に一部重なる時期の遺跡である。

〈参考文献〉

1998年 新井和之『香取西遺跡発掘調査報告書』総和町教育委員会

1993年 横村宣行「牛久市ヤツノ上遺跡出土の舟形土器について」『常陸』創刊号

第2節 神出遺跡中世の遺構と遺物について

神出遺跡からは掘立柱建物跡、テラス状遺構、方形竪穴遺構、地下式壙、火葬墓、溝等中世の遺構が確認された。これらの遺構からは在地系の鍋やかわらけ以外に、搬入陶器の瀬戸・常滑、輸入陶磁器の青磁や白磁等中世の遺物が出土しており、各遺構の時期的位置づけがある程度可能である。これら中世の遺物と遺構間の切り合い関係から各遺構の時間的位置付けと遺構の総体としての遺跡の性格の変化について考えて見ることとする。

まず搬入陶器の中で生産時期が明瞭で比較的出土量の多い古瀬戸について全体傾向を見る。最も古いものは古瀬戸中期様式14世紀初め頃の瓶子で、数量的に多いのは後期様式の15世紀前半の平椀や15世紀後半の折縁皿や卸し皿等、わずかに大窯期の天目茶碗がある。14世紀の瓶子は伝世後の納骨容器としての使用が推測され、15世紀後半のもののなかには食器類以外に仏具の花瓶や香炉、やや高級な小形の茶入れや祖母懐壺等茶陶器が見られる。

常滑は片口鉢や甕・広口壺等の小片が少量出土しており、13～14世紀代の古瀬戸よりも古い時期のものが目立つ。

次に在地系土器であるが、かわらけは全体の1/4に灯明皿としての使用痕跡が観察され、形態的に大きく2種類に分かれる。底径が大きく器高の低いタイプは灯明皿として利用されており、火熱を受け掘立柱建物跡や土坑から出土している。底径が小さく体部に丸みをもち体部傾斜の緩やかなものは溝や地下式壙から出土し、後者のタイプは近世かわらけに近い形態で比較的新しいものと考えられる。全体として見れば、古瀬戸の供伴する15世紀代のものと16世紀以降の時期のものに別れると思われる。

輸入陶磁器は、龍泉窯系青磁碗の古いもので12～13世紀前半、鎬蓮弁文の付いたものは13世紀後半～14世紀前半、白磁小碗は15世紀前半である。輸入陶磁器の年代の下限が15世紀前半であることは、古瀬戸で15世紀後半の高級な茶入れがあることをあわせると、15世紀後半に高級な輸入陶磁器や国産の施釉陶器を比較的多く取得できる階層の人々の存在を示すものと考えられる。

その他の遺物では、鎌倉で出土数の多い滑石製印判が注目される、おそらく破損した滑石製鍋から加工したもので新しくても14世紀頃の物と思われる。滑石製印判の使用の場を推測すると無数の柱穴群や竪穴遺構の占める空間に3カ所程火処の痕跡が見られ、周囲に石臼や古瀬戸平椀片が入る作業用の土坑らしきものがあり、これらと共になんらかの製品製造のために使われていた可能性が考えられる。

次に各遺構について検討してみる。まず竪穴遺構についてであるが、これらの分布は南部の柱穴群や掘立柱建物跡と重なっている。竪穴遺構は方形で規模が小さく、埋め戻し堆積の覆土が多く、出土遺物もほとんどない等、恒級的な性格を持っていたと考えにくい施設である。竪穴の底面に降りるための出入り口スロープ（9号竪穴）や階段（7号竪穴）を持ち、覆土に灰・炭化物の堆積は見られない。本跡8号竪穴遺構から中野編年の6a期（13世紀第3四半世紀頃）の常滑甕口縁部片が出土し、10号竪穴遺構からは、土師質土器の内耳鍋が出土している。10号竪穴遺構は、大形の9号掘立柱建物跡と重複した位置関係にあり同時存在是不可能である。10号竪穴遺構出土の内耳鍋は器高が高く体部の傾斜角度があり古手の内耳鍋で15世紀代のものであろう。よって出土遺物と大型の9号掘立柱建物跡との重複関係から、10号竪穴遺構は15世紀前半、9号掘立柱建物跡は15世紀後半頃と考えられる。15世紀後半頃には方形竪穴の占地空間から、大型の掘立柱建物跡の立つ空間になっていたと考えられる。一般的に方形竪穴は墓域と重なり灰・炭化物の大量堆積や埋め戻し堆積等から墓に関連する施設と考えられるものと、館址内にあり墓とは違う性格のものがあり、このものは墓に関連する施設ではなく館址内や開拓入植地などの架設住居のような性格のもので、無数に開く柱穴群の一部や方形の深い作業用の土坑や火処とともに、滑石製印版や石臼、砥石等を使用するなんらかの製品製造の場であった可能性が考えられる。

方形竪穴遺構を最も古い遺構群と考えたが、方形竪穴遺構に続く時期の遺構は配列の明瞭な掘立柱建物跡と考えられる。掘立柱建物跡群は、3号掘立柱建物跡柱痕穴から15世紀前半頃の古瀬戸平椀片とやや古いかわらけが出土しているもののおおよそ近い時期の遺構群と捉えられる。9号掘立柱建物跡のように柱穴掘り方底面に石製の礎板を入れている大形の掘立柱建物跡や礎石を持つ礎石建物跡では出土遺物の中でも最も豪華なものが使われていたと考えるのが自然である。掘立柱建物跡で、古瀬戸の一群が使用されていたことを認めるとするならば、15世紀がその中心で特に15世紀後半代のものを含んでかなり強い火熱を受けた個体が目立つことから、15世紀末頃には掘立柱建物跡が焼失しているようである。礎石建物は、全容が不明であるが東側南北列の礎石配置から推測して方形造りの寺院建物のようなものが想定できる。礎石建物は9号掘立柱建物跡の掘り方底面の石製礎板と同質の石材を使用している点、同時期の可能性がある。礎石建物と同様な方形造りで柱穴が小さな掘り方の7号掘立柱建物跡が東側に近接しており、この掘立柱建物跡は礎石建物よりも古いと考えられ、火災を被っている。その他に掘立柱建物跡付近で火災に関する遺構は、柱穴群とテラス状遺構である。

柱穴群は、掘立柱建物跡と較べ柱間寸法・方向が一定せず建物として明瞭な認識ができないが、その形状と覆土の堆積から建物の柱穴と認識されるので、不整配列の立柱による簡易な掘立柱建物跡と推測される。これらの柱穴群の出土遺物は極少なく、P629から土師質土器小皿（かわらけ）、P631から砥石、P930から青磁片が出土している。P629出土かわらけは強い火熱を被っており、古瀬戸片や他の遺構出土のかわらけに見られた強い火を受けた痕跡と共通している。この焼けたかわらけは柱穴を掘って柱を立てた際にに入ったか、建物の倒壊や柱の抜き取り等の後に入ったかのどちらかと考えられるのでこの柱穴を掘る以前か柱穴が機能しなくなる前にこの一帯は火災にあっているのであろう。ただし柱穴群はあまりにも数が多すぎて、出土遺物に乏しくすべてが15世紀代とはいきれずそれ以前の14世紀のもの、あるいは16世紀のものがある可能性

は考えられるがそれを分離することは不可能である。

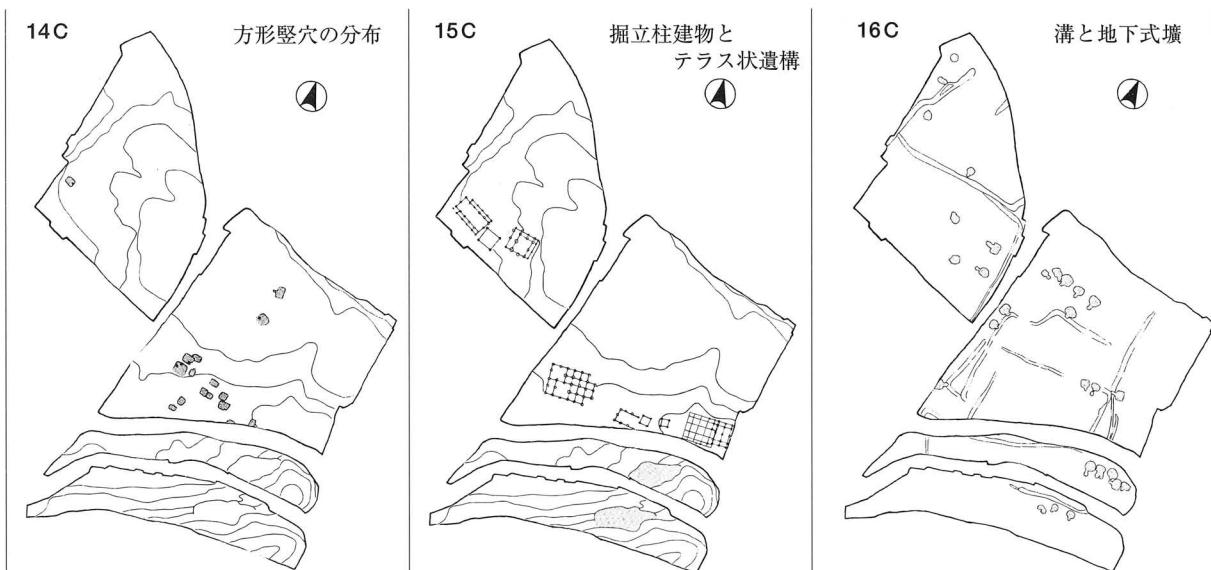
テラス状遺構は、神出遺跡の大形掘立柱建物跡の南側、低地に下る斜面に2段に削り込まれた人為的なテラス面である。上の段の1号テラス出土遺物は古瀬戸片、常滑片、土師質土器小皿・内耳鍋片等、古瀬戸片は、折縁深皿、折縁中皿、天目茶碗、縁釉小皿でいずれも藤沢編年後II期（1380年～1420年）のものである。2号テラス出土遺物は古瀬戸瓶子（蕨手連續文の梅瓶）、折縁皿片、平椀片、常滑片、硯石片、スタンプ文のついた火舎が出でている。テラスの南側の17号土坑からは古瀬戸平椀1個体分が、須恵質で断面三角形の低い高台のついた須恵質の折縁深皿とともに出土している。形態的に瀬戸の折縁皿を模倣し、制作技法的には無釉の還元炎焼成の山茶碗系の技法であるが、在地の胎土を使った土器である。テラス上に開いた柱穴状の3号ピットからはかわらけが強い火を受けた状態で出土している。テラス状遺構も掘立柱建物跡と同じように、15世紀代の後半の火災痕跡のかわらけが出土しておりほぼ同時期の遺構と推測される。

遺跡の南部の掘立柱建物跡等の焼失後の遺物はかわらけや内耳鍋であるがそれらは地下式壙や溝覆土から出土している。地下式壙は地下の横穴に遺体を仮土葬後一定期間を置いて再度正式な墓所に埋葬するための再葬施設と考えられている遺構である。本跡の地下式壙からは15世紀末頃の内耳鍋や16世紀頃のかわらけ片が出土し、古瀬戸片が少ないとからほぼ16世紀を主体としていると思われる。他の中世遺構との関係は、溝との関連があるようで地下式壙堅坑を溝底面から掘り込んだものが多く溝の掘り込みを利用して掘削土量を少なくする工夫が見られる。

火葬遺構は、3号火葬遺構が9号掘立柱建物跡と重複関係があり、火葬遺構のほうが新しい。

溝は埋没過程の覆土中の遺物が内耳鍋やかわらけ等16世紀以降の時期のもので、道の側溝のように現況道路脇に長く延びているものと傾斜地形に直行し土地を区画するようなもの、中世の柱穴群を囲むような長方形配置のもの等がある。

以上のように中世の神出遺跡は、14世紀に常滑甕や滑石製印判、石臼や方形土坑を伴う簡素な建物からなる生産遺跡で始まり、輸入陶磁器・瀬戸系施釉陶器等最も豪華で量の多い遺物を出土している掘立柱建物跡や礎石建物の堂からなる15世紀代を経て、在地鍋やかわらけを主体とし地下式壙や火葬遺構等からなり墓域化する16世紀代と変化している。15世紀代に輸入陶磁器や瀬戸製品を比較的多量に取得できるような階層が居住していたであろうことが推測されるが、その居館としてふさわしいのは大形の掘立柱建物跡や礎石建物



第119図 神出遺跡中世の遺構群の変遷

等からなる空間であろう。

〈参考文献〉

- 1992年『長谷小路南遺跡』長谷小路南遺跡調査会
- 1993年『佐助ヶ谷遺跡（鎌倉税務署用地）発掘調査報告書』佐助ヶ谷遺跡調査団
- 1990年『鎌倉市埋蔵文化財緊急調査報告書5』鎌倉市教育委員会
- 1991年 藤沢良祐「瀬戸古窯址群Ⅱ—古瀬戸後期様式の編年—」『研究紀要X』瀬戸市歴史民俗資料館

CONTENTS

Preface
Introductory Notes
Explanatory Notes
Contents

Chapter I Introductory Chapter

1 . Background of the Research	1
2 . Results of the Trial Excavation	1
3 . Locations of the Sites and Their Archaeological Environment	4
4 . Method and Progress of the Research	9

Chapter II Higashide Site

1 . Outline of the Site	11
2 . Structural Remains and Artifacts	12
3 . Conclusion of the Research	18

Chapter III Jinde Site

1 . Outline of the Site	19
2 . Structural Remains and Artifacts	20
1 Kofun Period	20
2 Heian Period	44
3 On and after the Medieval Period	59
4 Artifacts Excavated outside in the Structural Remains	132
3 . Conclusion of the Research	135

Chapter IV Nakai Site

1 . Outline of the Site	137
2 . Structural Remains and Artifacts	137
3 . Conclusion of the Research	144

Chapter V Consideration

1 . Change of Settlements Occured in the Late Kofun Period at Jinde Site	145
2 . Structural Remains and Artifacts of the Medieval Period Excavated from Jinde Site	151

SUMMARIES

1. This book is an excavation research report relating to Higashide Site (street no. 1634), Jinde Site (no. 1582-1) and Nakai Site (no.1587), which are located in 1-chome, Koiwata-higashi, Tsuchiura City, Ibaraki Prefecture.
2. As the previous research accompanying preparation of a housing site conducted by the Northern Kanto Branch of KUMAGAI GUMI CO., LTD. and IBARAKI SEKISUI HEIM, the Board of Education of Tsuchiura City and the Archaeological Sites Research Association of Tsuchiura City conducted the excavation research in cooperation with Sambu Archaeological Research Institute.
3. The research was conducted from December 24, 1997 through June 30, 1998.
Classification of excavated artifacts and compiling the report were conducted from July 1, 1998 through March 31, 1999.
4. From Higashide site, 3 pit dwelling sites of the late Kofun period to the Heian period, and also medieval cremation burials, earthen pits and ditches were excavated. The excavated artifacts are: Haji ware of the latter half of the 7th century, Haji and Sue ware of the former half of the 8th century, and Haji, Sue and ash-glazed ware of the 9th century.
5. The structural remains excavated from Jinde site are as follows: settlement sites of the early and late Kofun period and the Heian period; sites of buildings with pillars embedded directly in the ground, ditches, square pit remains, underground pits for burial and cremation graves of the medieval period; and earthen pits, etc. of the pre-modern period. The excavated artifacts are: Haji and Sue ware and clay objects of the Kofun period; Haji, Sue and ash-glazed ware of the Heian period; and imported ceramics, Koseto ware, Tokoname ware, pottery characteristic of Haji ware, clay objects, stone-made objects and metal objects of the medieval period. Outside in the structural remains, fragments of Jomon pottery, stone implements, etc. were unearthed.
6. From Nakai site, a pit dwelling site, earthen pits and Sue ware of the Heian period were unearthed.
7. By the research of Jinde site, structural characteristics of pit dwelling sites belonging to the end of the 5th to the former half of the 6th centuries have been grasped. Besides, good results that a large amount of study data, such as the sites of buildings with pillars embedded directly in the ground of the medieval period and a large quantity of Seto ware of the 15th century, were accumulated have been obtained.
8. The artifacts, plans and photographs, etc. relating to this report are together in the custody of Kamitakatsu Kaizuka Furusato Rekishi no Hiroba.

CONTENTS

Preface
Introductory Notes
Explanatory Notes
Contents

Chapter I	Introductory Chapter	
1.	Background of the Research	1
2.	Results of the Trial Excavation	1
3.	Locations of the Sites and Their Archaeological Environment	4
4.	Method and Progress of the Research	9
Chapter II	Higashide Site	11
1.	Outline of the Site	11
2.	Structural Remains and Artifacts	12
3.	Conclusion of the Research	18
Chapter III	Jinde Site	19
1.	Outline of the Site	19
2.	Structural Remains and Artifacts	20
1	Kofun Period	20
2	Heian Period	44
3	On and after the Medieval Period	59
4	Artifacts Excavated outside in the Structural Remains	132
3.	Conclusion of the Research	135
Chapter IV	Nakai Site	137
1.	Outline of the Site	137
2.	Structural Remains and Artifacts	137
3.	Conclusion of the Research	144
Chapter V	Consideration	145
1.	Change of Settlements Occured in the Late Kofun Period at Jinde Site	145
2.	Structural Remains and Artifacts of the Medieval Period Excavated from Jinde Site	151

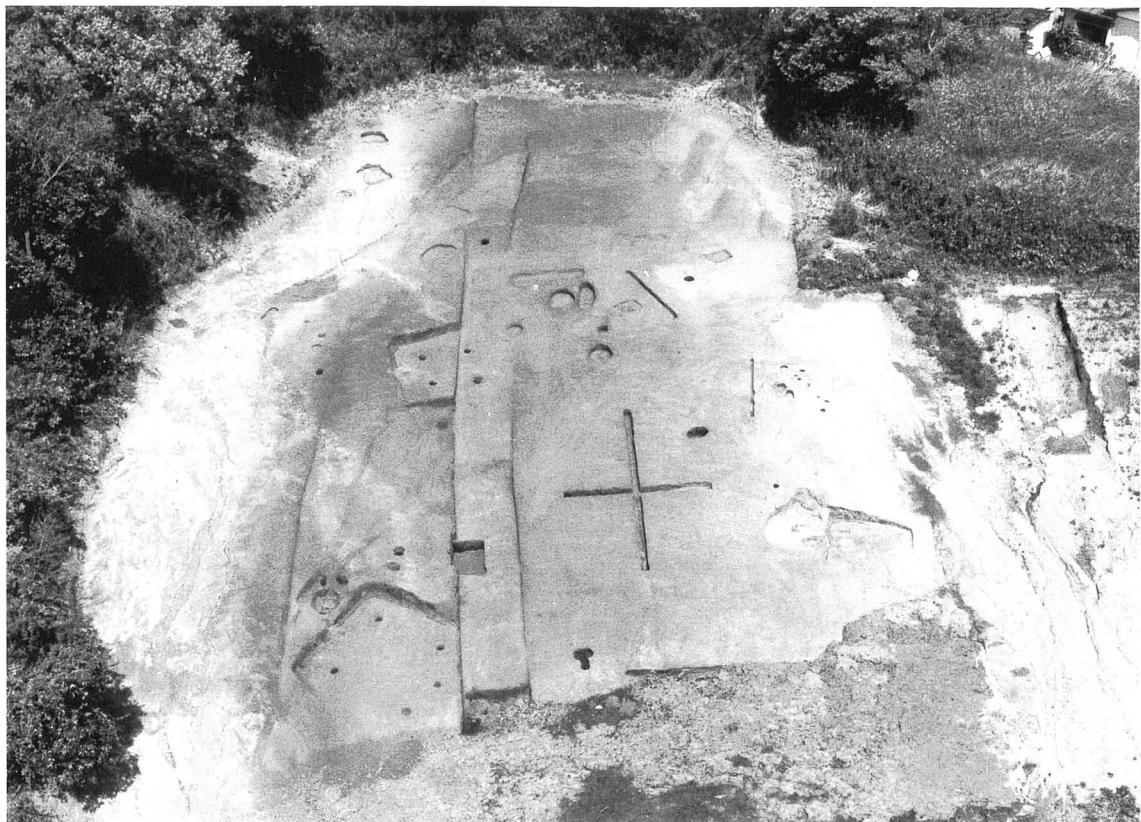
SUMMARIES

1. This book is an excavation research report relating to Higashide Site (street no. 1634), Jinde Site (no. 1582-1) and Nakai Site (no.1587), which are located in 1-chome, Koiwata-higashi, Tsuchiura City, Ibaraki Prefecture.
2. As the previous research accompanying preparation of a housing site conducted by the Northern Kanto Branch of KUMAGAI GUMI CO., LTD. and IBARAKI SEKISUI HEIM, the Board of Education of Tsuchiura City and the Archaeological Sites Research Association of Tsuchiura City conducted the excavation research in cooperation with Sambu Archaeological Research Institute.
3. The research was conducted from December 24, 1997 through June 30, 1998.
Classification of excavated artifacts and compiling the report were conducted from July 1, 1998 through March 31, 1999.
4. From Higashide site, 3 pit dwelling sites of the late Kofun period to the Heian period, and also medieval cremation burials, earthen pits and ditches were excavated. The excavated artifacts are: Haji ware of the latter half of the 7th century, Haji and Sue ware of the former half of the 8th century, and Haji, Sue and ash-glazed ware of the 9th century.
5. The structural remains excavated from Jinde site are as follows: settlement sites of the early and late Kofun period and the Heian period; sites of buildings with pillars embedded directly in the ground, ditches, square pit remains, underground pits for burial and cremation graves of the medieval period; and earthen pits, etc. of the pre-modern period. The excavated artifacts are: Haji and Sue ware and clay objects of the Kofun period; Haji, Sue and ash-glazed ware of the Heian period; and imported ceramics, Koseto ware, Tokoname ware, pottery characteristic of Haji ware, clay objects, stone-made objects and metal objects of the medieval period. Outside in the structural remains, fragments of Jomon pottery, stone implements, etc. were unearthed.
6. From Nakai site, a pit dwelling site, earthen pits and Sue ware of the Heian period were unearthed.
7. By the research of Jinde site, structural characteristics of pit dwelling sites belonging to the end of the 5th to the former half of the 6th centuries have been grasped. Besides, good results that a large amount of study data, such as the sites of buildings with pillars embedded directly in the ground of the medieval period and a large quantity of Seto ware of the 15th century, were accumulated have been obtained.
8. The artifacts, plans and photographs, etc. relating to this report are together in the custody of Kamitakatsu Kaizuka Furusato Rekishi no Hiroba.

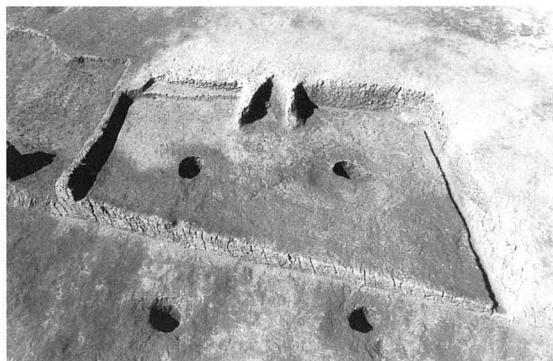
写 真 図 版

東出遺跡

図版
1



1. 遺跡全景（空撮）



2. 1号住居跡（東より）



3. 1号住居跡カマド近景（東より）



4. 2号住居跡（東より）



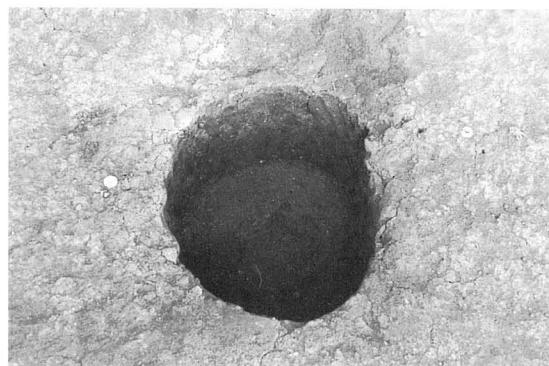
5. 3号住居跡（南より）

東出遺跡

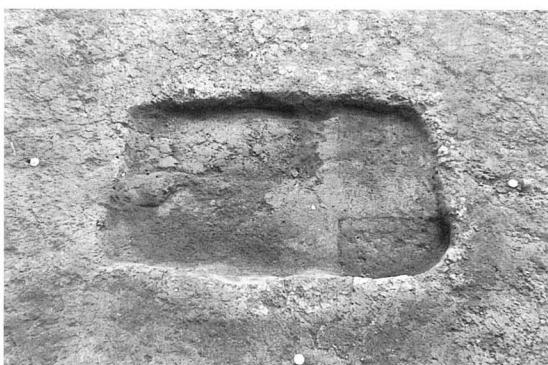
圖版
2



1. 1号火葬墓



2. 10号土坑



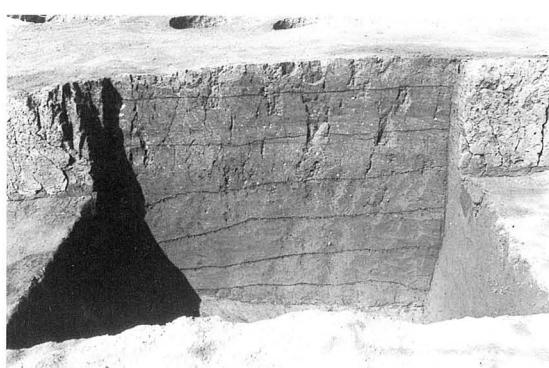
3. 11号土坑



4. 13号土坑



5. 1号溝



6. 基本堆積土層



2住-1



1住



遺外-2



遺外-5

東出遺跡出土遺物



1. 北区全景 (空撮)



2. 西区全景 (空撮)

神出遺跡

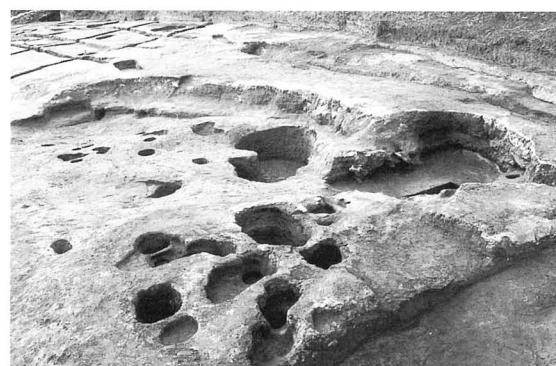
図版
4



1. 中央区・南区全景



2. 南区全景（西より）



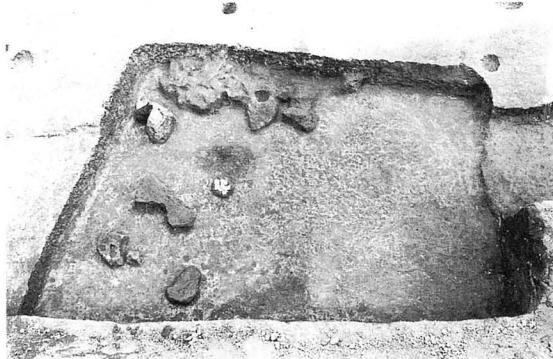
3. 南区全景（東より）



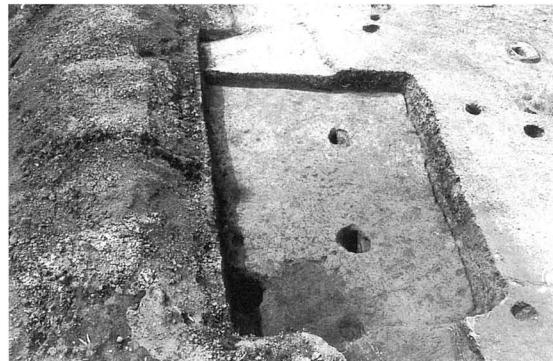
4. 中央区全景（北より）



5. 中央区全景（北より）



1. 4号住居跡遺物出土状況（南より）



2. 同 完掘状況（東より）



3. 同 貯蔵穴土層断面（北より）



4. 同 貯蔵穴遺物出土状況（北より）



5. 5号住居跡完掘状況（南より）



6. 9号住居跡完掘状況（東より）



7. 同 貯蔵穴遺物出土状況（北より）



8. 14号住居跡遺物出土状況（東より）

神出遺跡

図版6



1. 14号住居跡完掘状況（東より）



2. 同 貯蔵穴遺物出土状況（東より）



3. 15・25号住居跡完掘状況（北より）



4. 18号住居跡完掘状況（南より）



5. 19号住居跡遺物出土状況（南より）



6. 20号住居跡完掘状況（南より）



7. 23号住居跡完掘状況（北より）



8. 28・29号住居跡完掘状況（南東より）

神出遺跡

図版
7



1. 31・32・34号住居跡遺物出土状況（西より）



2. 32号住居跡遺物出土状況（南西より）



3. 同 遺物出土状況近景（西より）



4. 34号住居跡遺物出土状況（南東より）



5. 同 遺物出土状況近景（北東より）



6. 38号住居跡遺物出土状況（南東より）



7. 同 P-2 遺物出土状況近景（東より）



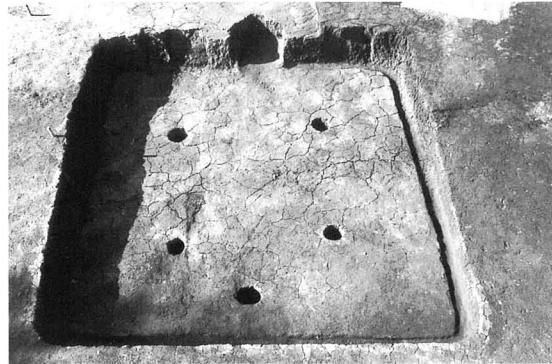
8. 39号住居跡完掘状況（南より）

神出遺跡

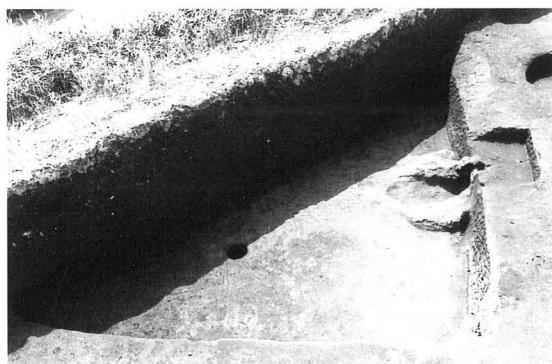
図版
8



1. 1号住居跡遺物出土状況（南より）



2. 2号住居跡完掘状況（南より）



3. 3号住居跡完掘状況（北東より）



4. 10号住居跡カマド完掘状況（南東より）



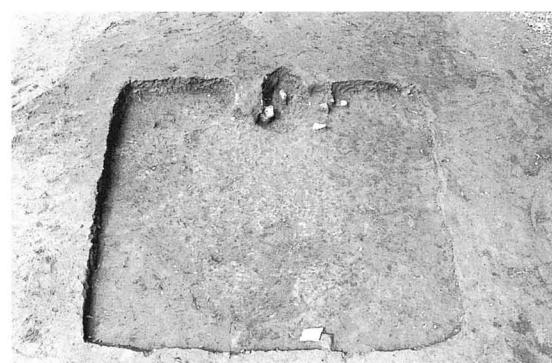
5. 11号住居跡完掘状況（南より）



6. 12号住居跡遺物出土状況（南より）



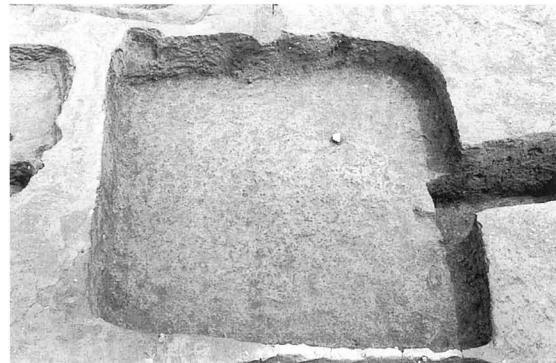
7. 13号住居跡遺物出土状況（南より）



8. 16号住居跡遺物出土状況（南より）



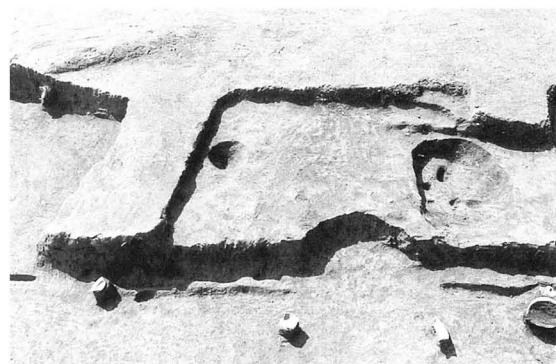
1. 17号住居跡遺物出土状況（南西より）



2. 21号住居跡遺物出土状況（南より）



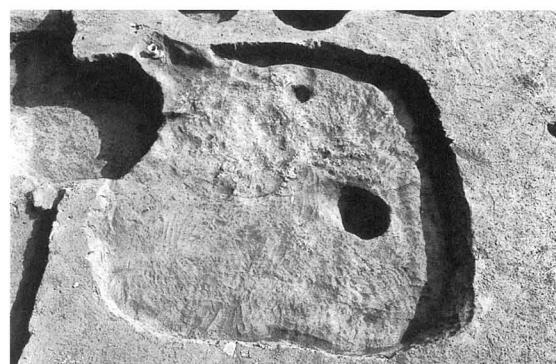
3. 27号住居跡完掘状況（南より）



4. 31号住居跡完掘状況（東より）



5. 35号住居跡遺物出土状況（西より）



6. 36号住居跡完掘状況（北より）



7. 37号住居跡カマド完掘状況（南より）



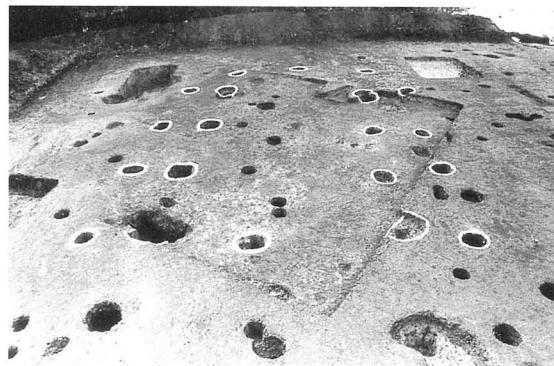
8. 40号住居跡完掘状況（南西より）

神出遺跡

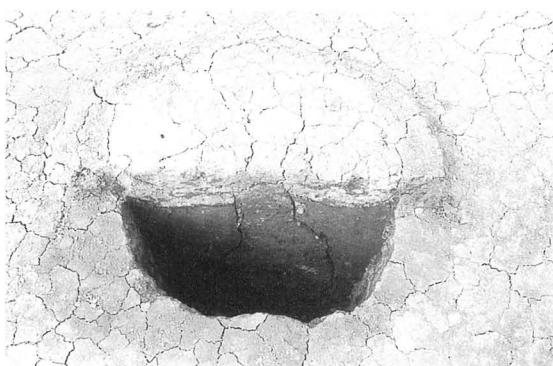
図版
10



1. 1号掘立柱建物跡完掘状況（西より）



2. 2号掘立柱建物跡完掘状況（東より）



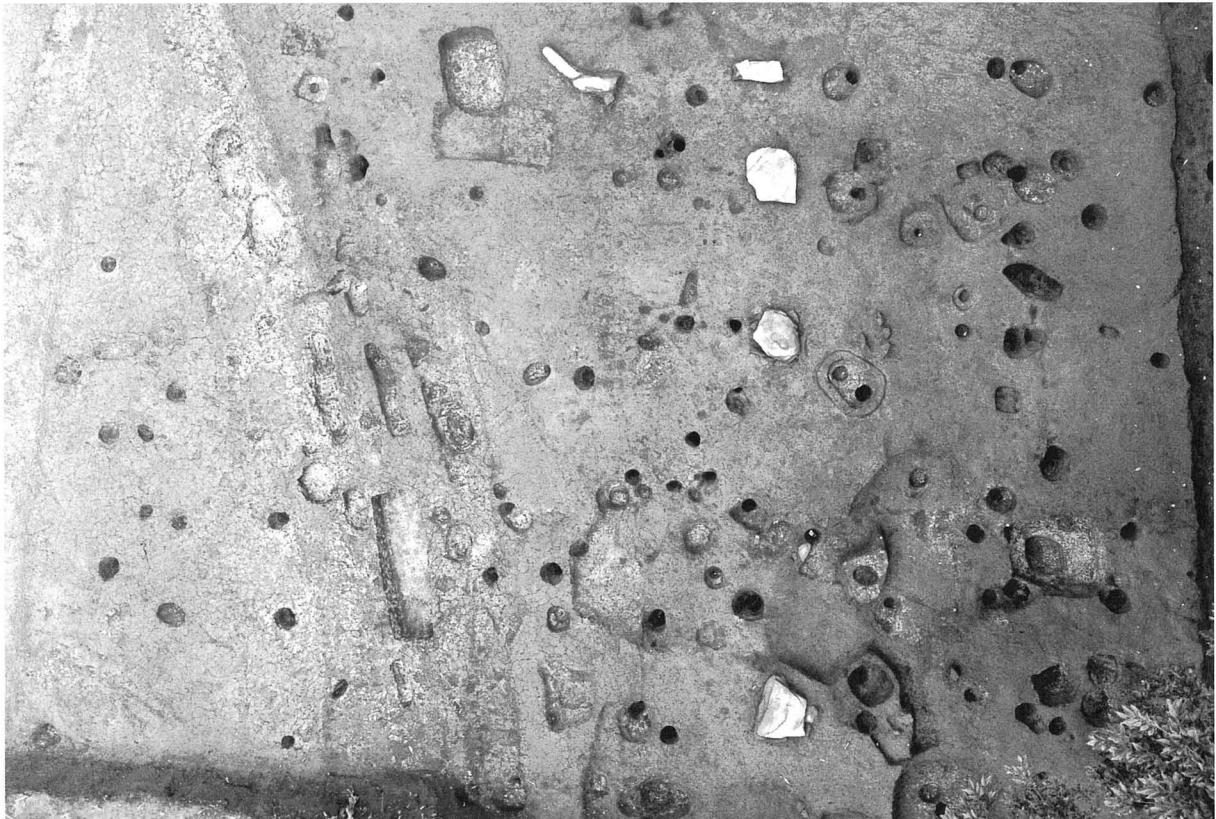
3. 同 P-2 土層断面（南より）



4. 9号掘立柱建物跡 P-26確認状況（西より）



5. 9～12号掘立柱建物跡



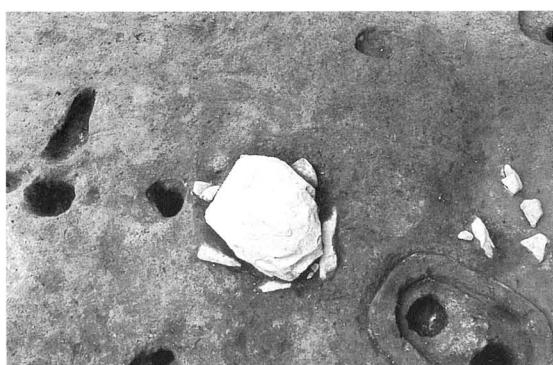
1. 磐石建物跡



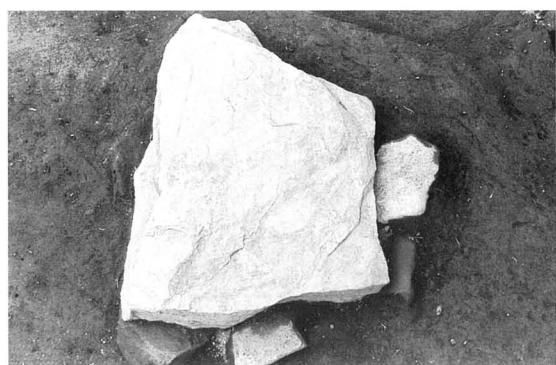
2. 同 確認状況（南より）



3. 同 調査状況（南より）



4. 磐石 No. 4 近景（南より）



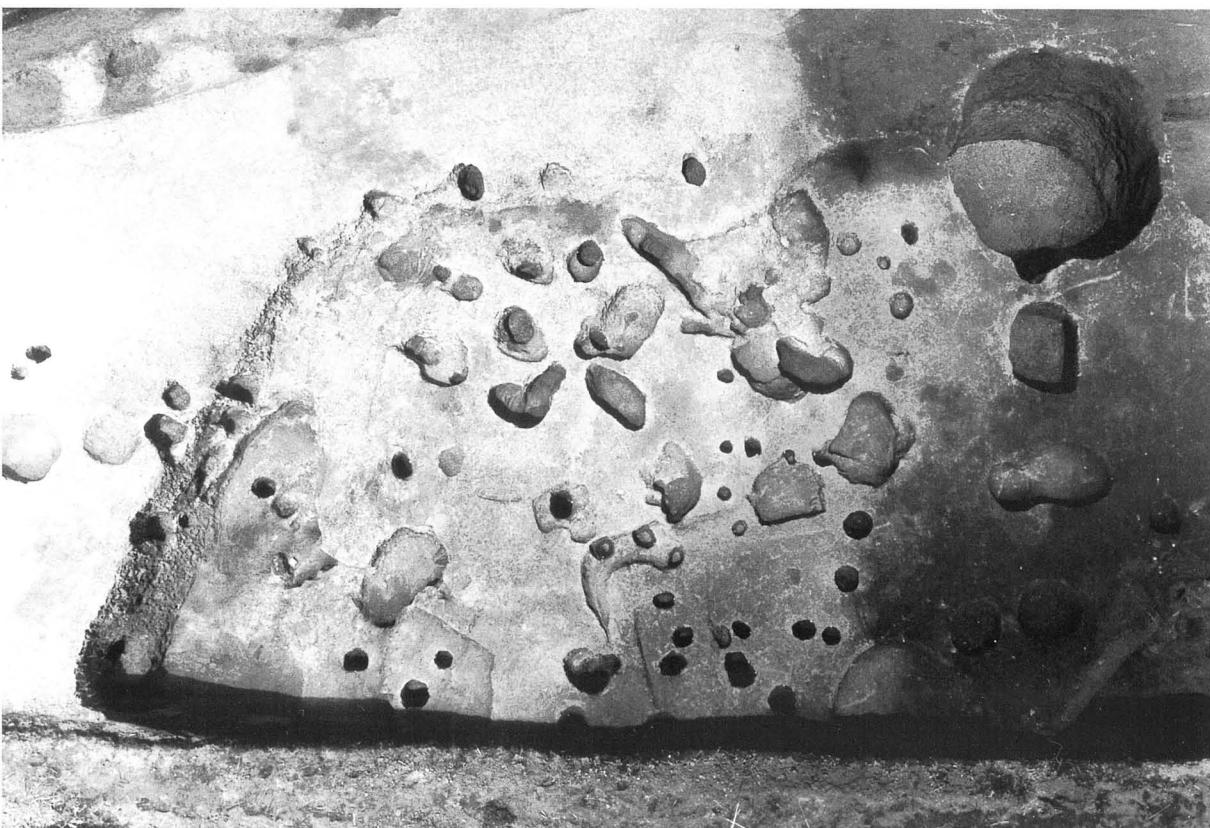
5. 磐石 No. 6 近景（南より）

神出遺跡

図版
12



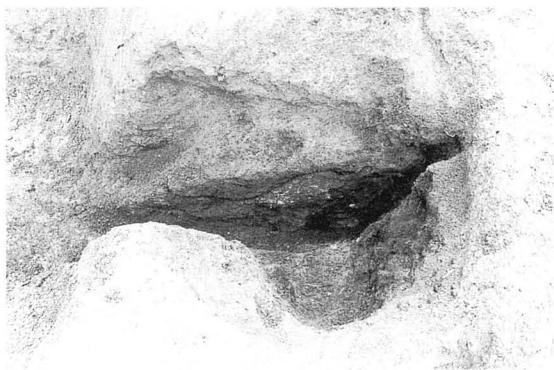
1. 1号テラス完掘状況



2. 2号テラス完掘状況



1. 1号火葬墓完掘状況（東より）



2. 1号火葬墓土層断面（北より）



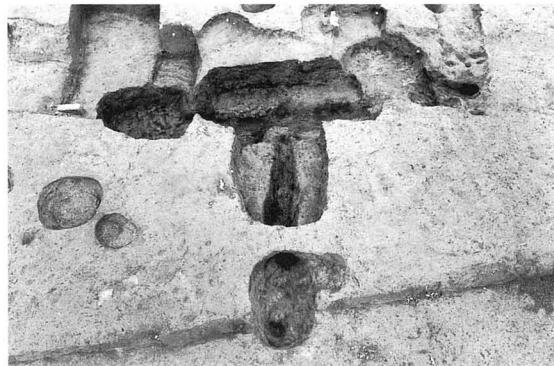
3. 2号火葬墓完掘状況（東より）



4. 3号火葬墓完掘状況（東より）



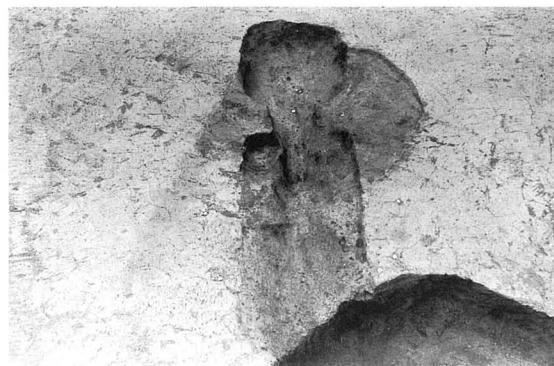
5. 4号火葬墓完掘状況（西より）



6. 5号火葬墓完掘状況（南より）



7. 7号火葬墓完掘状況（南より）



8. 8号火葬墓完掘状況（東より）

神出遺跡

図版
14



1. 85号土坑遺物出土状況（東より）



2. 110号土坑遺物出土状況（南より）



3. 163号土坑遺物出土状況（東より）



4. 165号土坑遺物出土状況（北より）



5. 191号土坑遺物出土状況（北西より）



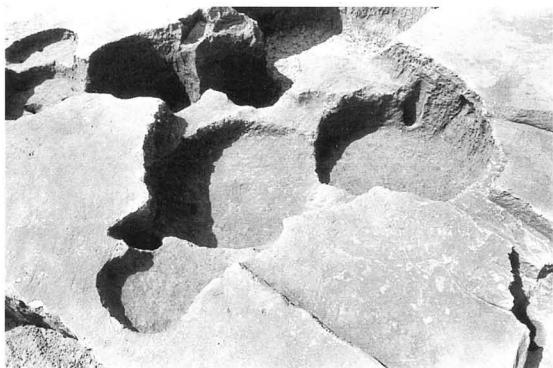
6. 197号土坑遺物出土状況（西より）



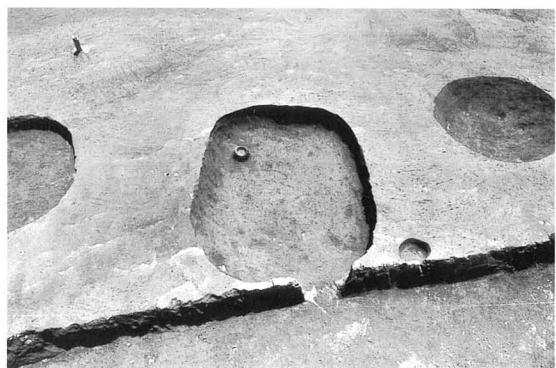
7. 596号土坑遺物出土状況（北より）



8. 639号土坑遺物出土状況（南より）



1. 354～359号土坑完掘状況（南より）



2. 371号土坑遺物出土状況（西より）



3. 614号土坑完掘状況（西より）



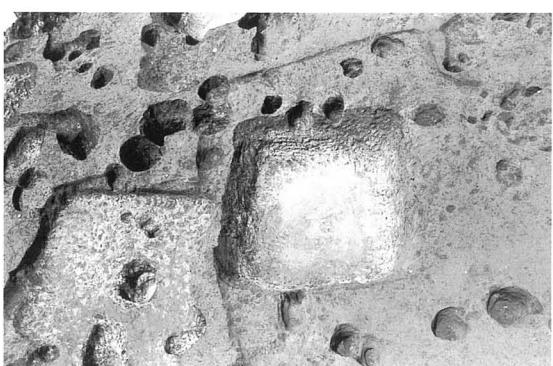
4. 615号土坑完掘状況（西より）



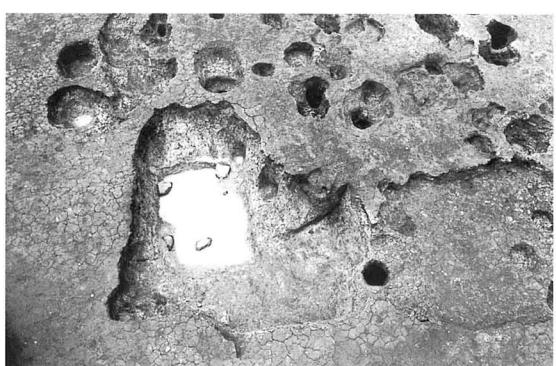
5. 159号土坑遺物出土状況（南より）



6. 164号土坑遺物出土状況（東より）



7. 549号土坑完掘状況（東より）



8. 637号土坑遺物出土状況（南東より）

神出遺跡

図版
16



1. 215~218号土坑完掘状況（東より）



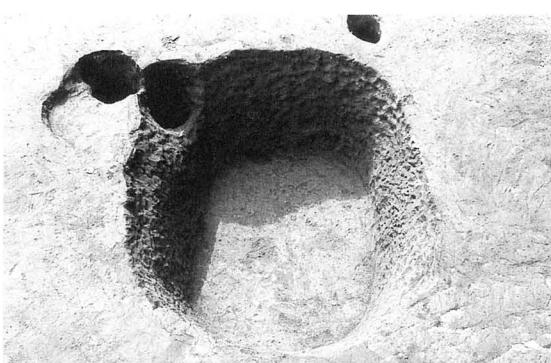
2. 235・255~263号土坑完掘状況（西より）



3. 255~260号土坑土層断面（東より）



4. 298~301号土坑完掘状況（西より）



5. 365号土坑完掘状況（東より）



6. 410号土坑完掘状況（南より）



7. 509・622号土坑完掘状況（西より）



8. 541~543号土坑完掘状況（北より）



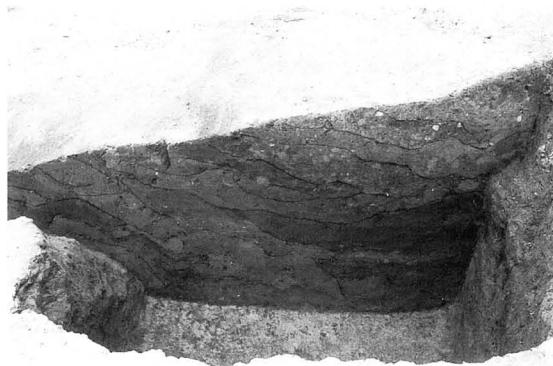
1. 1・2号地下式壙完掘状況（南より）



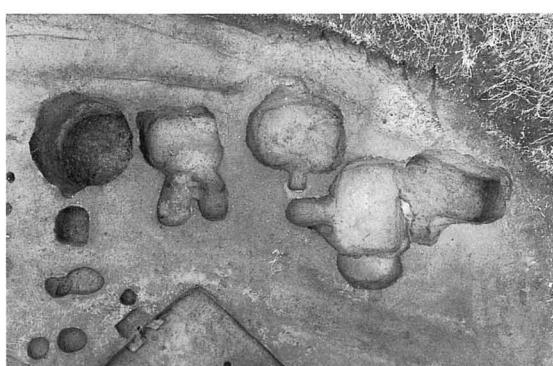
2. 3号地下式壙完掘状況（南より）



3. 4号地下式壙完掘状況（南より）



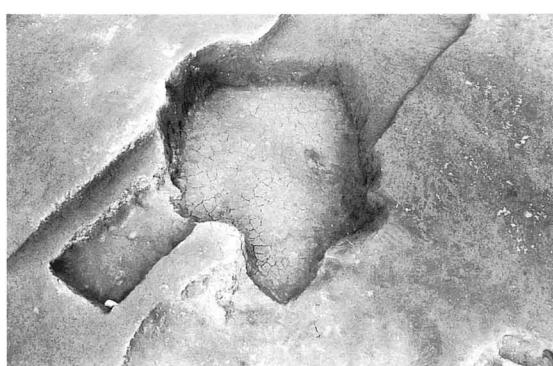
4. 4号地下式壙土層断面（東より）



5. 5～9号地下式壙完掘状況（空中より）



6. 12号地下式壙完掘状況（北より）



7. 13号地下式壙完掘状況（南西より）



8. 18号地下式壙完掘状況（北東より）

神出遺跡

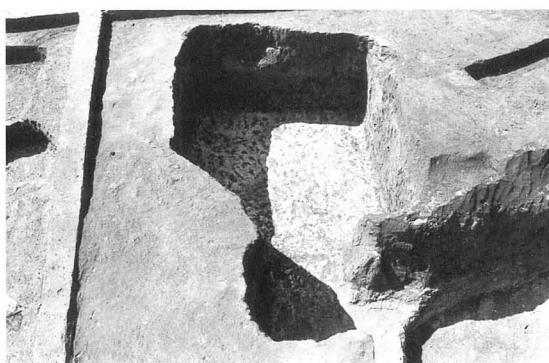
図版
18



1. 19号地下式壙完掘状況（南西より）



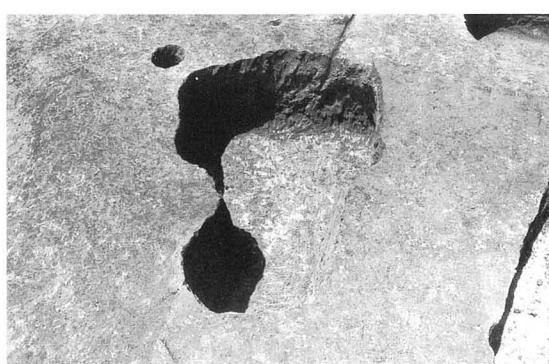
2. 20号地下式壙完掘状況（西より）



3. 21号地下式壙完掘状況（南西より）



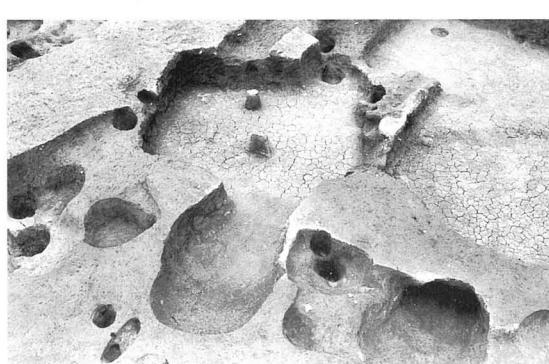
4. 23号地下式壙完掘状況（南西より）



5. 25号地下式壙完掘状況（東より）



6. 26号地下式壙完掘状況（南西より）



7. 27号地下式壙完掘状況（南より）



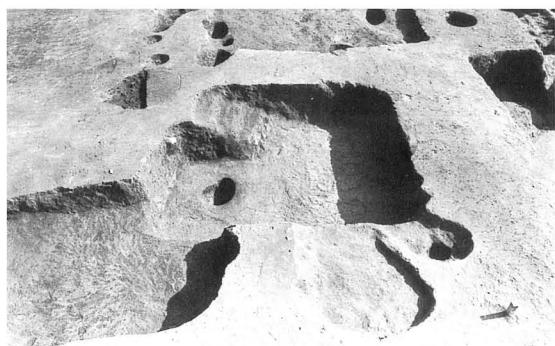
8. 28号地下式壙完掘状況（南より）



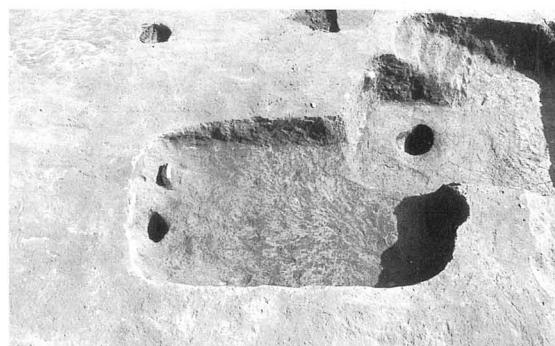
1. 2号竪穴遺構完掘状況（西より）



2. 3号竪穴遺構完掘状況（西より）



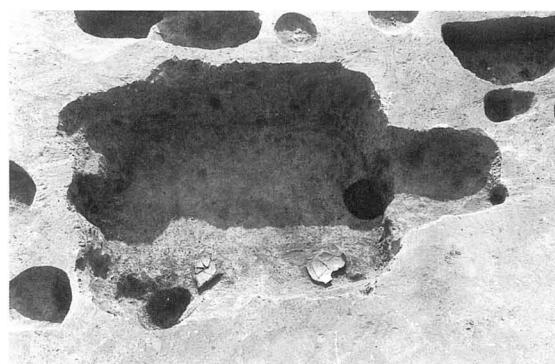
3. 7号竪穴遺構完掘状況（北より）



4. 8号竪穴遺構完掘状況（北より）



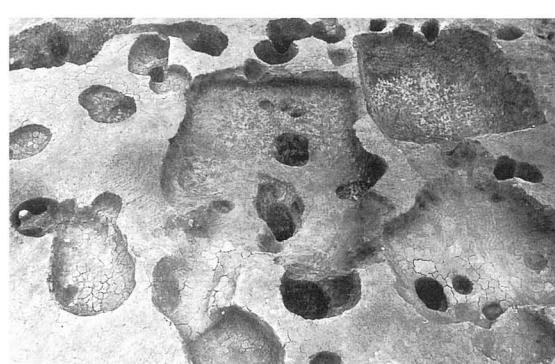
5. 9号竪穴遺構完掘状況（東より）



6. 10号竪穴遺構遺物出土状況（東より）



7. 12号竪穴遺構完掘状況（南より）



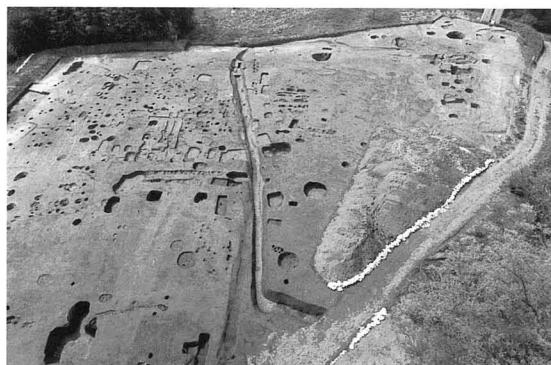
8. 14号竪穴遺構完掘状況（南より）

神出遺跡

図版
20



1. 2号道完掘状況（東より）



2. 3・4号道完掘状況（東より）



3. 3号道遺物出土状況（東より）



4. 4号道遺物出土状況（西より）



5. 1号溝完掘状況（北より）



6. 3・4・5号溝完掘状況（北より）



7. 10号溝土層断面（南より）



8. 12号溝完掘状況（南より）



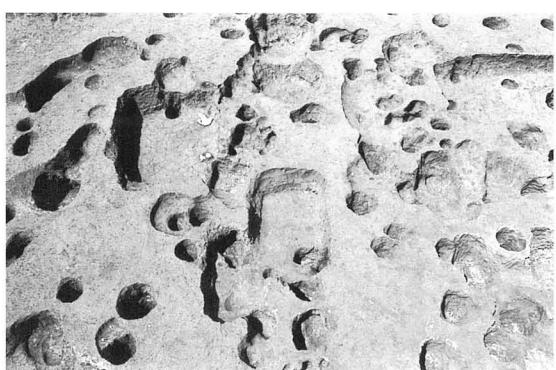
1. H-6グリッド内ピット群完掘状況（南より）



2. H-7グリッド内ピット群完掘状況（南より）



3. I-6グリッド内ピット群完掘状況（南より）



4. I-7グリッド内ピット群完掘状況（南より）



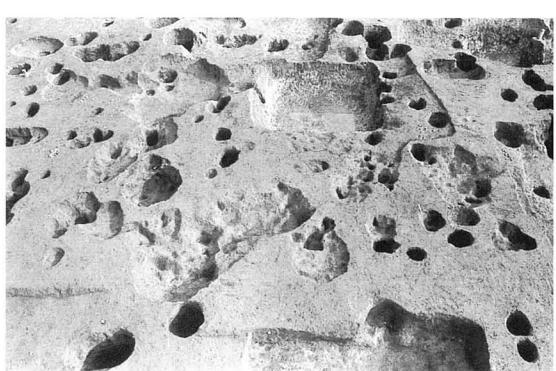
5. H-8グリッド内ピット群完掘状況（南より）



6. H-9グリッド内ピット群完掘状況（南より）



7. I-7グリッド内ピット群完掘状況（北より）



8. I-8グリッド内ピット群完掘状況（南より）

神出遺跡

図版
22



9号住居跡出土遺物



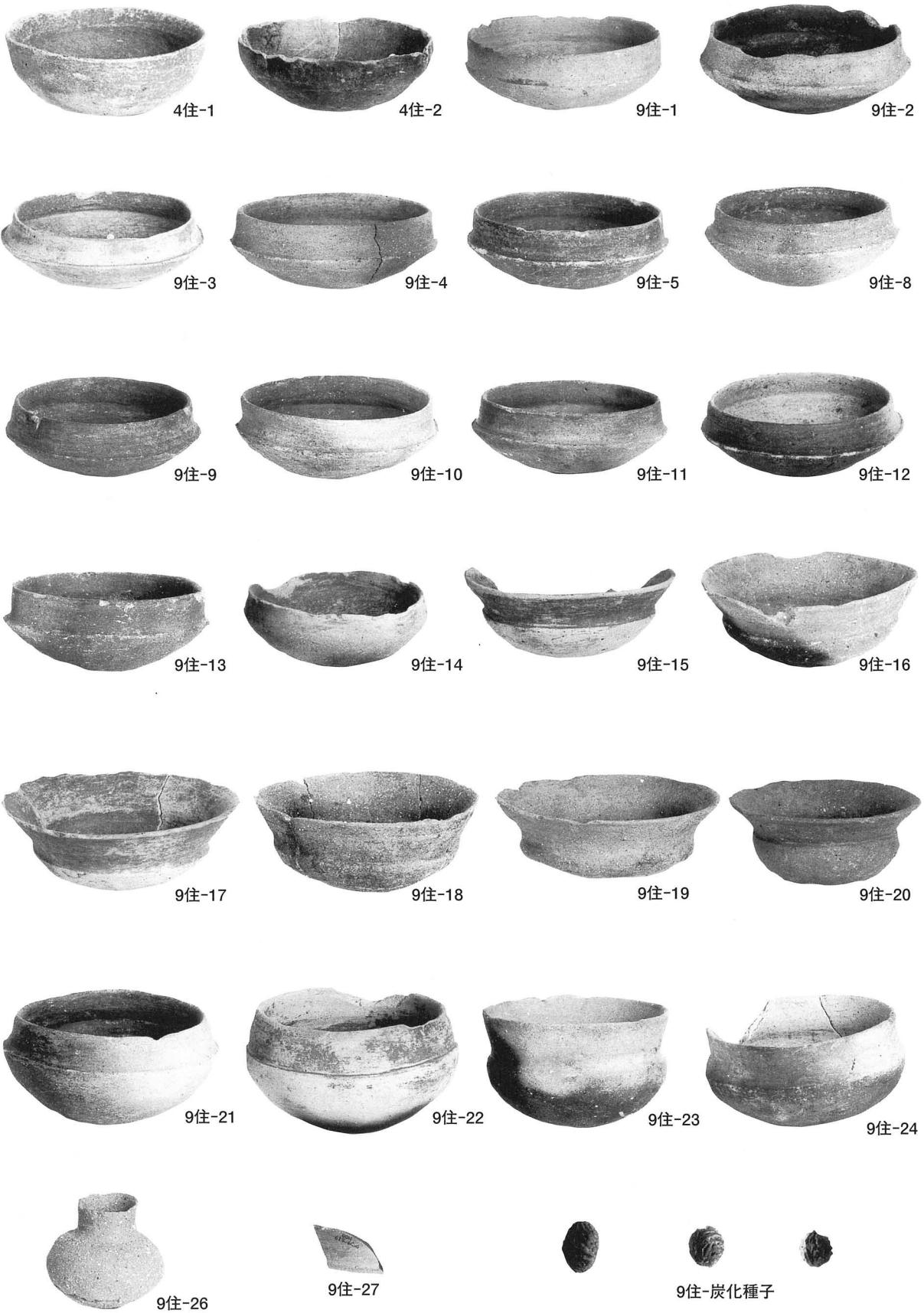
14号住居跡出土遺物



32号住居跡出土遺物

神出遺跡

図版
23



4・9号住居跡出土遺物

神出遺跡

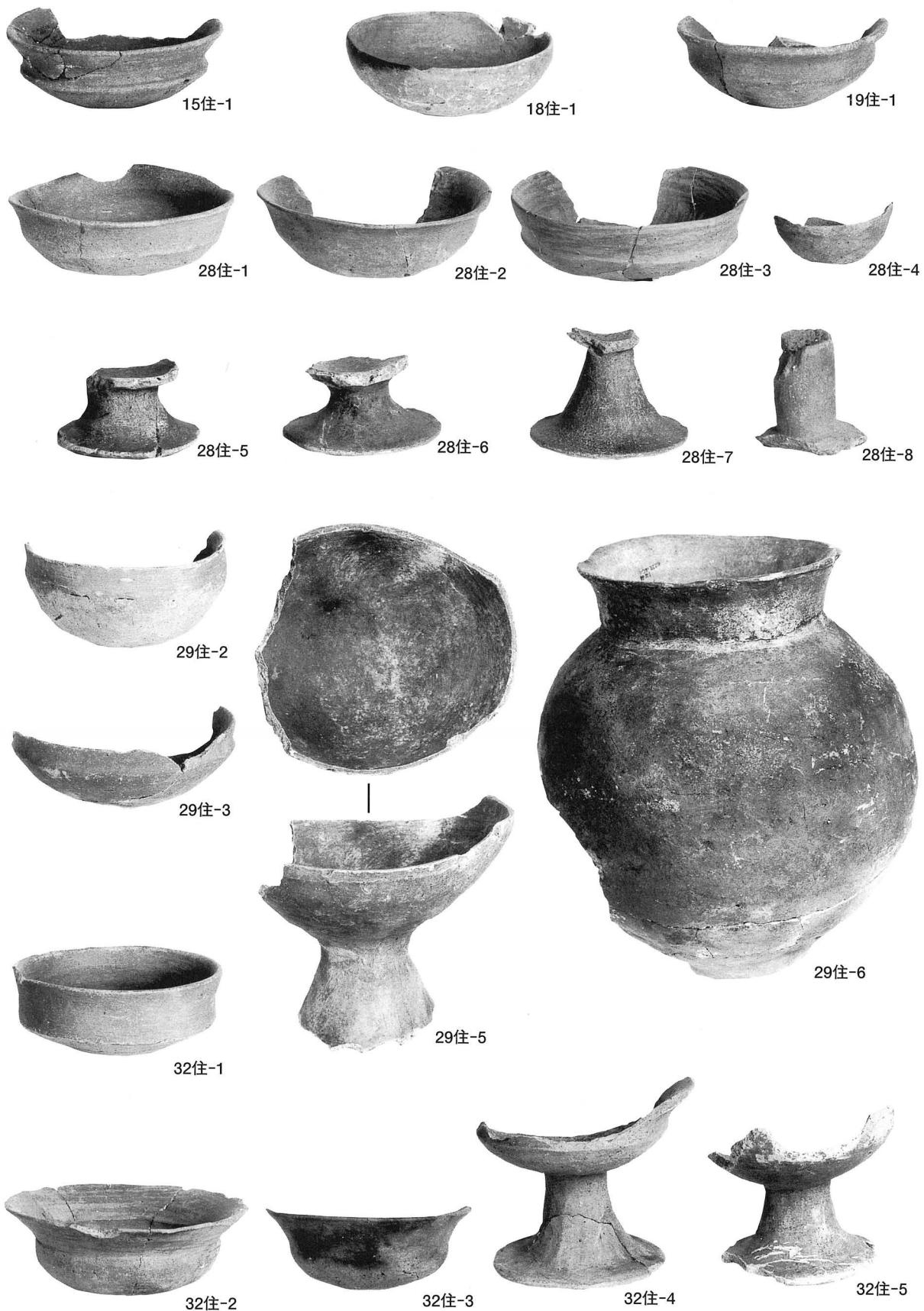
図版
24



9・14号住居跡出土遺物

神出遺跡

図版
25



15・18・19・28・29・32号住居跡出土遺物

神出遺跡

図版
26



32住-6



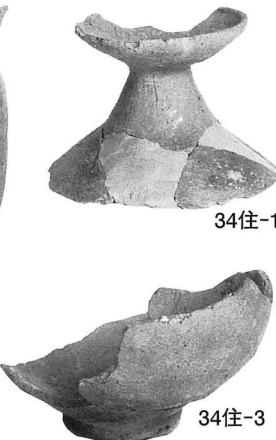
32住-7



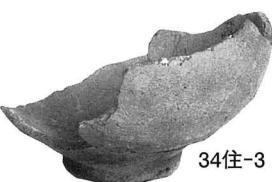
32住-8



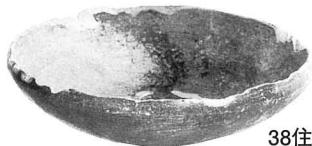
32住-9



34住-1



34住-3



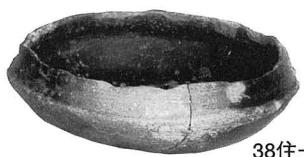
38住-1



38住-2



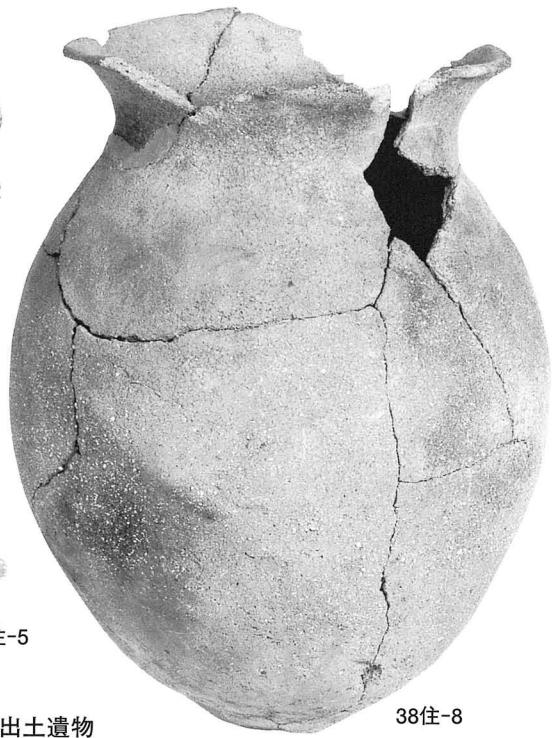
38住-3



38住-4



38住-5



38住-8

32・38号住居跡出土遺物



38住-6



38住-7



39住-1



41住-1



41住-2



41住-3

38・41号住居跡出土遺物



1住-1



1住-2



2住-5



2住-3



12住-4



16住-1



17住-3



21住-2



35住-1



36住-1

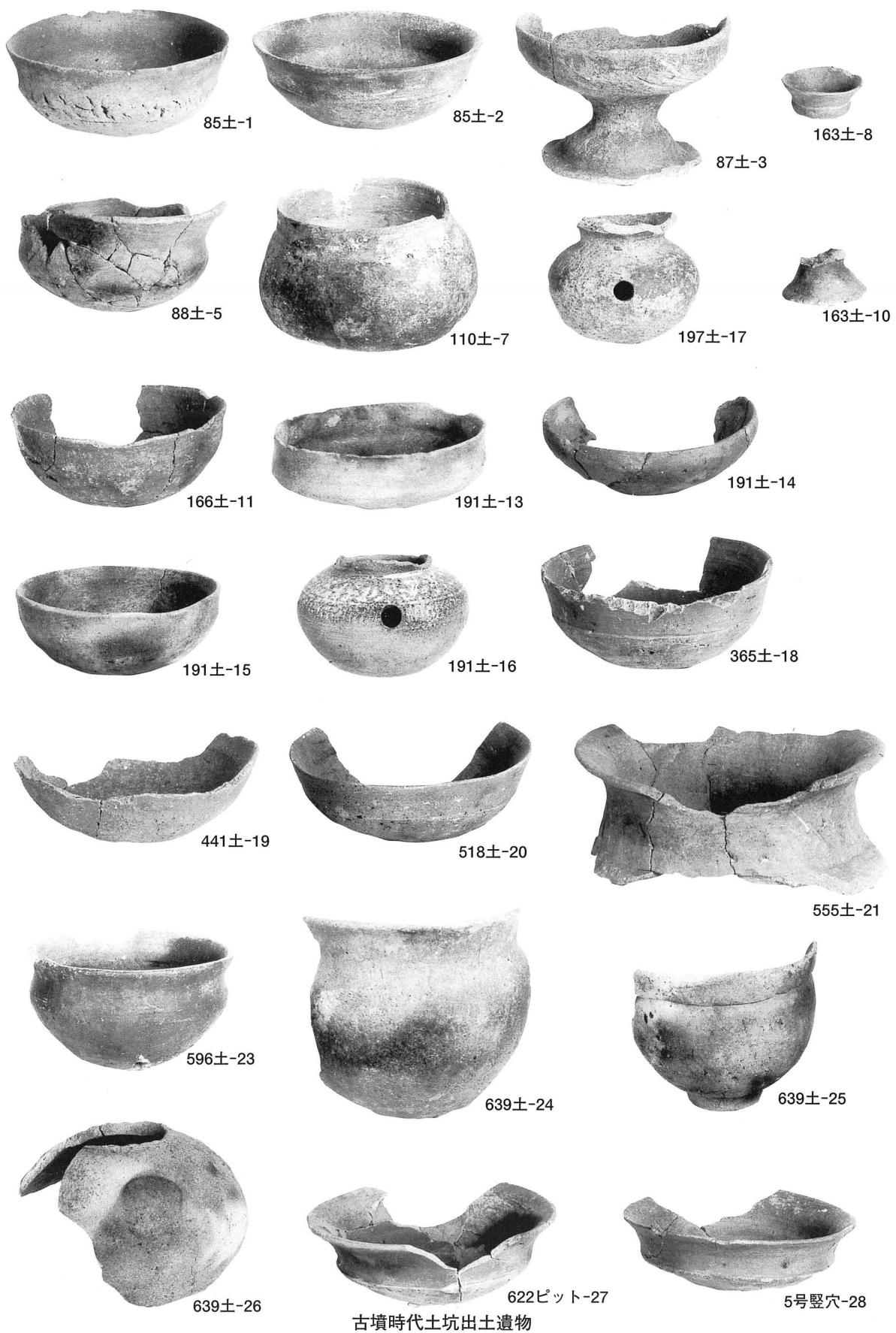


40住-1

1・2・12・16・17・21・22・35・36・40号住居跡出土遺物

神出遺跡

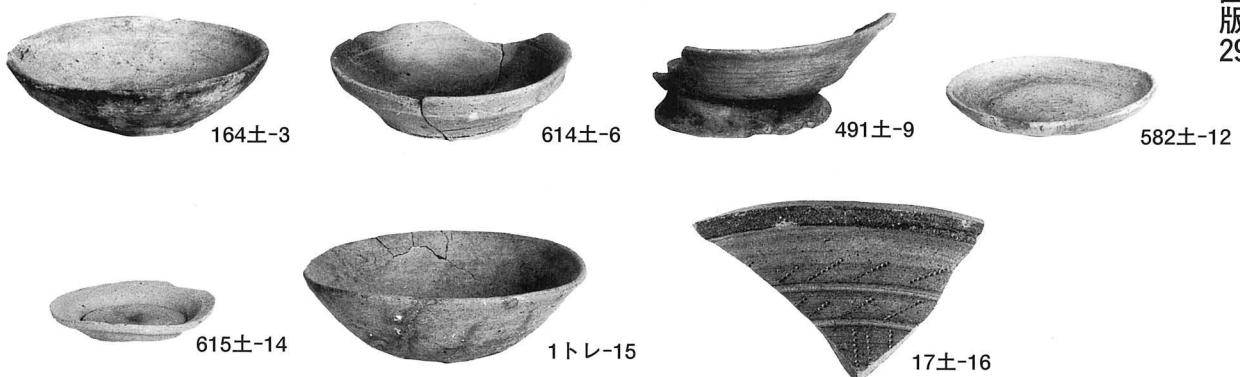
図版
28



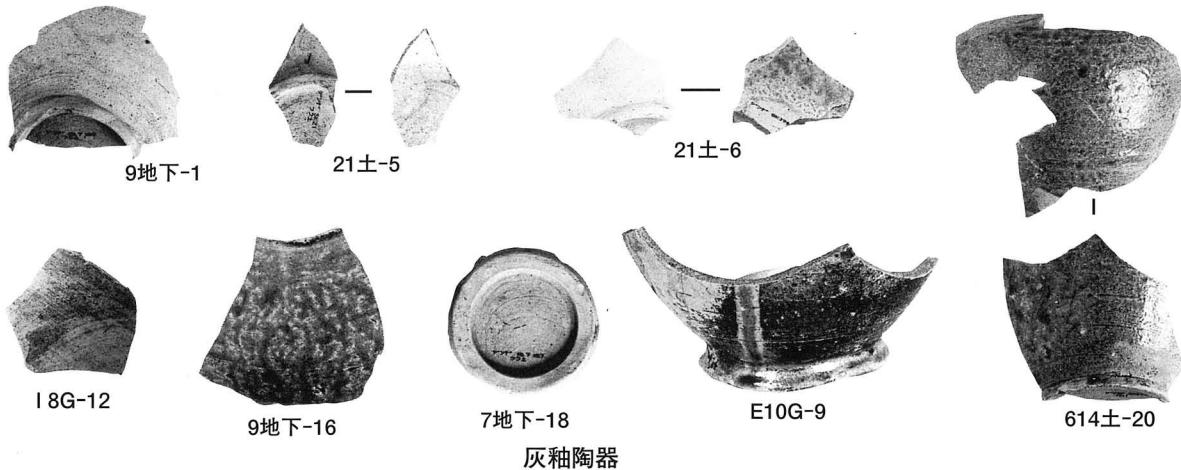
古墳時代土坑出土遺物

神出遺跡

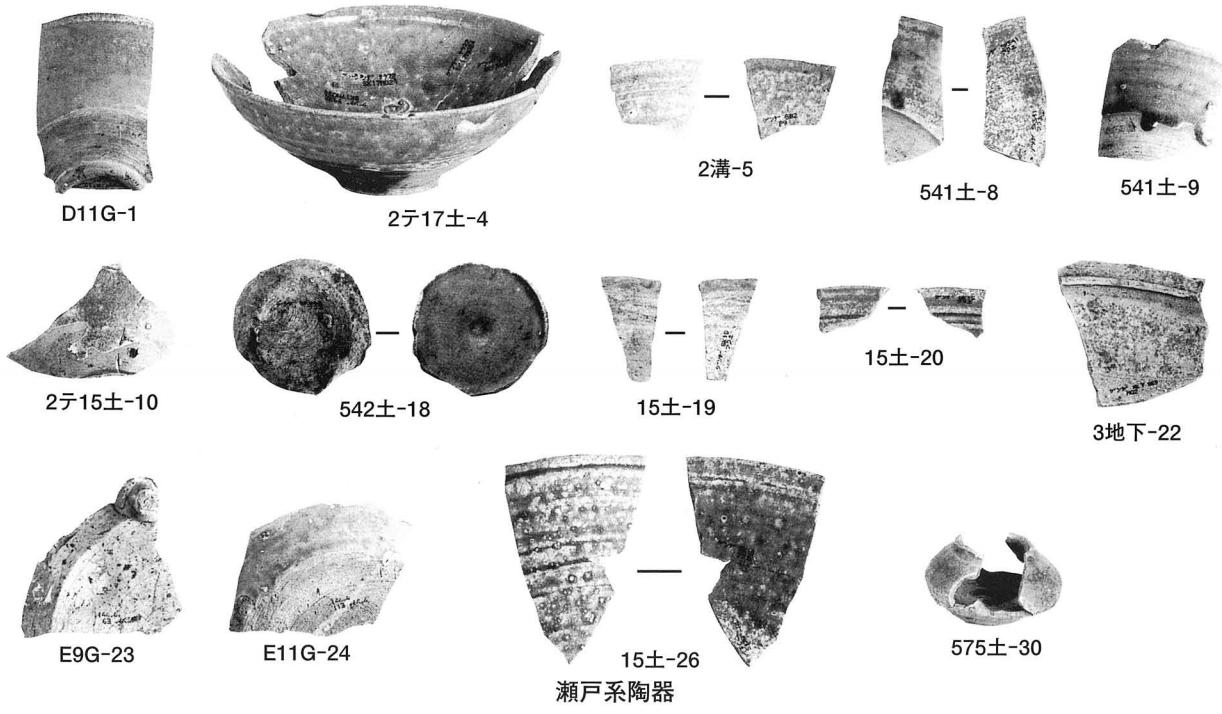
図版
29



平安時代土坑出土遺物



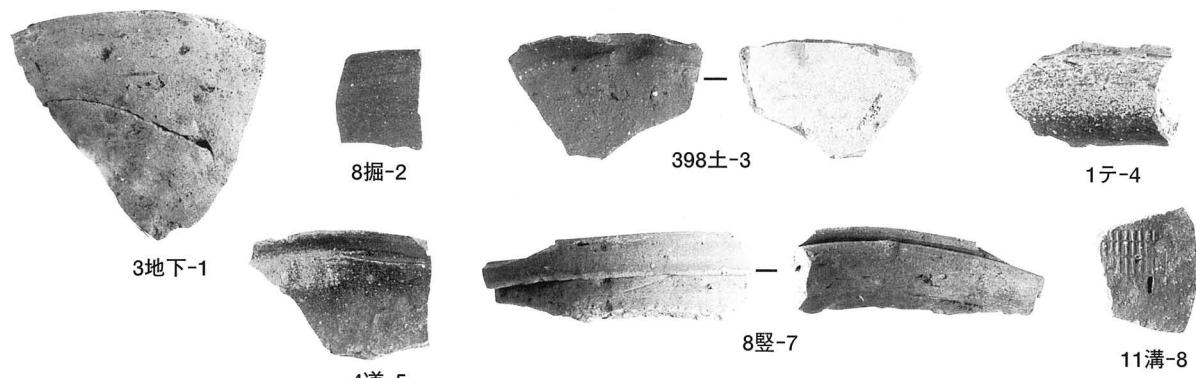
灰釉陶器



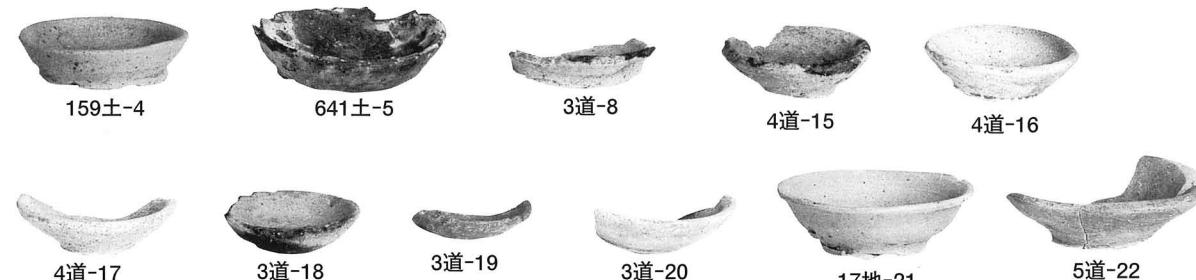
瀬戸系陶器

神出遺跡

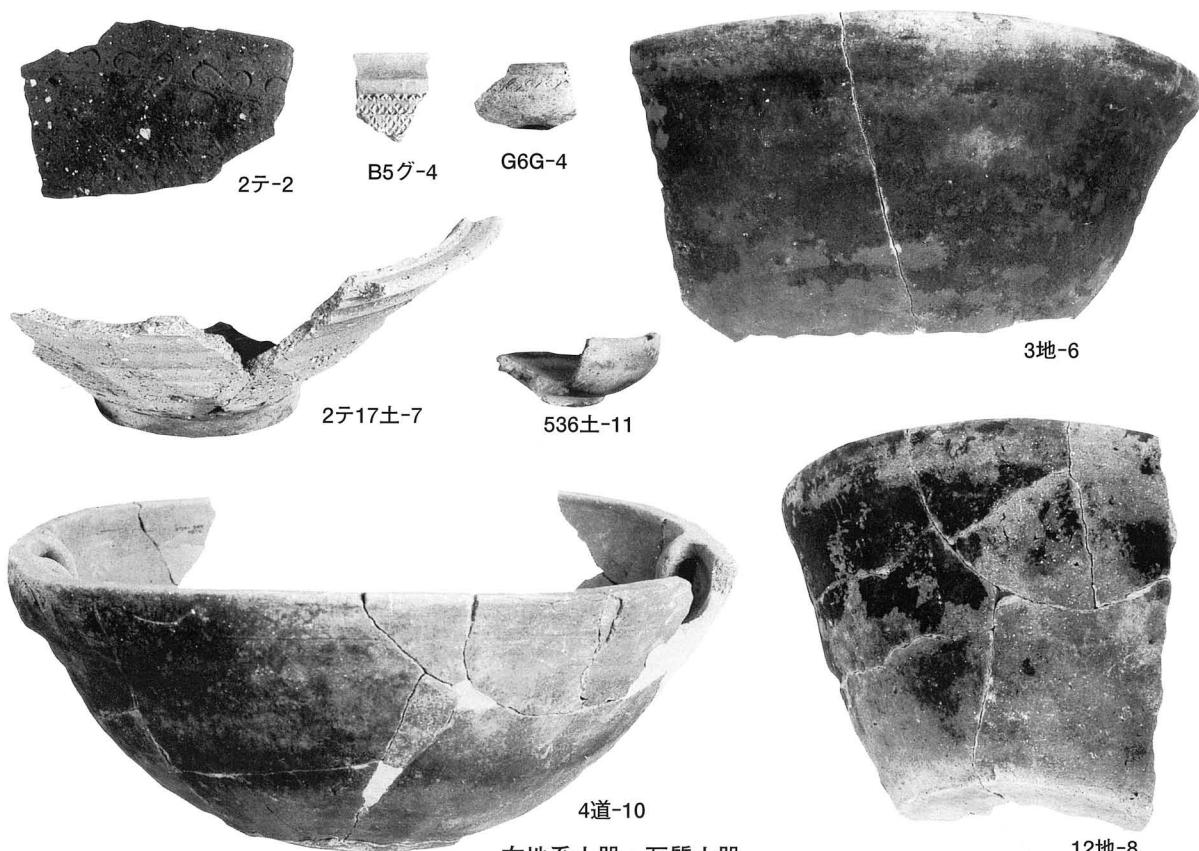
図版
30



常 滑



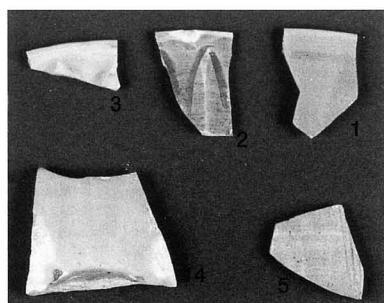
土師質土器 小皿



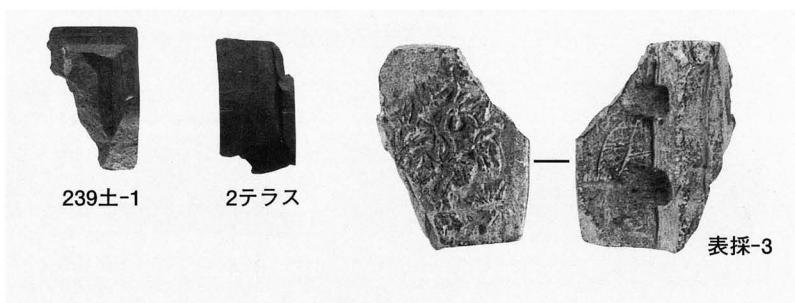
在地系土器・瓦質土器



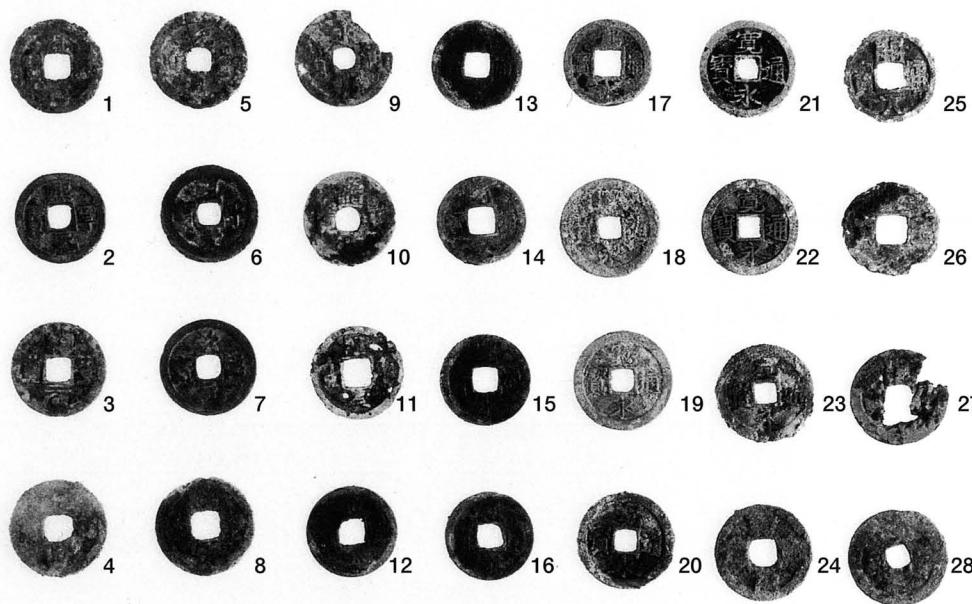
古瀬戸



輸入陶磁器



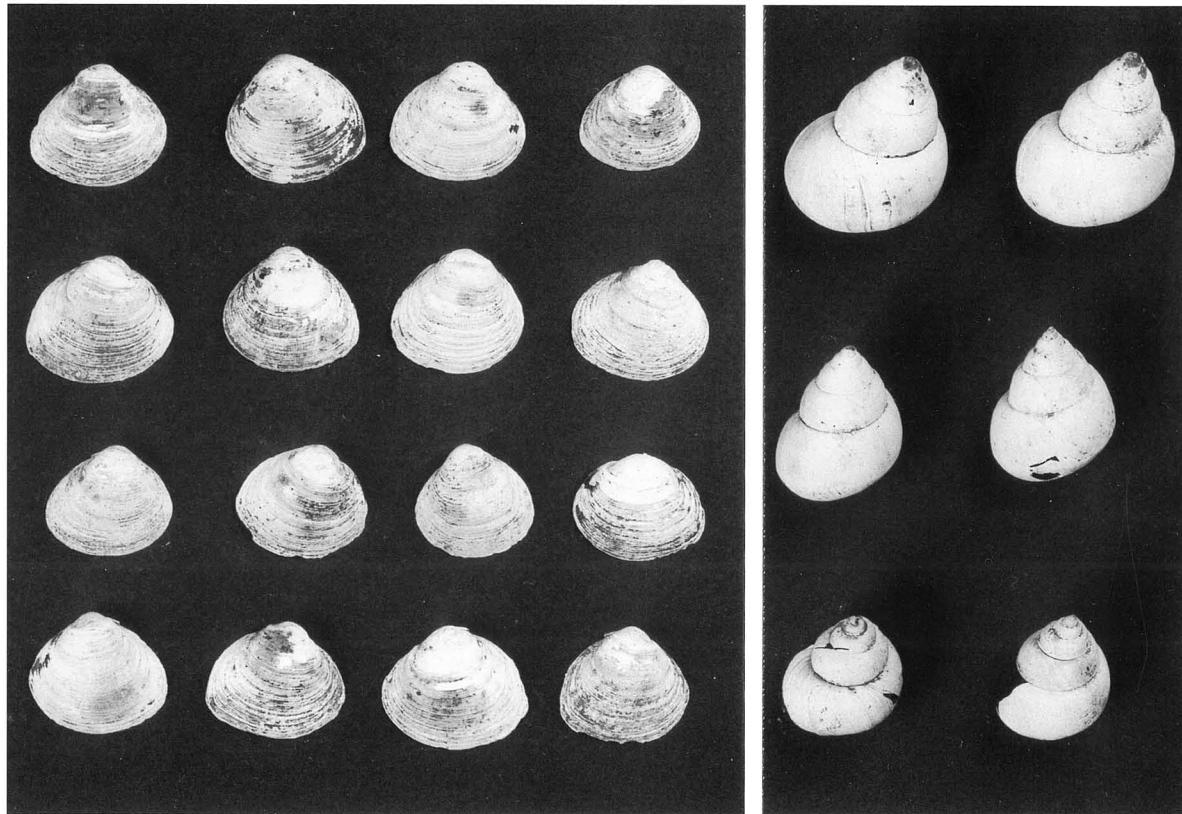
石製品



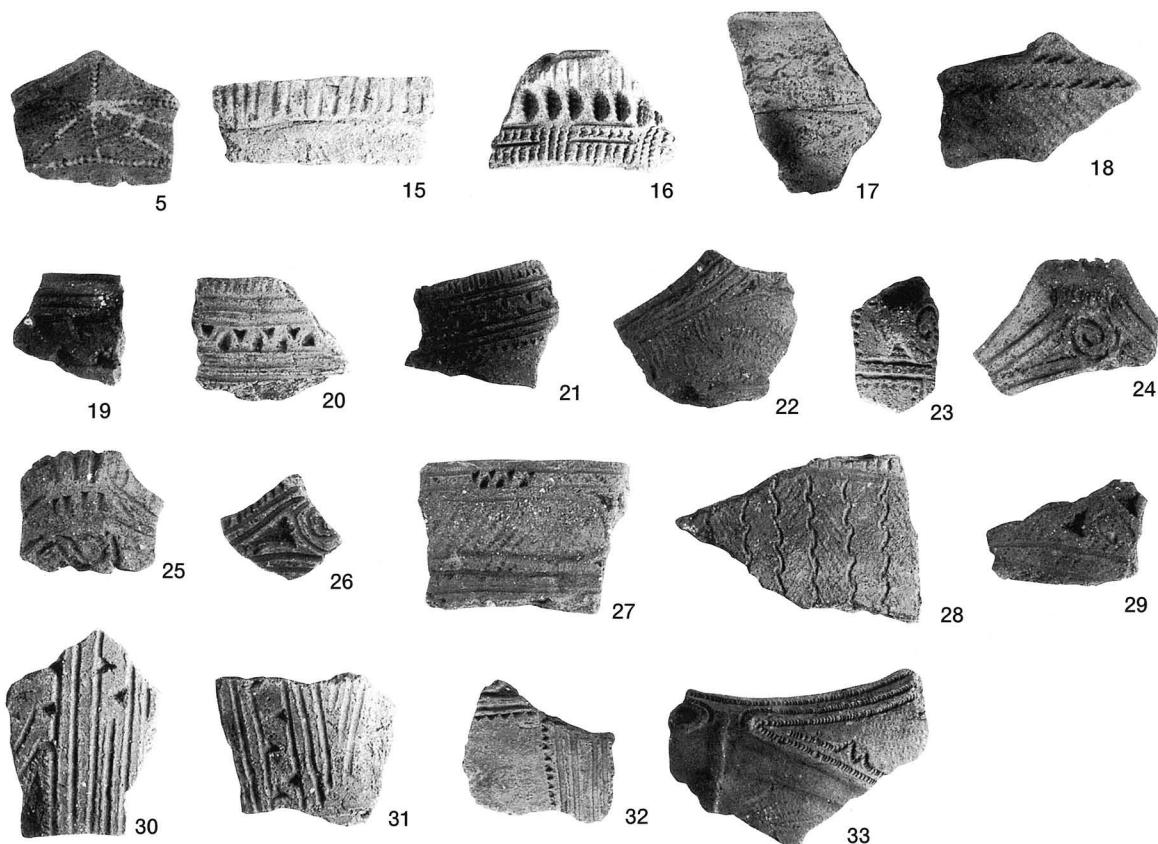
出土錢貨

神出遺跡

図版
32



17号地下式壙出土ヤマトシジミ・オオタニシ



遺構外出土遺物



1. 遺跡全景（西より）



2. 1号住居跡遺物出土状況（南より）



3. 1号土坑遺物出土状況（南西より）



4. 7号土坑遺物出土状況（南西より）



5. 14号土坑完掘状況（南より）

中居遺跡

図版
34



1. テラス状遺構遺物出土状況（西より）



2. テラス状遺構完掘状況（西より）



3. テラス状遺構遺物出土状況（南東より）



4. テラス状遺構遺物出土状況（南より）



テ-2



テ-4



テ-5



テ-7



遺外-1



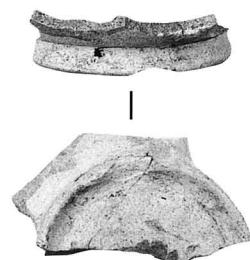
遺外-7



遺外-8



遺外-9



遺外-10

中居遺跡出土遺物

茨城県土浦市
東出・神出・中居遺跡

発行日 1999年10月29日

土浦市教育委員会
編集 土浦市遺跡調査会
山武考古学研究所

発行 土浦市遺跡調査会

問い合わせ先 上高津貝塚ふるさと歴史の広場
〒300-0811 茨城県土浦市上高津1843
TEL 0298(29)7111

印刷 (株) 文化総合企画
TEL 0476(93)0593



付図1 神出遺跡遺構配置図

縮尺 1:200